

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第690集

あかひま  
**赤浜Ⅱ遺跡発掘調査報告書**

土地区画整理事業赤浜地区関連遺跡発掘調査

2018

大槌町教育委員会  
(公財)岩手県文化振興事業団

# 赤浜Ⅱ遺跡発掘調査報告書

土地区画整理事業赤浜地区関連遺跡発掘調査





大槌湾周辺空撮(矢印が調査地点)



6号配石遺構(SW→)





後期包含層出土遺物



後期包含層出土土偶

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史を生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは、県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、土地区画整理事業に関連して、平成26・27年度に発掘調査された大槌町赤浜Ⅱ遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。今回の調査によって、縄文時代前期～後期の遺構・遺物が多数確認され、周辺地域における過去の暮らしを知るための手がかりとなる貴重な資料を得ることができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました大槌町、大槌町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成30年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 菅野 洋樹

## 例 言

- 1 本報告書は、岩手県上閉伊郡大槌町赤浜1丁目207番地ほかに所在する赤浜Ⅱ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、土地区画整理事業赤浜地区に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は大槌町教育委員会と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、大槌町教育委員会の委託を受けた公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳における遺跡番号と今回の調査における遺跡略号は以下のとおりである。  
遺跡番号…MG33-2237 遺跡略号…AKⅡ-14・15
- 4 発掘調査期間・面積・担当者は以下のとおりである。  
調査期間：平成26年度～平成26年11月4日～12月18日  
平成27年度～平成27年4月6日～7月31日  
調査面積：3,495㎡  
担当者：平成26年度～小林弘卓・濱田宏・宇部めぐみ・橋澤星  
平成27年度～小林弘卓・米田寛・藤本玲子・野中裕貴・鈴木貞行・  
佐藤直紀・南野龍太郎・宇部めぐみ
- 5 室内整理期間・担当者は以下のとおりである。  
整理期間：平成26年度～平成27年1月16日～3月31日  
平成27年度～平成27年8月1日～平成28年3月31日  
平成28年度～平成28年4月1日～11月30日  
担当者：平成26年度～小林弘卓・宇部めぐみ  
平成27年度～小林弘卓・藤本玲子・南野龍太郎・宇部めぐみ  
平成28年度～小林弘卓
- 6 報告書の執筆は、第Ⅰ章を大槌町教育委員会、第Ⅱ章を宇部、第Ⅶ章Ⅰ～(2)を米田、第Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ章はかを小林、Ⅵ章を株式会社加速器分析研究所が執筆した。なお、Ⅳ章については、調査遺構担当者による分担執筆とし、文末に名前を付した。本書の構成・編集は小林が行った。
- 7 試料の分析・鑑定は次の機関に依頼した。  
石材・石質鑑定…花崗岩研究会  
放射性炭素14年代測定…株式会社加速器分析研究所  
火山灰分析、骨・貝類同定分析…バリノ・サーヴェイ株式会社
- 8 基準点測量は有限会社スカイ測量設計に、航空写真撮影は東邦航空株式会社に委託した。
- 9 土器・石器の一部は、株式会社ラングに実測図化委託をした。
- 10 今回の発掘調査で出土した遺物と諸記録は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 11 調査成果は、既に当センターのホームページ、現地説明会資料、調査概報等に公表しているが、記載が異なる場合は本書の報告がすべてに優先する。

## 凡 例

- 1 遺構実測図の縮尺は以下のとおりで、一部異なるものは各図にスケールと縮尺を付した。  
 竪穴住居跡・配石遺構…1/50  
 竪穴住居跡の炉…1/25  
 土坑…1/40  
 焼土遺構…1/25
- 2 層位は基本層序にはローマ数字を、遺構の埋土にはアラビア数字を用いた。
- 3 遺構図版中の土器は「R P」、石器および礫は「S」と表記した。なお、土層断面図内の「K」は攪乱を表す。
- 4 遺構図版中の「P」は柱穴または柱穴状ピットを表し、( )内の数値は深さ(cm)を表す。
- 5 各遺物の縮尺は原則以下のとおりである。なお、紙幅の制約上、これに依らないものについては、個々にスケールを付した。  
 土器・礫石器・土製品(ミニチュア土器・円盤状土製品)…1/3  
 剥片石器・土製品(土偶ほか)…1/2
- 6 遺構図版及び遺物図版中に網掛けをしている範囲については、個々に凡例を付している。
- 7 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」に基づいている。
- 8 国土地理院発行の地形図を掲載したものには、図中に図幅名と縮尺を付した。
- 9 写真図版中の遺物の縮尺は、遺物図版に準じる。

## 目 次

I 調査に至る経過	1
II 立地と環境	
1 遺跡の位置と立地	4
2 周辺の地形	4
3 周辺の遺跡	5
III 調査・整理の方法	
1 野外調査	8
(1) 調査区の設定と遺構の命名	8
(2) 試掘・表土除去・ 遺構検出と精査	8
(3) 実測・写真撮影	9
2 室内整理	9
(1) 遺構図面の整理	9
(2) 遺物の整理	9
(3) 写真撮影と整理	9
(4) 整理作業経過	10
IV 検出された遺構	
1 遺跡の概観	11
2 調査の概要	11
(1) 調査経過	11
(2) 基本層序	15
3 検出遺構	16
(1) 竪穴住居跡	16
(2) 土坑	39
(3) 焼土遺構	43
(4) 配石遺構	50
(5) 遺物包含層	54
V 出土遺物	
1 土器	102
(1) 縄文時代前期	102
(2) 縄文時代中期	103
(3) 縄文時代後期	104
2 石器・石製品	105
3 土製品	107
VI 自然科学分析	
1 放射性炭素年代測定	259
2 火山灰同定	262
3 骨・貝類同定	265
VII 総 括	
1 遺 構	267
(1) 竪穴住居跡	267
(2) 配石遺構	268
2 土 器	102
(1) 縄文時代前期	270
(2) 縄文時代中期	270
(3) 縄文時代後期	271
報告書抄録	427

## 図版目次

第1図	遺跡位置図	2	第43図	S N05・07-12・14・16焼土遺構	92
第2図	地形分類図	3	第44図	S N17-21・24・26焼土遺構	93
第3図	周辺の遺跡図	6	第45図	S N27-31・33・35・36焼土遺構	94
第4図	調査範囲図	12	第46図	配石遺構全体図(PEAKIT画像)	95
第5図	A区遺構配置図	13	第47図	配石遺構全体図	96
第6図	B区遺構配置図	14	第48図	1~4号配石	97
第7図	S I 01 堅穴住居跡	56	第49図	5・6号配石	98
第8図	S I 02 堅穴住居跡	57	第50図	7号配石	99
第9図	S I 03 堅穴住居跡	58	第51図	遺物包含層(1)	100
第10図	S I 05・07 堅穴住居跡	59	第52図	遺物包含層(2)	101
第11図	S I 06A・B 堅穴住居跡	60	第53図	S I 01(1)出土土器	109
第12図	S I 08 堅穴住居跡(1)	61	第54図	S I 01(2)出土土器	110
第13図	S I 08 堅穴住居跡(2)	62	第55図	S I 03、S I 05・07(1)出土土器	111
第14図	S I 09・11 堅穴住居跡	63	第56図	S I 05・07(2)、S I 06A・B、 S I 08(1)出土土器	112
第15図	S I 12・14 堅穴住居跡	64	第57図	S I 08(2)、S I 09、S I 12、 S I 14出土土器	113
第16図	S I 15 堅穴住居跡	65	第58図	S I 15、S I 16・18・ S F01-03(1)出土土器	114
第17図	S I 16・18 堅穴住居跡	66	第59図	S I 16・18・S F01-03(2)、 S I 19、S I 20(1)出土土器	115
第18図	S I 19 堅穴住居跡	67	第60図	S I 20(2)、S I 22・23、 S I 27(1)出土土器	116
第19図	S I 20 堅穴住居跡	68	第61図	S I 27(2)、S I 28、 S I 31A出土土器	117
第20図	S I 22・23 堅穴住居跡	69	第62図	S I 31B・C(1)出土土器	118
第21図	S I 27・28 堅穴住居跡	70	第63図	S I 31B・C(2)、 S I 33(1)出土土器	119
第22図	S I 31A、S I 31B・C 堅穴住居跡(1)	71	第64図	S I 33(2)出土土器	120
第23図	S I 31B・C 堅穴住居跡(2)	72	第65図	S I 34、S I 35(1)出土土器	121
第24図	S I 33 堅穴住居跡(1)	73	第66図	S I 35(2)出土土器	122
第25図	S I 33 堅穴住居跡(2)	74	第67図	S I 35(3)出土土器	123
第26図	S I 34 堅穴住居跡	75	第68図	S I 35(4)出土土器	124
第27図	S I 35 堅穴住居跡(1)	76	第69図	S I 35(5)、S I 36出土土器	125
第28図	S I 35 堅穴住居跡(2)	77	第70図	S I 38、S I 40(1)出土土器	126
第29図	S I 36・47 堅穴住居跡(1)	78	第71図	S I 40(2)出土土器	127
第30図	S I 36・47 堅穴住居跡(2)	79	第72図	S I 44(1)出土土器	128
第31図	S I 38 堅穴住居跡	80	第73図	S I 44(2)出土土器	129
第32図	S I 40 堅穴住居跡(1)	81	第74図	S I 44(3)出土土器	130
第33図	S I 40(2)・41 堅穴住居跡	82	第75図	S I 44(4)出土土器	131
第34図	S I 42 堅穴住居跡	83	第76図	S I 44(5)出土土器	132
第35図	S I 44 堅穴住居跡	84	第77図	S I 44(6)出土土器	133
第36図	S I 45 堅穴住居跡	85			
第37図	S I 48・49 堅穴住居跡	86			
第38図	S I 51 堅穴住居跡	87			
第39図	S I 52・53 堅穴住居跡	88			
第40図	S K02・04・05・10・11土坑	89			
第41図	S K14・15・17・18・20・22土坑	90			
第42図	S K25-27土坑、S N01-03焼土遺構	91			

第78回	S I 44(7)出土石器	134	第120回	前期包含層(8)出土石器	176
第79回	S I 44(8)出土石器	135	第121回	前期包含層(9)出土石器	177
第80回	S I 45、S I 48出土石器	136	第122回	前期包含層(10)出土石器	178
第81回	S I 51(1)出土石器	137	第123回	前期包含層(11)出土石器	179
第82回	S I 51(2)、 S K 02・15・17・22出土石器	138	第124回	前期包含層(12)出土石器	180
第83回	S K 25・27、2号配石(1)出土石器	139	第125回	前期包含層(13)出土石器	181
第84回	2号配石(2)、3号配石、 6号配石出土石器	140	第126回	前期包含層(14)出土石器	182
第85回	後期包含層(1)出土石器	141	第127回	前期包含層(15)出土石器	183
第86回	後期包含層(2)出土石器	142	第128回	前期包含層(16)出土石器	184
第87回	後期包含層(3)出土石器	143	第129回	前期包含層(17)出土石器	185
第88回	後期包含層(4)出土石器	144	第130回	前期包含層(18)、 A区遺構外(1)出土石器	186
第89回	後期包含層(5)出土石器	145	第131回	A区遺構外(2)出土石器	187
第90回	後期包含層(6)出土石器	146	第132回	A区遺構外(3)、 B区遺構外(1)出土石器	188
第91回	後期包含層(7)出土石器	147	第133回	B区遺構外(2)出土石器	189
第92回	後期包含層(8)出土石器	148	第134回	B区遺構外(3)出土石器	190
第93回	後期包含層(9)出土石器	149	第135回	S I 01~03出土石器・石製品	191
第94回	後期包含層(10)出土石器	150	第136回	S I 06、 S I 05・07(1)出土石器・石製品	192
第95回	後期包含層(11)出土石器	151	第137回	S I 05・07(2)、 S I 08出土石器・石製品	193
第96回	後期包含層(12)出土石器	152	第138回	S I 09、S I 12、S I 15、 S I 16・18出土石器・石製品	194
第97回	後期包含層(13)出土石器	153	第139回	S I 20、S I 22・23、 S I 27(1)出土石器・石製品	195
第98回	後期包含層(14)出土石器	154	第140回	S I 27(2)、S I 28、 S I 31A(1)出土石器・石製品	196
第99回	後期包含層(15)出土石器	155	第141回	S I 31A(2)、S I 31B・C、 S I 33、S I 35(1)出土石器・石製品	197
第100回	後期包含層(16)出土石器	156	第142回	S I 35(2)、 S I 36(1)出土石器・石製品	198
第101回	後期包含層(17)出土石器	157	第143回	S I 36(2)、S I 38、 S I 40(1)出土石器・石製品	199
第102回	後期包含層(18)出土石器	158	第144回	S I 40(2)、 S I 44(1)出土石器・石製品	200
第103回	後期包含層(19)出土石器	159	第145回	S I 44(2)、 S I 45出土石器・石製品	201
第104回	後期包含層(20)出土石器	160	第146回	S I 48、S I 51、 S K 15・25出土石器・石製品	202
第105回	後期包含層(21)出土石器	161	第147回	2~4号配石、 後期包含層(1)出土石器・石製品	203
第106回	後期包含層(22)出土石器	162	第148回	後期包含層(2)出土石器・石製品	204
第107回	後期包含層(23)出土石器	163	第149回	後期包含層(3)出土石器・石製品	205
第108回	後期包含層(24)出土石器	164	第150回	後期包含層(4)出土石器・石製品	206
第109回	後期包含層(25)出土石器	165			
第110回	後期包含層(26)出土石器	166			
第111回	後期包含層(27)出土石器	167			
第112回	後期包含層(28)出土石器	168			
第113回	後期包含層(29)、 前期包含層(1)出土石器	169			
第114回	前期包含層(2)出土石器	170			
第115回	前期包含層(3)出土石器	171			
第116回	前期包含層(4)出土石器	172			
第117回	前期包含層(5)出土石器	173			
第118回	前期包含層(6)出土石器	174			
第119回	前期包含層(7)出土石器	175			

第151回	後期包含層(5)出土石器・石製品	207	第165回	前期包含層(10)出土石器・石製品	221
第152回	後期包含層(6)出土石器・石製品	208	第166回	前期包含層(11)出土石器・石製品	222
第153回	後期包含層(7)出土石器・石製品	209	第167回	前期包含層(12)出土石器・石製品	223
第154回	後期包含層(8)出土石器・石製品	210	第168回	A区遺構外出土石器・石製品	224
第155回	後期包含層(9)出土石器・石製品	211	第169回	B区遺構外出土石器・石製品	225
第156回	後期包含層(10)、 前期包含層(1)出土石器・石製品	212	第170回	土製品(1)	226
第157回	前期包含層(2)出土石器・石製品	213	第171回	土製品(2)	227
第158回	前期包含層(3)出土石器・石製品	214	第172回	土製品(3)	228
第159回	前期包含層(4)出土石器・石製品	215	第173回	土製品(4)	229
第160回	前期包含層(5)出土石器・石製品	216	第174回	土製品(5)	230
第161回	前期包含層(6)出土石器・石製品	217	第175回	土器集成図(前期)	271
第162回	前期包含層(7)出土石器・石製品	218	第176回	土器集成図(中期)	272
第163回	前期包含層(8)出土石器・石製品	219	第177回	土器集成図(後期1)	273
第164回	前期包含層(9)出土石器・石製品	220	第178回	土器集成図(後期2)	274

## 表 目 次

第1表	周刃遺跡一覽表	7	第4表	石器・石製品觀察表	244
第2表	遺構一覽表	55	第5表	土製品觀察表	256
第3表	土器觀察表	231			



## 写真図版目次

巻頭カラー写真図版1		写真図版41	S I 48(2)、S I 49	319
巻頭カラー写真図版2		写真図版42	S I 51	320
写真図版1 航空写真(1)	279	写真図版43	S I 52、S I 53(1)	321
写真図版2 航空写真(2)	280	写真図版44	S I 53(2)、S K 02・04・05	322
写真図版3 S I 01(1)	281	写真図版45	S K 10・11・14・15	323
写真図版4 S I 01(2)、S I 02(1)	282	写真図版46	S K 17・18・20・21	324
写真図版5 S I 02(2)	283	写真図版47	S K 22・25~27、S N 01	325
写真図版6 S I 03	284	写真図版48	S N 02・03・05・07	326
写真図版7 S I 05・07(1)	285	写真図版49	S N 08~11	327
写真図版8 S I 05・07(2)、S I 06(1)	286	写真図版50	S N 12・14・16・17	328
写真図版9 S I 06(2)	287	写真図版51	S N 18~20・24	329
写真図版10 S I 06(3)、S I 08(1)	288	写真図版52	S N 26~29	330
写真図版11 S I 08(2)	289	写真図版53	S N 30・31・33、配石遺構(1)	331
写真図版12 S I 08(3)	290	写真図版54	配石遺構(2)	332
写真図版13 S I 09(1)	291	写真図版55	配石遺構(3)	333
写真図版14 S I 09(2)、S I 11(1)	292	写真図版56	後期包含層(1)	334
写真図版15 S I 11(2)、S I 12(1)	293	写真図版57	後期包含層(2)	335
写真図版16 S I 12(2)、S I 14	294	写真図版58	作業風景	336
写真図版17 S I 15(1)	295	写真図版59	S I 01(1)出土土器	337
写真図版18 S I 15(2)、S I 16・18(1)	296	写真図版60	S I 01(2)、S I 03、 S I 05・07(1)出土土器	338
写真図版19 S I 16・18(2)	297	写真図版61	S I 05・07(2)出土土器	339
写真図版20 S I 19	298	写真図版62	S I 05・07(3)、S I 06、 S I 08、S I 09出土土器	340
写真図版21 S I 20	299	写真図版63	S I 12、S I 14、 S I 15(1)出土土器	341
写真図版22 S I 22・23	300	写真図版64	S I 15(2)、 S I 16・18(1)出土土器	342
写真図版23 S I 27(1)	301	写真図版65	S I 16・18(2)、S I 19、 S I 20、S I 22・23出土土器	343
写真図版24 S I 27(2)、S I 28	302	写真図版66	S I 27、S I 28、 S I 31A(1)出土土器	344
写真図版25 S I 31A・B・C(1)	303	写真図版67	S I 31A(2)、 S I 31B・C(1)出土土器	345
写真図版26 S I 31B・C(2)、S I 33(1)	304	写真図版68	S I 31B・C(2)、 S I 33(1)出土土器	346
写真図版27 S I 33(2)	305	写真図版69	S I 33(2)出土土器	347
写真図版28 S I 33(3)、S I 34	306	写真図版70	S I 34、S I 35(1)出土土器	348
写真図版29 S I 35・36・47(1)	307	写真図版71	S I 35(2)出土土器	349
写真図版30 S I 35・36・47(2)、S I 35(1)	308	写真図版72	S I 35(3)出土土器	350
写真図版31 S I 35(2)	309	写真図版73	S I 35(4)、S I 36出土土器	351
写真図版32 S I 35(3)、S I 36	310	写真図版74	S I 38、S I 40(1)出土土器	352
写真図版33 S I 47	311			
写真図版34 S I 38(1)	312			
写真図版35 S I 38(2)、S I 40(1)	313			
写真図版36 S I 40(2)、S I 41(1)	314			
写真図版37 S I 41(2)、S I 42(1)	315			
写真図版38 S I 42(2)、S I 44(1)	316			
写真図版39 S I 44(2)、S I 45(1)	317			
写真図版40 S I 45(2)、S I 48(1)	318			

写真図版75	S 140(2)、S 144(1)出土土器	353	写真図版116	前期包含層(13)出土土器	394
写真図版76	S 144(2)出土土器	354	写真図版117	前期包含層(14)出土土器	395
写真図版77	S 144(3)出土土器	355	写真図版118	前期包含層(15)、 A区遺構外(1)出土土器	396
写真図版78	S 144(4)出土土器	356	写真図版119	A区遺構外(2)出土土器	397
写真図版79	S 144(5)出土土器	357	写真図版120	A区遺構外(3)、 B区遺構外(1)出土土器	398
写真図版80	S 144(6)、S 145、 S 148(1)出土土器	358	写真図版121	B区遺構外(2)出土土器	399
写真図版81	S 148(2)、S 151(1)出土土器	359	写真図版122	B区遺構外(3)出土土器	400
写真図版82	S 151(2)、S K02・15・ 17・22・25・27(1)出土土器	360	写真図版123	S I 01~03、 S I 06(1)出土土器・石製品	401
写真図版83	S K27(2)、2号・ 3号・6号配石出土土器	361	写真図版124	S I 06(2)、S I 05・07、S I 09、 S I 12、S I 15、 S I 16・18(1)出土土器・石製品	402
写真図版84	後期包含層(1)出土土器	362	写真図版125	S I 16・18(2)、S I 20、 S I 22・23、S I 27(1) 出土土器・石製品	403
写真図版85	後期包含層(2)出土土器	363	写真図版126	S I 27(2)~28、S I 31、 S I 33(1)出土土器・石製品	404
写真図版86	後期包含層(3)出土土器	364	写真図版127	S I 33(2)、 S I 35、S I 36出土土器・石製品	405
写真図版87	後期包含層(4)出土土器	365	写真図版128	S I 38、S I 40、 S I 44(1)出土土器・石製品	406
写真図版88	後期包含層(5)出土土器	366	写真図版129	S I 44(2)~45、S I 48、 S I 51、S K15、S K25 出土土器・石製品	407
写真図版89	後期包含層(6)出土土器	367	写真図版130	S K27、2~4・6号配石、 後期包含層(1) 出土土器・石製品	408
写真図版90	後期包含層(7)出土土器	368	写真図版131	後期包含層(2) 出土土器・石製品	409
写真図版91	後期包含層(8)出土土器	369	写真図版132	後期包含層(3) 出土土器・石製品	410
写真図版92	後期包含層(9)出土土器	370	写真図版133	後期包含層(4) 出土土器・石製品	411
写真図版93	後期包含層(10)出土土器	371	写真図版134	後期包含層(5) 出土土器・石製品	412
写真図版94	後期包含層(11)出土土器	372	写真図版135	後期包含層(6) 出土土器・石製品	413
写真図版95	後期包含層(12)出土土器	373	写真図版136	前期包含層(1) 出土土器・石製品	414
写真図版96	後期包含層(13)出土土器	374	写真図版137	前期包含層(2) 出土土器・石製品	415
写真図版97	後期包含層(14)出土土器	375	写真図版138	前期包含層(3) 出土土器・石製品	416
写真図版98	後期包含層(15)出土土器	376			
写真図版99	後期包含層(16)出土土器	377			
写真図版100	後期包含層(17)出土土器	378			
写真図版101	後期包含層(18)出土土器	379			
写真図版102	後期包含層(19)出土土器	380			
写真図版103	後期包含層(20)出土土器	381			
写真図版104	後期包含層(21)・ 前期包含層(1)出土土器	382			
写真図版105	前期包含層(2)出土土器	383			
写真図版106	前期包含層(3)出土土器	384			
写真図版107	前期包含層(4)出土土器	385			
写真図版108	前期包含層(5)出土土器	386			
写真図版109	前期包含層(6)出土土器	387			
写真図版110	前期包含層(7)出土土器	388			
写真図版111	前期包含層(8)出土土器	389			
写真図版112	前期包含層(9)出土土器	390			
写真図版113	前期包含層(10)出土土器	391			
写真図版114	前期包含層(11)出土土器	392			
写真図版115	前期包含層(12)出土土器	393			

写真図版139	前期包含層(4)		写真図版143	A区、B区遺構外	
	出土石器・石製品	417		出土石器・石製品	421
写真図版140	前期包含層(5)		写真図版144	土製品(1)	422
	出土石器・石製品	418	写真図版145	土製品(2)	423
写真図版141	前期包含層(6)		写真図版146	土製品(3)	424
	出土石器・石製品	419	写真図版147	土製品(4)	425
写真図版142	前期包含層(7)		写真図版148	土製品(5)	426
	出土石器・石製品	420			

## I 調査に至る経過

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う津波で被災した大槌町の復興を図るため、大槌町では、震災後の混乱の中、平成23年9月30日付けで町民と行政の協働による町民主体のまちづくりを目的とした住民自治の原則に基づいた「大槌町災害復興基本条例」制定し、この理念の基、平成23年12月26日に「大槌町東日本大震災津波復興計画基本計画」を策定した。これに基づき、町方、安渡、赤浜、吉里吉里地区の土地区画整理事業区域の実施計画を策定し、岩手県知事の同意を得、平成24年9月28日に「大槌都市計画震災復興土地区画整理事業」の都市計画決定をした。翌平成25年3月7日には「震災復興土地区画整理事業」の岩手県知事認可が下り、同時に同計画を決定した。

この決定を受けて大槌町都市整備課では、事業に先立ち各事業区域における埋蔵文化財の有無について大槌町教育委員会(以下、「町教委」という。)と協議を行った結果、赤浜地区区画整理事業区域と周知遺跡である赤浜Ⅱ遺跡が重複することが示された。計画は、住宅用地として5m以上にも及ぶ盛土を行うことから、文化財保護法上記録保存等の措置を必要とした。

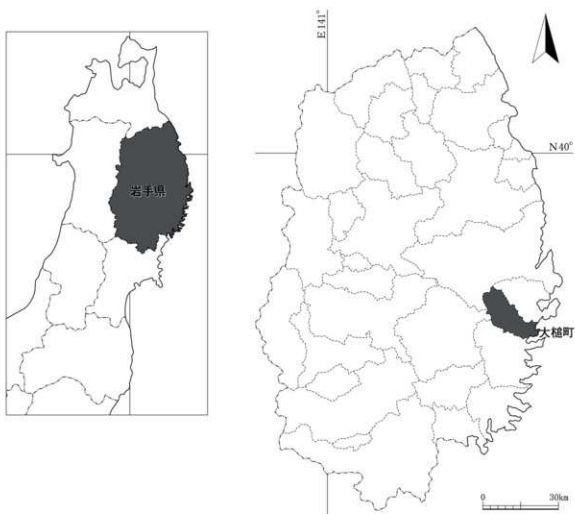
都市整備課では発掘区域の確定を行うため、平成25年4月30日付け大槌第30-1号で町教委に試掘調査依頼を行った。これを受けて町教委では、平成25年6月11日赤浜小学校地点を平成25年6月18日付け大槌第54-4号で、遺跡東側地点については平成25年7月24日～25日の試掘調査結果を平成25年9月20日付け大槌第120-3号で報告した。その内容は、小学校校庭地点で縄文時代中期大木8b式土器、東側地点では縄文時代前期大木2b式土器が出土したことから、発掘調査が必要である旨を回答した。

更に発掘調査範囲を確定するため、平成26年6月4日～5日に赤浜小学校北側住宅地を除く区域体及び県道南側の試掘調査を行った結果、県道南側は流れ込みの細片の遺物のみで遺構は確認されず、地形・層序からも遺跡範囲外であることが確認された。また、遺跡の中央部上流部は、遺物が攪乱している二次堆積の状況が確認され、中央部下流部は埋没した沢地形の状況を呈し、その堆積物中に縄文時代後期中葉の土器群及び遺構が確認された。

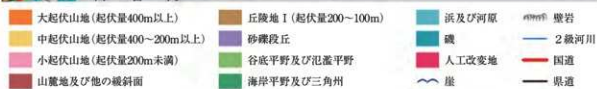
このことから、赤浜Ⅱ遺跡は、縄文時代前期、中期、後期に形成された遺跡であることが確定し、縄文時代中期は、洪積段丘が浸食された斜面上及び沖積堆積層下部に遺構面を形成し、縄文時代前期の遺構は洪積段丘上に、縄文時代後期の遺構は沢を埋める沖積堆積物層中に存在することを確認し、この結果を平成26年7月17日付けで岩手県教育委員会生涯学習文化課に報告した。

岩手県においては、市町村が主体となる開発に関連する埋蔵文化財は、市町村教育委員会が担当することとなっているが、復興関連調査の増大と調査員不足の状況から、岩手県教育委員会が協議・調整を経て、平成26年9月9日付け大槌第44号で赤浜Ⅱ遺跡に係る発掘調査依頼を行い、平成26年10月31日に公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(大槌町教育委員会)



第1図 遺跡位置図



第2図 地形分類図

## II 立地と環境

### 1 遺跡の位置と立地

赤浜Ⅱ遺跡がある大槌町は、岩手県の沿岸南部に位置し、北は山田町、北西は宮古市、西は遠野市、南は釜石市と接し、東は太平洋に面している。総面積は169.72km<sup>2</sup>で総人口は約12,500人(平成27年現在)を数える。町域は山地が主体であるが、三陸沖漁業が産業の中心を担っており、陸中海岸の景勝も含め豊かな天然湾の活用を力をつけている。

遺跡が所在する赤浜地区は、大槌町の南東、太平洋沿いに位置する小集落である。標高が低く、平成23年に発生した東日本大震災に伴う津波により甚大な被害を受けた区域の1つでもある。

遺跡は赤浜地区の西寄り、大槌町役場から東へ約2.7km地点に位置している。県道231号に隣接した緩斜面地にあり、海岸から120mと大槌湾を一望出来る立地にある。調査区は東西2地点に分かれており、便宜上東側の調査区をA区、西側をB区とした。両区の距離は約70mである。A区の現況は宅地、B区は赤浜小学校跡地であるが、いずれも震災の影響を受けて建物を解体したため、現在は更地となっている。赤浜小学校はこれに伴い廃校となったが、小槌の仮設校舎へ移転後、被災した他の学校と統合を果たし、現在は小中一貫校「大槌学園」として新たに始動している。なお、遺跡周辺は調査終了後、高台移転地として活用すべく嵩上げ工事を行う予定である。

遺跡の標高はA区で0～8m、B区で4～8m(遺跡調査時)を測る。地形図上では国土地理院発行2万5千分の1地形図「大槌」(NJ-54-7-16-4.13-4-2)、5万分の1地形図「大槌」(NJ-54-13-4)の図幅に含まれる。村域の現況は、山地率約84%で自然に恵まれ、酪農業と水産業を主体とした産業が発達している。

### 2 周辺の地形

大槌町は町域の大部分を北上山系から成る山岳が占めており、支脈が丘陵として広がりを見せている。標高の高い白見山(1,173m)、高滝森(1,160m)、妙沢山(1,103m)などの山々は主に町域の西側にそびえ立ち、妙沢山南西の土坂峠に源を発する大槌川が山麓の間を縫って町の中央付近を南東流し、白見山の山裾から延びる小槌川がその南側を同様に流れて大槌湾に注がれる。これらの河川沿いの谷底平野及び氾濫平野を中心に市街地が築かれている。

太平洋に面した町の東側は北の船越湾、南の大槌湾ともにリアス式海岸が発達し、沖合で親潮と黒潮の交流する豊かな漁業場となっている。また景勝地としても活用されており、海岸風景は岩手県北部から宮城県気仙沼付近までを範囲とする陸中海岸国立公園の一部として指定を受けている。なお、これらは平成25年には青森県南部の種差海岸階上岳県立公園及び八戸市内の2地区を編入して、三陸復興国立公園へと名称が改められている。船越湾には海水浴場として有名な浪板海岸と吉里吉里海岸が所在している。そこから海岸沿いにやや南下したところに吉里吉里港が開かれ、市街地が形成されている。その東には船越湾と大槌湾を区切って北東に突出した吉里吉里半島があり、半島に沿うような形で時計回りに松島、野島、二才島、丸島、長根島などが浮かぶ。

報告遺跡は、地形分類図上では谷底平野及び氾濫平野に所在している。遺跡のすぐ北側には北上山系に由来する中起伏山地が形成され、調査区は緩く南に向かって傾斜している。遺跡の南側は堤防を

隔て大槌湾に面しており、湾岸には昭和48年に開所された東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センターがある。そのまま太平洋に目を移すと、豊かな大海原とNHK人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルになったとも言われる蓬莱島を眺望することができる。

### 3 周辺の遺跡

大槌町内の遺跡は平成27年3月現在で、101箇所が岩手県遺跡台帳に登録されている。その中には弥生時代・古代～近代の遺跡も見られるものの、約半数が縄文時代の遺跡となっている。また鉄滓の散布地が23箇所あり、製鉄関連の生産遺跡も多数存在している。そのほか、中世に支配した大槌氏に関する城館、近世の大槌代官所に関連する遺跡もいくつか見られる。分布状況を見ると、太平洋に面した市街地と国道45号線沿いの開発地域、また大槌川と小槌川の河口周辺に密集し、それら河川の流域にも数箇所点在している。以下では、町内において調査が行われている遺跡を中心に概観していくこととする。

吉里吉里地区にある崎山弁天遺跡(22)は、昭和46・48・54年に発掘調査が行われ、縄文時代の貝塚や組石遺構のほか、早期～晩期に及ぶ大量の遺物が見つかった。

浪板地区には、縄文時代中期のフラスコ状土坑が多数検出されている松蔵遺跡(5)と、古代～中世に属する製鉄関連の工房跡や炉跡が発見された田屋遺跡(4)がある。

大槌地区の市街地周辺に目を向けると、夏本遺跡(12)と沢山遺跡、大槌川を挟んで南に櫛沢Ⅱ遺跡、大槌城跡、大槌代官所跡、町方遺跡などが集中している。夏本遺跡では、昭和62年に行われた調査によって、縄文時代中期の集落跡と弥生時代後期の竪穴住居跡、古代の鍛冶工房跡などが確認された。夏本遺跡の西に隣接する沢山遺跡においては、縄文時代後期・古代の竪穴住居跡が検出されている。櫛沢Ⅱ遺跡では縄文時代の土坑や古代の炭窯などが見つかり、大槌城跡では公園化事業に伴った11次にわたる調査によって、城館の堀跡、帯曲輪、掘立柱建物跡などが確認されている。大槌代官所跡は平成6～8年、町方遺跡は平成26年に調査が実施され、前者からは近世の礎石建物跡、掘立柱建物跡、柱穴状土坑群などが、後者からは同じく近世の石組溝、礎石などの遺構や陶磁器、かんざしなどの遺物が多数見つかった。

報告遺跡の所在する赤浜地区においては、当該遺跡の他に赤浜Ⅰ遺跡、赤浜Ⅲ遺跡、赤浜Ⅳ遺跡、イエノ沢遺跡、三日月遺跡、三日月神社経塚、弁天島経塚の7遺跡がある。

このうち赤浜Ⅰ遺跡では、正式な調査は行われていないが、昭和28年の赤浜海岸埋め立て工事の際多数の縄文土器や石器が採取され、現在もその一部が大槌町教育委員会によって保管されている。赤浜Ⅲ遺跡は、平成27年実施された調査の際、縄文時代中期の竪穴住居跡と縄文土器が多数確認されたほか、奈良時代の竪穴住居跡も1棟見つかった。弁天島経塚は名前の通り、弁財天を祀る祠宮が建てられている近世の経塚であり、昭和63年に行われた発掘調査では経石数個の出土が確認された。

赤浜Ⅱ遺跡は、古くから周辺で縄文土器や石器が採取され、大規模な遺跡が存在すると予想されていた。「大槌町内遺跡分布調査報告書Ⅱ」によると、昭和8年頃に実施された赤浜小学校校庭拡張工事の際に多数の遺構、遺物が検出されたとの記載がある。平成元年には大槌町教育委員会により発掘調査が実施され、縄文時代の竪穴住居跡、フラスコ状土坑などが多数見つかり、縄文時代中期主体の集落跡であることが判明している。





第3図 周辺の遺跡図

第1表 周辺遺跡一覧表

№	遺跡名	種別	時代	主な遺構・遺物	備考
1	カウラケ平	散布地	不明	鉄滓、羽口	
2	マンボウ	散布地	縄文	縄文土器、鉄滓	
3	岡山	散布地	不明	鉄滓、羽口	
4	田原	集落跡・ 生産遺跡	縄文・古代・中世	製鉄炉遺跡、 縄文土器、石器、鉄滓、鑄羽口、水素鉄	平成26～28年岩理文調査
5	松縄	貝塚・集落跡	縄文	土坑、縄文土器、石器、鉄滓、骨角器、貝	平成25・26年岩理文調査
6	白石	集落跡	縄文	縄文土器	平成27年岩理文調査
7	葛藤ヶ沢	散布地	縄文	縄文土器	
8	金敷榎	散布地	不明	鉄滓、羽口	
9	角地	散布地	縄文	縄文土器、鉄滓	昭和56年試掘調査
10	向山	散布地	不明	鉄滓、羽口	
11	綾川砲台跡	史跡	近世	土塁	
12	塚本	集落跡・ 生産遺跡	縄文・弥生・古代・近世	懸穴住居跡、鍛冶工房跡、 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、鉄滓	昭和63年大塚町第2集 平成元年岩理文134集
13	アサガ尻砲台跡	史跡	近世	平場、石組	
14	新城館	城館跡	中世	平場、帯郭	
15	北田	散布地	縄文	縄文土器、鉄滓、羽口	
16	古寺	社寺跡	近世	平場、墓石	
17	吉里吉里Ⅰ	散布地	不明	縄文土器、鉄滓	
18	新館	城館跡	中世	平場、帯郭	
19	前川善兵衛歴代の墓	史跡	近世	経石	町指定史跡
20	小沼経塚	経塚	近世	埋経碑、経石	昭和63年大塚町第3集
21	向館	城館跡	中世	平場、帯郭、空堀	
22	崎山弁天	遺物包含層 貝塚	縄文・弥生	遺物包含層、組石遺構、 縄文土器、土製刀剣、土鍋、石皿、石甕、骨角器、貝	昭和69年大塚町 平成20年崎山弁天遺跡発掘調査刊
23	花道	散布地	縄文	縄文土器、土師器、鉄滓、羽口	
24	畑中	散布地	不明	鉄滓	
25	吉里吉里Ⅱ	散布地	不明	縄文土器、鉄滓	
26	三日月	散布地	縄文	縄文土器	
27	田中館	城館跡	中世	平場、帯郭	町指定史跡
28	吉里吉里Ⅰ	散布地	不明	鉄滓、羽口	
29	安渡	散布地	縄文	縄文土器、石器	
30	吉里吉里坂	史跡	近世	切り通し	
31	イエノ沢	散布地	縄文	縄文土器、鉄滓、羽口、寛永通宝	
32	赤浜Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器、鉄滓、羽口	平成12年試掘調査
33	赤浜Ⅱ	集落跡・ 遺物包含層	縄文	懸穴住居跡、配石遺構、遺物包含層、 縄文土器、土偶、磨製石斧、石磯、石匙	平成元年調査 平成27年岩理文・大塚町教委調査 報告書
34	赤浜Ⅲ	集落跡	縄文・奈良	懸穴住居跡、土坑、縄文土器、磨製石斧	平成27年大塚町教委調査
35	三日月神社経塚	経塚	近世	埋経碑、経石	
36	三日月	散布地	縄文	縄文土器、石器	
37	赤浜Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器、石器	
38	白石	散布地	縄文	縄文土器	
39	弁天鳥経塚	経塚	近世	石組、経石	

### Ⅲ 調査・整理の方法

#### 1 野外調査

##### (1) 調査区の設定と遺構の命名

本報告の調査は2箇年にわたり、対象面積は3,495㎡である。対象となる調査区は東西2箇所に分かれており、便宜上、東側の調査区をA区、西側をB区とした。A区は1,975㎡、B区は1,520㎡である。A区については、遺物包含層が広がることから、調査区の形状に合わせ、4m単位でグリッドを設定した(第51図参照)。平面直角座標から北西へ約65度傾いた形のグリッド形状である。北西を起点とし、東へ向かってアラビア数字、南へ向かってアルファベット小文字を付した。これらの組み合わせで1aグリッド、2bグリッド…というように呼称することとした。遺物の取り上げもこれに従った。B区については、遺構外からの遺物の出土が少ないこともあり、グリッド設定は特に行っていない。よって両区とも遺構については、グリッドに拠らず、各遺構図に平面直角座標第X系の座標値を記した。検出された遺構の名称は、遺構の種類に応じアルファベットで略号化し、検出順にそれぞれ番号を01から付した。今回の調査で使用した遺構種と略号は以下のとおりであるが、配石遺構のみ略号化せずに○号配石遺構というように番号を付してそのまま用いた。

竪穴住居跡…S I 土坑…S K 炉跡・焼土遺構…S N 例) S I 01、S K 02など

精査の過程や終了後に検討した結果、遺構ではないと判断したものや、遺構の種類を変更した番号については、混乱を防止するために欠番扱いとした。なお、調査時と本報告において生じた遺構名の変遷については、第2表に記した。

##### (2) 試掘・表土除去・遺構検出と精査

事前に大植町教育委員会が実施した試掘結果に基づいて、改めてトレンチを設定し、遺構が検出される層位や遺物の出土状況、堆積土層を観察することとした。両調査区いずれも現況は平坦な地形であるが、改変されているのは周辺地形に鑑みると明らかであった。

A区は北側の改変はあまり見られず、30~50cmほどで黄褐色土の地山が確認できた。しかし、南側に行くに従い、土層も複雑となり、人力での掘削では地山面まで確認することができなかった。そのため、重機によって深掘りをかけ、層位状況を確認することとした。結果、低位部分となる南側では、2.5m掘り下げたところで地山面と思われる褐色土層面に到達した。ここに至るまでには、整地層や複数の崖線礫層が存在し、人力での掘削はかなりの土量と深度があるため、現実的ではないことが明らかとなった。また、検出面と考えた地山面の上層からは、中段部分では縄文前期、低位部分では縄文後期の遺物が多量出土する層があることから、これらを遺物包含層と捉え、この上層までを重機により除去することとした。土量が膨大なことから、バックホー(0.45㎡)、キャリアダンプ(6トン)各2台を稼働した。

B区は調査の事前に、大植町教委より小学校造成分の土層を除去してもらった。ここから引き続き、土層を確認すべく試掘トレンチを設定し、人力で掘削を行った。A区同様、崖線性の堆積層が何枚もあり、南側の低位部分では2.5m掘削した時点で黄褐色土の地山面が確認された。遺物が出土する層もあるが、A区のように多量出土する遺物包含層的なものではないため、この黄褐色土面を遺構検出面として、これより上層を重機により除去した。

その後、遺構検出を行ったが、遺物包含層の広がる範囲においては、慎重に遺物を取り上げながら、また、途中で遺構がないかを確認しながら、グリッドごとに平面的に掘り下げた。これにより検出された遺構は、原則、堅穴住居跡は四分法、これ以外は二分法で精査を行った。また初めから遺構の重複がわかるものについても、これを応用し、適宜断面ベルトを設定した。精査の各段階において必要な図面の作成や写真撮影を適宜行った。

遺構内出土の遺物は、埋土で可能な限り分層して取り上げ、底面出土や残存状態の良い遺物は写真撮影・図面作成後に取り上げた。遺構外出土の遺物については、原則として調査区やグリッドごとに出土した層位を記して取り上げ、状態の良いものは写真撮影・図面作成を行った。

また、現場での記録作成では、上記の図面・写真以外にフィールドカードを使用して、遺跡の調査経過や遺構の精査の進捗状況を記録している。

### (3) 実測・写真撮影

平面実測は電子平板(遺構くん/株)キュービック)を使用し、デジタルデータ化した。断面実測については、任意の高さを基に設定した水糸を基準として計測を行い、縮尺1/20または1/10の手書き実測図とした。また、配石遺構に関しては、㈱ラングに委託し、三次元レーザー測量を行った。

写真撮影は、6×9判モノクロームフィルムカメラ(FUJI GSW690Ⅲ)1台とデジタル一眼レフカメラ(Canon EOS5D Mark II)1台を使用した。後者のみですべてを賄った遺構もある。撮影に際しては、整理時の混乱を避けるために、記録の状況を詳細に記した撮影カードを使用した。撮影のタイミングとしては、各種遺構の覆土堆積状況、掘り上げ状況、遺物の出土状況などの要所で行っている。また、調査終了段階で、東方航空㈱に委託したセスナ飛行機による空中写真撮影を実施している。

## 2 室内整理

### (1) 遺構図面の整理

野外調査時に作製した遺構図は、電子平板のデータを用いて作製した平面図と、作業員2名が作製した断面図(縮尺1/10・1/20)である。断面図はデジタルトレースしデジタル化を図り、これらを用い合成を行い、第二原図を作成した。

### (2) 遺物の整理

出土した遺物は、まず種類別(土器・土製品類、石器・石製品類)に分類し、取り上げた遺物収納袋ごとに重量計測を行った。その後、遺物別に注記・接合作業を経て、本書掲載分と不掲載分を選択、掲載分は種類毎に仮番号を付して登録作業を行った。この後、それぞれの実測・拓本、点検・修正、トレースを行い、それらをスキャナーで取り込んでデジタルデータとし編集・整理した。仮番号は、最終的に遺構内の遺物から順に掲載番号(算用数字の連番)に付け替えている。

### (3) 写真撮影と整理

野外調査時の遺構写真等は、6×4.5判モノクローム写真はネガとともにアルバムに貼付し、デジタルカメラで撮影したデータは、各遺構ごとに個別のフォルダーにまとめた。

遺物の写真は、当センター写真室において撮影技師がデジタル一眼レフカメラ(Canon EOS5D Mark II)を使用し撮影した。

#### (4) 整理作業経過

平成26年度は、平成27年1月16日より整理員2名で整理作業を開始した。初年度の野外調査は、大幅に予想を超えた遺構数・遺物量ということもあり、遺構検出面までの表層を除去するに留めざるを得なかったが、土器は大コテナ(42×32×40cm)で14箱出土しており、これらの洗浄を当面行った。

2月末日で土器洗浄を終了し、3月より接合作業を開始したが、次年度に調査が継続することもあり、部分的な接合に留めた。

3月16日より、表層出土の破片土器の断面実測を開始。末日まで行い、当年度の整理作業を終了した。

平成27年度は、野外調査が終了した翌月の8月から担当調査員1名で整理作業を開始した。主に第二原図の作成に当たった。

8月24日より遺物洗浄を開始。野外調査時の雨天時等に行っていたが、約半数は未了となっていたため、日々雇用作業員9名にて、これらを順次洗浄した。

9月16日より整理員1名体制で、洗浄が終わった遺物の仕分けと注記作業を開始。併せて岩手県立博物館開催の特別展「海に生きた歴史」への出展要請に伴い、一部接合作業も並行した。

11月2日より本格的な整理作業が開始となり、整理員8名体制となった。上記の出展選抜は完了したため、A区の土器接合・注記から開始した。調査時のグリッドをもとに縄文時代後期の遺物包含層内の接合を試みたが、後期のみならず中期や前期の遺物も同一層位から出土しており、接合作業はやや難航した。A区の大コテナ約70箱分は2月中旬で完了した。

引き続き、B区の接合・注記作業を行ったが、こちらは遺構内出土が多く、また中期中葉～後葉にほぼ限定されることもあり、スムーズに進捗した。一部石膏を入れながらの復元作業も行ったが、3月中旬に接合・注記作業は完了し、その後登録作業を行った。土器の仮登録点数は約600点となり、これを以って平成27年度の整理作業を終了とした。

平成28年度は、4月1日より整理作業を6名で開始。前年度、接合までで終えていたA区土器の石膏入れ作業を行った。また、4月中旬より、(株)ラングに委託する写真実測の撮影を1名が専従することとした。

5月12日より拓本作業に入る。立体復元できた個体については上述した写真実測委託をすることから、破片個体についてのみ対象とした。終了後引き続き、6月8日から土器断面実測を開始。実測個体は約400点に及んだ。

6月28日から拓本実測以外の土器の実測を開始。続けて、土製品・石器の実測作業へと着手した。なお、剥片石器の大半は(株)ラングへ委託であり、所内での実測は礫石器のみを対象とした。

8月8日より、土器図のトレースを1名が先行して開始。土器断面については、すべてデジタルトレースで行い、拓本とパソコン上で合成することとした。追って、8月30日から石器図・土製品図のトレース開始。こちらは従来通りのペンによるアナログトレースとした。

8月17日～9月13日、断続的に石器写真撮影。10月11日～26日、土器・土製品写真撮影。その後、写真の加工・編集を行った。

10月に入り、デジタル作業が多くなったことから、実測図の修正班とデジタル編集や表作成などを行うデジタル班に分かれて作業を行った。

11月から収納準備にも着手。デジタル割付、実測図修正と並行して行った。

11月30日、収納作業を行い、これを以って本遺跡の整理作業を完了した。

## IV 検出された遺構

### 1 遺跡の概観

赤浜Ⅱ遺跡は、上閉伊郡大槌町赤浜1丁目に所在し、大槌町役場から東へ約3kmの地点に位置する。北緯39度21分16秒、東経141度55分51秒付近を中心に、北側の山地から大槌湾へと向かう南向きの緩斜面地にあり、標高は0～8m、海岸からの距離はおよそ150mである。遺跡の現況は宅地・小学校であったが、遺跡の所在する赤浜地区は東日本大震災で甚大な被害を受けた区域であり、建物はすべて損壊、撤去されている状況である。

### 2 調査の概要

#### (1) 調査経過

平成26年11月4日より調査を開始した。当初は、試掘結果からA区(当初1,875㎡)を1箇月の工程で終了との計画であった。トレンチ掘削や重機による表土除去の結果、遺構検出面までの深度があることから、到底1箇月での終了は困難との判断に至った。そのため、当年度は遺構検出までの調査となったが、土量が膨大なことから重機による粗掘りの進捗は思わしくなく、降雪が始まった12月5日に終了した。その後、北側部分の遺構検出を行い、次年度に向けて掘削部分の養生や安全設備を整え、12月18日に当年度の調査を終了した。

翌平成27年は4月6日より資材を搬入し、調査を開始した。当年度は、前年度着手したA区に加え、赤浜小学校跡地に当たるB区も併せて調査となった。翌日よりA区は遺物包含層の掘り下げ、B区は重機による粗掘りを開始した。

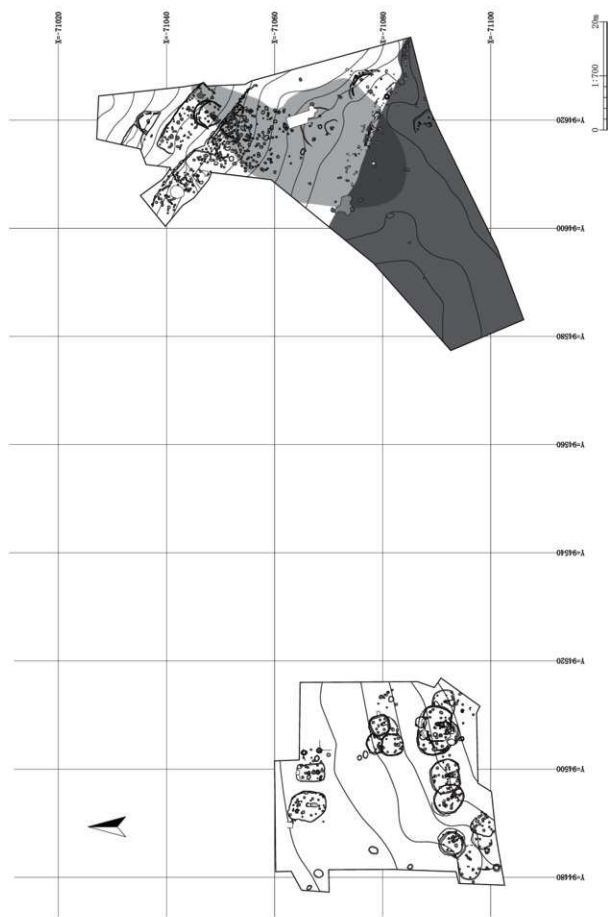
B区の重機作業は、予想していたより土量が多く難航したため、当面A区のみで精査を行った。粗掘りが終了した4月25日より、B区の検出作業を開始、A区と同時並行での調査となった。しかし、B区もA区同様、崖錐性の堆積層が厚い複雑な状況もあり、南側部分では遺構面に達していないことが判明した。そのため、再度重機による粗掘りを行った。その間A区では、縄文後期の包含層だけではなく、調査区北側や中央において縄文前期～中期の竪穴住居が確認された。そのため、遺構精査と遺物包含層掘削を並行して調査を行うこととした。

5月中旬に入り、B区の重機作業が終了したことから、再度両区に分かれての調査となった。B区の遺構検出が進むにつれ、こちらは縄文中期の竪穴住居が密集することが明らかとなってきた。この時点で20棟を超える数が推定された。また、A区では、前期の遺物包含層の存在も明らかとなり、調査は困難を極めた。

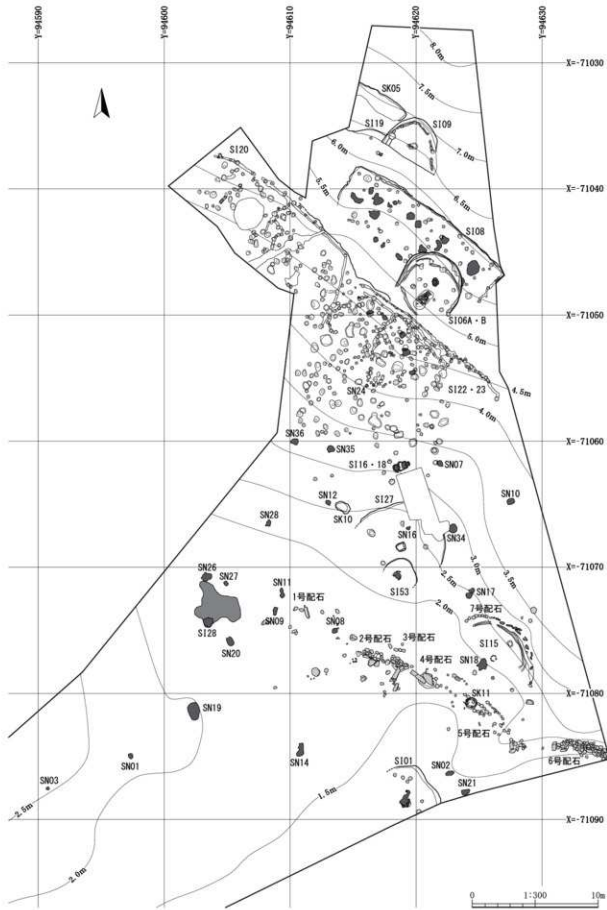
6月に入り、調査の優先順位を判断し、当面A区の調査に集中した。この時点で、後期包含層は残り僅かとなり、配石遺構にも着手した。北側においては、前期包含層に加え、ロングハウスや柱穴群が見え始めた。進捗に伴い徐々にB区へと主体を移すが、両区とも遺構密度が高いことから、協議の結果、1箇月の調査延長となった。

7月、A区は第2週目で精査は概ね終了。B区は生活道路分の調査や一部拡張に伴い、遺構数も増加したが、7月31日を以って調査を終了した。

2 調査の概要

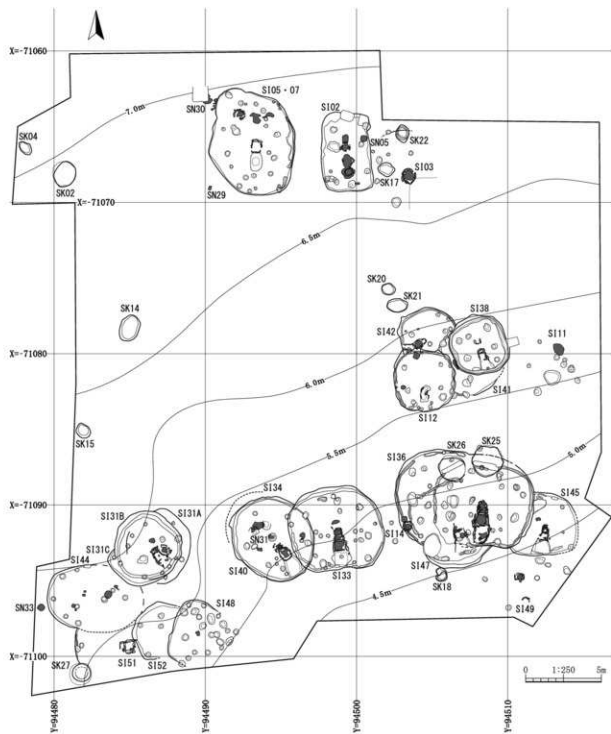


第4図 調査範囲図



第5図 A区遺構配置図





第6図 B区遺構配置図

## (2) 基本層序

本調査区はA・B区と2箇所に分かれるため、基本となる層序もやや異なる。また、A区においては北側の山地からの崖錐性堆積が著しく、地点によっても層序がかなり異なる。A区は北側と南側の2地点、B区は中央部の1地点の土層柱状模式図を掲載した。これらを総合的に判断して統合したものを以下に記載する。

I a 層：現表土。層厚30cm。A区北側のみ存在。

I b 層：盛土層。層厚50cm。A区南側(住宅跡地)、B区全域(小学校跡地)に見られる。現代。

II層：暗褐色土。A区北側、B区盛土層下部に見られる。崖錐性の礫を含むが小粒。

III層：崖錐性堆積により形成されたものを一括した。調査区全域に堆積する。標高が低い位置ほど厚く、細分化される。各地点での対比は困難。層厚最大120cm。

(A区) III a 層：海砂。堆積時期は不明。III b 層：黒褐色土。大きな崖錐礫が大半を占める。III c 層：粗い海砂層。湿るとやや赤みを帯びる。津波または高潮により形成か。III d 層：黒褐色土。崖錐礫を多く含む。III e 層：黒色土。崖錐礫を多く含むが、上位層より大きさは小さい。

(B区) III f 層：暗褐色土。大きな崖錐礫ではほぼ構成される。III g 層：暗褐色土。上層より径の小さな崖錐礫を含む。III h 層：黒褐色土。崖錐礫は少ない。III i 層：暗褐色土。崖錐礫少ない。

III j 層：黒褐色土。ほぼ大きな崖錐礫で構成。

IV層：A区の谷側のみ存在。a～c層に細分した。

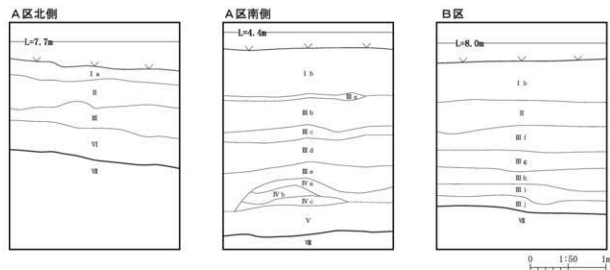
IV a 層：黒褐色土。崖錐性堆積物を含む。IV b 層：暗褐色土。やや赤みがある。崖錐礫を含むが、礫の円磨度が顕著。IV c 層：細粒砂。海砂の可能性が高い。津波に起因か。

V層：縄文後期中葉主体の遺物包含層。黒褐色土。層厚30cm。

VI層：縄文前期前葉主体の遺物包含層。暗褐色土～褐色土。層厚40cm。

VII層：黄褐色土。遺構検出面。地山。A区北側、B区全域に見られる。層厚不明。

VIII層：暗褐色土。遺構検出面。地山。崖錐礫で構成。



基本的に遺構検出面はA区北側やB区はVII層面となるが、A区南側はVIII層が存在しないため、VIII層面となる。A・B区とも北側は堆積層が薄く、I層直下がVII層となる部分もあり、現表面から30cmほどで遺構検出面となる部分がある一方、標高の低い南側は3mの深さを要したりと一様ではない。

### 3 検出遺構

今回の調査で確認された遺構は、竪穴住居跡(S I)40棟、土坑(S K)15基、焼土遺構(S N)27基、配石遺構7箇所、遺物包含層2面である。調査区ごとの内訳は、A区では、竪穴住居跡15棟、土坑3基、焼土遺構22基で、配石遺構・遺物包含層はこの区のみで確認した。B区では、竪穴住居跡25棟、土坑12基、焼土遺構5基である。これらは縄文時代前期～後期に属するが、その中でも主に前期前葉・中期中～後葉・後期前～中葉の3つの時期が主体となる。

分布状況は、A区では時代ごとに標高が異なるのが比較的顕著に看取でき、前期前葉は標高3m以上に、中期中葉～後葉は標高2～5m内に、後期前葉～中葉は標高3m以下に分布する。B区ではほぼ全域に中期中～後葉が全域に広がっており、他の時代の遺構はあまり確認できない。以下、遺構種別ごとに記載・報告する。

#### (1) 竪穴住居跡

##### S I 01竪穴住居跡(第7図、写真図版3・4/遺物:第53・54・135図、写真図版59・60・123)

<位置・検出状況>A区南側中央部に位置する。後期包含層のトレンチを掘削した結果、西側の一端に本遺構の貼床を確認したことにより認識した。

<重複遺構>なし。

<平面形・規模>西側の壁は残存せず、南側は調査区外へと延びるため、全容は不明だが、残存部から420cm前後の円形、または楕円形を呈するものと推測される。

<埋土>4層に細分した。暗褐色の砂質土を主体とする。

<壁・床面>残存する壁は直角に立ち上がり、深さは最深部で約35cmを測る。床面は概ね平坦で、ほぼ全域に貼床が施されている。貼床土は黄褐色をし、厚さは5～6cm程である。

上述のとおり壁はない。床面に相当する面は、調査者の報告では、調査時当初は貼床と思われる土があったが、調査過程で消失したとのこと。そのため記録・図示はできていない。いずれにしても周辺は地山に混在する崖錐礫が表出しており、凹凸が著しい。

<炉>かなり強く被熱した赤褐色焼土が検出された。約90×60cmの楕円状に広がり、被熱深度は6～7cmに及ぶ。表面は硬化している。焼土となっている土質は周辺には存在しないことから、貼土をしたものが焼成されたと判断される。

<ピット>柱穴状ピット6個(P 1～6)が検出されている。配置や規模等からも共通性は判断できず、柱穴として機能していたかも不明なため、柱穴状ピットとした。

<遺物>土器が92kg、石器が4点出土した。後期中葉に比定されるものが多い。

<時期>出土遺物や検出位置から、縄文後期中葉に属する可能性が考えられる。

(小林)

##### S I 02竪穴住居跡(第8図、写真図版4・5/遺物:第135・171図、写真図版123・146)

<位置・検出状況>B区北側の中央部に位置し、検出面はⅦ層面である。当初は本遺構については、平面プランもはっきりしないため、遺物包含層の広がりも認識していたが、ベルトを設定し掘り下げたところ、焼土(後に炉と判明)を検出したことにより住居跡と認識した。上面は赤浜小学校が建設されていたため、検出面までの層は薄く、大きく削平されたものと推察される。また、覆乱痕(これも

赤浜小学校の建設時に起因するものか)も多く認められる。

<重複遺構> S I 03, S N05と重複する。S N05は本遺構埋没過程で形成された焼土と思われることから新しいものと推測される。S I 03とは新旧関係を判断できなかった。

<平面形・規模>約520×330cmの長方形を呈する。

<埋土>8層に細分した。暗褐色・黒褐色土が主体である。いずれにも崖錐礫が多く混入する。

<壁・床面>壁はやや外傾して立ち上がり、深さは最深部で約35cmを測る。床面は地山の礫が露出するためやや凹凸があるが、概ね平坦である。調査者の発言や写真からは、一部に黄褐色土の貼床と思われる土層が見られるが、図による記録を欠く。

<炉>中央からやや北側に炉Aと南側に炉Bの2基を検出した。炉Aは南側に石囲部を持つことから石囲炉と判断される。石囲部は所々石を欠くものの、径約60cmの円形状に石が組まれており、内部には暗赤褐色焼土が広がる。北側の炉石を跨いでさらに北側にもこの暗赤褐色焼土が広がるが、この周囲には石やこれを設置した痕跡等は確認できなかった。このことから、炉Aは地床炉+石囲炉と炉室を2つ有する複式炉であったことが推察される。炉Bは「8」の字状に赤褐色焼土が広がり、北側の焼土の外縁には、数個の石が残存している。おそらく石囲炉であったものと思われ、径70~80cmほどの石囲部が想定される。南側の焼土は径約80cmほどに広がるが、中央部は皿状に窪み、この底面には焼土は確認できない。形態的に炉Bも石囲炉+地床炉(または前庭部)を持つ複式炉であったものと考えられる。

<床面土坑・ピット>床面土坑としてK1、その他P2~11(P1は欠番)の10個のピットを検出した。K1は炉Aの西に位置し、約80×60cmの楕円形を呈し、深さは約60cmである。ピットは径30~40cmの円形を呈するものが多く、深さは20~57cmと様々である。配置的に、P2・3・4・5・7は柱穴として機能していた可能性が高く、このほか南西隅のP8~11のいずれかが同じものと考えられる。また、この観点からすると土坑としたK1も、配置的には柱穴の可能性もあるかもしれない。

<遺物>土器121kg、石器2点が出土した。土器は地文のみの小破片が多く、掲載に至ったものはない。石器は特殊磨石1点を掲載した。

<時期・考察>炉の形態、出土遺物から縄文中期中葉とした。なお、本遺構では炉A・Bと2つ確認されていることから、2時期にわたる可能性が高いが、構築床面でのレベルの差異もなく、直接的な切り合いもないことから、これらの新旧関係については明確な判断が付かなかった。推測ではあるが、単純に炉石の残存状態が良い炉Aの方が新しい可能性が考えられる。また、これに伴う住居自体の変容についても現状からは判別できず、炉の造り替えのみが行われたと想定している。

(藤本・小林)

#### S I 03竪穴住居跡(第9図、写真図版6/遺物:第55・135図、写真図版60・123)

<位置・検出状況>B区北側の中央部に位置し、検出面はⅥ層面である。S I 02同様、当初は本遺構については、平面プランもはっきりしないため、遺物包含層の広がりも認識し、ベルトを設定し掘り下げたところ、石囲炉を検出したことにより住居跡と認識した。しかし、上面が大きく削平されていたことや、地山及び埋土に至り崖錐礫が非常に多いことから、土層を完全に把握しきれなかった。そのため、壁は断面ベルトから推定したもので全容は明らかにできなかった。

<重複遺構> S I 02, S K17・22と重複する。新旧関係については全く不明。

<平面形・規模>上述のとおり。推定すら困難。

<埋土>5層に細分した。ほぼ黒褐色土である。

＜壁・床面＞断面ベルトを設定した北側の一部のみ、立ち上がりが確認できる。深さは現状で最大でも10cm程度。南側は斜面下方部にあたるため、もとより流出して遺存していなかったのかもしれない。石囲炉が検出されたことから、同一面を床面として認識している。地山に混在する崖線礫が露出するため、凹凸がある。炉の周辺にのみ黄褐色粘質土の貼床が施されている。

＜炉＞90×100cmの円形～方形に石が組み立てた石囲炉である。西側の部分は一部石を二重に配置しているようにも窺える。炉内には暗赤褐色の焼土が広がる。

＜ピット＞住居の想定範囲内から7個のピットを検出・図示した。開口部が20cm以下と小径なものが多く、深さも20cm前後のものが多い。配置的に見ても、柱穴として機能していたどうかは不明である。

＜遺物＞埋土として認識できていない部分もあり、確実に本遺構出土とした遺物は、土器27kg、石器4点である。土器は大木8b式に比定されるものが多く、埋土中出土の2点を掲載した。石器は床面出土の石鎌・磨製石斧、埋土出土の特殊磨石の計3点を掲載した。

＜時期＞出土遺物から縄文中期中葉に帰属するものと考えられる。

(藤本・小林)

#### S I 05・07壁穴住居跡(第10図、写真図版7・8/遺物：第55・56・136・137図、写真図版60～62・124)

＜位置・検出状況＞B区北側の中央部に位置し、検出面はⅤ層面である。暗褐色土のプランが広がるが、かなり不明瞭で、遺物が周辺より多く出土することから、ベルトを設定し掘り下げたところ、住居跡と確認できた。精査の過程において石囲炉が2基見つかったことから、重複する2棟の住居と判断したが、壁を把握するのが難しく、図のような掘り上がりとなった。

＜重複遺構＞2つの石囲炉の状態から、S I 07がS I 05より新しいと考えられるが、平面的な切り合いは上述のとおり不明である。

＜平面形・規模＞掘り上がりの状態から、S I 07は約670×560cmの楕円形を呈するか。これの北西部に張り出しが見られるが、これがS I 05の壁となる可能性がある。詳細は不明。

＜埋土＞上位に暗褐色土、下位に黄褐色土が堆積する。自然堆積か。炉の位置からも、本来は埋土断面に切り合い関係が見て取れるはずだが、判別が付かない。

＜壁・床面＞壁は床面から緩やかに立ち上がり、深さは最深部で約40cmを測る。床面は概ね平坦。S I 05炉・07炉とも床面レベルに大差はない。S I 07の東壁沿いのみ壁溝が確認できる。

＜炉＞S I 07炉は石囲部に前庭部が取り付け複式炉で、全長約210cmである。石囲部は約90×70cmの長方形を呈する。底面北側には暗赤褐色焼土が確認できる。中心部分にも礫があったが、これが間仕切りであった可能性もある。ただし、他の石囲に使用されていた礫ほど深く設置されておらず、埋没したのかもしれない。前庭部は約120×80cmの楕円形を呈し、中心に向かって浅く窪む。S I 05炉は石囲炉で、石が途切れる部分も見られるが、約80×60cmの楕円形を呈する。底面全体には赤褐色焼土が広がる。この2基のほかに、地床炉A・Bが確認された。非常に良く焼けており、表面は堅く締まる。S I 05・07どちらに伴うかは判断が付かない。

＜ピット＞全体で28個が確認された。配置状況から、P 1・2・5・6・8・25はS I 07を構成する可能性がある。そのほかは不明。

＜遺物＞S I 05・07いずれか判別が付かないため、一括して扱った。土器は21.5kg出土し、16点を掲載した。大木8b～9式に比定されるものが大半である。石器は4点を掲載した。

＜時期・考察＞炉の形態及び出土遺物から大木8b～9式期に帰属する可能性が高い。S I 05・07両者に重複はあるものの、大きな時期差はないものと捉えたい。

(小林)

**S I 06A・B 竪穴住居跡**(第11図、写真図版8～10/遺物：第56・136図、写真図版62・123・124)

<位置・検出状況>A区北側の東部に位置し、検出面はⅤ層面である。検出時に明瞭に褐色土のプランが確認できた。当初は単独の1棟と思われたが、調査の結果、壁溝が2条巡ることから重複する2棟が存在することが判明した。

<重複遺構>他にS I 08と重複する。本遺構が新しい。

<平面形・規模>上述の通り、内側に壁溝が巡るものをS I 06A、外側のものをS I 06Bとするが、壁の一部ほとんど同じ部分であったりと平面形状は近似する。状況的に内側の壁溝のものが新しく、S I 06Aが新しく、S I 06Bが古いと推測される。Aは約480×420cmのやや横長の隅丸形状を呈する。Bは残存する部分から約490前後の円形～楕円形を呈するものと考えられる。

<埋土>S I 06A・B併せて7層に細分した。S I 06Aの立ち上がりの推定ラインを図に示し、一括して掲載した。5層暗褐色土中に切り合い線が生じるはずであるが、現場では判別できなかった。どちらも自然流入土と考えられる。

<壁・床面>S I 06Aに残る壁は東側のみだが、床面からほぼ直角に立ち上がり、深さは約40cmを測る。床面はほぼ平坦で締まりが認められる。S I 06Bは北側の壁が残存し、床面からほぼ直角に立ち上がり、深さは約40cmを測る。残存する床面範囲は少ないが、確認できる部分では概ね平坦である。床面のレベルとしては、両者ともほぼ同じである。

<炉>石囲複式炉の炉Aと地床炉の炉Bの2基が確認された。炉Aは南側壁よりに位置し、全長160cmで石囲の炉室2個と浅い掘り込みのみの前庭部を伴う。北側の炉室は一边約80cmの方形、南側の炉室は一回り大きく、一边約140cmの方形を呈する。いずれも床面から約20cm掘り込まれており、底面には赤褐色焼土が広がることから、燃焼部と判断される。石囲部周辺には暗褐色土の炉石設置時の掘り方が確認できる。この南西側に約90×60cmの楕円形の前庭部が取り付く。遺存状態や位置関係から、S I 06Aに伴う炉と判断した。炉Bは約50×40cmの掘り込みを持ち、この周辺に赤褐色焼土が広がる。位置や残存状況からS I 06A・Bどちらに伴うか判別は付かなかった。

<ピット>11個が確認された。配置状況からP 1・3・5・9・12・15はS I 06Aに伴うものか。深さ30～40cmのものが多く、S I 06Bに伴う可能性があるのはP 14のみである。

<遺物>重複に気付かないまま掘削したことから、S I 06A・Bを分別することができない。土器は6.1kg、石器は5点出土した。このうち、土器6点と石器3点を掲載した。

<時期・考察>S I 06Aは炉Aの形態や出土遺物から大木8b～9式期に帰属するものと考えられる。S I 06Bの詳細時期は不明だが、残存する住居の形態などから、S I 06Aより若干遡る程度ではなからうか。

(小林)

**S I 08 竪穴住居跡**(第12・13図、写真図版10～12/遺物：第56・57・137図、写真図版62・124)

<位置・検出状況>A区北側の中央に位置し、検出面はⅤ層面である。検出当初から、灰白色の火山灰が明瞭に長方形に広がることから、竪穴住居と認識した。

<重複遺構>S I 06A・Bと重複し、切られる。S I 19とも重複するが、新旧については不明。本遺構が新しいか。

<平面形・規模>斜面下方にあたる南西側は壁が確認できなかったが、約14×5mの長方形を呈する

ロングハウスである。長軸方向は北西-南東にあり、等高線に平行する。

<埋土>12層に細分した。山側は崖礫層を含む土層となり細分されるが、全体的には褐色土が主体となる自然堆積である。床面まで火山灰が堆積しており、これも2層に細分した。これを分析したところ、十和田中振火山灰であるとの結果であった。埋没過程で降下堆積したものと考えられる。

<壁・床面>山側の壁は床面から直角に立ち上がり、深さは約40cmを測る。床面はやや凹凸が認められるが、概ね平坦である。山側と東側の壁沿いに壁溝が確認できる。

<炉>炉A～Oの15か所で焼土が確認された。分布状況は散在しており、同時期に並行稼働していたとは思えない。山側にある炉A・B・C・D・Fのみ、一列に並ぶセット関係かもしれない。被熱状況も区々だが、炉A・B・Dなど焼成深度も厚く、良く焼成されている。

<ピット>48個が確認された。50cm超のものもあるが、配置等は不明。山側に一列となるグループ(東側P1から西側P9までの直線上)と谷側に一列となるグループ(東側P31から西側P11までの直線上)があるか。

<遺物>土器が5.3kg出土し、掲載したのは3点である。前期～後期の各時代の土器が出土するが、大木1～2式期内のものが多い。石器は7点が出土した。

<時期>住居の形態・出土遺物から、縄文前期前葉に帰属すると判断できる。なお、ピットより採取した炭化物を年代測定したところ、C14年代で5210±30yrBPという結果が得られた。土器編年や中振火山灰の年代と比較すると、新しい時期の結果となった。

(小林)

#### S109竪穴住居跡(第14図、写真図版13・14/遺物:第57・138・172図、写真図版62・124・147)

<位置・検出状況>A区北側中央部に位置し、検出面はⅥ層面である。黒褐色の不整形なプランが広がることから、何らかの遺構として認知したが、周辺を先だってトレンチ掘削したことにより、南側は消失している。

<重複遺構>S119と重複し、本遺構が新しい段階にあると判断した。

<平面形・規模>楕円形であると推定される。規模は約490×330cm以上。

<埋土>4層に細分した。堆積土中に風化礫と地山ブロックが顕著に観察できることから斜面上方からの流入による自然堆積であると判断した。

<壁・床面>残存する壁はやや急角度で立ち上がり、深さは37cmを測る。床面は斜面下方へ自然流出したためか、やや南側に傾斜する。

<炉>中央に地床炉1基を検出した。約75×45cmの歪な楕円形を呈し、やや凹みが認められる。底面から壁面の一部に赤色化した焼土が見られる。

<ピット>12個確認した。壁溝と共に壁沿いに見られ、P1・4・9は規模から主柱穴と考えられる。

<遺物>土器が約9.2kg出土し、1点を掲載した。大木1～2式に比定されるものである。石器は石鏃3点と石匙1点が出土した。

<時期>時期を特定できる遺物も少なく決定打に欠けるが、縄文前期前葉と捉えたい。

(野中)

#### S111竪穴住居跡(第14図、写真図版14・15)

<位置・検出状況>B区中央部東側に位置し、検出面はⅥ層面である。当初は遺構として認識していなかったが、被熱の強い焼土が検出され、周辺にピットが集中して確認されたことから住居跡と判断

するに至った(調査者判断)。ただし、壁等が残存する部分は確認できていないため、「堅穴」住居跡とするには異論もあるが、後世に削平された、崩落が著しかった、などを考慮し、住居跡として報告する。

<重複遺構>なし。

<平面形・規模>全容が不明。

<埋土>なし。

<壁・床面>上述のとおり壁はない。床面に相当する面は、調査者の報告では、調査時当初は貼床と思われる土があったが、調査過程で消失したとのこと。そのため記録・図示はできていない。いずれにしても周辺は地山に混在する崖雑礫が表出しており、凹凸が著しい。

<炉>かなり強く被熱した赤褐色焼土が検出された。約90×60cmの楕円状に広がり、被熱深度は6～7cmに及ぶ。表面は硬化している。焼土となっている土質は周辺には存在しないことから、貼土をしたものが焼成されたと判断される。

<床面土坑・ピット>周辺から土坑(K1)1基と柱穴状ピット8個(P1～8)が検出されている。K1は約110×100cmの楕円形で、深さは約25cmを測る。機能面については不明。P1～8も、配置や規模等からも共通性は判断できず、柱穴として機能していたかも不明なため、柱穴状ピットとした。

<遺物>炉の周辺やK1埋土中など、土器片が十数点約0.2kg出土したのみである。時期を特定できる文様を持つものはない。

<時期・考察>良好な遺物がなため時期の特定は困難だが、周辺の遺構時期の状況と併せても、縄文中期内に納まるものと考えられる。

(藤本・小林)

#### S12 堅穴住居跡(第15図、写真図版15・16/遺物:第57・138図、写真図版63・124)

<位置・検出状況>B区中央部に位置し、検出面はⅧ層上面である。検出時に多くの炭化物和焼土ブロックを含む円形プランを確認した。

<重複遺構>S141・42と重複し、これらを切る。S138とは直接的な切り合いはないが、近接するため同時存在はないものと考えられる。

<平面形・規模>径約400cmの円形または隅丸方形に近い形状である。

<埋土>6層に細分した。全体に大小の礫が混在し、下位には炭化物和焼土ブロックが多く含まれる。

<壁・床面>残存する壁はほぼ直立し、深さは最深部で約40cmを測る。床面は礫による凹凸が見られるものの、概ね平坦である。一部途切れるが、斜面下方にあたる南側以外にコの字状に壁溝が巡る。埋土下から床面にかけて、被熱痕跡や炭化物が多く検出されている。焼失住居である可能性が高い。

<炉>南側の中央部に構築されている。遺存状態は悪いが、約100×50cmの不整な8の字状の掘り込みが確認できる。外縁及び壁面には部分的に焼土が見られる。形状から複式炉であったと考えられる。

<ピット>柱穴または柱穴状ピットは床面で15個確認できる。西側壁溝沿いにある2個(P番号なし)とP8は壁溝に伴う壁柱穴か。配置や規模からP1・2・4・5・6・7は主柱穴の可能性が高い。

<遺物>土器が5.6kg、石器が5点出土した。このうち、土器2点と石器4点を掲載した。床面からまともに出て出土したRP1は大本10式に比定される。

<時期・考察>出土遺物や推測される炉の形態から、大本10式期に帰属の可能性が高い。下層から床面に残存する炭化物や焼土が確認されたことから、本遺構は焼失住居と判断される。

(藤本・小林)



**S I 14 竪穴住居跡**(第15図、写真図版16/遺物：第57・172図、写真図版63・147)

<位置・検出状況> B区南西部に位置し、検出面はⅧ層である。遺構検出面までの掘り下げ中に突如石囲炉を確認したことにより認知した。よって周辺に存在する縄文中期中～後葉の遺構より新しいと判断されるが、平面プラン等は全く全容は不明である。

<重複遺構> S I 33・35・36・47等と重複するものと考えられるが、直接的な切り合いが判断できる部分はない。上述したように、状況的には上記遺構の上面に石囲炉があることから、これより新しいと判断できる。

<平面形・規模> 詳細は不明。

<埋土> 褐色土が上面に確認できるが、床面との差異を判別することは難しい。

<壁・床面> 石囲炉の検出面を床面と判断したが、締まり等もあまり感じられない。

<炉> 石囲炉とこの北側に接して広がる地床炉が確認された。石囲炉は約70×60cmの方形を呈し、中央に赤褐色焼土が広がる。地床炉は同じく赤褐色焼土が広がり、焼成深度は約10cmと良く焼けている。複式炉と捉えられるか。

<ピット> 周辺よりP1～4の4個を確認した。いずれも深さは20cm前後と浅い。柱穴として機能していたかは不明である。

<遺物> 周辺から出土した該当する土器を合わせると、約3.8kg出土している。掲載したのは1点のみである。

<時期・考察> 出土遺物から、縄文後期前葉に帰属か。B区自体から後期の遺物出土は少なく、重複関係からも遡っても大木10式期が上限と思われる。いずれにせよ、B区の中では最も新しいと判断される。

(小林・藤本)

**S I 15 竪穴住居跡**(第16図、写真図版17・18/遺物：第58・138図、写真図版63・64・124)

<位置・検出状況> A区東側、標高2.5～3m地点に位置する。当初は2～6号配石と同様、礫を弧状に配列する配石範囲と認識していた。2～6号配石よりも高位にあり、礫上部を露出させると弧状のラインと言うよりも半円状となった。配石範囲の平面調査後、下部構造の有無を確認するため掘り下げた。その結果、すでに表土掘削によって露出した石囲炉との関係性が明らかとなり、配石の下方に石囲炉を伴う住居跡が存在すると判明した。

<平面形・規模> 当初配石(後に7号配石とした)は住居壁の保守施設と考えたが、S I 15床面から壁に沿って積まれたのではなく堆積土最上部に設置され、建物廃絶直後ではなく埋没途上の設置である。床面の石囲炉と配石には最大60cmの比高差がある。砂質土を除去すると貼床面(黄褐色土系)がモザイク状に分布するが、広範囲ではない。壁際に壁溝が廻る。残存床面積18.3㎡、長軸650cm、短軸残存値312cm、検出面からの深さ26cmである。配石は、2～5号配石に比べて規模が大きく、ほぼ住居ラインに沿って弧状に設置される。

<埋土> 堆積土は黒褐色土を主体とし、炭化物を包含する。縄文前期包含層を掘削して構築されているため一部前期の土器も混入するが、床面上から後期初頭の十腰内I式土器が出土している。堆積土は8層に分離した。1層は最上部の配石礫設置直、2層は埋没末期に住居全体を覆った層、3・6・8層は埋没初期に形成される三角堆積層、4・5層は斜面上方からの流入層で、7層は壁溝の堆積層である。4層が人為的堆積層であれば、建物埋め戻し作業によって形成された整地層とみなし、配石を住居廃絶祭祀の痕跡と捉えられるが、人為的堆積層か判断できなかった。

<石囲炉>小型の石囲炉で、平面形は円形、掘り方は炉石の設置範囲のみ浅く掘り込まれている。炉石はすべて小型の礎を立てている。規模は50×46cmである。

<遺物>住居床面から十腰内Ⅰ式土器と石器、堆積土から前期～中期の土器が出土している。

<時期>床面出土遺物の年代から縄文時代後期前葉である。SⅠ15廃絶時に7号配石の設置が行われた可能性を想定して調査を進めたが、明確な根拠を見出せなかった。しかし、SⅠ15と7号配石は同じ縄文時代後期前葉の遺構で、配石列ラインは厳密には一致しないが、建物ラインに沿うように配石設置を行ったと評価できるので、7号配石が住居廃絶祭祀の痕跡である可能性も排除できない。

(米田)

#### SⅠ16・18竪穴住居跡、SⅠF01～03埋設土器

(第17図、写真図版18・19/遺物：第58・59・138図、写真図版64・65・124・125)

<位置・検出状況>A区東側の中央部に位置する。この周辺は前期包含層にかかる部分のため、グリッドごとの掘り下げを行っていたところ、SⅠF01を検出した。当初は、単独の土器埋設遺構と捉え、この精査を終えたが、ほぼ同一面でSⅠF02と石囲炉を検出した。近接することから、土器埋設炉の可能性も考えたが、埋設土器に焼成痕跡はないことから、石囲炉の付属施設と判断した。炉の確認面と先に精査を終えたSⅠF01はほぼ同じレベルにあることから、これを竪穴住居の床面と考えSⅠ16とし、周辺を調査したが、前期包含層中に構築されているためか、全容を認識するのは困難を極めた。周辺からビットが数個確認できたが、住居の構成を把握するには至らなかった。その後、徐々に掘り下げをしたところ、SⅠ16石囲炉の下部より別の石の石組が見つかった。精査したところ、石囲炉式炉であったが、同様に隣接するSⅠF03を確認した。そのため、こちらも炉の検出面を床面とする住居と判断し、SⅠ18としたが、全容を把握することはできなかった。

<重複遺構>検出状況からSⅠ16がSⅠ18より新しい。

<平面形・規模>上述の通り不明。

<埋土>不明。

<壁・床面>壁はいずれも把握できなかったが、SⅠ16内には焼土ブロックや炭化物が床面に多く混在していた。このことから焼失住居であった可能性が示唆できる。

<炉>SⅠ16炉は約60×50cmの楕円形を呈する石囲炉である。底面は強く赤変した焼土が広がる。ここから北西に約30cm離れて、SⅠF02が存在する。両者はほぼ同じレベルに存在することから、炉に付属する埋設土器と判断される。SⅠ18炉は全長200cmの石囲炉式炉で、約40×70cmの方形小室と約150×120cmの長方形大室の2室から成る。小室は住居床面から深さ10cmほどだが、大室は深さ約30cmを測る。どちらの底面も被熱痕跡が確認できる。大室の南西隅の外側には、土器の胴～底部が正立した状態で見つかった。これを埋設土器(SⅠF03)としたが、遺存状態はあまり良くない。SⅠ16炉同様、付属施設の可能性が考えられる。

<柱穴>P1～9の9個を検出した。どちらの住居に伴うかも不明。

<遺物>先に触れたように、前期包含層中ということもあり、両遺構と明確に判別できる遺物は少ない。前期包含層を掘削して構築されていることから、前期前葉の遺物も多い。また、SⅠ16・18どちらか判別できる遺物も少ないため、一括した。土器は約5.4kg、石器は4点が出土した。

<時期・考察>SⅠ16はこれに伴うSⅠF02から大木9式期に帰属するものと思われる。SⅠ18は重複関係にあるものの、SⅠ16と大きな時期差はなく、炉の形態からも同様の時期であると推測される。なお、両者のレベル差は10cmにも満たなく、炉の位置がほぼ同じことから、同一時期による炉の

作り替えに伴う新旧である可能性も視野に入れたい。

(小林・藤本)

**S I 19 竪穴住居跡**(第18図、写真図版20/遺物:第59図、写真図版65)

<位置・検出状況>A区北側に位置し、検出面はⅤ層面である。暗褐色土が不整形に広がるため、ベルトを設定し掘り下げたところ、炉が確認されたことから住居と認知した。重複と先に掘ったトレンチ、斜面地による流出により、明確に残存する範囲は小さい。

<重複遺構>S I 09に切られる。S I 08とも状況的には重複するものと考えられるが、直接的な切り合いは見られないため新旧は不明である。

<平面形・規模>詳細は不明だが、楕円形が推測される。

<埋土>5層に細分した。埋土中に風化礫と地山ブロックが顕著に観察できることから、斜面上方からの流入による自然堆積と判断した。

<壁・床面>残存する斜面上方の北壁は床面から緩やかに立ち上がり、深さは約20cmである。床面はあまり平らではなく、南側に向かってやや傾斜している。

<炉>地床炉を検出した。被熱により若干の赤色化が見受けられる。西側はP 2によって切られる。

<ピット>P 1・2を確認した。配置等は不明である。

<遺物>土器は約4.3kg出土した。縄文前期前葉・中期中葉のものが含まれる。

<時期>出土遺物から、縄文前期前葉と推測される。

(野中)

**S I 20 竪穴住居跡**(第19図、写真図版21/遺物:第59・60・139・171図、写真図版65・125・146)

<位置・検出状況>A区北側、標高4～5m地点に位置する。前期包含層(Ⅴ層)上面で検出した。本遺構は検出時に調査区際際にその南東端部が確認できた。S I 08と同様のロングハウスの存在が想定された。そのため協議を経て、遺構の長軸方向へと掘削範囲を拡張し、全体像の把握を行った。斜面上方からの土砂流入によって北壁の一部と柱穴を残して他は消失している。

<重複遺構>S I 22・23と重複する。当初は、同一の遺構として認識し、掘り下げを進めたため新旧関係は不明である。

<平面形・規模>隅丸長方形ないし、長楕円形のロングハウスである。規模は長軸14.98m、短軸5.56m、深さ24cmである。

<埋土>5層に細分している。斜面上方からの土砂の流入による自然堆積であると考えられる。堆積土はにぶい黄褐色土を主体とするが、これは土砂によって押し流された壁や床の崩落土が混入したと考えられる。

<床面・壁>床面は柱穴および壁溝を検出した面を床面とした。残存する北壁はやや急角度で立ち上がる。

<炉>本遺構から炉は検出していない。

<構成要素>121個の柱穴及び1条の壁溝を確認している。壁溝は1条のみで大規模な建物改修の痕跡はない。

<柱配置>等高線に沿うように列状配置の柱穴を複数識別できるが、柱穴121個の中のうち、縄文中期～後期土器が出土するもの(P 77)を除き、壁溝に沿う柱穴配置が考えられる。通常、ロングハウスは存続期間が長く、複数回の建て替え案を提示可能なことが多いが、今回の発掘調査の時間的制約か

ら、各柱穴の埋土を十分に検討できなかったため、根拠不足の配置案は別愛する。本遺構は平面形が長楕円形、中央部が幅広で、両端が隅丸若しくは凸部を持つと想定される。そのため建物中央部の梁行をやや広く取り、両端に向かって梁行を若干狭くする配置と捉えた。また、壁溝内柱穴・壁柱穴が廻ると想定した。なお、他の柱穴については、壁溝の残存の可能性のあるP68・69・70・72とその延長上に位置するP84・90・91・92が円形配置となる可能性がある。同じく壁溝の残存の可能性のあるP47・48・49・55・60・62・64・65も円形配置の可能性が有る。これらが建物だとすれば、形態からSI20よりも構築時期が新しいと考えられるが、可能性の示唆に留めておく。

<出土遺物>土器は約16.5kg、石器は6点出土している。主体は縄文前期前葉だが、後期前～中葉土器が混在する。

<時期>出土遺物と形態より縄文前期前葉と判断される。

(野中・米田)

#### S I 22・23壁穴住居跡(第20図、写真図版22/遺物：第60・139図、写真図版65・125)

<位置・検出状況>A区北側に位置し、前期包含層(VI層)面での検出となった。本遺構は2棟以上の重複があるものと想定して精査を進めた。斜面上方からの土砂の流入によって北壁を残して他は消失している。

<重複遺構>S I 20と重複する。当初は、同一の遺構として認識し、掘り下げを進めたため新旧関係は不明である。

<平面形・規模>隅丸長方形ないし、長楕円形のロングハウスであると推定される。規模は長軸約15m、短軸4.7m、深さ17cmである。

<埋土>10層に細分している。堆積土中に風化礫と地山ブロックが顕著に観察できることから斜面上方からの土砂の流入による自然堆積であると考えられる。一部、土砂によって押し流された壁や床の崩落土が混入する。

<床面・壁>床面は炬を検出した面を床面とした。残存する北壁はやや急角度で立ち上がる。

<炬>地床炬を7か所で確認している。ピットと重複するものも多く、時期的な配置も不明である。

<付属施設>277個の柱穴及び壁際にめぐる3条の壁溝を確認している。(途切れてはいるが、同一段階と思われる壁溝は1条として捉えている。)短軸方向へと延びる溝については間仕切りの溝として捉えている。

<出土遺物>土器が4.6kg、石器が4点出土した。縄文前期前葉の土器が主体である。

<時期・考察>出土遺物と住居の形態より縄文前期前葉であると判断した。多数の柱穴と複数めぐる壁溝から幾度かの建て替えが行われたものと考えられる。柱穴・地床炬・壁溝の配置を検討した結果、3回の建て替えが行われたものと推測している。2回目の建て替えまでは長軸10m×短軸5m程の規模であるが、最終段階には長軸15m近くに達する大型住居であったことが想定される。その際に、長軸方向は大きく変更することなく、斜面上方へ向かって建て替えを図ったものと考えられる。住居を構成する柱穴は長軸方向と平行な3列の並びを基本としている。主柱穴と思いきものも散見されるが、直径20cm程、深さ30cm程の柱穴が多数を占めるため同様の規模の柱を狭い間隔で配した比較的簡素な造りの建物であったことが考えられる。各段階の中央列付近には地床炬が配されるものと思われ、この形態は県内のロングハウスの類例にも多くみられる。また、南側にも多数の柱穴が見られることから、同様のロングハウスが存在するものと思われる。

(野中・米田)

**S I 27 竪穴住居跡** (第21図、写真図版23・24/遺物：第60・61・139・140図、写真図版66・125・126)

＜位置・検出状況＞A区東側、標高3.20m地点に位置する。試掘トレンチと攪乱痕によって北西部の一部を消失する。石囲炉を検出したため、壁ラインの検討を行い、北部～東部にかけてそのラインを確認した。

＜重複遺構＞状況的にS I 53と重複するものと思われるが、調査時には直接的な切り合いを確認していないため、新旧は不明である。また、上部にS N 16がある。

＜規模・形状＞残存平面形は半円形で、建物残存規模は7.40×4.02m、深さ(残存壁高)18cm、残存床面積約23㎡である。石囲炉検出後に仮定した平面プランは小さくかつ不鮮明で、主柱穴4個が床面外に位置するなど根拠不足であった。再検討した結果、ほぼ中央に石囲炉をもち主柱穴4個で囲まれたプランと認識した。

＜埋土＞前期包含層を掘り込むラインが壁の立ち上がりとして認識できる。壁立ち上がりラインが不鮮明だったので、断面ベルトの再観察を行い、前期包含層の途切れるラインを壁ラインと捉え直したところ、平面プランが若干拡大し、その範囲内に柱穴4個も取まった。なお、床面までの堆積層は図示していない。

＜石囲炉＞床面はほぼ中央の4個の柱穴に囲まれた範囲に位置する。掘り方は設置範囲全体を土坑状に掘り込む。炉は扁平礫を立てて方形に組まれている。

＜ピット＞4個を確認した。主柱穴か。

＜遺物＞土器が225kg、石器が10点出土した。前期包含層も多分に含まれているため、大半は縄文前期前葉に比定されるが、石囲炉脇から出土したものは大木9～10式期に比定されるものである。

＜時期＞石囲炉の形態と出土遺物から、縄文中期後葉である。

(米田)

**S I 28 竪穴住居跡** (第21図、写真図版24/遺物：第61・140図、写真図版66・126)

＜位置・検出状況＞A区中央部北側に位置する。後期包含層精査中に焼土を確認したことから、壁等は把握できなかったが、貼床を伴うことから竪穴住居と認定した。

＜重複遺構＞なし。

＜平面形・規模＞全容は不明だが、貼床範囲から380×350cm以上が推定される。

＜埋土＞上述の通り不明。

＜壁・床面＞壁は確認していない。床面は黄褐色土の粘質の強い貼床が広がる。

＜炉＞80×70cmに明赤褐色焼土が広がる地床炉である。

＜遺物＞土器が3.4kg、石器が5点出土した。縄文後期前葉の遺物が多い。

＜時期＞後期包含層中にあることや出土遺物から、縄文後期前葉か。

(小林)

**S I 31 A 竪穴住居跡** (第22図、写真図版25/遺物：第61・140・141図、写真図版66・67・126)

＜位置・検出状況＞B区南東部に位置し、検出面はⅦ層である。検出時から周辺から遺物が多く出土する状況であった。明瞭ではないが、周辺よりやや暗色のプランが確認できたためベルトを設定し、精査を行った。約70cm掘り下げたところで、床面と認識できる面に当たった(S I 31B)が、これより30cmほど上層の断面ベルト内に人頭大の礫が数個確認されていたが、崖錐礫も埋土中に多かったことから、疑念はあったものの、石囲炉との明確な判断には及ばなかった。その後断面ベルトを取り

外したところ、焼土とこれを囲う礫が表出し、石囲炉であることが判明した。このような経緯から、本遺構の残存部分はほとんど失ってしまっており、平面形は断面や未掘部分からの推定である。

＜重複遺構＞S I 31Bを切る。

＜平面形・規模＞上述したとおり、推定であるが、約490×420cmの楕円形と思われる。

＜埋土＞2層に細分した。どちらも崖錐礫を多く混入し、上層が黒褐色土、下層が暗褐色土である。自然堆積か。

＜壁・床面＞壁は緩やかに立ち上がり、深さは最深部で約30cmを測る。床面は崖錐礫による微細な凹凸はあるが、概ね平坦である。

＜炉＞中央からやや東寄りに石囲炉が確認された。石組は南側を欠くが、おそらく全周していたものと思われ、1m前後の円状または方形が推測される。内部には暗赤褐色の焼土が北側に広がり、被熱深度は約6～8cmである。なお、炉石の設置痕があるはずであるが、平・断面からも明確に認知することができなかった。

＜柱穴＞P 1～3の3個が該当するものと考えた。いずれも深さは10cm台と浅い。

＜遺物＞当初に重複がわからなかったことに起因し、本遺構に伴うと明確に判断できる遺物は少ない。本遺構がS I 31B上部に重複しこれを切ることから、当初取り上げた遺物の多くは本遺構に帰属するものと思定した。土器は25.0kg、石器は4点が出土した。

＜時期＞出土土器から大木9～10式期に推測される。

(小林)

#### S I 31B・C 竅穴住居跡(第22・23図、写真図版25・26/遺物：第62・63・141・172図、写真図版67・68・126・147)

＜位置・検出状況＞B区南東部に位置し、検出面はⅥ層である。S I 31Aに上述したとおり、S I 31Aの認識が遅れたため、S I 31Bの精査が先行したような形となっている。S I 31B自体は比較的床面・壁は認識しやすく、精査は順調に進んだが、掘り上げたところ、南側の形状が不整となった。その後の精査で壁溝がきれいに全周したことから、この不整形となった部分は重複する別の住居跡(S I 31C)と判断した。

＜重複遺構＞S I 31B・CともS I 31Aより古い。また上述したように、S I 31BはCを切る。

＜平面形・規模＞S I 31Bは径約450cmの円形を呈する。S I 31Cは残存部から約370cmの楕円→方形が推測される。

＜埋土＞S I 31Bは7層に細分した。いずれも崖錐礫を混入する暗褐～黒褐色土である。下位層には焼土粒や炭化物を比較的多く含む。S I 31Cはやや明色な褐色土部分のみ遺存する。

＜壁・床面＞S I 31Bの壁はほぼ直角に立ち上がり、深さは最深部で約70cmを測る。S I 31Cも残存部分の壁は直角に近い角度で立ち上がり、深さは約45cmを測る。床面はどちらも概ね平坦で締まりが認められる。S I 31Bでは壁溝が確認されており、幅20cmほどで全周する。中央付近では暗赤褐色の焼土範囲が確認されたが、焼成深度は浅く、図示できないほどであった。また、北側の壁際には炭化物が集中して確認された。

＜炉＞S I 31Bの炉は西側壁寄りに付設されており、石囲部とこれに続く前庭部を持つ複式炉である。石囲部は約70×90cmと約120×110cmの二つの炉室に分かれる。間仕切りの石周辺で焼土が確認できたが、薄い焼成深度である。これの西側には周辺の床面より一段低くなっており、前庭部と考えられる。東側の石囲部の外縁には馬蹄形に暗褐色土が広がっており、炉石設置の掘り方と考えられる。S I 31Cについては炉は検出されていない。

＜柱穴＞P1～12の12個を検出した。このうちP1～11は配置状況からS131Bに伴うものと考えられる。P12のみ、S131Bから外れるため、S131Cに伴う可能性があると思われる。

＜遺物＞上述で触れたように、S131BとCの区別なく掘り上げたため、S131Cに明確に該当する遺物はほとんどない状況となっている。重複関係からもS131Cの残存率は小さく、ここで示すのは概ねS131Bに該当するものとして記載する。土器は9.1kg出土し、8点を掲載した。石器は7点出土した。概ね中期中葉～後葉に帰属するものが多い。

＜時期・考察＞S131Bは床面出土土器から大木9時期の可能性が高い。重複関係から、S131Cはこれより古い時期が推定される。S131Bは、床面に残存する炭化物や焼成の薄い焼土が見られ、埋土下層に焼土粒や炭化物を多く混入することから、焼失住居の可能性はある。

(小林)

### S133壁穴住居跡(第24・25図、写真図版26～28/遺物:第63・64・141・172図、写真図版68・69・126・127・147・148)

＜位置・検出状況＞B区南側中央部に位置し、検出面はⅡ層である。周辺から遺物の出土は多いが、明瞭なプランは確認できなかった。また、巨大な自然石もあったことから、この周辺に何らかの遺構があるとの想定で、断面ベルトを設定し精査を開始した。結果、複数棟の壁穴住居が重複する状況であることが判った。

＜重複遺構＞S134・40と重複する。S140を切るが、S134については本来直接的な切り合いがあるはずであるが、掘削してしまったため不明である。

＜平面形・規模＞長軸が等高線に平行する楕円～隅丸長方形を呈する。規模は約620×550cmを測る。

＜埋土＞18層に細分した。上位層は層位状況からも斜面上方からの自然流入土と考えられるが、下位層は炭化物や焼土ブロックを多量に含んでおり、人為堆積土と考えられる。

＜壁・床面＞壁はほぼ直角に立ち上がり、上部はやや外反する。深さは最深部で約70cmを測る。床面は平坦で非常に堅く締まる。北西側と東側が一部途切れるが、壁沿いには壁溝が巡る。また、西側ものは顕著だが、図示できないほどの焼成の弱い焼土があちらこちらで確認された。同時に石囲炉付近の南側では炭化材も多量に検出された。これらのことから本遺構は焼失住居と判断される。

＜炉＞中央部から南側にかけて付設されている。石囲部と前庭部を持つ複式炉で、全長約250×100cmの長方形を呈する。石囲部は3つの炉室に分かれ、北から仮に炉室A・B・Cとすると、炉室Aは一辺約50cmの正方形、Bは約45×75cmの長方形、Cは約65×90cmの長方形を呈する。これらは間仕切り部の石を共用して連結し、全体的にはAからCへと幅が広がる。いずれの炉室内には明赤褐色の焼土が5cm程形成されている。前庭部は径約100cmの重なり円形状に広がり、南側の壁際に接する。中央には径約20cm、深さ約10cmの円形ピットが確認された。いわゆる特殊ピットに該当するものか。また、石囲部(炉室A)の北側には暗赤褐色焼土が楕円状に広がる。当初は焼失時の被熱かとも思われたが、ほかの焼土とは異なり焼成が良好なことや複式炉近くにある位置の状況から、地床炉であると判断した。よって、本遺構には石囲複式炉と地床炉が存在する。

＜柱穴＞柱穴と想定されるP1～21の21個を確認した。大きさ、深さも様々であるが、配置状況や規模からP1・2・5・6・9・11・17が主柱穴を構成するものと考えられる。これらは開口部径も他より大きく、深さも約50～65cmと深い。同じく配置から見て、P8・12・16・21の4個は副次的な柱穴と推測される。

＜埋設土器＞北側中央の壁際から1基確認された。埋設されているのは深鉢(RP1)で、口縁部が床面より高い位置に突出している。土器は外面全体が被熱により赤変・摩滅しているが、周辺には焼土は

確認されないことから、土器埋設炉の類ではない。内部下層には炭化物層が見られるが、焼失時に形成されたものである可能性が考えられる。以上の点から、住居使用時には土器内部が開いている状態であったものと推測される。

<遺物>土器が38.6kg、石器が10点出土した。このうち土器9点と石器9点を掲載した。床面付設の埋設土器はほぼ完形個体で、大木10式に比定される。このほか埋土中出土の土器が多いが、概ね同時期に帰属する。なおは大半がS I 44出土のため、そちらに記載したが、本遺構埋土中出土の破片と接合している。

<分析・鑑定>埋設土器(RP1)内残留の炭化物を年代測定したところ、 $4,010 \pm 30$ (C 14年代)という結果が得られた。およそ土器編年とも符合する。また、P 1埋土より出土した骨片を鑑定したところ、種類不明ではあるが、哺乳綱の上腕骨遠位端部であることが判った。被熱した特徴を示していることから、食料資源としたものと推察される。

<時期・考察>出土遺物から、大木10式期に帰属の可能性が高い。また、下層から床面に残存する炭化物や焼土が確認されたことから、本遺構は焼失住居と判断される。本遺構東側にはS I 35が隣接するが、規模や形状、埋没状況など共通する点が多い。出土遺物から想定される帰属時期についても同様なことから、両者が併存していた可能性も窺える。

(小林)

#### S I 34竪穴住居跡(第26図、写真図版28/遺物：第65図、写真図版70)

<位置・検出状況>B区南側中央部に位置し、検出面はⅢ層である。S I 33にも記述したとおり、当初は明瞭なプランは確認できなかったが、周辺からの遺物の出土が多いこと、巨大な自然石があることから、この周辺に何らかの遺構があるとの想定で断面ベルトを設定し、精査を開始したものである。若干掘り下げたところでS I 33の存在が明らかになり、およそその平面形も認識したが、西側部分に掘削していた際に別の住居(S I 40)の重複が判明した。新旧関係も把握できたことから、S I 33を優先し、S I 40については重複に影響のない部分の精査を進めることとした。この時点で、本遺構の存在は未だ認知していなかったが、断面ベルトの交差する部分で焼土の広がりを検出したこと、これにより断面状況を吟味した結果、上部に別の遺構(S I 34)の存在を認識するに至った。しかし、状況把握に時間が掛かったため掘削が進んでしまっており、本遺構の大半は推測に拠らざるを得ない。

<重複遺構>S I 33・40と重複する。S I 40より新しいが、上記のような状況もあり、S I 33については直接的な切り合いが本来あるはずだが、掘削したことにより不明である。また、埋土中においてS N 31を検出した。埋没過程に形成されていることから、本遺構の方が古いと判断される。

<平面形・規模>断面から推測するに、径約400~500cmの円形または楕円形状を成すものと思われる。  
<埋土>確認できた部分では3層に細分できる。大きくは上位層の黒褐色土と下位層の暗褐色土に分かれる。いずれも崖産礫を多く含む土層で、斜面上方からの自然流入と考えられる。

<壁・床面>断面から判断できる壁は、およそ直角に近い角度で立ち上がり、深さは最深部で55cmを測る。床面はやや凹凸がある。中央部には粘質の強い褐色土で貼床が施されている。

<炉>焼土範囲が2か所確認されたが、これを地床炉と判断した。東側にあるものを地床炉A、南側にあるものを地床炉Bとした。いずれも住居全体から見て、中央付近に存在するものと思われ、にぶい赤褐色を帯びる。地床炉Aは一部掘削してしまっただけにより欠けるが、約40×30cmの楕円形状を呈し、被熱深度は10cm超に及ぶ。地床炉Bは約35×20cmの不整形に広がり、被熱深度は浅く、図示できないほどである。さて、これらについての新旧関係は直接的な重複もないため不明だが、地



床炉Aの下部には柱穴としたP1が存在している。よって、地床炉AはP1の埋没後に形成されたと判断でき、このことから本遺構は2時期にわたる可能性が示唆される。

＜柱穴＞P1～3の3個を確認した。掘削により一部損失部分もあるが、いずれも径50cm前後の円形を基調としたもので、深さはP1・2が50cm弱、P3が60cm弱を測る。配置的にもこれらが同時存在していたとは考え難く、また上述した炉との関係からも2時期に分離する可能性が考えられる。

＜遺物＞認識した段階が遅かったことに起因し、S I 40に含めたものもあるかもしれない。土器が5.9kg出土し、石器類の出土はない。このうち4点を掲載した。床面からの出土はないが、下位層や埋土中出土のものが多く、文様が特定できるものについては、大木9～10式期に比定されるものが多い印象である。

＜時期・考察＞出土遺物から、大木10式期に帰属の可能性が高い。地床炉・柱穴の関係から、本遺構は2時期に及ぶ可能性が示唆される。地床炉A・Bの新旧関係は不明で、両者とも最終期のものである可能性もあるが、地床炉AとP1には明らかな新旧があり（地床炉A＞P1）、両者の共存はない。P3は断面状況からも貼床を切る形で掘削されており、本遺構最終期のもと考えられる。これらのことから、旧段階に伴うものはP1、新段階に伴うものは地床炉AとP3となる。P2については、精査時の状況が曖昧なこともあり不明だが、印象的にはP3と同時期の可能性が考えられる。

(小林)

### S I 35・36・47 壁穴住居跡(第30図)

＜位置・検出状況＞B区南東部に位置し、検出面はⅧ層面である。当初、遺物が多く出土することや暗褐色土層が大きく広がることから、ベルトを設定し掘り下げていった。詳細は個々の遺構の記載に後述するが、床面と思われる面に到達し掘り広げたとこ、全体的に不整形となり、複数の壁穴住居が重複していることが明らかとなった。断面ベルトを観察しながら、重複関係や壁の立ち上がり等を把握しようとしたが、時間的制約や調査員の認識不足も重なり、全容を把握することができなかったと言わざるを得ない。床面施設や炉の位置関係、壁の状況などから、S I 35・36・47の3棟を認識している。床面のレベルはS I 35が若干低く、他2棟はほぼ同じである。

＜重複遺構＞これら3棟の新旧関係については、S I 35が最も新しく、S I 47、S I 36の順に古いと判断される。その他、これら個々の重複遺構については、後述する。

### S I 35 壁穴住居跡(第27・28図、写真図版30～32/遺物：第65～69・141・142・172図、写真図版70～73・127・147)

＜重複遺構＞直接的な切り合いが見られるのは、S I 36・45・47、S K 25・26で、S I 35はこれらすべてを切る。

＜平面形・規模＞長辺約680×短辺約550cmの隅丸長方形を呈し、長辺は等高線に平行する。

＜埋土＞10層に細分したほか、炭化物層と焼土層が見られる。上位から中位(1～4層)にかけては、堆積状況から斜面上方からの自然流入土であると考えられる。下位層については、炭化物層や焼土層が見られることから、火災に起因する堆積層と判断される。

＜壁・床面＞壁は鋭い角度で立ち上がり、深さは最深部で約100cmを測る。床面は平坦で堅く締まり、炭化物や焼土が散在する状況である。壁沿いには壁溝が南西隅以外に巡る。

＜炉＞中央から南側壁にかけて、石囲複式炉が確認された。石囲の炉室4室から成り、全長は約280cmを測る。北側から順に炉室A～Dとするが、炉室Aは径約50cmの円形、炉室Bは約25×50cmの長方形、一辺80～90cmの方形を呈する。炉室Dのみ、石列が西側のみしか残存せず、約120×90cmの楕円形を呈する。深さは、炉室Aから順に約10cm、Bは約20cm、Cは約30cm、Dは約30cm

である。いずれの底面にも被熱痕跡が確認できるが、炉室Dのみ焼成は弱い。また炉室Dの東側にも焼成範囲が見られるが、色調も異なることから火災時の被熱によるものかもしれない。底面の被熱痕跡も同様の可能性があり、壁近くからいわゆる特殊ピットが確認されることから、炉室Dは炉としての機能ではなく、前庭部の可能性が高い。炉室C・Dには最下層に炭化物層あることから、火災により埋没したと考えられる。

＜柱穴＞柱穴と想定されるP1～22(P6・9・13・14・16は欠番)の17個を確認した。大きさ、深さも様々であるが、配置状況や規模からP1・2・3・4・11・12・20・21は主柱穴と考えられる。また、石囲炉周辺にあるP7・10・15・18も補助的に本遺構を構成する柱穴であろう。

＜遺物＞土器は54.0kg出土し、22点を掲載した。石器は11点出土した。精査過程が他遺構と同時に掘削したため、周辺遺構の遺物が混在している可能性が否定できないが、縄文後期前葉と中期後葉の土器が多く目立つ。

＜分析・鑑定＞炉内最下層の炭化物を年代測定したところ、4,060±30(C14年代)という結果が得られた。また、炉内焼土上面から出土した骨片を同定したが、被熱痕跡の見られる哺乳綱との結果であった。食料資源の可能性が考えられる。

＜時期・考察＞出土遺物や炉の形態から、大木10式期に帰属と判断した。C14年代測定の結果ともほぼ符合する。床面付近に多くの炭化物や焼土が残存していたことから、本遺構は焼失住居と判断される。西側に隣接するS I 33も同様の状況を示しており、また規模・形状など共通する部分が多いことから、両者が併存していた可能性が窺える。なお、出土遺物に縄文後期の土器が多いが、この調査B区においてはこの周辺でのみ確認されている。精査の過程に不備な点が残るため、想定にしかたないが、上部に何らかの後期の遺構が存在していた可能性は否定できず、示唆しておきたい。

**S I 36竪穴住居跡**(第29図、写真図版32/遺物：第69・142・143・171・172図、写真図版73・127・146・147)

＜重複遺構＞直接的な切り合いが見られるのは、S I 14・35・47、S K 26である。本遺構よりS I 14・35・47は新しく、S K 26は古い。

＜平面形・規模＞重複により残存部分は少ない。600cm前後の円形や楕円形が推測されるが、S I 35と同様の形状も考えられる。詳細は不明。

＜埋土＞7層に細分した。暗褐色土や黒褐色土を主体とし、層位状況から斜面上方からの自然流入土と考えられる。

＜壁・床面＞壁は床面から直角に立ち上がるが、山側では崩落によるものか外傾する。深さは最深度で約100cmを測る。床面は平坦で、壁沿いに壁溝が巡る。

鋭い角度で立ち上がり、深さは最深度で約100cmを測る。床面は平坦で堅く締まり、炭化物や焼土が散在する状況である。壁沿いには壁溝が南西隅以外に巡る。

＜炉＞確認されなかった。S I 35の重複により消失したものと考えられる。

＜ピット＞S I 47と同時に調査を行ったため並記した。消去法的であるが、S I 47の範囲外にあるものや配置が本遺構の構成を窺えるものを抽出した結果、P 4・5・7～10の6個の柱穴とK 3とした土坑1基が該当するものと考えられる。配置・規模からP 8・10は主柱穴の可能性が高い。K 3は約100×60cmの楕円形を呈する。用途は不明である。

＜遺物＞土器が9.2kg、石器が5点出土したが、重複関係や残存範囲を考えると、S I 47のものも含まれている可能性があるかもしれない。大半は縄文中期後葉に属するものである。

＜時期＞出土遺物や重複関係から縄文中期後葉が推測される。

**S I 47竪穴住居跡**(第29・30図、写真図版33/遺物：第4図、写真図版)

- <重複遺構> S I 14・35・36と重複する。新旧関係は、S I 36を切り、S I 14・35に切られる。  
 <平面形・規模>東側はS I 35に切られるため遺存しないが、一辺約600cmの方形が推測される。  
 <埋土>断面ベルトが掛かるのは西側の一部のみで、ここでは3層に分層される。  
 <壁・床面>壁は床面からやや外傾して立ち上がり、深さは約45cmを測る。床面はほぼ平坦で、S I 35に切られる東側を除いて、壁溝が確認できる。  
 <炉>中央から南側壁にかけて、石囲複式炉が確認された。重複により遺存状態は悪く、確認できる部分で、石囲の炉室2室と前庭部が見られる。全長200cm程か。北側の炉室は石列がほとんど残存していないが、60cm前後の方形を呈すると推測され、底面には焼土が広がる。南側の炉室は南側の前庭部との間仕切り石列が消失するが、約60×80cmの長方形を呈し、同様に底面には赤褐色焼土が形成されている。この南側に前庭部が取り付け、やや南側が開く形状をする。  
 <ピット>本遺構の柱穴と想定されるのはP 1～3・6の4個である。配置等はあまり窺い知れない。その他、K 1・2の土坑2基を検出した。どちらも定形的に整然とした形態はしていない。機能面も不明である。  
 <遺物>土器は約3.2kg、石器は1点出土した。時期の特定できる遺物は少ない。  
 <時期>炉の形態や重複関係から縄文中期後葉と判断した。

(小林・藤本)

**S I 38竪穴住居跡** (第31図、写真図版34・35/遺物：第70・143・172図、写真図版74・128・147)

- <位置・検出状況> B区中央部からやや東寄りに位置し、検出面はⅦ層である。明瞭なプランはなく、周辺に礫や土器が混入する土が広がることから、断面ベルトを設定し掘り下げた結果、確認された。  
 <重複遺構> S I 41・42と重複し、これらを切る。  
 <平面形・規模>約400×380cmの隅丸方形に近い形状を呈する。  
 <埋土>13層に細分した。上位は暗褐～褐色土を主体とし、下位は暗褐色土や黒褐色土が大半を占める。いずれの層にも崖線礫を多量含む。上位はレンズ状に堆積しており、自然流入土と判断できる。  
 <壁・床面>壁はやや外傾して立ち上がり、深さは最深部で約50cmを測る。床面は地山の礫が露出する部分もあり、やや凹凸が見られるが、概ね平坦である。礫の露出を覆うためか、主に南側に黄褐色粘質土で貼床が施されている。壁沿いには幅約10～30cmの壁溝が全周する。  
 <炉>斜面下方に当たる南側と中央部にそれぞれ石囲炉が確認された。南側の石囲炉は複式炉で、約80×55cmの長方形形状に石が組まれている。中心からやや北寄りに間仕切りがあり、炉室は2室に分かれる。北側の炉室の方が小さい。また、南側の炉室の南辺にも間仕切り石が一部見られる。この南方は床面より一段低くなっており、前庭部と考えられる。前庭部は住居南壁に向かって八の字に開いて接する。壁際の中央には径約20cm、深さ約20cmのピットが確認された。この複式炉の北側には、角礫が2個据え置かれた状態で確認した。旧石囲炉の一部が残存したものと考えられる。位置的にも、単式の石囲炉であった可能性が高い。  
 <柱穴>P 1～8の8個を記載したが、P 3・4については、調査担当者は切り合う2個の柱穴と考えていたようだが、壁溝に接し、なおかつ壁溝とはほぼ同じ深さで、一見すると壁溝が影らんだ部分のようにしか見えないため、除外した方がいいかもしれない。この他については、配置的にも本住居を構成する柱穴であると思われる。  
 <遺物>土器は4.1kg出土し、このうち2点を掲載、石器は1点、土製品は1点出土した。土器は中期中葉～後葉に帰属するものが多い。

<時期・考察>出土遺物や炉の形態から、縄文中期中葉～後葉と推察される。新旧2つの石囲炉が確認されたことから、炉の造り替えが行われたものと考えられる。

(藤本・小林)

#### S I 40竪穴住居跡(第32・33図、写真図版35・36/遺物:第70・71・143・144・172図、写真図版74・75・128・147)

<位置・検出状況>B区南側中央部に位置する。S I 33・34にも記述したとおり、当初は明瞭なプランは確認できなかったが、周辺からの遺物の出土が多いこと、巨大な自然石があることから、この周辺に何らかの遺構があるとの想定で断面ベルトを設定し、精査を開始したものである。若干掘り下げたところでS I 33の存在が明らかになり、およその平面形も認識したが、西側部分を掘削していた際に本遺構の重複が判明した。新旧関係も把握できたことから、S I 33を優先し、本遺構については重複に影響のない部分の精査を進めたが、断面状況等から本遺構の上部に別の住居(S I 34)が重複していることを確認した。検出面はⅤ層に相当する。

<重複遺構>S I 33・34と重複し、これらに切られる。

<平面形・規模>約580×510cmの楕円形を呈する。

<埋土>6層に細分した。崖雑礫を多く含む暗褐色土が主体で、一部下位に褐色土、斜面上方の壁際に黄褐色土が堆積する自然流入土と思われる。

<壁・床面>壁はほぼ直角に近い角度で立ち上がり、深さは最深部で約70cmを測る。床面はほぼ平坦で、堅く締まる。壁沿いには幅10～20cm、深さ10cm程度の壁溝が全周する。

<炉>斜面下方に当たる南東側に石囲炉が構築されている。亜角礫を用いた石囲炉で、約90×75cmの長方形を呈する。炉内には強く被熱した赤褐色焼土が広がる。石の外周には暗褐色土が同形状に見られ、炉石の設置痕と判断される。石囲部の南東には、床面から皿状に一段低くなった部分が確認でき、これに付設する前庭部と捉えられる。前庭部は110×80～100cmの楕円状を呈する。これは反対側に当たる石囲炉の北西側には、ピット1個(P12)と焼土の広がり確認された。焼土は赤褐色を帯び、P12を中心に広がる。焼成深度は図示できるほどはないが、表面は比較的堅く締まる。また、P12は皿状の窪みで、底面には焼土は及んでいないことから、燃焼物を設置・固定するための痕跡であった可能性が考えられる。以上のことから、石囲炉に隣接して設けられた地床炉として機能していたことが想定され、地床炉(土器埋設炉の可能性もある)+石囲炉+前庭部といった複式炉であったのではないだろうか。また、このほかに、北西側には約100×40cmの不整形に広がる明赤褐色焼土も検出された。こちらも別に機能していた地床炉と考えられる。

<ピット>柱穴及び柱穴状ピットは全部で12個確認された。P12については上述のとおりである。P1・2・3・4・5・8・9の7個については、規模や配置状況から本住居を構成する柱穴と考えられるが、P1・9、P3・4については近接することから、P1-3、P9-4のセット関係での柱穴替えが行われた可能性も考えられる。いずれも径30～40cmの円～楕円形を呈し、床面からの深さは29～51cmを測る。これらのほかについては、配置状況からは判断が付かなかったが、P6やP7は形状や規模も同等ことから、本住居を構成する柱穴の可能性もある。

<遺物>S I 34でも述べたが、重複の認識が遅かったこともあり、S I 34の遺物が混在している可能性も否定できないが、土器が30.2kg、石器が11点出土している。土器はこのうち19点を掲載した。埋土一括として捉えたものが大半だが、概ね大木8b～10式期に該当する。

<時期>床面出土の遺物から、大木9式期に帰属と判断したい。

(小林)

**S I 41 竪穴住居跡** (第33図、写真図版36・37)

<位置・検出状況> B区中央部からやや東寄りに位置し、検出面はⅥ層である。当初はプランは把握できなかったが、周辺から遺物が出土することから、断面ベルトを設定し、精査を行った。結果、重複する複数の住居跡を確認したが、本住居は重複により大部分は消失しており、確認できるのは地床炉の一部や壁溝にとどまる。

<重複遺構> S I 12・38・42と重複する。大部分はS I 12・38に切られ、S I 42を切る。

<平面形・規模> 残存部から径450cmほどの円形が推測される。

<埋土> 確認できたのは1層のみである。崖錐性の小礫を含む暗褐色土である。

<壁・床面・柱穴> 壁はほとんど残っておらず、南側で一部見られるのみである。床面は地山の礫が表出しており、やや凹凸が認められる。壁溝と思われる浅い溝が確認された。これも大部分が重複住居によって切られているが、北西～南西部分で見られる。これと共に、ピットが4個(P 3～6)確認されたが、位置的に壁柱穴である可能性が考えられる。このほか、南側の中央寄りの部分にもP I・2が検出されたが、これらは共に切り合っており、本遺構に伴うか判断はつかなかった。

<炉> 中央部でS I 38に切られる焼土を確認した。約70×20cmに橙色を帯びて広がる。被熱深度は最大で5cm弱で硬化している。周囲には石の設置痕と考えられるピットが確認できないことから、地床炉と判断される。

<遺物> 残存範囲が小規模なこともあり、出土した遺物は土器0.2kgのみと少なく、掲載したものは少ない。

<時期> 特定は難しいが、切り合い関係から中期中葉～後葉の範囲に入るものと推測される。

(藤本・小林)

**S I 42 竪穴住居跡** (第34図、写真図版37・38)

<位置・検出状況> B区中央部からやや東寄りに位置し、検出面はⅥ層である。S I 12・38同様、当初はプランの把握はできなかったが、周辺から遺物が出土することから、断面ベルトを設定し、精査を行った。結果、重複する複数の住居跡を確認した。

<重複遺構> S I 12・38・41と重複し、これらにすべて切られる。

<平面形・規模> 残存部から径約400cmの円形が推測される。

<埋土> 確認できた部分では、ほぼ暗褐色土の単層である。

<壁・床面> 床面からほぼ垂直に立ち上がり、深さは約20cmである。床面はやや凹凸があるが概ね平坦である。確認できる部分では、炉の設置されている南西側以外には幅約20cmの壁溝が巡る。

<炉> S I 12との重複により一部損失しているが、中央部から南西側に向かって構築されている。大小2つの炉室(以下、小=炉室A、大=炉室Bと表記する)と八の字状の前庭部が付属する石囲複式炉で、全長は約170cmを測る。炉室Aは一辺約30cmのコの字状に石を配置している。住居床面からの深さは15～20cmほどで、底面に焼成面はあまり確認できない。これの南西側に取り付く炉室Bは一回り以上規模が大きく、一辺約60cmの方形状を呈する。外周の一部に礫を確認・図示もしたが、この周辺は崖錐礫が多く混在する層のため、地山から突出した礫か人為的に配置した石なのか判断が付かなかった部分もあるが、実際のところは石囲ではなく単純な掘り込みを有するのみと考えている。床面からの深さは約15cmで、底面には強く被熱した赤褐色焼土が広がる。この南西側には八の字～台形状に前庭部と思われる掘り込みが繋がる。確認できる部分では、外周と炉室Bとの間仕切り石

が配置されている。中央には楕円状に窪むピットが確認できるが、用途は不明である。いわゆる特殊ピットに該当か。

<ピット>9個のピットを確認した。本住居の柱を構成していたものも含まれる可能性もあるが、配置等あまり明確ではない。

<遺物>土器が0.2kg出土したのみである。掲載したものは無い。

<時期>特定は難しいが、切り合い関係からは重複住居の中で最も古い。炉の形態からも中期中葉は上らないものと推察する。

(藤本・小林)

#### S I 44 竪穴住居跡 (第35図、写真図版38・39/遺物：第72～79・144・145・172図、写真図版75～80・128・129・147)

<位置・検出状況>B区南西端に位置し、Ⅶ層で検出した。平面プランの把握が困難であったが、周辺から遺物が大量に出土することや焼土粒や炭化物が混入することから、ベルトを設定し、掘り下げを行った。その結果、西側の壁と地床炉が見つかり、竪穴住居跡と判断した。

<重複遺構>S I 31C・51・52と重複する。S I 51を切り、S I 31C・52に切られる。

<平面形・規模>平面形は不明であるが、残存している西側の壁が弧状であることから楕円形を呈すると想定される。規模は不明であるが、残存する西側の壁と東側土層断面においてS I 44埋土の堆積が確認できることから、最小でも長軸約590cm×短軸約415cm以上であると想定できる。

<埋土>7層に分けられる。褐色～暗褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒が混入する。西側から流れ込むように堆積しており、自然堆積と思われる。

<壁・床面>残存する西側の壁は直立気味に立ち上がり、検出面からの深さは約45cmである。床面は小礫が多く一部凹凸があるが、全体としてはほぼ平坦であり西側から東側へやや傾斜する。また、炉以外の場所に、被熱した痕跡である焼土や炭化物が残っていることから、焼失住居と考えられる。

<炉>住居想定範囲のほぼ中央からやや東寄りに地床炉を1基検出した。径約51cmで円形に広がっている。厚さは5cmで、明赤褐色である。

<柱穴>7個検出した。P 1が南西側に、P 2～6の5個が西側の壁に沿うように、P 7が東側に位置している。径約30～40cmの円形を呈し、深さはP 3を除いた6個は25～36cmを測り、P 3のみ55cmとやや深い。壁際に沿う配置から、P 2～6の5個が本遺構に伴う可能性が高い。

<遺物>出土量は非常に多く、土器は77.1kg出土し、40点を掲載、石器は20点出土し、17点を掲載した。いずれも埋土中出土としたもので、土器は大木8b～9式に比定されるものが多い。

<時期>出土遺物から、縄文時代中期中葉～後葉、大木8b～9式期に帰属するものと推定される。

(佐藤)

#### S I 45 竪穴住居跡 (第36図、写真図版39・40/遺物：第80・145図、写真図版80・129)

<位置・検出状況>B区南東隅に位置する。S I 35東側壁の立ち上がりが不確かであったため、再度確認作業を行った結果、床面と思われる面が広がることを確認した。ベルトを設定し、掘り広げたところ、石囲炉が検出されたことから、重複する別の住居であることが判明した。

<重複遺構>S I 35と重複し、これに切られる。南側には石囲炉しか確認できなかったS I 49があり、これも状況的には重複するものと考えられるが、直接的な切り合いは見出していない。

<平面形・規模>北西部が重複により消失するが、推定約500×410cmの隅丸方形を呈するものと思われる。

＜埋土＞7層に細分した。下位には粘性の強いふい黄褐色土(5層)や炭化物層(6層)、中位には焼土層(3層)が確認されており、焼失住居の可能性も視野に入れるべきか。これらより上位層は崖錐礫を多く含むことから自然堆積の可能性が高い。

＜壁・床面＞壁は床面から緩やかに立ち上がり、深さは最深部で約50cmを測る。床面は礫層が表出する部分があるため、やや凹凸が見られるが、概ね平坦と言える。北側と南側の一部で壁溝が確認された。

＜炉＞住居南側の中央に石囲複式炉が構築されている。石囲部と前庭部から成り、全長は約200cmを測る。北側の炉室はかなり不整形で狭く、他の2室ほど深さがないため、実際機能していたようには見えない。調査後に気付いたが、炉の造り替えにより、旧石囲炉の残骸がそのまま残っていた可能性がある。つまり、北側の弧状に連なる石列は旧炉の残りであり、現石囲炉には付属しないのかもしれない。現石囲炉としては方形の2室から成る可能性が高い。北側の炉室は一辺約90cmで、床面からの深さは約25cmを測る。南側の炉室は一辺約110cmで、深さは約25cmである。両室底面には橙色焼土の被熱痕跡が確認されたが、焼成深度はあまりなく、使用頻度は低かったのかもしれない。前庭部は約110×90cmのハの字状に南壁まで広がり、深さは約25cmを測る。

＜ピット＞柱穴3個(P1～3)と土坑1基(K1)を確認した。柱穴はいずれも約40cmの深さを有する。配置からP1・2は主柱穴か。石囲複式炉の場合、炉室両脇に対となる柱穴が検出されることが多いが、本遺構から明確なものは検出されなかった。P3がこれに該当する可能性もあるが、詳細は不明。K1は北側に位置するが、S135に切られるため全容は不明である。約100cm以上×70cm、深さ約25cmを測る。機能は不明。

＜遺物＞土器は23kg出土し、3点を掲載した。大木8b式に比定されるものが多い。石器は2点出土した。

＜時期＞出土遺物から、縄文中期中葉と判断した。

(小林)

#### S148堅穴住居跡(第37図、写真図版40・41/遺物：第80・146・172・173図、写真図版80・81・129・147)

＜位置・検出状況＞調査B区の南西側、Ⅶ層で検出した。この周辺には黒褐色土や暗褐色土が広く堆積しており、遺構の有無を判断するため南北にベルトを設定して掘り下げたところ、しまりのあるフラットな面が検出された。これを住居の床面と推定して精査を進め、地床炉と思われる焼成面を確認したことから、堅穴住居跡であると判断した。

＜重複遺構＞西側でS152と重複し、これを切る。

＜平面形・規模＞南東の壁と床面の一部は、遺構を特定する前に掘り下げてしまったため消失している。残存部から推定される平面形は隅丸方形を呈し、南側の一部が調査区外に及んでいる可能性も考えられる。規模は約420×400cmと想定される。

＜埋土＞壁際から下位にかけて暗褐色土、下位から上位にかけてにふい黄褐色土、上位の黒褐色土の3層に細分した。埋土には斜面から流れ込んだ崖錐性の礫が多量に含まれる。堆積状況から自然堆積であると考えられる。

＜壁・床面＞壁は直角気味に立ち上がる。検出面から床面までの深さは約60cmを測る。床面は概ね平坦であるが、礫が露出しているため若干の凹凸が見られる。なお断面にかかる遺構の南壁は、断面の調査段階では把握出来ず、のちに平面で確認した上端を元に推定線を記載している。

＜炉＞推定される平面形のほぼ中央に位置している。床面から10cm程度掘り窪められており、焼成面は約30×20cmの不整形を呈する。焼土はしまりのある明赤褐色を成すが、厚さは非常に薄く、1

cm程度である。

<ピット>住居範囲内で21個のピットを検出した。壁際に沿う配置と深さから、P 2・3・13・16の4個が本遺構に伴う柱穴の可能性がある。その他については不明である。(P 1・4・5・10は欠番)

<遺物>土器は30.5kg出土し、このうち6点を掲載した。石器は9点が出土し、6点を掲載した。土器は埋土中出土が大半で、大木 8 b～9 式に比定されるものがほとんどである。

<時期>出土遺物から、大木 8 b～9 式期に帰属すると思われる。

(宇部)

#### S I 49 竪穴住居跡 (第37図、写真図版41/遺物：第173図、写真図版147)

<位置・検出状況>B区南東隅に位置する。調査区を拡張した際に検出したが、周辺遺構と同一面を上層を除去していたところ、石囲炉を確認した。この面を床面と捉え、竪穴住居と判断したが、壁等は確認していない。

<重複遺構>平面状況から S I 35・45・47 と重複すると考えられるが、直接的な切り合いは不明である。

<平面形・規模>上述したように、全体の形状・規模ともに不明である。

<埋土>不明。

<壁・床面>壁は確認していない。石囲炉の確認面を床面とした。周辺は平坦である。

<炉>炉 A・炉 B の 2 基を確認した。いずれも石囲炉である。両者はほぼ同一レベルにあり、残存状況から炉 A を旧炉、炉 B を新炉と判断した。炉 A は弧状に石列が残存し、50～60cm 前後の円形を呈していたものと推測される。石組内に焼土は確認できない。炉 B は約 70×45cm の長方形に石が組まれている。石組内にはにぶい赤褐色焼土が広がり、焼成深度は約 4cm である。

<ピット>周辺から検出されたものを抽出した。6 個 (P 1～7、P 2 は欠番) が確認されている。柱穴となる可能性があるが、全体的な配置等は見出せなかった。

<遺物>土器が 0.7kg、石器が 1 点、土製品が 1 点出土した。

<時期>詳細は不明だが、検出状況や炉の形態から、周辺遺構より新しい可能性がある。重複遺構で最も新しい S I 35 が縄文中期後葉に位置付けられることから、これより新しい時期が推測される。

(小林)

#### S I 51 竪穴住居跡 (第38図、写真図版42/遺物：第81・82・146図、写真図版81・82・129)

<位置・検出状況>調査 B 区南西端に位置し、南側で調査区境に接している。調査区を拡張した際に、Ⅵ層で検出した。平面プランの把握は困難であったが、複式炉を検出したことから、竪穴住居跡と判断した。

<重複遺構>東側は S I 52 に、西側は S K 27 に、北側は S I 44 に切られている。

<平面形・規模>平面形は不明であるが、残存している西側の壁が弧状であることから楕円形を呈すると想定される。規模も不明であるが、西側の壁と柱穴・複式炉の配置から、最小でも長軸約 625cm × 短軸約 430cm 以上であると推測できる。

<埋土>4 層に分けられる。炉の周辺は黄褐色土 (4 層)、褐色土 (3 層)、黒褐色土 (2 層) の順に堆積している。土層断面図の中央付近には S I 51 を切るように黒褐色土が堆積しており、本遺構よりも新しい時期に堆積したと考えられるが、形成要因は不明である。本遺構より新しい時期の柱穴等の可能性が高いが、現状把握はできなかった。これを挟んだ南側は、暗褐色土 (1 層) が堆積している。堆積状況からは、人為堆積か自然堆積かは判断できない。



＜壁・床面＞残存する西側の壁は直立気味に立ち上がり、検出面からの深さは54cmである。床面は礫を多く含む層だが、全体としてはほぼ平坦である。

＜炉＞住居の東側残存部で石囲炉を検出した。石囲炉が大-95×72cm(以下①)、小-67×40cm(以下②)の2つ残存しており、複式炉である。①の西側に②が取り付く。①の東側はS I 52に切れ失われているが、①の区画をはみ出す炉石と、炉石の掘り方と考えられるピットが残っている。このことから、東側にはもう1つ石囲炉があった可能性がある。両石囲炉内には、それぞれ焼土が確認できる。床面からの深さは、①で約30cm、②で約20cmを測る。

＜柱穴＞4個を検出した。西側の壁の近くでP 1・2を、S I 44の床面でP 3・4を確認した。P 1・2は楕円形、P 3・4は円形を呈し、径約30～42cm、深さは約42～52cmを測る。この内、P 1・2は壁に沿って配置される柱の可能性が高い。また、隣接して配置されていることから、柱穴同士には時期差があると考えられ、遺構内における新旧だけでなく、S I 51以外の遺構に伴う可能性も想定しておきたい。P 3・4は、埋没後にS I 44の地床炉が形成されていることから、S I 44よりも古い柱穴と考えられる。S I 44周辺の遺構で、S I 44よりも古い遺構はS I 51だけであるため、P 3・4はS I 51に伴うものと推測される。

＜遺物＞土器が25.9kg、石器が5点出土した。土器はこのうち11点を掲載した。ほとんどが埋土中出土であるが、大木8b式に比定されるものが多い。

＜時期＞出土遺物・炉の形態から、大木8b～9式期に帰属するものと判断した。

(佐藤)

#### S I 52竪穴住居跡(第39図、写真図版43)

＜位置・検出状況＞調査B区の南西側、Ⅶ層で検出した。遺構の有無を判断するためにS I 31のベルトを南に延長して掘り下げを行ったところ、ベルトの西側、隣接するS I 48の床面よりもやや高い位置からしまりのあるフラットな面が検出された。その後柱穴と思われるプランも確認し、竪穴住居跡と判断した。

＜重複遺構＞S I 48とS I 51と重複する。東側がS I 48に切れられ、西側がS I 51を切る。

＜平面形・規模＞南側の壁の一部は掘りすぎにより消失するが、残存部から推定される平面形は円形を呈し、規模は径約380cmを測る。

＜埋土＞下位の暗褐色土、中位から上位にかけて暗褐色シルト土、上位の黒褐色シルト土の3層に細分した。3層全てに崖錐性の礫と少量の炭化物粒が含まれる。堆積状況から、流れ込みによる自然堆積であると考えられる。

＜壁・床面＞壁は床面から緩やかに立ち上がる。検出面から床面までの深さは約75cmを測る。床面は概ね平坦であり、しまりが見られる。壁・床ともに礫が多量に含まれており、礫層を掘り込んで住居を形成したものと考えられる。

＜炉＞検出されていない。切り合いにより消滅した南東部分にあったことも想定できる。

＜ピット＞住居範囲内で4個のピットを検出した。壁際に沿う配置や深さから、P 3・4が住居に伴う柱穴の可能性が高い。その他については不明である。

＜遺物＞土器が0.2kg出土している。小破片のみで掲載したものはない。

＜時期＞重複関係から、中期中葉に含まれるものと推定される。

(宇部)

**S I 53竪穴住居跡**(第39図、写真図版43・44)

<位置・検出状況> A区中央部東側に位置する。石囲炉を検出したことにより、周辺の確認を行った結果、斜面上方に残存する壁を確認できたため、竪穴住居と判断した。

<重複遺構> 状況的にはS I 27と重複すると思われるが、新旧は不明。

<平面形・規模> 斜面下方の壁が消失するため、全容は不明だが、径250cm前後の円形～楕円形が推測される。

<埋土> 確認できたのは暗褐色土の単層である。

<壁・床面> 残存する壁は、深さは7cm程度のみ。床面は斜面下方の南西側に向かってやや傾斜する。

<炉> 斜面下方は残存しないが、径70cm程の石囲炉である。底面には橙色の焼土が広がる。

<遺物> 土器が0.2kg出土している。小破片のみで掲載したものはない。

<時期> 詳細は不明。周辺の状況から、縄文中期後葉～後期前葉内には収まるものと思われる。

(小林・藤本)

**(2) 土 坑****S K 02土坑**(第40図、写真図版44/遺物：第82図、写真図版82)

<位置・検出状況> B区北西隅に位置する。調査区北側は重機による掘削の際、検出面から掘り下げ過ぎていたため、調査区境の断面に既に本遺構を見ることができた。検出面はⅥ層が該当するが、上半部は削平を受け消失しており、実際の掘り込み面はかなり上だったことが推測される。

<重複遺構> なし。

<平面形・規模> 平面図は掘削後に記録したが、崩落したため本来の形状とは異なる。断面から確認できる範囲では、開口部径約70cm、底部径165cmの円～楕円形を呈するものと思われる。

<埋土> 5層に細分した。下位に褐色土、中間に黒色土を挟んで、上位に暗褐色土が堆積する。

<壁・底面> 壁は底面から緩やかに内湾するフラスコ状を呈し、深さは約70cmを測る。底面は概ね平坦である。

<遺物> 土器が0.6kg出土し、このうち1点を掲載した。

<時期・考察> 時期の詳細は不明だが、周辺遺構の状況から縄文中期の範疇に収まるものと考えられる。形態的にはいわゆるフラスコ状土坑と判断され、貯蔵穴として機能していたものと思われる。

(小林)

**S K 04土坑**(第40図、写真図版44)

<位置・検出状況> B区北西隅に位置する。調査区の拡張に伴い検出した。検出面はⅦ層である。

<重複遺構> なし。

<平面形・規模> 開口部約100×70cm、底部約80×50cmの楕円形を呈する。

<埋土> 5層に細分した。下位に褐色土が堆積するが、全体的には黒褐色土が主体となる。層位状況から自然堆積か。

<壁・底面> 壁はやや外傾して立ち上がり、上部で外反する。深さは最深部で約25cmを測る。底面はやや凹凸が認められる。

<遺物> 土器が約0.7kg出土したが、破片のみで掲載したものはない。

<時期・考察> 詳細は不明だが、周辺遺構の状況から縄文中期の範疇に収まるものと考えられる。機能面は不明である。

(小林)

**S K05土坑**(第40図、写真図版44)

<位置・検出状況>A区北端部に位置し、検出面はⅥ層上面である。西側は調査区外へと続き、南側は斜面上方からの土砂の流入によって消失している。

<重複遺構>なし。

<平面形・規模>長楕円形である。規模は長軸435cm、短軸148cmを測り、長軸方向は等高線に平行する。

<埋土>2層に細分した。炭化物が混入した黒色土が主体である。壁際には崩落土が堆積する。

<壁・底面>壁はほぼ直角に立ち上がり、深さは8cmを測る。底面には焼土が認められる。焼土の中央部は激しく被熱を受けたものと思われ、堅く締まる。

<出土遺物>土器が38g出土したが、流れ込みによるものと考えられる。掲載したものはない。

<時期・考察>埋土中に炭化物を多く含み、底面に強い被熱痕が観察できることから木炭窯跡であると判断した。構築時期の根拠となる遺物は出土していないため判断が難しいが、現地表面からも浅い位置にあることから、現代のものか。

(野中)

**S K10土坑**(第40図、写真図版45)

<位置・検出状況>A区中央部に位置し、検出面はⅤ層中である。

<重複遺構>なし。

<平面形・規模>開口部約120×70cm、底部約90×55cmの楕円形を呈する。

<埋土>暗褐色土と黄褐色土の2層に分層した。

<壁・底面>壁は緩やかに立ち上がり、深さは15cm程度である。底面は平坦である。

<遺物>土器が0.2kg出土したのみ。掲載したものはない。

<時期・考察>詳細は不明。

(藤本・小林)

**S K11土坑**(第40図、写真図版45)

<位置・検出状況>A区南東部、標高190m地点、配石群の5号配石分布範囲に位置する。

<規模・形状>5号配石の列状配置が途切れる位置で、配石下部に構築された土坑の可能性がある。底面が平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。平面形は楕円形、開口部規模は72×81cm、検出面からの深さ51cmである。

<埋土>上部の暗褐色土を第1層、下部のいぶい黄褐色土を第2層とした。

<遺物>前期包含層を掘り込むため、微量の前期土器が出土する。

<時期・考察>堆積土から後期初頭～前葉と推定される。5号配石との関係から、墓壇の可能性が想定されるが、巨礫の立石の設置痕か墓壇かの判断材料に欠ける。

(米田)

**S K14土坑**(第41図、写真図版45)

<位置・検出状況>B区の西側に位置し、検出面はⅦ層面である。

<重複遺構>なし。

<平面形・規模>開口部約170×120cm、底部約150×100cmの楕円形を呈する。  
 <埋土>3層に分層した。いずれにも崖錐礫を多く含む。レンズ状を成すため自然堆積と思われる。  
 <壁・底面>壁は直線的に立ち上がり、深さは約45cmを測る。底面は崖錐礫が露出し、凹凸がある。  
 <遺物>なし。  
 <時期・考察>詳細は不明だが、周辺の状況からも中期中～後葉に属するか。機能も不明。

(鈴木)

**S K 15土坑**(第41図、写真図版45/遺物：第82・146図、写真図版82・129)

<位置・検出状況>B区の西側に位置し、検出面はⅥ層面である。  
 <重複遺構>なし。  
 <平面形・規模>開口部約100×85cm、底部約70×60cmの楕円形を呈する。  
 <埋土>黒褐色土の単層である。  
 <壁・底面>壁は直線的に立ち上がり、深さは約45cmを測る。底面は平坦である。  
 <遺物>土器が1.6kg出土し、1点掲載した。大木8b式に比定される。  
 <時期・考察>出土遺物から、縄文中期中葉と判断される。機能については不明。

(鈴木)

**S K 17土坑**(第41図、写真図版46/遺物：第82図、写真図版82)

<位置・検出状況>B区北側中央部に位置し、検出面はⅦ層である。S I 03の精査において検出した。  
 <重複遺構>S I 03と重複するが、新旧関係は不明。  
 <平面形・規模>開口部約110×80cm、底部約85×55cmの楕円形を呈する。  
 <埋土>5層に分層した。いずれにも崖錐礫を多く含む。黒色土系が主体。  
 <壁・底面>壁は直立する。深さは最深部で約85cmを測る。底面は崖錐礫が露出し、凹凸がある。  
 <遺物>土器が0.2kg出土している。このうち埋土出土の1点を掲載した。縄文中期中葉と思われる。  
 <時期・考察>出土遺物や周辺の遺構の状況から、縄文中期中葉か。機能については不明。

(藤本・小林)

**S K 18土坑**(第41図、写真図版46)

<位置・検出状況>B区南側中央部に位置する。検出面はⅦ層である。  
 <重複遺構>なし。  
 <平面形・規模>約90×75cmの歪な楕円形を呈する。  
 <埋土>暗褐色土とにぶい黄褐色土の2層に分層した。  
 <壁・底面>南側の壁は底面から急激に立ち上がるが、北側は一段浅い平坦面が取り付け緩やかに立ち上がる。深さは約30cmである。底面は概ね平坦である。  
 <遺物>土器が73g出土している。掲載したものはない。  
 <時期・考察>時期は不明。底面が2段に分かれることから、重複する2基の土坑の可能性も考えられるが、判断は付かない。

(藤本・小林)

**S K 20土坑**(第41図、写真図版46)

### 3 検出遺構

<位置・検出状況>B区中央部に位置し、検出面はⅦ層である。  
<重複遺構>なし。  
<平面形・規模>開口部約90×80cm、底部約75×60cmの楕円形を呈する。  
<埋土>褐色土の単層である。  
<壁・底面>壁は緩やかに立ち上がり、深さは最深部で約15cmを測る。底面は概ね平坦である。  
<遺物>なし。  
<時期・考察>詳細は不明だが、周辺の状況から縄文中期中～後葉と思われる。機能については不明。  
(藤本・小林)

#### S K 21土坑(第41図、写真図版46)

<位置・検出状況>B区中央部に位置し、検出面はⅦ層である。  
<重複遺構>なし。  
<平面形・規模>開口部約130×90cm、底部約120×75cmの楕円形を呈する。  
<埋土>3層に細分した。褐色土が主体で、崖錐礫を多く含む。自然堆積か。  
<壁・底面>壁は緩やかに立ち上がり、深さは約20cmを測る。底面には凹凸が認められる。  
<遺物>なし。  
<時期・考察>詳細は不明だが、周辺の状況から縄文中期中～後葉と思われる。機能については不明。  
(藤本・小林)

#### S K 22土坑(第41図、写真図版47/遺物：第82図、写真図版82)

<位置・検出状況>B区北側中央部に位置し、検出面はⅦ層である。S I 03の精査において検出した。  
<重複遺構>S I 03と重複するが、新旧関係は不明。  
<平面形・規模>開口部約110×90cm、底部約60×50cmの楕円形を呈する。南側の上位部分に段が付くようである。  
<埋土>3層に細分した。黒褐色土主体である。  
<壁・底面>壁はやや外傾して立ち上がり、深さは最深部で約60cmを測る。底面は礫が露出するため、やや凹凸があるものの、概ね平坦である。  
<遺物>土器が0.4kg出土している。このうち1点を掲載した。縄文中期中葉～後葉に帰属するものと考えられる。  
<時期・考察>出土遺物から、縄文中期中葉～後葉か。機能については不明。  
(藤本・小林)

#### S K 25土坑(第42図、写真図版47/遺物：第83・146図、写真図版82・129)

<位置・検出状況>B区東側に位置する。S I 35精査中に検出した。  
<重複遺構>S I 35に切られる。  
<平面形・規模>開口部径約210cm、底部径約200cmの円形を呈する。  
<埋土>8層に細分した。褐色土主体である。  
<壁・底面>壁は内湾して立ち上がり、上部で外傾するフラスコ状を呈する。深さは100cmを測る。底面は概ね平坦である。  
壁はやや外傾して立ち上がり、深さは最深部で約60cmを測る。底面はやや凹凸があるものの概ね平

坦であるが、北西側に深さ約10cmのピットが確認できる。また中央には焼土が確認されたが、弱い被熱痕跡である。

<遺物>土器が2.6kg出土し、4点掲載した。大木7b～8a式期に比定されるものと考えられる。

<時期・考察>出土遺物から、縄文中期前葉～中葉と判断される。形態から貯蔵穴と考えられる。

(小林)

#### S K 26土坑(第42図、写真図版47)

<位置・検出状況>B区東側に位置する。S I 35・36・47精査中に検出した。

<重複遺構>S I 35・36・47と重複するが、検出段階では新旧についての判別を付けることができなかった。

<平面形・規模>開口部約180×155cm、底部約170×160cmのやや楕円形を呈する。

<埋土>確認できる部分では5層に細分した。層位状況は中央から縁辺にマウンド状に堆積する状況から、人為堆積の可能性がある。

<壁・底面>壁は内湾して立ち上がる。上部は重複により不明だが、S K 25同様フラスコ状を呈するものと推測される。残存部の深さは45cmを測る。底面は平坦で、中央からやや北側に深さ約20cmのピットが確認できる。

<遺物>土器が0.3kg出土した。掲載したものはない。

<時期・考察>状況からS K 25と同時期の縄文中期前葉～中葉と判断される。形態から貯蔵穴と考えられる。

(小林)

#### S K 27土坑(第42図、写真図版47/遺物：第83図、写真図版82・83・130)

<位置・検出状況>B区南西端に位置し、検出面はⅣ層である。調査区を拡張した際に、暗褐色土の円形プランとして検出した。

<重複遺構>S I 51と重複し、これを切る。

<平面形・規模>開口部径119cmの円形で、底部径は145cmと開口部より広い。

<埋土>5層に分けられる。壁土の褐色土(5層)が壁際に崩落、その後黄褐色土(4層)が中央を埋め、やや窪んでいたところが、遺物を含む暗褐色土(3層)、褐色土(2層)、黄褐色土(1層)で埋められたものと想定できる。4層以下が自然堆積、1～3層は人為堆積の可能性がある。

<壁・底面>壁は底面から内湾して立ち上がり、その後中位から上位にかけて外湾するフラスコ状を呈する。検出面からの深さは132cmである。底面はほぼ平坦で、堅く締まる。

<遺物>土器が2.5kg、石器が1点出土した。土器は埋土中出土のものが多く、大木8b式に比定されるものが主である。なお、他にS I 44やS I 51と接合した土器もある。

<時期・考察>出土遺物から大木8b式期に帰属するものと考えられる。形態的に貯蔵穴として機能していた可能性がある。

(佐藤)

### (3)焼土遺構

#### S N 01焼土遺構(第42図、写真図版47)

<位置・検出状況>A区西側に位置し、後期包含層(V層)中で検出した。

<重複遺構>なし。  
<平面形・規模>44×34cmの楕円状に形成される。  
<色調・厚さ>赤褐色を呈し、焼成深度は5cmである。  
<遺物>なし。  
<時期>検出層位から縄文後期中葉と判断した。

(小林)

**S N02焼土遺構**(第42図、写真図版48)

<位置・検出状況>A区南東側に位置し、後期包含層(V層)中で検出した。南側は掘削したことにより消失している。  
<重複遺構>なし。  
<平面形・規模>68×37cmの楕円状に形成される。  
<色調・厚さ>赤褐色を呈し、焼成深度は3cmである。  
<遺物>なし。  
<時期>検出層位から縄文後期中葉と判断した。

(小林)

**S N03焼土遺構**(第42図、写真図版48)

<位置・検出状況>A区西側に位置し、後期包含層(V層)中で検出した。  
<重複遺構>なし。  
<平面形・規模>径26cmの円状に形成される。  
<色調・厚さ>赤褐色を呈し、焼成深度は5cmである。  
<遺物>なし。  
<時期>検出層位から縄文後期中葉と判断した。

(小林)

**S N05焼土遺構**(第43図、写真図版48)

<位置・検出状況>B区北側に位置し、検出面はⅦ層である。  
<重複遺構>S I 02と重複し、この埋土上面に形成されていることからこれより新しい。  
<平面形・規模>径47cmの円状に形成される。  
<色調・厚さ>中心部は橙色、周辺は明赤褐色を呈し、焼成深度は12cmである。  
<遺物>なし。  
<時期>重複から縄文中期中葉以降と推測される。

(藤本・小林)

**S N07焼土遺構**(第43図、写真図版48)

<位置・検出状況>A区北側に位置し、Ⅶ層面で検出した。  
<重複遺構>S I 16・18と重複し、この上面に形成されていることからこれより新しい。  
<平面形・規模>59×43cmの楕円状に形成される。  
<色調・厚さ>赤褐色を呈し、焼成深度は7cmである。

<遺物>なし。

<時期>重複から縄文中期中葉以降と推測される。

(小林)

**S N08焼土遺構**(第43図、写真図版49)

<位置・検出状況>A区中央部に位置し、後期包含層(V層)中で検出した。

<重複遺構>なし。

<平面形・規模>46×40cmの楕円状に形成される。

<色調・厚さ>明赤褐色を呈し、焼成深度は6cmである。

<遺物>なし。

<時期>検出層位から縄文後期中葉と判断した。

(小林)

**S N09焼土遺構**(第43図、写真図版49)

<位置・検出状況>A区中央部に位置し、後期包含層(V層)中で検出した。

<重複遺構>なし。

<平面形・規模>65×32cmの楕円状に形成される。

<色調・厚さ>赤褐色を呈し、焼成深度は3cmである。

<遺物>なし。

<時期>検出層位から縄文後期中葉と判断した。

(小林)

**S N10焼土遺構**(第43図、写真図版49)

<位置・検出状況>A区東側に位置し、Ⅶ層面で検出した。

<重複遺構>なし。

<平面形・規模>59×47cmの楕円状に形成される。

<色調・厚さ>暗赤褐色を呈し、焼成深度は5cmである。

<遺物>なし。

<時期>不明。

(藤本・小林)

**S N11焼土遺構**(第43図、写真図版49)

<位置・検出状況>A区中央部に位置し、後期包含層(V層)中で検出した。

<重複遺構>なし。

<平面形・規模>81×32~38cmのSの字状に形成される。

<色調・厚さ>明褐色を呈し、焼成深度は4cmである。

<遺物>なし。

<時期>検出層位から縄文後期中葉と判断した。

(小林)

**S N12焼土遺構**(第43図、写真図版50)



### 3 検出遺構

<位置・検出状況> A区中央部に位置し、後期包含層(V層)中で検出した。

<重複遺構>なし。

<平面形・規模>50×36cmの楕円状に形成される。

<色調・厚さ>赤褐色を呈し、焼成深度は6cmである。

<遺物>なし。

<時期>検出層位から縄文後期中葉と判断した。

(小林)

#### S N14焼土遺構(第43図、写真図版50)

<位置・検出状況> A区中央部に位置し、後期包含層(V層)中で検出した。

<重複遺構>なし。

<平面形・規模>99×33cmの不整形に形成される。

<色調・厚さ>明赤褐色を呈し、焼成深度は4cmである。

<遺物>なし。

<時期>検出層位から縄文後期中葉と判断した。

(小林)

#### S N16焼土遺構(第43図、写真図版50)

<位置・検出状況> A区中央部に位置し、S I 27精査時に検出した。

<重複遺構> S I 27と重複し、この埋土上面に形成されていることからこれより新しいと判断した。

<平面形・規模>32×25cmの不整形に形成される。

<色調・厚さ>明赤褐色を呈し、焼成深度は3cmである。

<遺物>なし。

<時期>重複遺構から縄文中期中葉以降が推測される。

(藤本・小林)

#### S N17焼土遺構(第44図、写真図版50)

<位置・検出状況> A区東側に位置し、前期包含層(V層)内で検出した。

<重複遺構>なし

<平面形・規模>平面形は89×48cmの不整形で、細長く広がる。

<色調・厚さ>4層に分層したが、1層はビット状、2～4層は焼土層、2・4層は類似する。厚さは7cmである。

<遺物>周辺に前期土器が散在し、焼土層中に土器が混じる。

<時期>地層と出土遺物から縄文前期である。

(米田)

#### S N18焼土遺構(第44図、写真図版51)

<位置・検出状況> A区南東部に位置し、前期包含層(VI層)内で検出した。前期包含層より上位にSI15(後期)が存在する。

<重複遺構>なし。

- ＜平面形・規模＞平面形は不整形で、規模は84×85cmである。  
 ＜色調・厚さ＞2層に分離した。1層が赤褐色、2層がにぶい赤褐色である。焼成深度は14cmを測る。  
 ＜遺物＞前期土器が伴う。  
 ＜時期＞検出面と出土遺物から前期である。

(米田)

**S N19焼土遺構**(第44図、写真図版51)

- ＜位置・検出状況＞A区中央部に位置し、後期包含層(V層)中で検出した。  
 ＜重複遺構＞なし。  
 ＜平面形・規模＞140×93cmの楕円状に形成される。  
 ＜色調・厚さ＞赤褐～暗赤褐色を呈し、焼成深度は4cmである。  
 ＜遺物＞なし。  
 ＜時期＞検出層位から縄文後期中葉と判断した。

(鈴木・小林)

**S N20焼土遺構**(第44図、写真図版51)

- ＜位置・検出状況＞A区中央部に位置し、後期包含層(V層)中で検出した。  
 ＜重複遺構＞なし。  
 ＜平面形・規模＞72×49cmの楕円状に形成される。  
 ＜色調・厚さ＞暗赤褐色を呈し、焼成深度は9cmである。  
 ＜遺物＞なし。  
 ＜時期＞検出層位から縄文後期中葉と判断した。

(鈴木・小林)

**S N21焼土遺構**(第44図、写真図版なし)

- ＜位置・検出状況＞A区南側、調査区南壁のSI01の東側に隣接する。調査区壁の法面整備中に標高1.50m地点で検出した。後期中葉の黒褐色土の直上に堆積する砂層中で検出された。  
 ＜平面形・規模＞平面形は不整形で、71×45cmを測る。  
 ＜色調・厚さ＞にぶい赤褐色土の単層である。厚さは6cmである。  
 ＜遺物＞なし。  
 ＜時期＞地層から縄文後期中葉である。

(米田)

**S N24焼土遺構**(第44図、写真図版51)

- ＜位置・検出状況＞A区北側に位置し、前期包含層(VI層)中で検出した。  
 ＜重複遺構＞S I 22・23と重複する範囲にあるが、詳細は不明。  
 ＜平面形・規模＞23×21cmの方形状に形成される。  
 ＜色調・厚さ＞赤褐色を呈し、焼成深度は5cmである。  
 ＜遺物＞なし。  
 ＜時期＞検出層位から縄文前期前葉か。

(小林)

**S N26焼土遺構**(第44図、写真図版52)

- <位置・検出状況> A区中央部に位置し、後期包含層(V層)中で検出した。
- <重複遺構> S I 28と重複する範囲にあるが、詳細は不明。
- <平面形・規模> 87×72cmの方形状に形成される。
- <色調・厚さ> 赤褐色を呈し、焼成深度は5 cmである。
- <遺物> なし。
- <時期> 検出層位から縄文後期中葉と判断した。

(小林)

**S N27焼土遺構**(第45図、写真図版52)

- <位置・検出状況> A区中央部に位置し、後期包含層(V層)中で検出した。
- <重複遺構> S I 28と重複する範囲にあるが、詳細は不明。
- <平面形・規模> 38×27cmの楕円状に形成される。
- <色調・厚さ> 赤褐色を呈し、焼成深度は5 cmである。
- <遺物> なし。
- <時期> 検出層位から縄文後期中葉と判断した。

(小林)

**S N28焼土遺構**(第45図、写真図版52)

- <位置・検出状況> A区中央部に位置し、前期包含層(VI層)中で検出した。
- <重複遺構> なし。
- <平面形・規模> 53×30cmの楕円状に形成される。
- <色調・厚さ> 明赤褐色を呈し、焼成深度は5 cmである。
- <遺物> なし。
- <時期> 検出層位から縄文前期前葉と判断した。

(小林)

**S N29焼土遺構**(第45図、写真図版52)

- <位置・検出状況> B区北側に位置し、検出面はVII層面である。
- <重複遺構> なし。
- <平面形・規模> 27×18cmの不整形に形成される。
- <色調・厚さ> 濃い赤褐色を呈し、焼成深度は3 cmである。
- <遺物> なし。
- <時期> 詳細は不明。

(鈴木)

**S N30焼土遺構**(第45図、写真図版53)

- <位置・検出状況> B区最北部に位置し、VII層面で検出した。

- <重複遺構> S I 05と重複し、これに切られる。
- <平面形・規模> 広範囲に散在し、最も大きいもので62×52cmを測る。
- <色調・厚さ> にぶい赤褐色を呈し、焼成深度は4 cmである。
- <遺物> なし。
- <時期> 状況的に縄文中期内と考えられる。

(宇部)

**S N31焼土遺構** (第45図、写真図版53)

- <位置・検出状況> B区南側に位置し、S I 34精査過程で検出した。
- <重複遺構> S I 34と重複する。これの埋没過程で形成されていることから本遺構が新しいと判断できる。
- <平面形・規模> 北側はS I 34の精査において先に掘削したことにより消失している。38×24cmの楕円状の広がる。
- <色調・厚さ> にぶい赤褐色を呈し、焼成深度は6 cmである。
- <遺物> なし。
- <時期> 重複関係から縄文中期と考えられる。

(小林)

**S N33焼土遺構** (第45図、写真図版53)

- <位置・検出状況> B区南西側の調査区境に位置し、Ⅱ層面で検出した。
- <重複遺構> なし。
- <平面形・規模> 約50×45cmの楕円形状に広がる。
- <厚さ・色調> 極暗赤褐色を呈し、焼成深度は約5 cmである。
- <遺物> なし。
- <時期> 詳細は不明であるが、周辺状況から縄文中期と考えたい。

(佐藤)

**S N35焼土遺構** (第45図、写真図版なし)

- <位置・検出状況> A区中央部に位置し、前期包含層(Ⅵ層)中で検出した。
- <重複遺構> なし。
- <平面形・規模> 径52cmの歪な円状に広がる。
- <色調・厚さ> 赤褐色を呈し、焼成深度は5 cmである。
- <遺物> なし。
- <時期> 検出層位から縄文前期前葉と判断した。

(小林)

**S N36焼土遺構** (第45図、写真図版なし)

- <位置・検出状況> A区中央部に位置し、前期包含層(Ⅵ層)中で検出した。
- <重複遺構> なし。
- <平面形・規模> 60×49cmの歪な楕円状に広がる。

<色調・厚さ>赤褐色を呈し、焼成深度は3cmである。

<遺物>なし。

<時期>検出層位から縄文前期前葉と判断した。

(小林)

#### (4) 配石遺構

主に人為的設置によるものを取り扱うが、人為か自然か判断付かないものも一部取り上げる。7基の配石を報告する。1～6号配石は列状配置の構成要素となっているが、軸線上に2～5号配石が並ぶのに対し、1号配石はやや外れている。6号配石は調査区南東端の斜面地に構築された護岸状あるいは石積状配石で2～5号配石の軸線上にある。7号配石はS I 15最上部に設置された棒状礫、角礫、扁平亜円礫で構成される平面半円形の配石である。

##### 1号配石(第48図、写真図版53)

<位置・検出状況>A区南東部、標高1.90m地点に位置する。花崗岩と粘板岩の板状礫が倒れた状態の配石である。

<規模・形状>1.61×0.95mの範囲に板状扁平円礫が密集する。粘板岩巨礫2点、花崗岩巨礫1点と円礫数点で構成される。

<堆積土>平面観察で配石と認識したが、他の配石で立石に使用される粘板岩巨礫が、断面観察で明瞭な掘り込みや設置痕を確認できなかった。これらの巨礫は原位置を保っていないと考えられる。また、他の配石で立石周辺に配置される置石に使用されるサイズの亜円礫もない。周辺の円礫は小さく標高の高い範囲からの流入の可能性もある。その分布状況から礫の廃棄場と考えられる。

<遺物>前期包含層からの流入と考えられる縄文前期土器が微量出土している。

<時期>構築物の性格と土層年代、同列に配置される2～5号配石の年代から、縄文時代後期の可能性がある。

<所見>堆積土観察から、人為的な配石とする根拠はない。2～5号配石ライン上からも若干外れる。

(米田)

##### 2号配石(第48図、写真図版53/遺物:第83・84・147図、写真図版83・130)

<位置・検出状況>A区南東部、標高1.85m地点に位置する。大型の立石を伴う配石で、立石は角張る扁平な粘板岩製の板状角礫を東西方向に列状に配置し、その北側に2列並行に花崗岩製の扁平亜円礫が配置される。組石としてのまとまりを持つ。

<規模・形状>長軸×短軸=1.72×1.33mの範囲に纏まり、立石3点(3点とも折れた状態)、扁平亜円礫8点で構成される。扁平亜円礫は立石の横倒れを防ぐ根石の役割はなく、置石となっており、立石と10cm程度の間隔を空けて配置される。ただしその設置方法は扁平面を上下とするものと、幅の狭い側面を地面に差し込む小口立てのものがあり、個数では小口立てが主体である。小口立ては列状配置を維持しているが、扁平面を上下とする礫は原位置を維持していない可能性がある。

<堆積土>立石設置痕の掘り込みは確認できるが、配石範囲に墓壇などの施設は存在しない。設置痕の堆積土は前期包含層よりも上位の黒褐色土である。設置痕を4層、地形面を3層に分離した。立石範囲掘削後に底面に土を入れ(4層形成)、板状角礫を立てた後に周りに土を詰め(1～3層形成)、扁平亜円礫を配置している。5層は後期堆積の砂層、6・7層は前期包含層である。

<掘り方>立石列に沿って設置痕の掘り方を確認できた。楕円形である。立石の設置されていない東西両端まで掘り方が確認できたことから、東西両端にも立石があったと考えられる。

<遺物>設置痕は前期包含層を掘り込んでいるため、設置痕に微量の前期土器が混入する。

<時期>構築物の性格と土層年代、同列に配置される3～5号配石の年代から、縄文時代後期前期～中葉である。

(米田)

### 3号配石(第48図、写真図版54/遺物:第84・147図、写真図版83・130)

<位置・検出状況>A区南東部、標高1.90m地点に位置する。2号配石と同ラインでは、立石1点、扁平亜円礫3列、さらに北側にもう1列亜円礫列が配置される。組石とその周りの流出した巨礫の分布として検出した。

<規模・形状>長軸×短軸=2.14×2.36mの範囲に纏まり、立石1点(花崗岩礫)、扁平亜円礫18点で構成される。北側は立石周辺に扁平亜円礫が配置され、置石の一部が重なるが、設置痕内部に根石として挿入された礫はない。扁平亜円礫は2号配石と同様、小口立て主体である。

<堆積土>立石設置痕の掘り込みは確認できるが、配石範囲に墓壇などの施設は存在しない。設置痕の堆積土は前期包含層よりも上位に堆積する黒褐色土である。設置痕を2層に分離した。立石範囲掘削後に底面に土を入れ(2層形成)、板状角礫を立てた後に周りに土を詰め(1層形成)、扁平亜円礫を配置している。

<掘り方>立石下部は、土坑状掘り方となる。底面と壁にやや傾斜があることから、壁巨礫の立石作業をしやすいうように予め傾斜面を作ったと考えられる。墓壇の可能性も否定できないが、根拠に欠ける。

<遺物>設置痕は前期包含層を掘り込んでいるため、設置痕に微量の前期土器が混入する。

<時期>構築物の性格と土層年代、同列に配置される2・4・5号配石の年代から、縄文時代後期前期～中葉である。

(米田)

### 4号配石(第48図、写真図版54/遺物:第147図、写真図版130)

<位置・検出状況>A区南東部、標高1.90m地点に位置する。2～5号配石と同ラインで、花崗岩製板状巨礫の立石1点、粘板岩製板状巨礫、花崗岩製円礫が並び列石としてのまとまりを持つ。

<規模・形状>0.99×2.74mの範囲に纏まる。立石は本遺跡の立石の中で最も大きい。花崗岩製板状巨礫の立石1点、粘板岩製板状巨礫1点、花崗岩製亜円礫3点で構成される。立石は北側の小礫が支えとなっているが傾いている。

<堆積土>立石設置痕跡の掘り込みは確認できるが、配石範囲に墓壇などの施設は存在しない。設置痕の堆積土は前期包含層よりも上位に堆積する黒褐色土である。設置痕を3層に分離した。設置痕の掘り方は、南側を垂直方向に深く掘り込み、北側は傾斜を付けている。立石範囲掘削後に底面に土を入れ(2・3層形成)、板状巨礫を立てた後に周りに土を詰め(1層形成)、亜円礫を配置している。

<掘り方>立石下部は、土坑状掘り方となる。底面と壁にやや傾斜があることから、壁巨礫の立石作業をしやすいうように予め傾斜面を作ったと考えられる。墓壇の可能性も否定できないが、根拠に欠ける。

<遺物>設置痕は前期包含層を掘り込んでいるため、設置痕に微量の前期土器が混入する。

＜時期＞構築物の性格と土層年代、同列に配置される2・3・5号配石の年代から、縄文時代後期前葉～中葉である。

(米田)

#### 5号配石(第49図、写真図版54)

＜位置・検出状況＞A区南東部、標高1.8～2.1m地点に位置する。2～4号配石と同ラインで、3条の列石からなる粘板岩礫・花崗岩礫の密集部を検出した。西側にSK11が隣接する。

＜規模・形状＞4.72×1.38mの範囲に纏まる。立石はない。3列25点で構成され、粘板岩製角礫1点、花崗岩製棒状礫1点、花崗岩製亜円礫23点で構成される。3列のうち、最上位礫列の花崗岩製円礫1点が被熱礫で、表面が赤褐色である。2・3号とは対照的に小口立てがなくすべて扁平面を上下とする。各礫は6号配石のような石積ではないが、斜面に直置き、もしくは立掛けのような設置方法を取る。西側の棒状礫は、6号配石の斜面地に立掛けられた角礫と設置方法や配置が類似する。

＜堆積土＞設置痕の掘り込みは浅い又は無いものが多い。3条ある礫列の設置痕を2層に分離した。中位の礫列設置痕(1層)は浅く小礫の混入量が多いのに対し、下位の礫列設置痕(2層)は深さがあり、砂粒混入量が多い。

＜配置＞SK11と隣接するが、この上部に礫設置痕はない。また、被熱礫の下位に墓壇を想定し、断割ったが掘り込みは見い出せなかった。

＜遺物＞設置痕は前期包含層を掘り込んでいるため、設置痕に微量の前期土器が混入する。

＜時期＞構築物の性格と土層年代、同列に配置される2～4号配石の年代から、縄文時代後期前葉～中葉である。

(米田)

#### 6号配石(第49図、写真図版54/遺物：第84図、写真図版83・130)

＜位置・検出状況＞A区南東隅、標高1.7～2.2m地点に位置する。2～5号配石同ライン上にあり、斜面地の傾斜に沿って石積状に配置されている。

＜規模・形状＞4.55×1.27mの範囲に纏まる。配石南端に粘板岩製板状石1点が配置され、花崗岩製扁平円礫71点が並ぶ。花崗岩製扁平円礫群内に粘板岩製角礫2点が差し込まれたような配置にある。2～5号配石よりも急斜面に配置されているため視覚的には護岸施設であるが、一方で扁平円礫配置方法は、2・3号配石の扁平円礫と同じく小口立てで、標高の低いラインと最も高いラインは大型礫、そのラインに囲まれた中央ラインはやや小型の礫が列状に配される。立石より西側に扁平円礫はない。東側は亜円礫群が調査区外へ延びていくと考えられるが、その端部に西端と同様、粘板岩製角礫が立石状となっているか将来の発掘調査による検証を期待する。

＜堆積土＞設置痕と認識できる掘り込みはない。斜面地は造成面の可能性が高く、特に粘板岩製角礫付近の斜面地は急角度に整えられている。本配石ではすべての礫を斜面地に立て掛けた、あるいは積み上げたと考えられる。2～5層は礫設置前の地形面で、2層面もしくは3層面に礫を設置し、設置後に配石全体を1層が覆ったと考えられる。

＜遺物＞前期包含層からの流入した微量の前期土器が出土するが、構築時期の判断材料にはならない。

＜遺構の性格＞護岸施設の可能性が皆無とは言えないが、礫サイズを揃えることなく大型扁平円礫が小型扁平円礫を囲む配置であること、扁平円礫の隙間を埋める後詰石のような小礫が殆どなく、各礫が密着せずに隙間があることから、水流への耐久性を考慮した護岸施設とは積極的に評価し難い。

実用的施設ではなく祭祀行為に係わる配石と考えられる。ほぼ同標高に列石が配置され、ほぼ同一軸線上に一致すること、東側から西側に向かって徐々に列石幅と石列数が減少傾向にあることから、構築に際し何らかの規制が働いている。先に構築された配石を破壊せずに新たな配石を設けていない点も規制の存在を窺わせる。このような平面分布状況からは、2～5号配石と6号配石を片方が祭祀、もう片方が実用といった別の論理で構築された遺構と考えることは出来ないし、構築年代もほぼ同時期と想定する。人工造成斜面地に6段近く石積を行い、斜面に立て掛けた巨礫を伴う特徴は「小牧野式」列石(青森市小牧野遺跡)として認識されており、6号配石の設置は小牧野式の手法に基づく構築と考えられる。

<時期>構築物の性格と土層年代、同列に配置される2～5号配石の年代から、縄文時代後期前葉～中葉である。

(米田)

#### 7号配石(第50図)

<位置・検出状況>A区南東部、標高2.5～3m地点に位置する。当初は2～6号配石と同様、円礫を弧状に配列する配石範囲と認識していた。2～6号配石よりも高位にあり、礫上部を露出させると弧状のラインと言うよりも半円状となった。配石範囲の平面調査後、下部構造の有無を確認するため掘り下げた。その結果、すでに表土掘削によって露出した石垣跡との関係性が明らかとなり、配石の下部に石垣跡を伴う建物跡(S I 15)が存在すると判明した。

<平面形・規模>当初S I 15に関わる石列と考えたが、住居床面から壁に沿って積まれたのではなく埋土最上部に設置されており、住居廃絶直後ではなく埋没途上の設置である。7号配石は、2～5号配石に比べて規模が大きく、ほぼ住居壁ラインに沿って弧状に設置されている。規模は8.44×2.86mの範囲に纏まる。弧状ラインは延長10.7mである。立石が大半であるが、斜行の礫もあり、S I 15外縁方向から内部空間に向かって傾くため、S I 15の埋没途上にある壁に立て掛けたものもあったと考えられる。ただし、建物床面を基底として設置されたものはない。礫サイズは2～6号配石の扁平円礫に比べて大きい。棒状礫、垂角礫、扁平垂円礫などが使われているが、概ね細長い礫が選択されている。

<堆積土>堆積土は黒褐色土を主体とする。S I 15床面から後期初頭の十腰内I式土器が出土しているため、その上位は後期初頭以降の堆積土である。S I 15から7号配石を含めて8層に分離した。1層は最上部の配石設置痕、2層は埋没末期にS I 15を覆った層、3～8層はS I 15堆積土である。2層が人為的堆積層であれば、住居の埋め戻し作業で形成された整地層とみなし、配石を住居廃絶祭祀の痕跡と捉えられるが、人為的堆積層か判断できなかった。よってS I 15と7号配石を住居廃絶祭祀の痕跡とするには根拠不足である。

<遺物>建物床面から十腰内I式土器と石器、堆積度中から前期～中期の土器が出土している。

<時期>床面出土遺物の年代から縄文時代後期前葉以降である。また、本遺構が砂質堆積層の形成されやすい緩斜面地に立地し、調査時の雨天後でも埋没が進行する環境のため、後期前葉までには埋没したと考えられる。

<所見>S I 15廃絶時の配石祭祀、すなわち関東・信州地方の後期初頭以降に見られる柄杓式住居と類似の建物廃絶祭祀の可能性を考慮して調査を進めたが、明確な根拠を見出せなかった。しかし、S I 15と7号配石は同じ縄文時代後期前葉の遺構で、配石列ラインは厳密には一致しないものの、建物壁ラインに沿うように配石設置を行ったと評価できるので、7号配石が建物廃絶祭祀の痕跡である可



能性も排除できない。

(米田)

### (5) 遺物 包含層

A区において、縄文前期と後期の遺物包含層を確認した。平面範囲は第50図の通りである。後期遺物包含層は検出段階から認識していたが、前期包含層については、遺構精査の進行に伴い、その存在が明らかとなった。両者が重なる部分が見られるが、層位的には明確な上下関係は見い出せなかった。

**後期遺物包含層**(第50・51図、写真図版56/遺物：第85～113・147～156・169～173図、写真図版84～104・130～135・144～148)

<位置・検出状況>A区南側、標高2m以下に広がる。重機による粗掘段階から、遺物が多量に出土することを認識していた。そのため、4mのグリッドを敷いて、グリッドごとに掘り下げを行った。

<層位>2層に細分したが、いずれも崖錐性の堆積物を伴う砂質土である。層厚は最大20cmほど。地点によっては崖錐礫の多く混入する砂層等も見られる。層位における遺物の時期差や上下関係は判別できない。

<遺物>後期中業の遺物が主体であるが、前業のものも少量見られる。土器約450kg、石器100点超のほか、土偶が約20点出土している。

<時期・考察>縄文後期前業～中業と判断される。遺物量から大規模な集落が形成されていたことに起因することは明らかであるが、これらを排出したと推測される遺構については、今回の調査ではあまり見られない。同時期の遺構としては、S I 01・15、配石遺構がこれに該当する。包含層としての広がり、山側にまだまだ延びる可能性が高く、集落の主体は北方にあることが推測される。堆積状況についても、崖錐性堆積物と一緒に埋没していることから、いわゆる捨て場としてこの地点に直接廃棄したような意図は感じず、二次的に自然堆積した可能性が高い。

(小林)

**前期遺物包含層**(第50・51図/遺物：第113～130・156～167・173図、写真図版104～118・136～142・148)

<位置・検出状況>A区北側から中央部、標高2～5m内に広がる。中期の住居の精査において、床面下部より遺物が集中することから認識した。上記と同様、4mグリッドを設定し、掘り下げを行った。

<層位>5層に細分したが、主体となるのは上位の黄褐色土、中位の暗褐色土、下位の黒褐色土の3層である。いずれにも炭化物や焼土が多く混入する。上位層はあまり明確ではないが、中位層には大木2式相当、下位層には上川名Ⅱ式相当の土器が多く含まれる。また3層は十和田中振火山灰と考えられるが、部分的にしか存在しない。

<遺物>前期前業の遺物が主体である。土器約110kg、石器約250点が出土した。

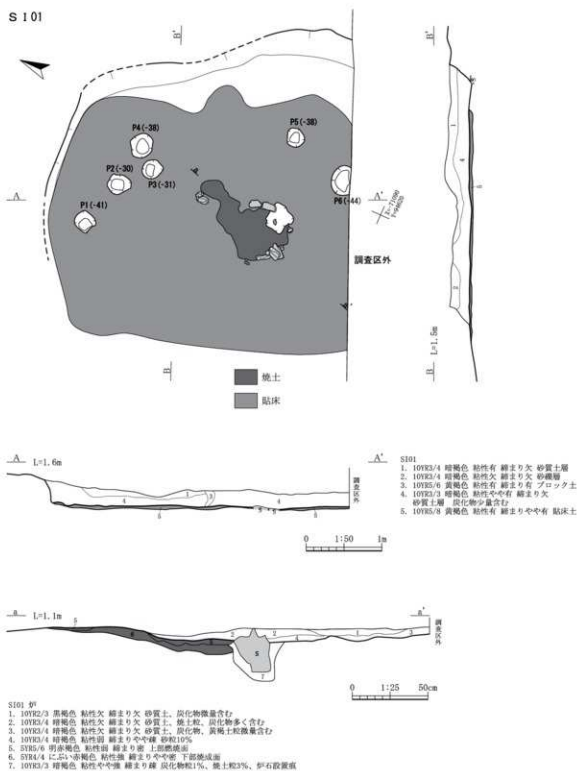
<時期・考察>縄文前期前業と判断される。層位的に遺物が出土していると評価できる。土層中には炭化物や廃棄焼土が多く含まれることから、山側からの廃土行為により形成されたものと判断できる。上方にはS I 08・20・22・23といった同時代のロングハウスが存在することから、これらに起因する可能性が考えられる。

(小林)

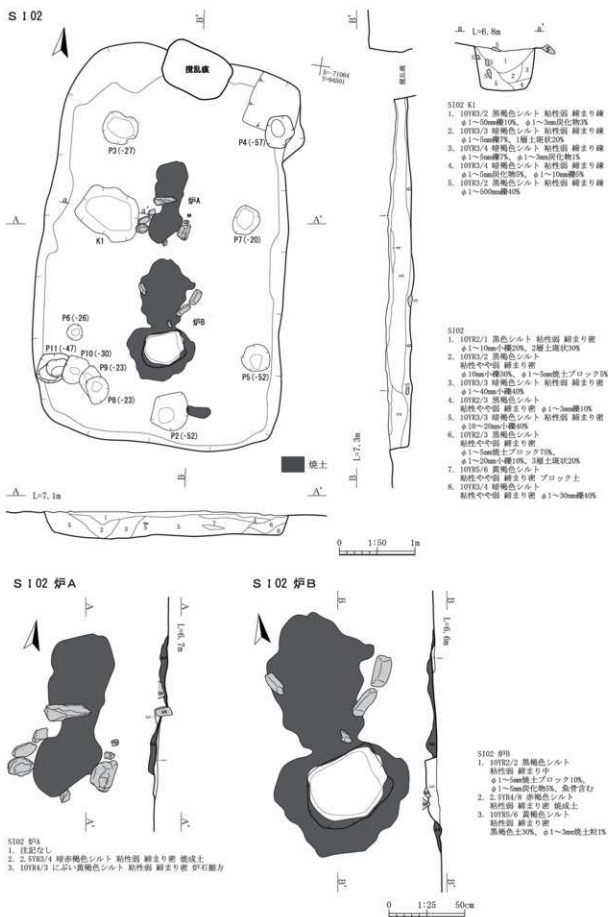
第2表 遺構一覧表

遺構名	区域	推定時期	遺構名	区域	推定時期	遺構名	区域	推定時期
S 101	A	後期中葉	S K01	欠番		S N01	A	後期中葉
S 102	B	中期中葉	S K02	B	中期	S N02	A	後期中葉
S 103	B	中期中葉	S K03	欠番		S N03	A	後期中葉
S 104		欠番	S K04	B	中期	S N04		欠番
S 105	B	中期中～後葉	S K05	A	現代?	S N05	B	後期中葉以降
S 106A	A	中期中～後葉	S K06	欠番		S N06		欠番
S 106B	A	中期中～後葉	S K07	欠番		S N07	A	後期中葉以降
S 106		欠番	S K08	欠番		S N08	A	後期中葉
S 107	B	中期中～後葉	S K09	欠番		S N09	A	後期中葉
S 108	A	前期前葉	S K10	A	不明	S N10	A	不明
S 109	A	前期前葉	S K11	A	後期初頭～前葉	S N11	A	後期中葉
S 110		欠番	S K12	欠番		S N12	A	後期中葉
S 111	B	中期?	S K13	欠番		S N13		欠番
S 112	B	中期後葉	S K14	B	中期中～後葉	S N14	A	後期中葉
S 113		欠番	S K15	B	中期中葉	S N15		欠番
S 114	B	後期前葉	S K16	欠番		S N16	A	後期中葉以降
S 115	A	後期前葉	S K17	B	中期中葉?	S N17	A	前期
S 116	A	中期後葉	S K18	B	不明	S N18	A	前期
S 117		欠番	S K19	欠番		S N19	A	後期中葉
S 118	A	中期後葉	S K20	B	中期中～後葉	S N20	A	後期中葉
S 119	A	前期前葉	S K21	B	中期中～後葉	S N21	A	後期中葉
S 120	A	前期前葉	S K22	B	中期中～後葉	S N22		欠番
S 121		欠番	S K23	欠番		S N23		欠番
S 122	A	前期前葉	S K24	欠番		S N24	A	前期前葉?
S 123	A	前期前葉	S K25	B	中期中～中葉	S N25		欠番
S 124		欠番	S K26	B	中期中～中葉	S N26	A	後期中葉
S 125		欠番	S K27	B	中期中葉	S N27	A	後期中葉
S 126		欠番				S N28	A	前期前葉
S 127	A	中期後葉				S N29	B	不明
S 128	A	後期前葉				S N30	B	中期
S 129		欠番				S N31	B	中期
S 130		欠番				S N32		欠番
S 131A	B	中期後葉				S N33	B	中期
S 131B	B	中期後葉				S N34		欠番
S 131C	B	中期後葉以前				S N35	A	前期前葉
S 132		欠番				S N36	A	前期前葉
S 133	B	中期後葉						
S 134	B	中期後葉						
S 135	B	中期後葉						
S 136	B	中期後葉						
S 137		欠番						
S 138	B	中期中～後葉						
S 139		欠番						
S 140	B	中期後葉						
S 141	B	中期中～後葉						
S 142	B	中期中葉						
S 143		欠番						
S 144	B	中期中～後葉						
S 145	B	中期中葉						
S 146		欠番						
S 147	B	中期後葉						
S 148	B	中期中～後葉						
S 149	B	中期後葉以降						
S 150		欠番						
S 151	B	中期中～後葉						
S 152	B	中期中葉						
S 153		中期後葉～後期前葉?						

3 検出遺構

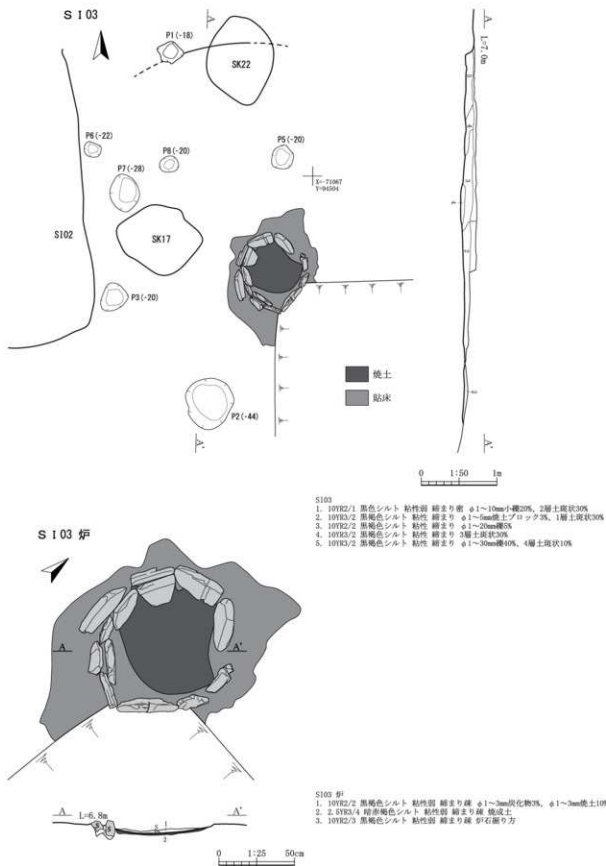


第7図 S101竪穴住居跡



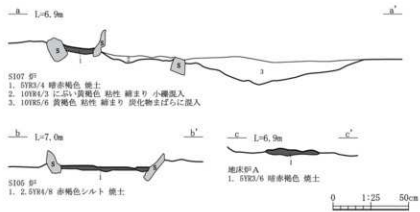
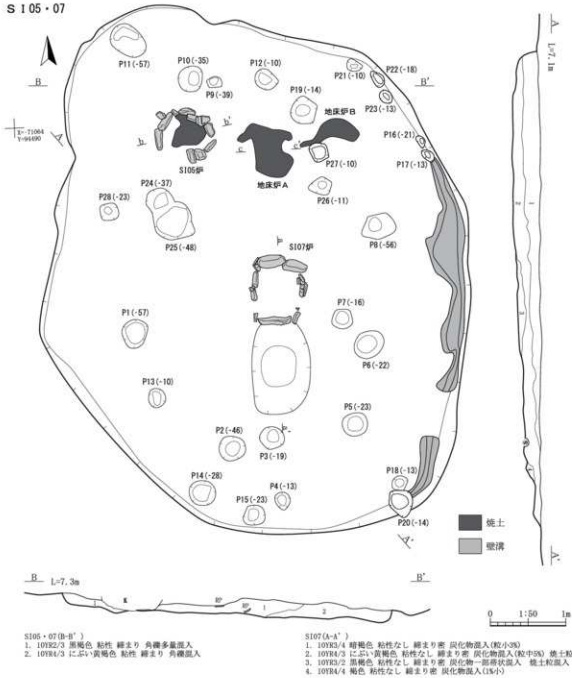
第8図 S 102竪穴住居跡

3 検出遺構



第9図 S103竪穴住居跡

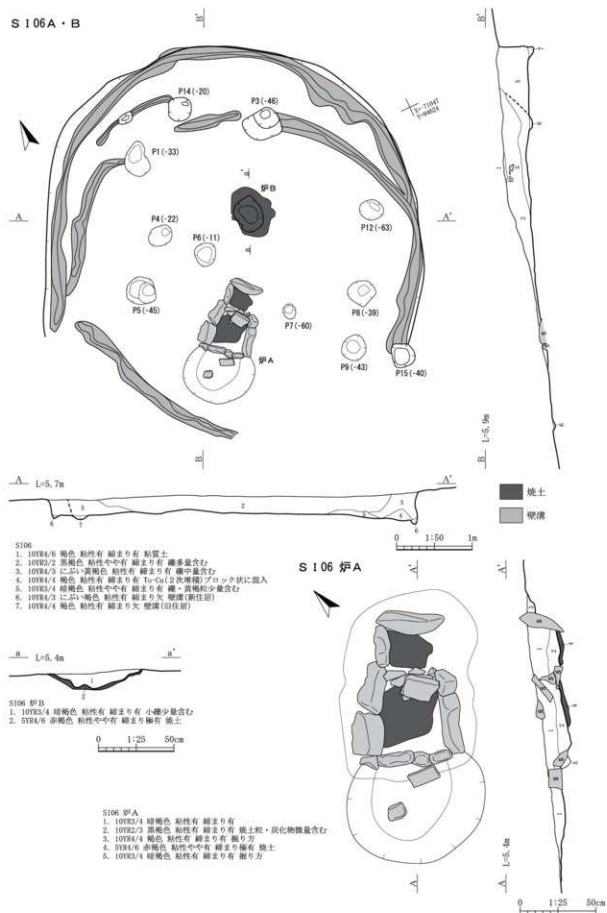
S I 05・07



第10図 S I 05・07 竪穴住居跡

3 検出遺構

S 106A・B



第11図 S 106A・B 竪穴住居跡

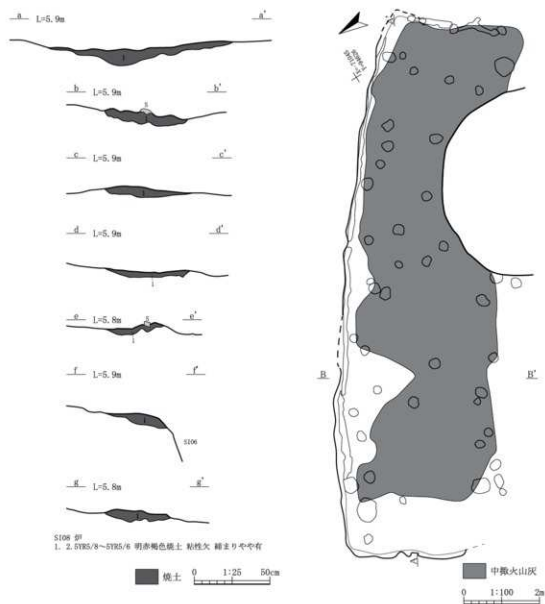
S 108



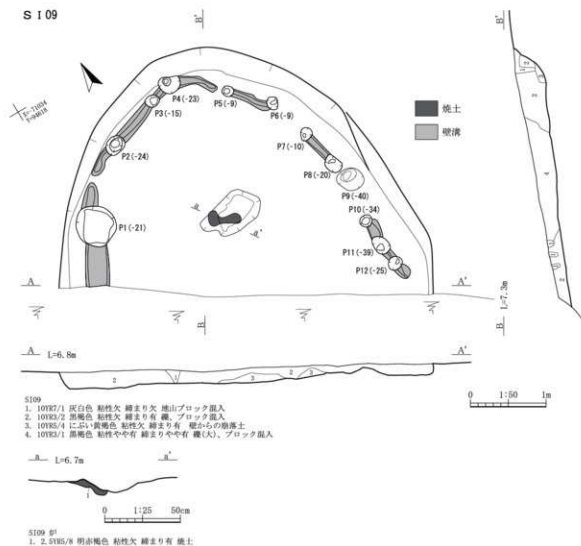
第12図 S 108竅穴住居跡(1)



3 検出道構



第13図 S108竪穴住居跡(2)



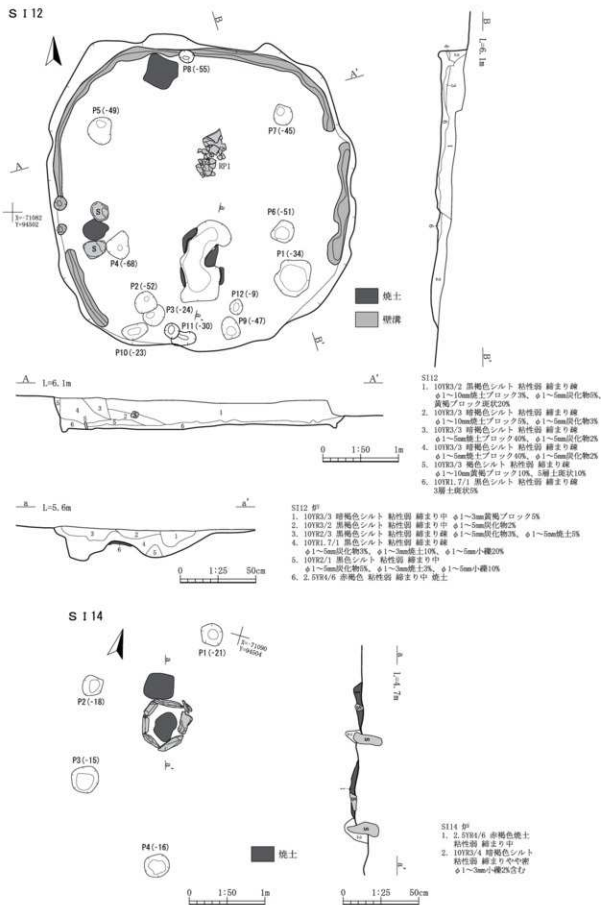
S109 切

1. 2. 5YK5/8 明赤褐色 粘姓欠 締まり有 焼土

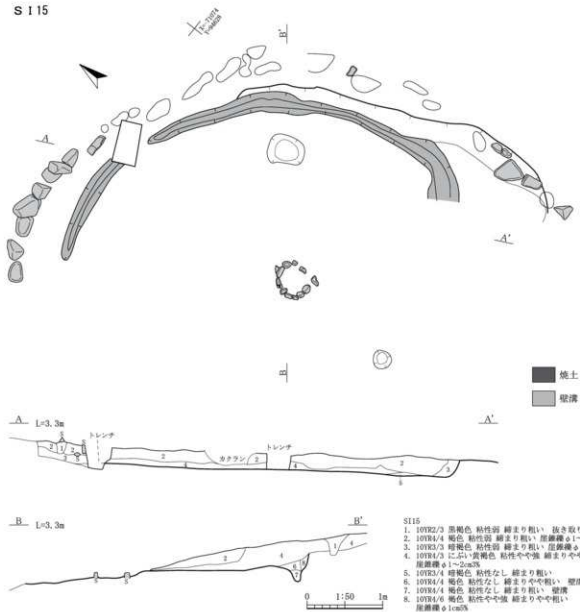
S I 11

第14図 S I 09・11 竪穴住居跡

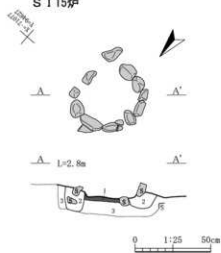
3 検出遺構



S 115



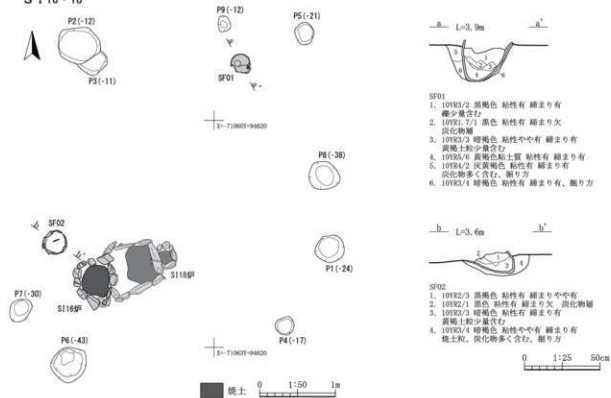
S 115炉



第16図 S 115壁穴住居跡

3 検出遺構

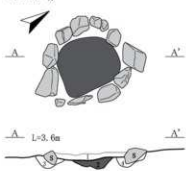
S I 16・18



- SF01
1. 10YR3/2 黄褐色 粘性有 締まり有 締り方含む
  2. 10YR1/7 黒色 粘性有 締まり有 炭化物層
  3. 10YR3/3 暗褐色 粘性やや有 締まり有 炭焼土粒少量含む
  4. 10YR5/6 黄褐色粘土質 粘性有 締まり有
  5. 10YR4/2 灰黄褐色 粘性有 締まり有 炭化物多く含む。掘り方
  6. 10YR2/4 暗褐色 粘性有 締まり有。掘り方

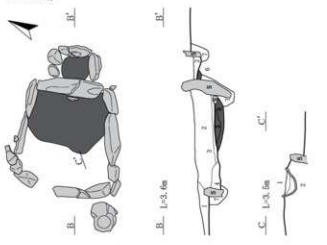
- SF02
1. 10YR2/3 黄褐色 粘性有 締まりやや有
  2. 10YR2/1 灰色 粘性有 締まり有 炭化物層
  3. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まり有 炭焼土粒少量含む
  4. 10YR4/4 暗褐色 粘性やや有 締まり有 炭土質。炭化物多く含む。掘り方

S I 16 炉



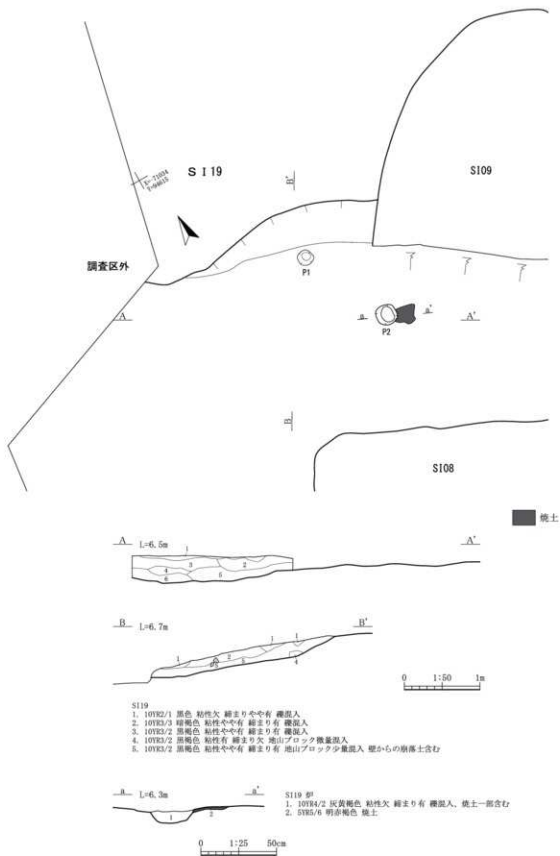
- S116 P
1. 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まりやや有
  2. 2.5YR5/9 明赤褐色 粘性弱 締まり有 焼土
  3. 10YR3/4 暗褐色 粘性弱 締まり有 焼土上
  4. 10YR3/4 暗褐色 粘性弱 締まり有 焼土層及び焼土層。焼土上

S I 18 炉

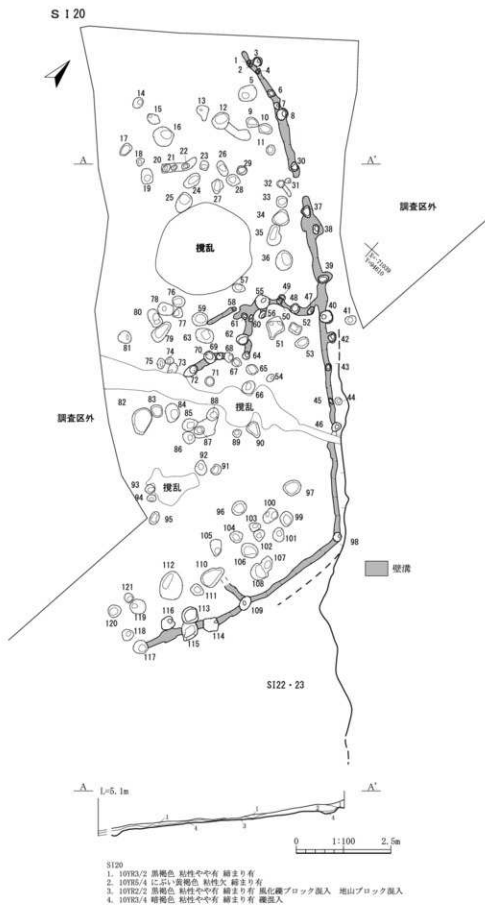


- S118 P
1. 10YR5/7 に近い黄褐色 粘性欠 締まりやや中硬
  2. 5YR5/6 焼土層
  3. 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性弱 締まりやや中硬 0.1~3mm炭化物混入。0.1~3mm焼土ブロック混
  4. 10YR2/2 暗褐色シルト 粘性弱 締まりやや中硬 0.1~3mm焼土ブロック混
  4. 炭化物
  5. 2.5YR4/6 赤褐色シルト 粘性弱 締まり密 焼土
  6. 5YR5/6 明赤褐色 粘性弱 締まり密 焼土(強)
  7. 10YR3/4 暗褐色 粘性弱 締まりやや中硬 P7右側方

第17図 S I 16・18 竪穴住居跡

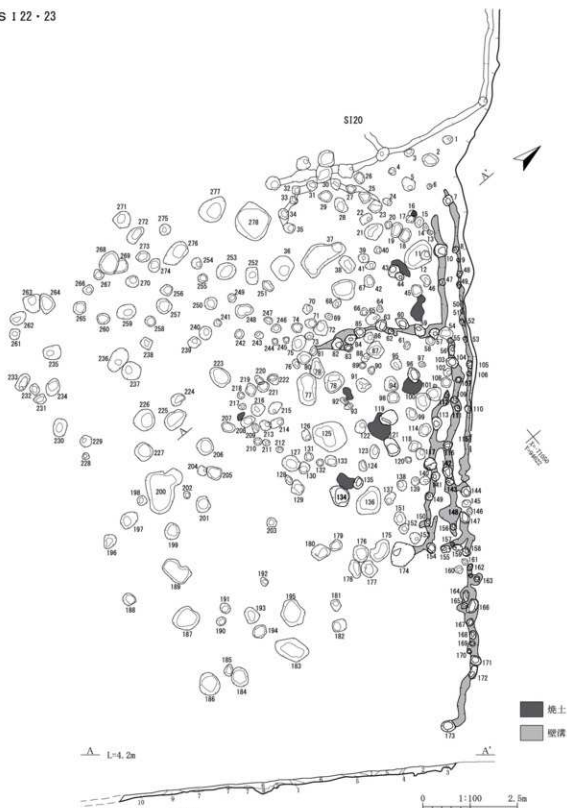


第18図 S I 19壁穴住居跡



第19図 S 120竪穴住居跡

S 122・23



S122・23

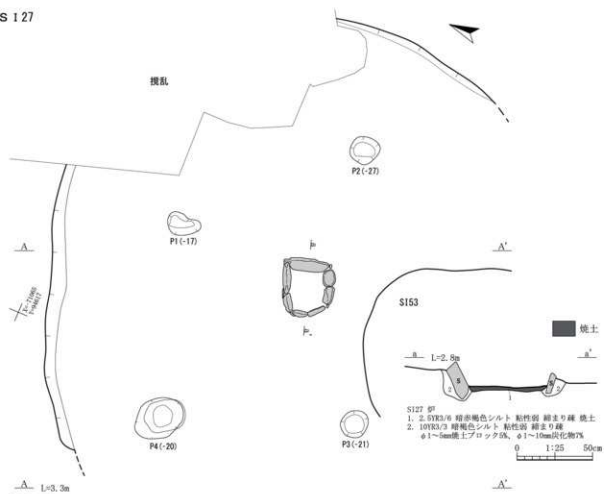
1. 覆瓦土
2. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり有 礎混入
3. 10YR6/4 に近い黄褐色 粘性欠 締まり有 壁の崩落土
4. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり有 礎混入
5. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり有や有 炭化礫ブロック混入
6. 10YR3/2 黒褐色 粘性やや有 締まり有 礎混入 炭化礫ブロック混入 池山ブロック混入
7. 10YR5/4 に近い黄褐色 粘性欠 締まり有 崩壊上からの地山の崩落土
8. 10YR2/2 濃褐色 粘性やや有 締まり有 炭化礫ブロック混入 樹皮ブロック混入
9. 10YR3/4 暗褐色 粘性やや有 締まり有 礎混入 10のフよりやや明るめの色調
10. 10YR3/4 暗褐色 粘性やや有 締まり有 炭化礫ブロック混入

第20図 S 122・23竪穴住居跡

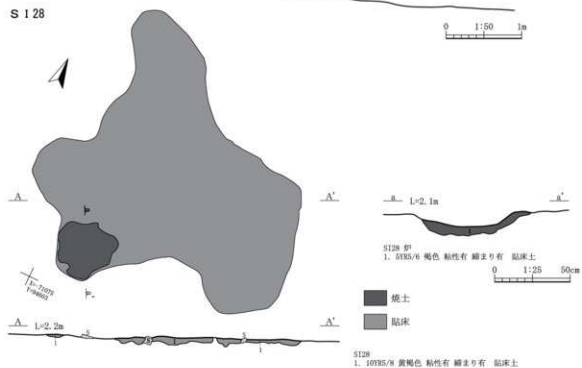


3 検出遺構

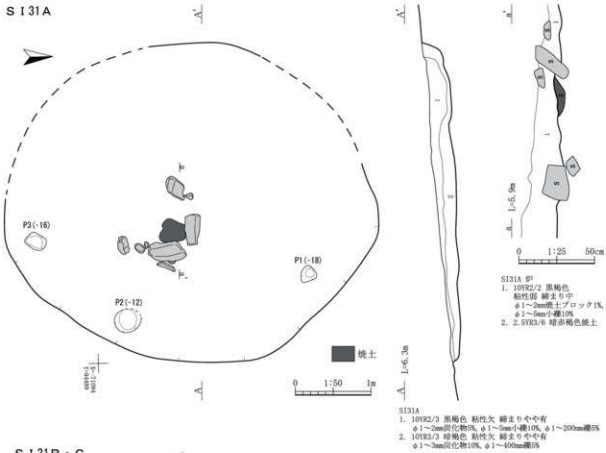
S 127



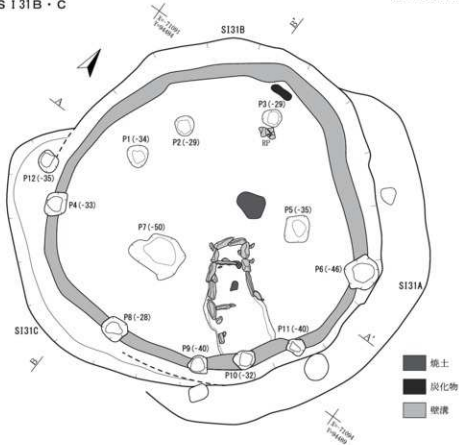
S 128



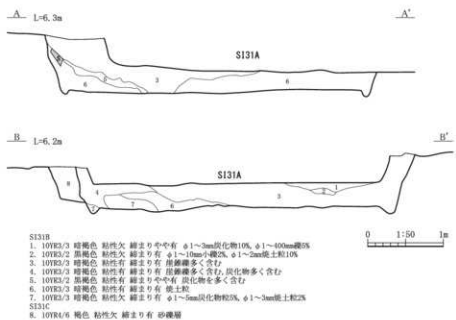
第21図 S 127・28竪穴住居跡



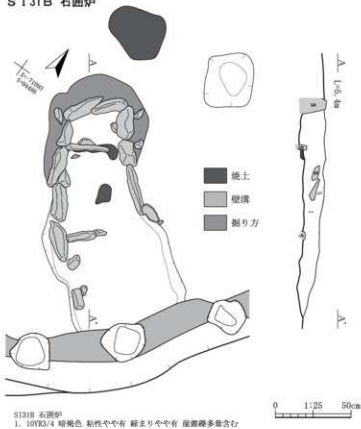
S 131B・C



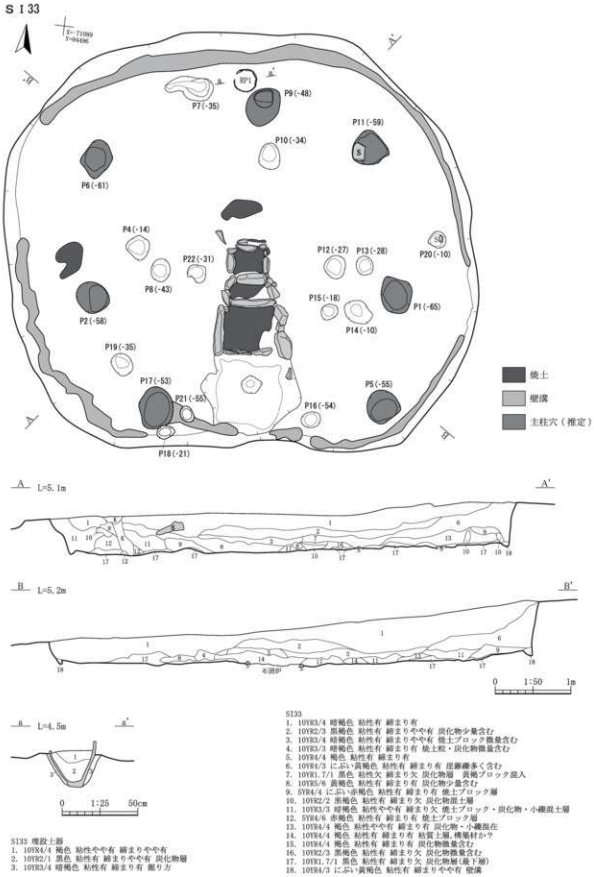
第22図 S 131A、S 131B・C 竪穴住居跡(1)



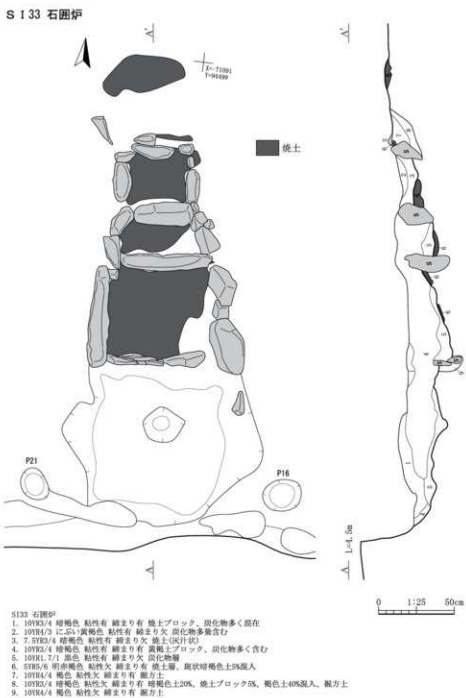
## S 131B 石囲炉



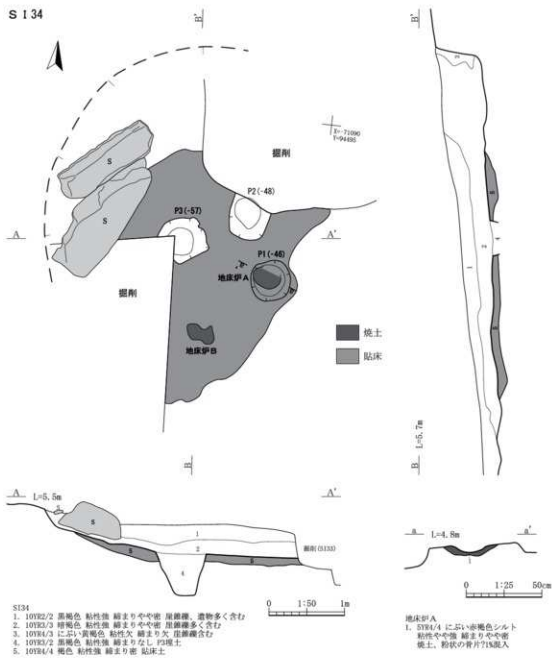
第23図 S 131B・C 竪穴住居跡(2)



第24図 S I 33竅穴住居跡(1)



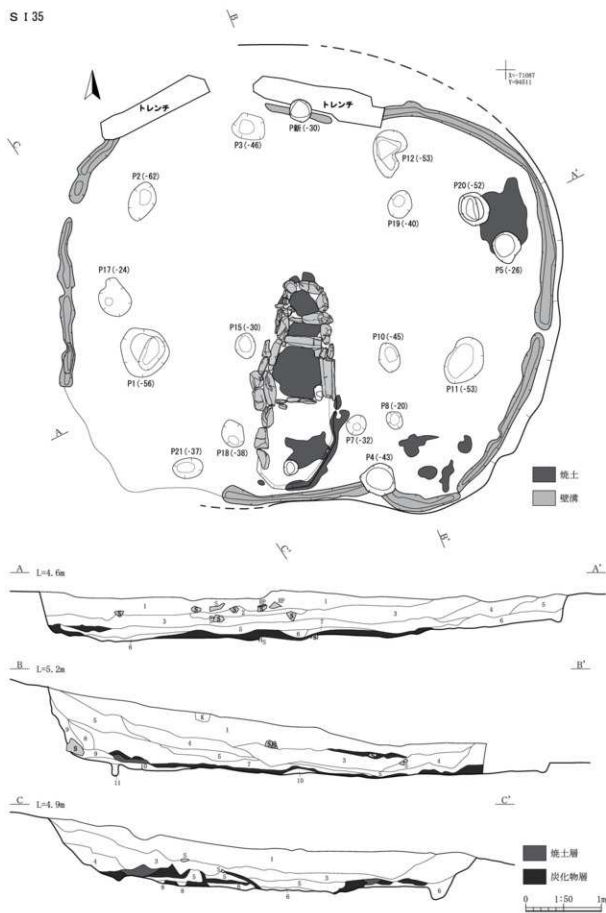
第25図 S 133竪穴住居跡(2)



第26図 S I 34壁穴住居跡

3 検出遺構

S 135

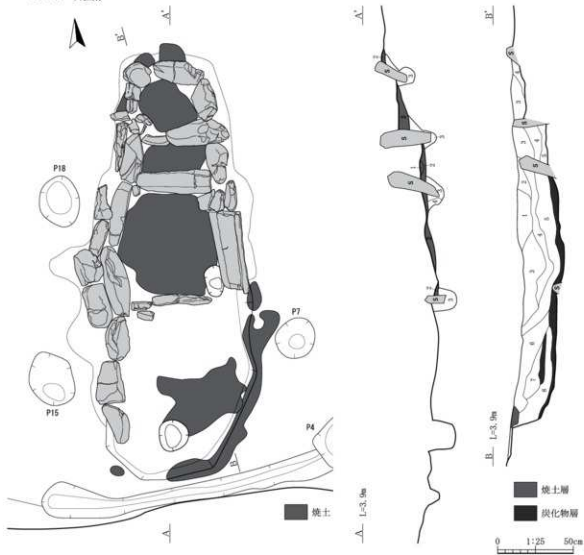


第27図 S 135竪穴住居跡(1)

## S135

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 締まり弱  $\phi 1\sim 5\text{mm}$ 炭化物5%,  $\phi 1\sim 10\text{mm}$ 小礫20%,  $\phi 1\sim 20\text{mm}$ 礫10%
2. 10YR5/1 暗褐色砂泥
3. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 締まり中  $\phi 1\sim 5\text{mm}$ 炭化物10%,  $\phi 1\sim 5\text{mm}$ 焼土ブロック5%,  $\phi 1\sim 20\text{mm}$ 礫10%
4. 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性弱 締まりやや弱  $\phi 1\sim 3\text{mm}$ 炭化物7%,  $\phi 1\sim 6\text{mm}$ 焼土ブロック10%, 3層土炭灰10%
5. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 締まり密  $\phi 1\sim 10\text{mm}$ 焼土ブロック10%, 炭化物煎灰20%,  $\phi 1\sim 3\text{mm}$ 小礫10%, 4層土炭灰10%
6. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 締まり密  $\phi 1\sim 10\text{mm}$ 焼土ブロック10%,  $\phi 1\sim 10\text{mm}$ 炭化物6%
7. 10YR4 じぶら黄褐色シルト 粘性弱 締まり密  $\phi 1\sim 20\text{mm}$ 礫20%,  $\phi 1\sim 10\text{mm}$ 炭化物10%,  $\phi 1\sim 10\text{mm}$ 焼土ブロック10%
8. 10YR4 褐色シルト 粘性弱 締まり密  $\phi 1\sim 20\text{mm}$ 礫10%,  $\phi 1\sim 10\text{mm}$ 炭化物5%,  $\phi 1\sim 10\text{mm}$ 焼土ブロック5%
9. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 締まり密  $\phi 1\sim 30\text{mm}$ 大礫,  $\phi 1\sim 3\text{mm}$ 焼土ブロック4%,  $\phi 1\sim 3\text{mm}$ 炭化物5%
10. 10YR4 褐色シルト 粘性弱 締まり密  $\phi 1\sim 20\text{mm}$ 礫10%,  $\phi 1\sim 10\text{mm}$ 炭化物5%,  $\phi 1\sim 10\text{mm}$ 焼土ブロック5%
11. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 締まり中  $\phi 1\sim 10\text{mm}$ 炭化物20%, 11層土炭灰10%

S 135 石囲炉



## S135 石囲炉(A-A')

1. 2. 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性弱 締まり密 礫化
2. 2. 5YR4/8 赤褐色シルト 粘性弱 締まり密 炭化物煎灰5%
3. 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 締まりやや弱  $\phi 1\sim 5\text{mm}$ 炭褐色ブロック5%
4. 10YR5/1 黄褐色シルト 粘性弱 締まりやや弱 4層土炭灰10%

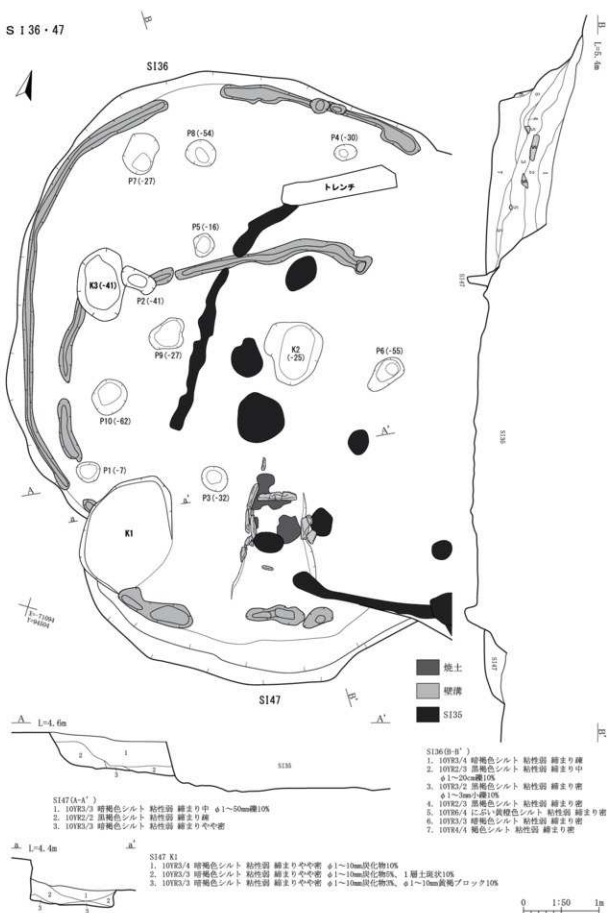
## S135 石囲炉(B-B')

1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 締まりやや弱  $\phi 1\sim 3\text{mm}$ 焼土ブロック2%, 2層土炭灰40%
2. 10YR1/7/1 黒色シルト 粘性弱 締まり弱  $\phi 1\sim 5\text{mm}$ 焼土ブロック2%,  $\phi 1\sim 3\text{mm}$ 炭化物10%
3. 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性弱 締まり密  $\phi 1\sim 3\text{mm}$ 焼土ブロック5%,  $\phi 1\sim 3\text{mm}$ 炭化物10%
4. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性弱 締まり密 炭化物多量含む
5. 10YR2/1 褐色シルト 粘性弱 締まり弱  $\phi 1\sim 10\text{mm}$ 焼土ブロック15%,  $\phi 1\sim 5\text{mm}$ 炭化物10%, 3層土炭灰10%
6. 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性弱 締まり弱  $\phi 1\sim 3\text{mm}$ 焼土ブロック5%,  $\phi 1\sim 3\text{mm}$ 炭化物10%
7. 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性弱 締まり中  $\phi 1\sim 5\text{mm}$ 焼土ブロック10%,  $\phi 1\sim 5\text{mm}$ 炭化物10%
8. 10YR4/3 じぶら黄褐色シルト 粘性弱 締まり中  $\phi 1\sim 10\text{mm}$ 焼土ブロック10%, 炭化物多量

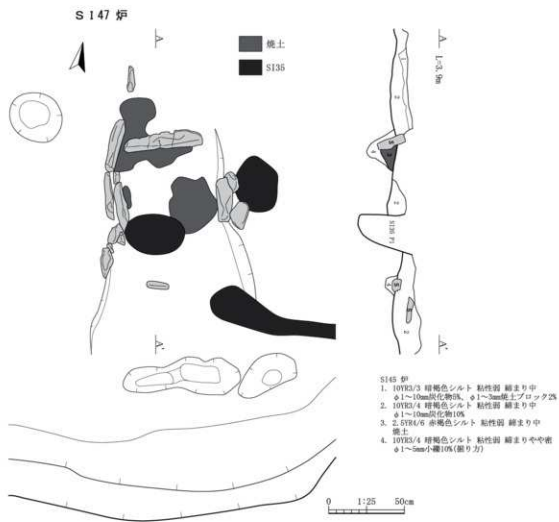
第28図 S 135竪穴住居跡(2)



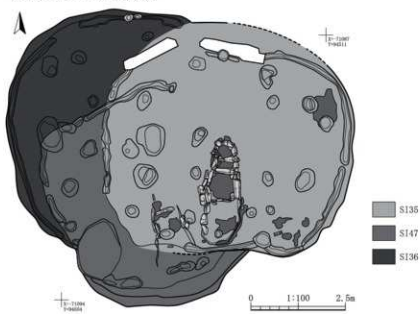
S 136・47



第29図 S 136・47 壁穴住居跡(1)

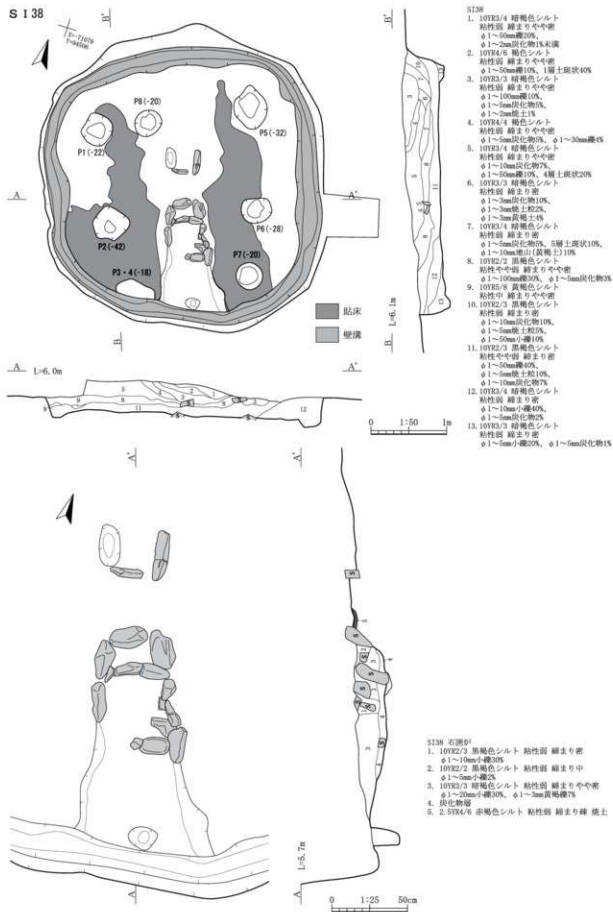


S 135・36・47 (重複状況)

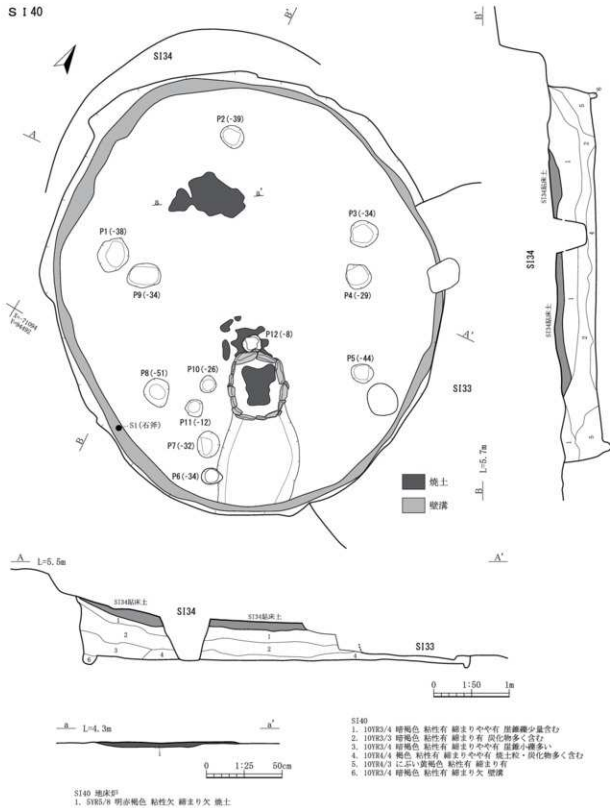


第30図 S 136・47竪穴住居跡(2)

3 検出遺構

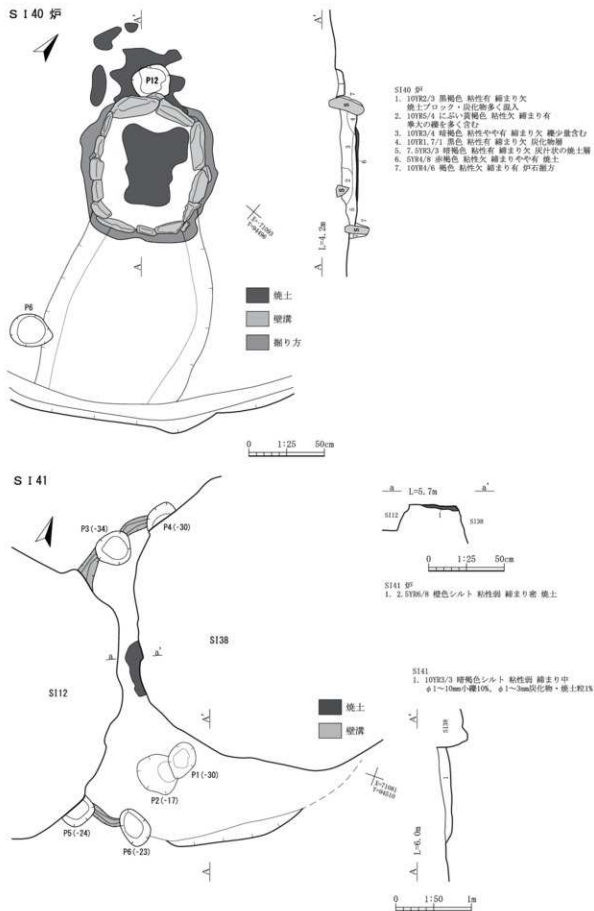


第31図 S I 38壁穴住居跡

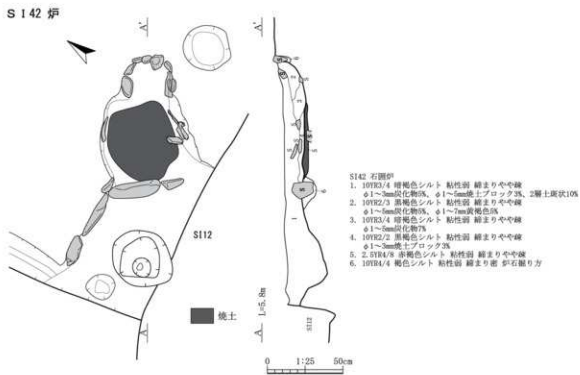
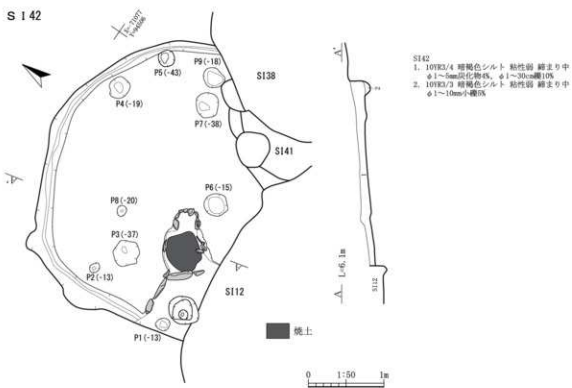


第32図 S 140竪穴住居跡(1)

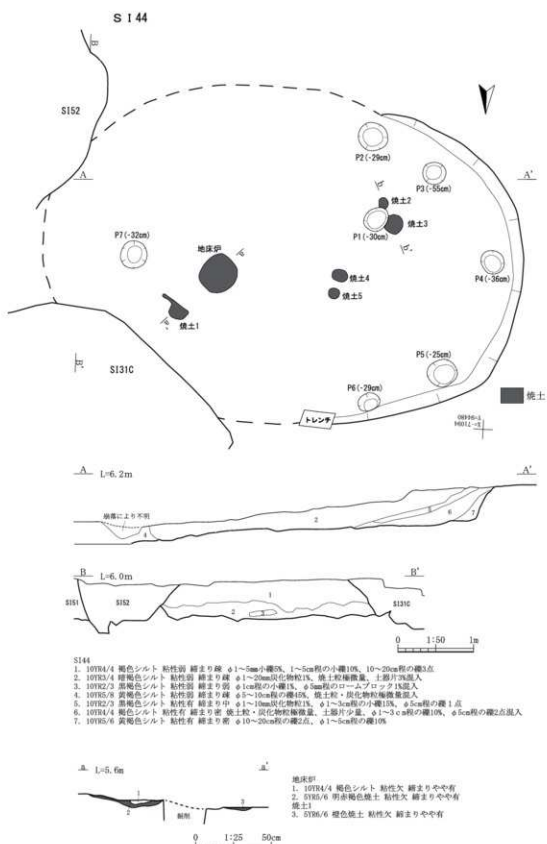
3 検出遺構



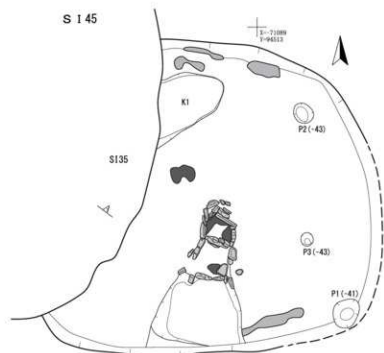
第33図 S 140(2)・41竪穴住居跡



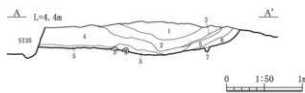
第34図 S I 42壁穴住居跡



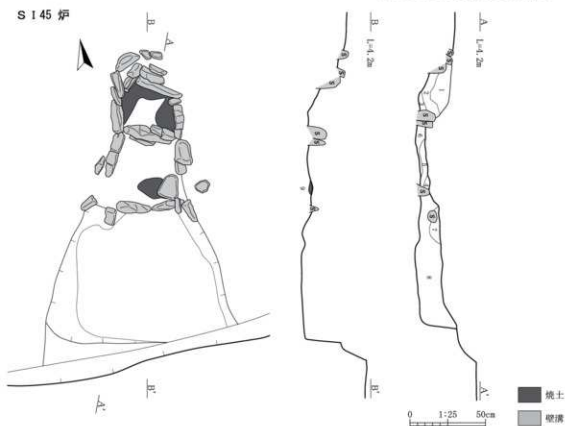
第35図 S144壁穴住居跡



- S145
1. 10YR4/2 灰褐色 粘性有 締まり有 炭化物微量含む
  2. 10YR4/3 に近い黄褐色 粘性不中有 締まり有
  3. 5YR3/6 暗赤褐色 粘性有 締まり不中有 焼土層
  4. 10YR4/2 に近い黄褐色 粘性不中有 締まり有
  5. 10YR4/2 に近い黄褐色 粘性有 締まり不中有
  6. 10YR3/1 黄色 粘性不中有 締まり不中有 炭化物層
  7. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり有 硬塊埋土



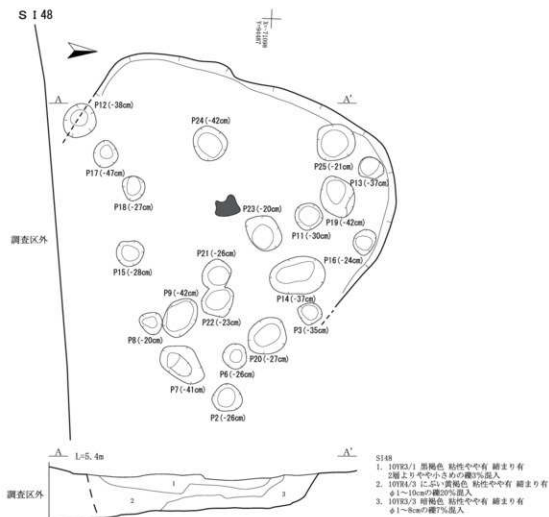
- S145 炉
1. 10YR2/3 暗褐色砂質土 粘性欠 締まり欠  
焼土・炭化物少量含む
  2. 10YR2/4 暗褐色砂質土 粘性欠 締まり欠
  3. 10YR2/2 黄褐色 粘性不中有 締まり欠 炭化物多い
  4. 10YR2/2 黄褐色 粘性有 締まり有  
黄褐色ゾロケ土露出部分
  5. 10YR2/1 黒色 粘性有 締まり欠 炭化物層
  6. 10YR2/3 暗褐色 粘性有 締まり不中有
  7. 10YR2/2 暗褐色 粘性欠 締まり有 炭化物多い
  8. 10YR2/4 暗褐色 粘性欠 締まり有 炭化物多い
  9. 5YR6/6 褐色 粘性不中有 締まり不中有 焼土



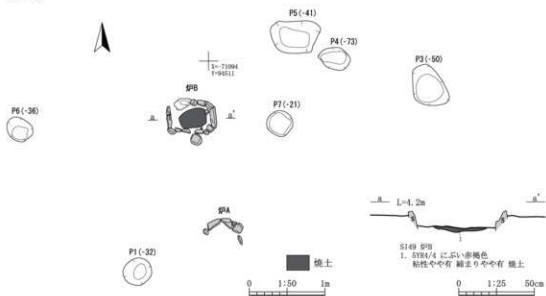
第36図 S145壁穴住居跡



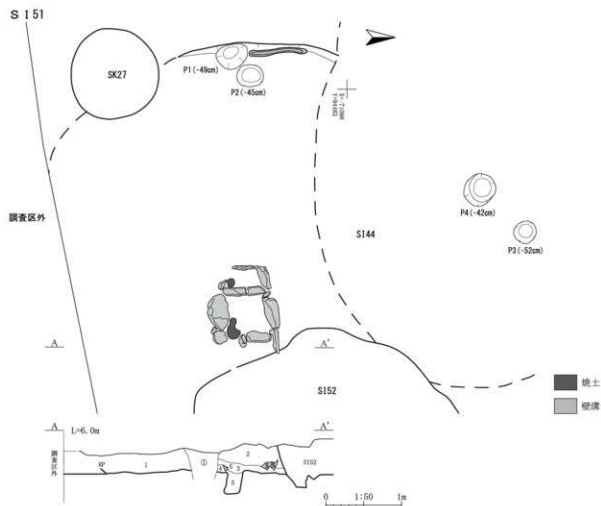
3 検出道構



S 149

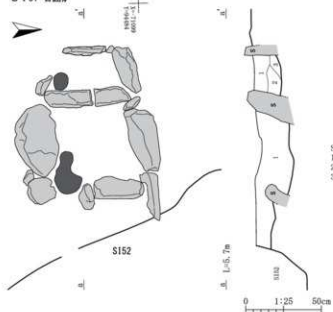


第37図 S 148・49 堅穴住居跡



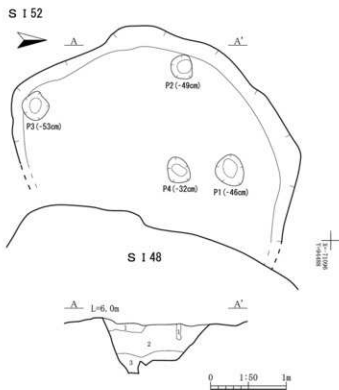
- S151
- ① 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 締まり硬 木遺構を切る柱穴のみ
  1. 10YR2/4 暗褐色シルト 粘性弱 締まり硬  $\phi$ 3mm程の小礫5%、1~5cmの小礫5%含む
  2. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 締まり硬、 $\phi$ 1cm程の小礫1%、5mm程のロームブロック1%混入
  3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 締まり硬
  4. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性強 締まり有  $\phi$ 5~15cm程の礫40%混入
  5. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性強 締まり有 特殊ピットのみ?

## S151 石囲炉

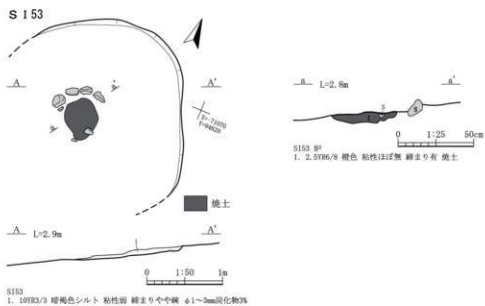


- S151 石囲炉
1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性欠 締まり有 炭屑多く含む
  2. 10YR2/1 黒色シルト 粘性有 締まり欠
  3. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性有 締まりやや有

第38図 S151壁穴住居跡

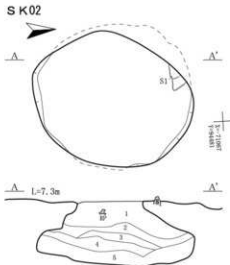


- S152
1. 10YR2/3 蒸棕色シルト 粘性弱 締まり中  $\phi$ 1~2mm炭化物3%,  $\phi$ 1~5mm小礫10%
  2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 締まり弱  $\phi$ 1~20mm炭化物2%, 1~3mm小礫10%
  3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 締まり弱  $\phi$ 1~20mm炭化物2%, S~10cm礫45%



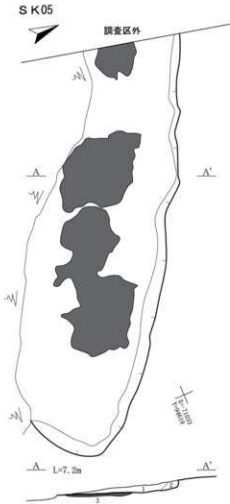
- S153
1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 締まりやや軟  $\phi$ 1~3mm炭化物3%

第39図 S152・53竪穴住居跡



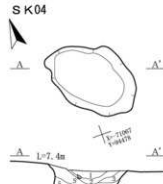
SK02

1. 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密 10mm大炭化物、約10cm大角礫混入
2. 10YR4/3 に近い黄褐色 粘性なし 締まり密 炭化物(粒)少量混入、部分的に角礫(5cm以下)
3. 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密 炭化物零状混入、部分的に角礫(10cm大)
4. 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密 角礫混入少量(部分的)
5. 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密



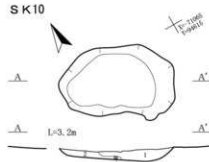
SK05

1. 10YR2/1 黒色 粘性やや有 締まりやや有 炭化物層、地山ブロック少量混入
2. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まり有 壁からの混入土
3. 2.5YR5/6 明赤褐色 粘性欠 締まり有 焼土、一部10YR7/3C灰色



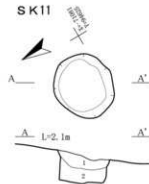
SK04

1. 10YR2/3 暗褐色 粘性なし 締まり極めて密
2. 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密 炭化物零状に混入
3. 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり密 焼土粒混入
4. 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密 焼土粒+炭化物・礫混入
5. 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密 約2cm前後の礫混入



SK10

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 締まり中  
φ1~2mm小礫5%, φ1~2mm炭化物5%, 1~2mm焼土ブロック3%
2. 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 粘性弱 締まり中  
φ1~2mm小礫5%, 1~2mm炭化物5%



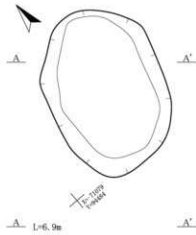
SK11

1. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まり有
2. 10YR4/3 に近い黄褐色 粘性やや有 締まり有

第40図 SK02・04・05・10・11土坑

3 検出道構

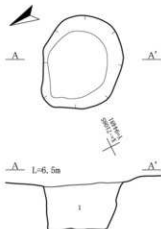
S K 14



SK14

1. 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締まり密 炭化物粒少量混入、5mm大雜混入
2. 10YR4/2 灰黄褐色 粘性なし 締まり密 5mm大雜混入
3. 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密 砂質20cm大雜多量

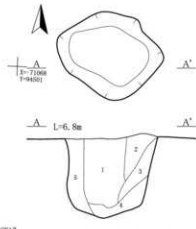
S K 15



SK15

1. 10YR2/2 黒褐色 粘性なし 締まり密 角礫大15%混入

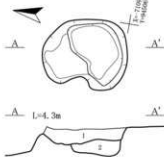
S K 17



SK17

1. 10YR1, 7/1 灰色シルト 粘性弱 締まりやや硬  $\phi$ 1~3mm炭化物、 $\phi$ 1~5cm礫10%
2. 10YR2/3 暗褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬  $\phi$ 1~3mm炭化物2%、 $\phi$ 1~3cm礫10%
3. 10YR2/2 黒褐色シルト 3層土混状20%、 $\phi$ 1~3cm礫5%
4. 10YR4/2 に近い黄褐色シルト
5. 10YR2/2 暗褐色シルト 4層土混状20%、 $\phi$ 1~3cm礫20%

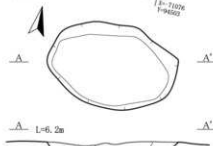
S K 18



SK18

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬  $\phi$ 1~5mm炭化物10%、2層土混状20%
2. 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬 1層土混状10%

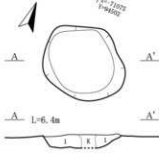
S K 21



SK21

1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬  $\phi$ 1~20mm礫20%
2. 礫層  $\phi$ 1~20mm
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬  $\phi$ 1~10cm礫5%

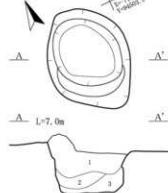
S K 20



SK20

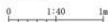
1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬  $\phi$ 1~5cm礫5%

S K 22

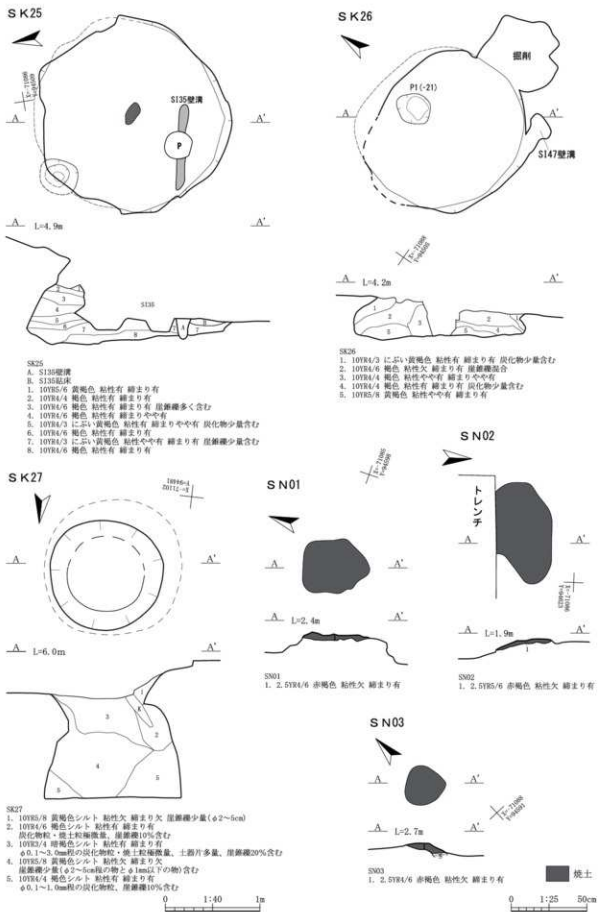


SK22

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 締まりやや硬  $\phi$ 1~5cm礫20%、2層土混状10%
2. 10YR2/2 暗褐色シルト 粘性弱 締まり硬  $\phi$ 1~5cm礫15%、3層土混状20%
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 締まり硬  $\phi$ 1~10cm礫5%、1層土・2層土混状30%

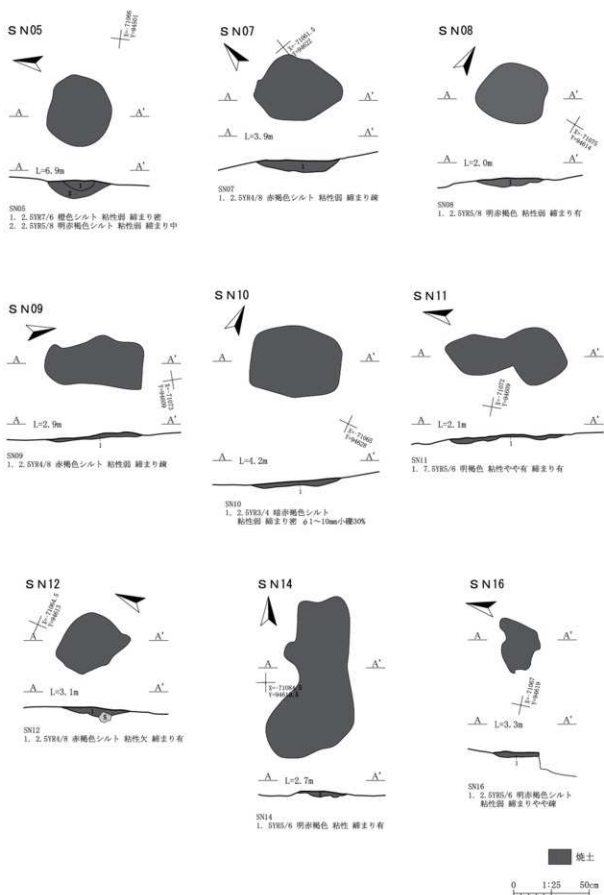


第41図 S K 14・15・17・18・20~22土坑

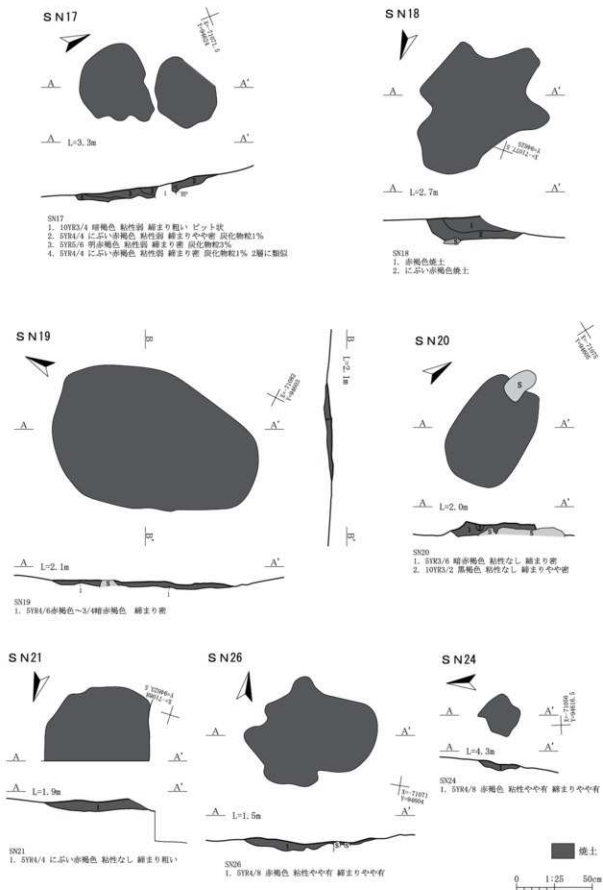


第42図 SK25~27土坑、SN01~03焼土遺構

3 検出遺構



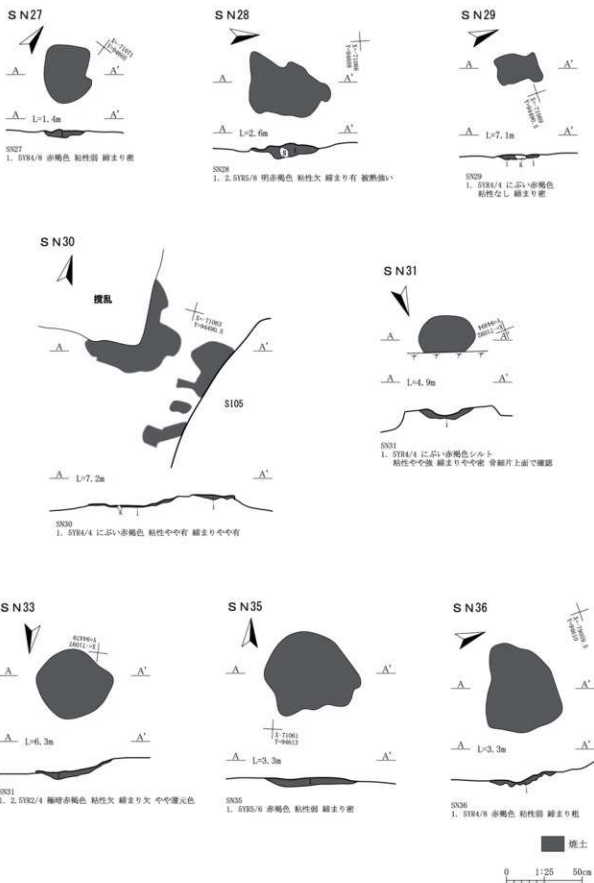
第43図 SN05・07~12・14・16焼土遺構



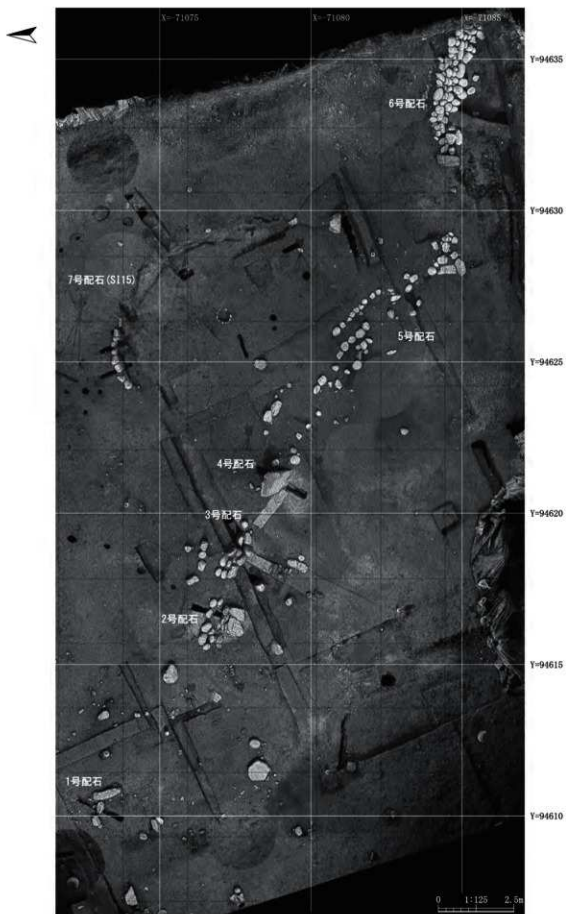
第44図 SN17～21・24・26焼土遺構



3 検出遺構

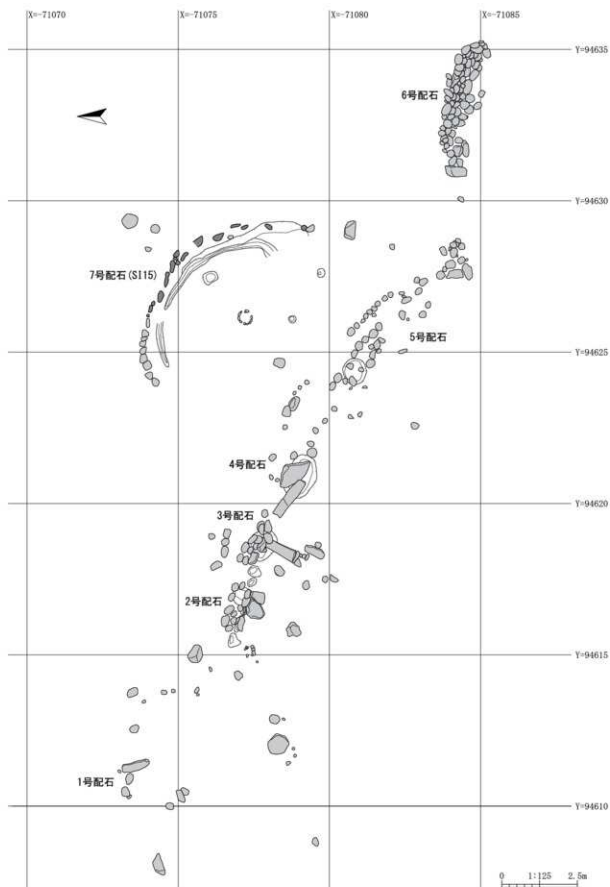


第45図 SN27～31・33・35・36焼土遺構



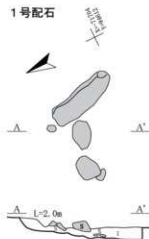
第46図 配石遺構全体図 (PEAKIT画像)

3 検出道構



第47図 配石遺構全体図

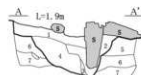
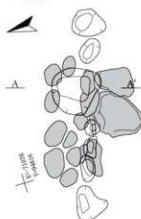
## 1号配石



## 1号配石

1. 10YR3/4 褐色 粘性弱 締まりやや硬  
圧縮率  $\phi$  1~3cm10%

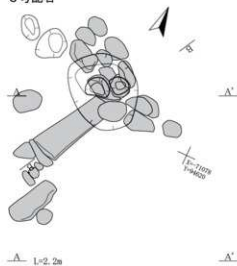
## 2号配石



## 2号配石

- 10YR3/3 暗褐色 粘性弱 締まりやや硬い、  
盛土と考えられる
- 10YR2/3 暗褐色 粘性弱 締まり粗い  
細粒砂10% 炭素質
- 10YR2/4 暗褐色 粘性弱 締まり粗い  
盛土粒2% 炭素質
- 10YR4/3 に近い黄褐色 粘性やや硬 締まりやや硬い
- 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり粗い  
細粒砂40% 炭粉の砂層と見なす
- 10YR4/4 褐色 粘性やや硬 締まり盛  
盛土粒20%、炭化動物1%、産卵層  $\phi$  1~5cm2%  
前期包含層
- 10YR2/3 暗褐色 粘性やや硬 締まり密  
盛土粒1%、産卵層  $\phi$  5~10cm1% 前期包含層

## 3号配石



## 3号配石



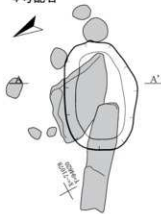
## 3号配石



## 3号配石

- 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり粗い 砂粒20%、炭化動物  $\phi$  5mm1%
- 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり粗い
- 砂粒10%、炭化動物  $\phi$  2~5mm1% 腐り方アイン
- 10YR4/3 に近い黄褐色 粘性弱 締まりやや硬い  
砂粒10%、炭化動物  $\phi$  5~10mm1%、赤褐色土ブロック  $\phi$  3cm1%
- 10YR2/3 暗褐色 粘性やや硬 締まりやや硬  
砂粒20%、炭化動物  $\phi$  5~10mm1%、盛土粒1% 前期包含層
- 10YR2/3 暗褐色 粘性やや硬 締まりやや硬  
盛土粒1%、炭化動物  $\phi$  10mm1%
- 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締まり粗い 砂粒40%
- 10YR5/4 に近い黄褐色 粘性なし 締まり粗い 海砂と考えられる粒子である
- 10YR5/2 灰黄褐色 粘性なし 締まり粗い 海砂と考えられる粒子である
- 10YR2/2 暗褐色 粘性弱 締まり粗い 産卵層  $\phi$  1~5cm1% 後期土器包含
- 10YR2/1 黄褐色 粘性弱 締まり粗い 炭き取り痕状

## 4号配石



## 4号配石

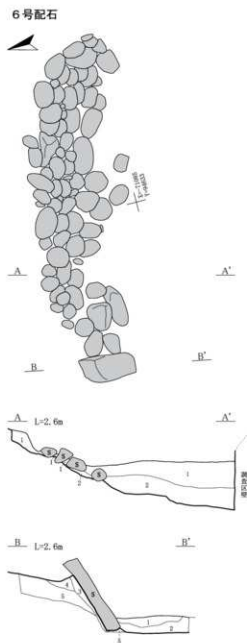
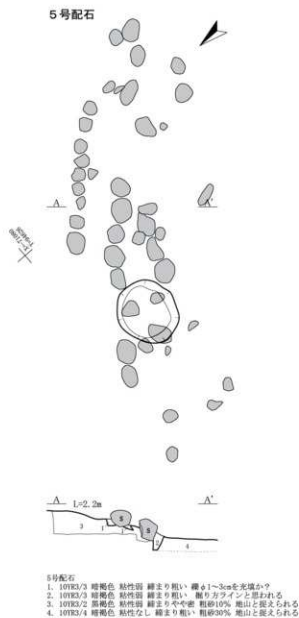


## 4号配石

- 10YR3/3 暗褐色 粘性弱 締まり粗い 盛土粒1%
- 10YR3/4 暗褐色砂質 粘性なし 締まり粗い 産土粒2%
- 10YR3/4 暗褐色砂質 粘性なし 締まり粗い 細粒砂20%
- 10YR4/3 に近い黄褐色 粘性弱 締まりやや硬  
盛土1層相当に記す
- 10YR2/4 暗褐色 粘性弱 締まりやや硬  
盛土1層相当に記す、前期土器包含
- 10YR3/4 暗褐色 粘性弱 締まりやや硬  
産卵層  $\phi$  2~5cm2% 埋没層
- 2.5Y/6 黄褐色 粘性弱 締まり密  
産卵層  $\phi$  6~10cm20% 地山

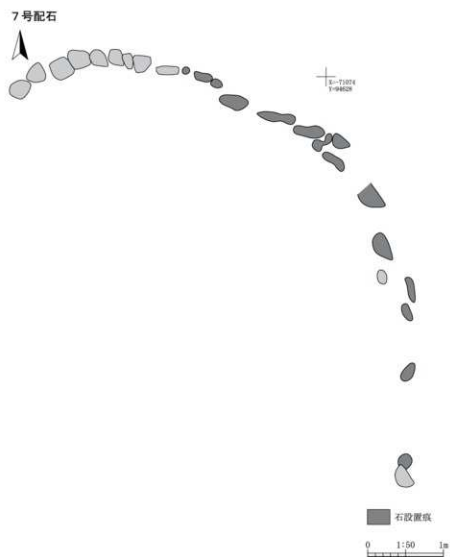
0 1:50 3m

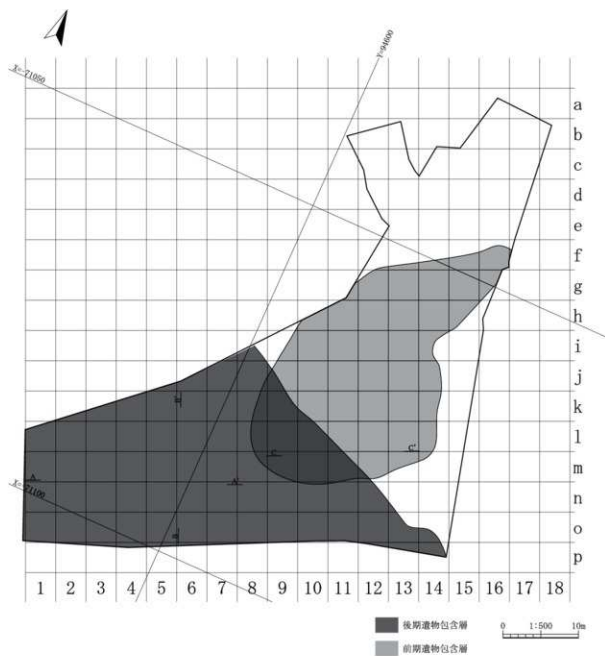
第48図 1~4号配石



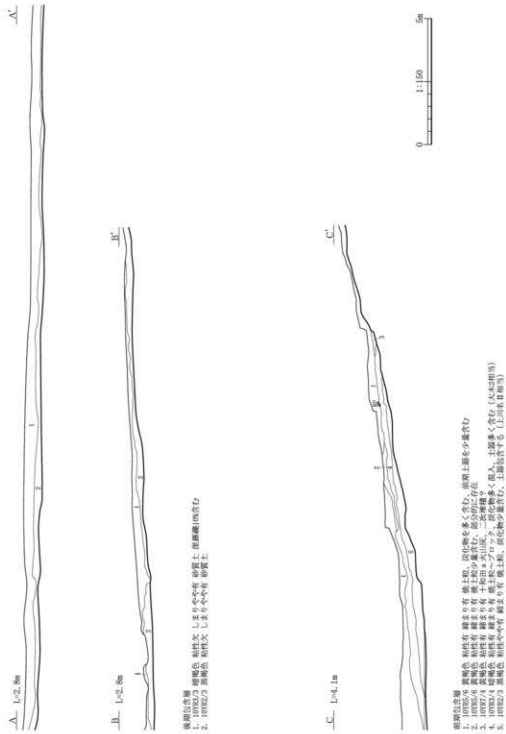
0 1:50 1m

第49図 5・6号配石





第51図 遺物包含層(1)



第52図 遺物包含層(2)



## V 出土遺物

今回の調査で出土した遺物の総量は、大コンテナ(42×32×40cm)換算で土器は111箱、石器・石製品類23箱、土製品124点である。ここでは、遺構内と遺構外出土遺物を併せて扱い報告する。

### I 土 器

今回の調査で出土した土器は、大コンテナで111箱(総重量1744.9kg)である。このうち、掲載したのは567点である。時代としては、縄文前期前葉、中期中～後葉、後期中葉の3時代に集中する。これに前後する時代の遺物も出土しているが、全体的には少量である。以下、時代ごとに分類し、報告する。

#### (1) 縄文時代前期

縄文時代前期と推定されるものを集めた。遺構内ではS I 06A・B・08・09・16・18・27から出土している。最も多いのは前期包含層からの出土で、そのほとんどが前葉に集中している。

**<前期初頭>**前期包含層出土の434～458が該当する。434～441は縄文庄原による炭状の渦巻文と三角形文で構成される。土器型式上は上川名Ⅱ式に比定されるものである。主文様の間には縦位または斜位の刻みが入る。434は地文の見える胴部まで残る個体だが、非結束羽状縄文が施されている。胎土には繊維を含むが、量は個体差または部位によって多寡がある。厚く、色調が橙色をすものが多い。442～456は尖底土器またはこの可能性のあるものである。単節縄文を横位回転施文するものが多いが、443・450・454・455は組紐による(可能性がある)もの、446・449は組紐によるものなどが見られる。443・447・449・450は乳房状の尖底部が見られる。444も尖底部が残存するが、あまり張り出しはなく、敷物痕もしくは回転痕なのか不明だが、中心から放射状に広がる文様が見られる。口縁部が残る451には上端に爪状の刺突痕、455には斜行刻みが見られる。455以外には繊維が含まれる。457・458は重層ルーブ文・磨消幾何学文が施される。胎土の色調は黒褐色土をし、繊維は見られない。

**<前期前葉>**遺構内では、36・37(S I 08)、40(S I 09)、50(S I 16・18)、51・52(S I 19)、54(S I 20)、63(S I 22・23)、66～68(S I 27)、前期包含層では459～522、遺構外では542が該当する。土器型式上では、大木1～2式に比定されるものを含めた。459・460は半完形個体で、口縁形状は平縁、口縁部文様帯にS字状結節縄文が施され、胴部には非結束羽状縄文が施される。同様のものは、37・67・461・463・464・469(?)・487。大きく残存しなければ把握はできないが、同じ文様帯構成で胴部の羽状縄文を菱形に構成するものとして、462・465・472・473・476に認められる。472・473・476は同文様を構成するが波状口縁となる。477・478は波状口縁で胴部に菱形文様を構成するが、口縁部文様帯は幅が狭く刺突列となる。同系統として468は胴部に単輪結条体1A類による菱形構成をする。以上はいずれも深鉢で、459・461・464・468・472などは底部から直線的な立ち上がりの器形を成すが、460・462・473・476・478・479・488などは胴部が曲線的に膨らむ。数は少ないが、54・493の小型鉢、494の浅鉢も見られる。505は口縁部は隆帯上に指頭による刺突列、頸部に単節縄文、胴部にS字状連鎖沈文が施される。506は連鎖沈文は見られないが、口縁文様が同構成をすることから同時期と判断した。507は505と頸部と胴部の文様帯が入れ替わった構成である。509は口縁上端に刺突列、直下は無文帯となり、結節縄文、連鎖沈文となる。514は連鎖沈文だが、原体は縄ではない可能性がある。動物の

随や蔓状のものか、515～518は刺突列+単軸絡条体5類となる。522は口縁部に刺突列による三角形文が見られる。ほとんどのものに横線が含まれる。

**<前期中葉～後葉>**本遺跡主要時期ではなく、該当する遺構はない。遺構内では、S I 01出土の8、S I 06出土の30、S I 20出土の55、S I 51出土の194、前期包含層では523～526、遺構外では528～532・543が該当する。型式上不明なものも多いが、30・525は浅鉢で、円形のボタン状のものが貼付けられる。大木4～5式に該当か。194・532は鋸歯状の粘土紐貼付、格子目状文が施される。大木4式に比定か。523は波状口縁で波頂部から連鎖する菱形文が見られる。大木4式か。529～532は大木6式に比定されるもので、半円状の貼付や波状沈線が見られる。

## (2) 縄文時代中期

今回の調査で最も多くの遺構がこの時代に帰属する。B区においては大半の遺構が中葉～後葉に含まれる。

**<中期前葉>**後述する中～後葉と比較して少量である。土器型式上は、大木7 a～7 b式に比定されるものを含めた。遺構内では、S I 06 A・B出土の31・32、S I 08出土の38、S I 15出土の47、S K 25出土の200・202、遺構外出土では527・544が該当する。31・32は口縁部に刺突列が並ぶ。47は大きな波状口縁から垂下する隆帯と波状の2重沈線が見られる。200は撮み状の把手が取り付け。202は浅鉢と思われ、垂下する波状沈線が弓引かれる。

**<中期中葉>**大木8 a～8 b式に比定されるものとした。破片資料については後葉のものと同判別できないものもある。地文は単節・複節縄文の縦位回転がほとんどである。遺構内では、12(S I 03)、15～22(S I 05・07)、33(S I 06 A・B)、42(S I 12)、56(S I 20)、86(S I 33)、102・104(S I 35)、116(S I 38)、118～121(S I 40)、137～153・160(S I 44)、177・178(S I 45)、187～193(S I 51)、195(S K 02)、197(S K 15)、201(S K 25)、204(S K 27)、遺構外では533～535・545～555が該当する。118は波頂部に渦巻文が付き、口縁部と同形状に隆沈線が巡る。149はキャリバー形の深鉢の口縁部片と推定され、楕円状に隆沈線区画、内部に羽状に刻みが施される。201・534・535もキャリバー形深鉢で、S字が縦位に展開するものであろう。以上が大木8 a式に分類できる。大木8 b式に比定されるものは、渦巻文を指標とした。15・21は隆沈線による渦巻文から派生する別の渦巻文が見られる。86は橋状把手部。137は渦巻形状が四角になりつつある。138は縦位区画の意識が明確になりつつある。138・140・141は中心の大渦巻に小渦巻が取り付け。150は小型鉢。153は大木9式との過渡期と思われ、渦巻文が四角に展開、楕円文区画が見えつつある。地文は単軸絡条体である。555も中心の渦巻文が大きく展開し、途中に小渦巻文が取り付け、沈線のみで施文される。

**<中期後葉>**大木9～10式に比定されるものを含めた。遺構内出土は、23～27(S I 05・07)、34(S I 06 A・B)、41(S I 12)、48・49(S I 16・18)、71～73(S I 31 A)、76(S I 31 B)、84・85・88(S I 33)、92・93(S I 34)、96～101(S I 35)、114(S I 36)、122～129(S I 40)、154～165(S I 44)、182～184(S I 48)、遺構外出土は536～539・556～563が該当する。大木9式は、隆沈線や沈線による円字文や楕円文を指標とした。地文は前期同様、単節・複節縄文の縦位回転が主体だが、単軸絡条体も見られる。48・49は埋設土器で、楕円文と円字文が沈線で施文される。76は壺で、耳状の裝飾が貼付される。186は渦巻文が縦位に展開し、楕円形を区画する。182は円字文と長楕円文が交互に施文されるが、円字内には刺突が巡る。556は一部渦巻文が縦位展開し、地文は単軸絡条体である。大木10式は、アルファベット文を指標とした。地文は大半が縦位方向で、区画内への充填縄文も見られる。26は小型鉢で沈線によるJ字状文や円形文区画に複節縄文が充填される。41は口縁部から隆線によりS・J字状に文様が

展開し、隆線間はミガキ、区画外は単節縄文が充填される。84は住居内埋設土器で完形個体であるが、4単位の波状口縁をし、口縁部からJ字状に胴部半ばまで隆線により区画。区画内外ともに単節縄文が充填される。85は同意匠の胴部文様だが、沈線により施文されるものである。96はほぼ完形個体で、口縁形状は平縁、横位のS字状に沈線区画され、区画内は単節縄文(充填後沈線引き直し)、区画外は無文となる。98は波状口縁で同系統の文様が展開する。114は沈線により卵型の文様が連結して垂下、区画を充填、卵型文の内部は刺突が施される。537は波状口縁、ステッキ状の沈線区画文様が垂下する。大木9式の口字文から変化したものと推測される。561は波状口縁、S字状に沈線区画が垂下し、区画内は単節縄文の充填、区画外は無文ミガキとなるが、S字文間には円形の凹文が見られる。

### (3) 縄文時代後期

後期に属するものをまとめた。大半がA区南側の後期包含層からの出土で、遺構内ではS I 01・08・20・28・35から出土が見られる。時期としては大まかに前葉～中葉が主体となるが、この時代の単独できる土器型式の複雑さもあり、明確な線引きができるか不安な部分もある(そもそも前葉と中葉の境も不明)。後期包含層においては、層位による前後関係は把握できなかったことから、一括することとした。

遺構内では、1～7・9・10(S I 01)、39(S I 08)、43(S I 14)、44～46(S I 15)、58～62(S I 20)、69・70(S I 28)、105～109(S I 35)、115(S I 36)、205～207(2号配石)、208(3号配石)、209(6号配石)、後期包含層では、210～433、遺構外では、566・567が該当する。深鉢・浅鉢・壺・注口土器など多様な器種が認められる。

深鉢で全容が分かるものとして、3は大きな山型の波状口縁を持ち、口縁と同形状の沈線により区画された内部に竹管刺突が見られる。胴部には波状入組文が展開し、文様内部は単節縄文が充填される。同様なものとして243がある。43は口縁波頂部にe字状沈線が描かれ、この直下に舟形に沈線が垂下する。105・106は沈線による幾何学文が施文される。同文様は211～215にも見られる。210は口縁部と胴部に複数条の平行沈線により文様帯が区画され、この間に斜行+曲線が平行沈線で描かれる。口縁部平行沈線から斜行沈線への連結部には、半截竹管が刺突される。胴部は単節縄文の横回転施文がされ、下部は無文帯となる。352・374は壺だが同様の文様と思われる。216はほぼ完形個体だが、3単位で口縁に耳状突起が付く。口縁部文様帯は耳状突起から連結するC字状沈線が複合して構成され、胴部は無文となる。217～222、330～332(浅鉢)もこの口縁部文様帯と同じ文様を持つ。247は小型鉢で、く字状の沈線区画がなされ、無文部と充填縄文部が交互に見られる。249も同様。251は大型の口縁部分である。幾何学文が施され、口縁部には上面から見るとS字状に捻じれた突起が付く。いわゆる華燭土器の一部と思われる。同系統の文様は252～261にも見られ、沈線に刺突列を伴うものと伴わないものがある。また突起についても同系統のものが出土しており、262～277がこれに当たる。278～287も口縁突起だが、これらは耳状突起としたものである。胴部に残る文様は同じく幾何学文+入組文となり、刺突列を伴うものも多い。296～306は胴部の一部が屈曲する器形をする。296は胴上半部に指頭幅の沈線があり、器形もこの部分で屈曲する。300も同様。297～299は口縁端部から距離を置いて、幅の広い無文帯が見られる。これらも器形の変換点は概ね無文帯の部分にある。

330～351は浅鉢である。330は上述したが、C字状に沈線が複合し、胴部は無文。沈線間は充填縄文か。334は胴部に平行沈線が見られ、2条ずつ沈線が垂下する。330と同意匠か。336は頸部に浮彫状の隆沈線が巡り、胴部には沈線により波濤文が見られる。337・338は平行多重沈線に( )文・楕円文が付く。342・343は幾何学文、344・345は沈線による幅の広い区画がされる。

62・352～401は壺である。62は巴状文、354はS字状文、355は波状入組文が展開する。356はつ字状に沈線が展開、縄文部分と無文部分は反転すると同一意匠となり、上部の羽状縄文は菱形構成をする。357は2段の楕円文区画が見られる。358～361は入組文系、362は大きな楕円形文が区画される。379は花卉状の入組文が展開し、中心には臍状の突起を持つ。380は底部、381・382は口縁部を欠くが、胴部半ばに強い屈曲を持つ。383～390は長頸壺である。いずれも小型である。384～389は胴上半部より上に文様が施される。391～401は壺と想定される破片を集めた。399は橋状把手が頸部に取り付け。398は頸部か。400は底部片だが、S字状の隆線が下端まで施文される。

1は注口土器である。注口部は器形の屈曲部にあり、注口部の対面には円形突起、両側面には橋状把手が付く。突起の背面には上端から垂下する隆沈線の円文が描かれている。屈曲部に沿って刻みが施され、胴部全体はミガキが施されている。402も同様の形状を示すものである。注口部は胴部中位にあり、口縁部には401と同様の装飾が見られる。胴部には全体に連文や波状入組文が展開する。破片資料だが同様に、403にも注口部の対となる突起(403b)が見られる。2は小型の注口土器である。壺型をしており、口縁部には隆沈線によるC字状の楕円文、胴部には浮彫状の楕円入組文が見られる。区画内には刻み状斜行沈線により菱形が構成される。このような菱形構成の文様は206・207にも同様に見られ、206は( )状文を中心にその周囲に、207は菱形+S字状文の区画外に施文される。また、2の口縁部と同形状の破片も見られ、415～417がこれに該当する。409はミニチュア土器の部類に入るかもしれないが、かなり小型のものである。側面にはつまみ状の突起が付き、全体には沈線による入組文が描かれる。410は注口部に連結する把手上の装飾が見られ、注口部の傾きもほぼ真上を向いている。

420～433は器台付底部片である。上に取り付く器形は不明。420は隆沈線による入組文が施され、無文部は強いミガキが見られる。全体に赤色塗料が塗布されている。425は複数条の平行沈線が引かれ、羽状縄文が構成される。内部底面には竹管刺突が見られる。426は器高が18cmほどある。433は中央に透かしがあるものである。

## 2 石器・石製品

今回の調査で出土した石器は、大コンテナで23箱である。このうち掲載したのは459点である。掲載器種は、石鎌・石錐・石匙・石槍・スクレーパー類・磨製石斧・石錘・礫器・特殊磨石・敲磨器・凹石・台石・砥石・石製品・石核である。掲載基準としては、剥片石器類・石製品は原則全点掲載することとし、礫石器類については、写真のみの掲載としたもの、掲載に至らなかったものがある。特に敲磨器については、自然石と判別が付かないものが含まれており、明らかな人為痕跡が認められるものを掲載対象とした。以下、器種ごとに遺構内外併せて概観する。

<石鎌>126点を掲載した。掲載器種の中で最も多く出土している。遺構内から29点、後期包含層から44点、前期包含層から46点、遺構外から7点である。茎の有無や基部の形態から5類に細分した。①無茎で基部に挟りが入るもの(凹基鎌)、②無茎で基部が直線的なもの(平基鎌)、③無茎で基部が丸みを持つもの(円基鎌)④茎を持つもの(有茎鎌)、⑤異形なもの。①に該当するのは65点である。6・18～21・26・35・36・44・51・52・75・128・139～164・270～294・446。②に該当するのは39点である。17・27・37・38・53～59・136・177～179・295～313・436・437・447～449。③に該当するのは314・315の2点である。④に該当するのは17点である。33・34・66・67・165～176・450。基部の状態がはっきりしないことから、有茎鎌とまとめた。34は茎が瘤み状を呈する。⑤182のみ該当。凹基鎌の一部と考えられるが、①とは明らかに形態が異なることから、ここに分類した。

＜石錘＞遺構内から2点、後期包含層から4点、前期包含層から3点の計9点を掲載した。68・95・183～186・316～318。握みが付くのは68・316である。その他は長菱形状や棒状を呈する。

＜石匙＞定形的な形状で、握み部を有し、刃部を作り出しているものをこれに含めた。94点を掲載した。遺構内から12点、後期包含層から23点、前期包含層から53点、遺構外から6点である。形態から7類に細分した。握み部を上部にした場合、①身部が縦長になるもの、②身部が横長になるもの、③身部が斜めになるもの、④身部が三角形をするもの、⑤身部が円いもの、⑥上記5類から外れ、異形なもの、⑦欠損により不明なもの。①に該当するのは、9・49・60・61・82・124・129・132・137・187～196・319～341・343・346・348～351・439・440・452・453の52点で、全体の半分超がこれに含まれる。柳葉状となるものが多い。343や346は下端部にも直線的な刃部が作出されており、④類と類似するものもある。②に該当するのは、22・197～202・352～360の16点である。③に該当するのは、88・203・361～367・371・451の11点である。④に該当するのは、204・205・342・347の4点である。205は下端を欠損するが、204と同形状と思われる。342は下端と片側縁にのみ刃部がある。⑤に該当するのは、207～209の3点である。208は背面に剝離痕跡は見られない。209は一部を欠損するが、同形状と推測した。⑥に該当するのは、28・206・344・345・368・369・438の4点である。28・438は異形石器の範疇に入ると思われるが、握み部が作出されていることから、本器種に入れた。369はブーツ状の形状をし、下端に大小2つの突出部が見られる。⑦は370のみ該当する。握み部のみが残存する。

＜石槍＞両面・両側縁に刃部があるもの、機能的に刺突具とするものを石槍とした。握み部を作出するものもあり、石匙と混同するものもあるが、左右対称な形状を持つものを抽出した。遺構内2点、後期包含層2点、前期包含層12点の計16点を掲載した。握み部の有無から2類に分類した。①握み部を有するもの、②握み部のないもの。①には210・372～380、②には62・63・211・381～383が該当する。すべて頁岩を素材としており、前期からの出土が多い傾向にある。

＜スクレーパー類＞上記の定形的な剥片石器類に該当しないが、刃部があるものを一括した。遺構内3点、後期包含層11点、前期包含層15点、遺構外3点の計32点を掲載した。39・100・123・213～222・384～398・441・454・455が該当する。大半が頁岩を石材とするが、454は黒曜石である。

＜磨製石斧＞33点を掲載した。遺構内から11点、後期包含層から11点、前期包含層から11点が出土している。1・7・64・65・69・83・89・119・130・133・134・223～233・399～409が該当する。1・7・89・405は刃部に使用痕が見られる。227(・228もか?)・406は破損がないにもかかわらず、長さが短い完形個体と思われる。破損後再加工・再使用した可能性がある。223・224は後期包含層中のほぼ同地点から出土したものである。223は長さ22cm、224は長さ20cmの大きな個体である。破損・使用痕も認められないため、祭祀儀礼に関する可能性がある。石材としては、蛇紋岩や閃緑岩系が多く使用されている。

＜石錘＞円礫の側面に挟りが認められるものとした。45・443・444の3点を掲載した。いずれも両側面に挟りがある。

＜礫器＞礫の縁面に刃部のあるものとした。遺構内1点、後期包含層2点、前期包含層3点、遺構外1点の計7点を掲載した。40・234・235・410～412・442が該当する。40は両側面に刃部が作り出され、背面には自然面が残る。234・411も同様である。

＜特殊磨石＞後述の敲磨器と区別し、扁平礫や円礫の稜や幅の狭い側面に磨り痕跡が見られるものとした。敲打痕や凹み痕が複合的にあるものもあるが、それらについてはここに含めた。遺構内から26点、後期包含層から5点、前期包含層から11点、遺構外から1点の計43点を掲載した。2～4・8・12～15・30・41・71・76・90～92・96・101・102・108～112・117・118・125・236～240・413～423・456

が該当する。2・101は表面にも磨り痕が認められる。110・239・419・422は別面に敲打痕が見られる。420は磨石として使用後に敲打痕が見られる。421・423は別面に凹み痕が認められる。

＜**敲磨器**＞礫に敲打痕や磨り痕が見られるものを一括した。両痕跡が認められるものもあり、一連の動作での使用が窺える。なお、後述する凹石との複合的な使用が認められるものもあるが、それらについては、凹石として掲載している。また、写真掲載のみに留めたものも多数ある。掲載したのは66点である。①敲打痕のあるもの、②磨り痕のあるもの、③敲磨痕両方があるものの3類に分類した。①に該当するのは15点で、23・24・43・73・103・120・135・248～251・428～431。②に該当するのは、44点で 5・25・31・32・47・48・70・72・80・81・84～86・94・97・98・106・113～116・126・127・138・242～245・247・252・254～262・424～427・457。③に該当するのは7点で、74・77～79・241・253・445。

＜**凹石**＞礫に凹み痕が確認できるものを分類した。遺構内から5点、後期・前期包含層から各1点、遺構外から2点の計9点を掲載した。該当するのは、10・46・93・104・105・246・432・458・459である。凹石の中央部に凹み部がものが多い傾向にある。10は側面に一部敲打痕が認められる。246は凹み部を中心に周囲に磨り痕が認められる。

＜**台石**＞表面に使用痕跡が認められる扁平部分を持つ礫を分類した。遺構内3点、後期包含層2点、前期包含層1点の計6点を掲載した。42・99・107・263・264・433が該当する。42は石囲炉に使用されていたものである。

＜**砥石**＞11はS I 06石囲炉に使用されていたものである。角柱状をするが主に3面に擦痕が見られる。50はS I 22・23から出土しており、数個の穴が開く。先端の尖った石器の調整に使用された可能性があることから、砥石に含めた。

＜**石製品**＞5点を掲載した。121・122はS I 48から出土。121は石棒の一部と見られる。122は軽石の中央に孔が穿たれている。265～268は後期包含層から出土。265は棒状石製品、266・267は石棒である。267は両端に周回する線刻が入る。268は杵状をする。

＜**石核**＞後期包含層出土の269、前期包含層出土の434・435の計3点を掲載した。いずれも北上山地産の頁岩である。

＜**その他**＞最後に石器ではないが、「軽石」と総称した火山起源の石が遺構内埋土より3点出土している。S I 05・07出土の16、S I 33出土の87、S K 27出土の131が該当する。16・87は黒色のザラザラした表面をする。岩手山起源の安山岩である。131は濁った白色をするが、こちらは十和田火山起源の軽石である。人為的に搬入された可能性がある。

### 3 土 製 品

土製品は124点が出土し、114点を掲載した。種別は、土偶・斧状土製品・鐮形土製品・土製耳飾り・ミニチュア土器・円盤状土製品である。原則全点掲載したが、ミニチュア土器と円盤状土製品については破損の多いものや全容が不明なものは不掲載とした。以下、種別ごとに報告する。

＜**土偶**＞1～22の22点を掲載した。出土地点はすべて後期包含層からである。完形個体はなく、すべて部位破片である。1～3は頭部である。2のみ下顎部分が破損するがいずれも逆三角形を呈するものと思われる。1・3は頭髪を斜位の刻みで表現している。眉・鼻はV字状の隆線、鼻孔は2箇所刺突で表現されている。目は1・2は竹管？刺突、3は貫通孔となる。口は1は目と同様の刺突痕、2は刺突痕の上端が僅かに残っている。3は多数の刺突痕で表現されている。2は後頭部に縄文瓦痕が

施文され、3は首まで口と同じ刺突痕が施される。首は背面の中央から柱状に伸びる。4～6は左腕部で、4・5には手に窪みが見られる。7も左腕部～左肩部で手には同様の窪みが認められるが、他のものよりかなり大きいものである。22は左肩部と推定される。8～17は胸部～胴部が残る個体である。胸部がわかるものについては、すべて乳房が膨らみ、8～10・14には刺突により乳頭も表現されている。8は腹部が膨らみ、妊娠を表現している。15も乳房と同様の小さな膨らみを持つが、同様の妊娠表現と考えられる。全体に刺突痕が施文されるものが多く、8～12・14は乳房間に認められる。15は股間部にも刺突が1箇所施されており、女性器を表現したものと推測される。18～21は脚部破片である。20は指先の表現に刻みが用いられている。別部位との接続部分がソケット状となるものがあり、8・13・16・22に見られる。部位ごとの制作が窺える。また破損部にアスファルトが付着するものもあり、11・17・20が該当する。

＜斧状土製品＞23・24の2点を掲載した。23はS I 02から出土、24はB区遺構外からの出土である。23は上部破片で、上部に貫通孔が穿たれており、全体に複節縄文が施文されている。24は下部破片で、縁辺部に沈線、全体に単節縄文が施文されている。文様から中期後葉に帰属と考えられる。

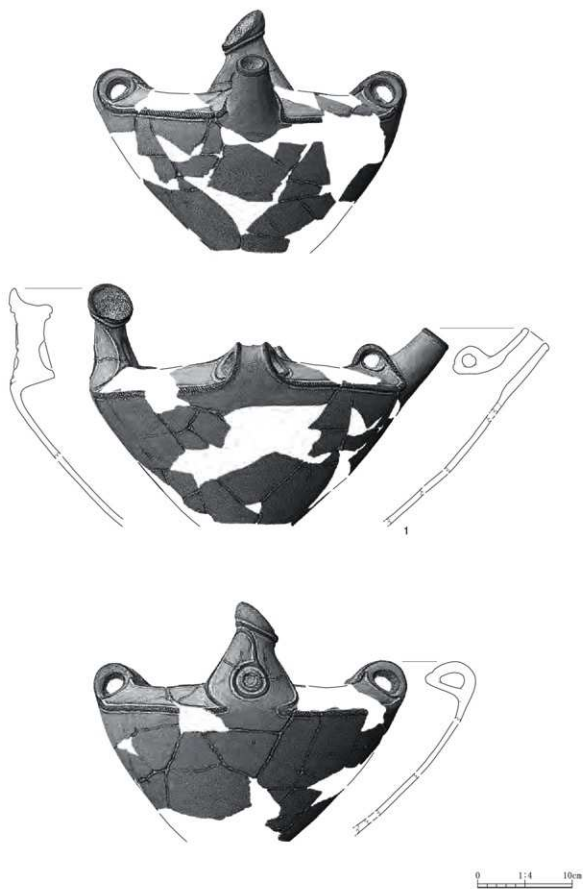
＜鐮形土製品＞25・26の2点を掲載した。どちらもS I 20からの出土である。25は十字状に沈線と刺突列が施文される。26は下半部が欠損する。どちらも上部に紐通しであろうか貫通孔が認められる。出土地点は前期前葉の遺構だが、他遺跡の状況を見ると後期に伴う場合が多いようである。25の文様も後期前葉の土器に類似することから、後期に帰属か。

＜土製耳飾り＞27の1点を掲載した。後期包含層からの出土である。耳栓形をし、朱塗り認められる。

＜ミニチュア土器＞28～31の4点を掲載した。いずれも後期包含層からの出土。28・29は壺で、28には全体に朱塗りが認められる。31は器台部で、沈線が巡る。

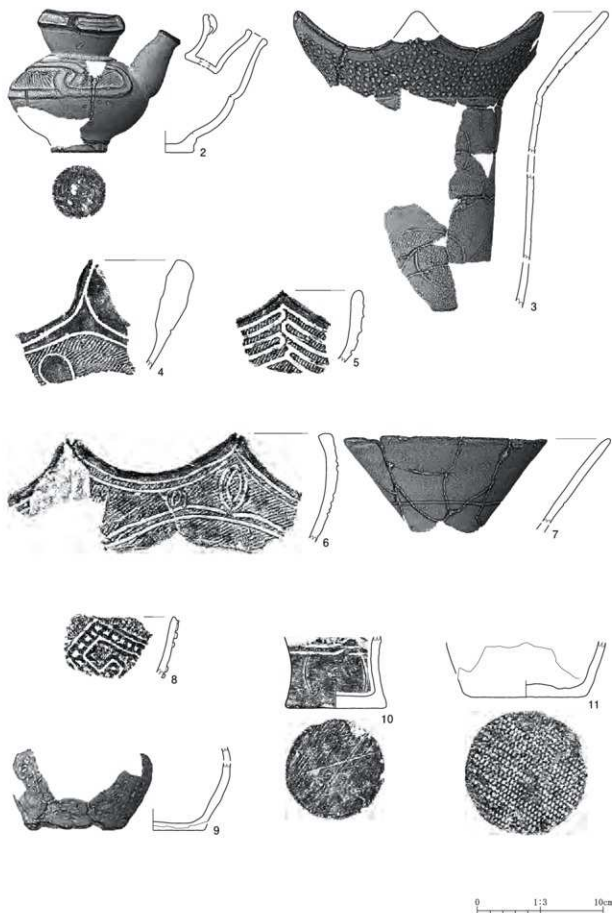
＜円盤状土製品＞32～114の83点を掲載した。32～75は遺構内、76～89・93～98は後期包含層、90～92・104・105は前期包含層、99～103・106～114は遺構外出土である。破損した土器破片を円形にしたもので、周縁が研磨されたものを集めた。文様から時期が特定できるものもあるが、縄文のみが残るものが多い。前期・中期・後期いずれの時代のものも認められる。43・65・72・107・110は中央に孔が見られるものだが、43・65・72は貫通孔、107は表表面に窪みは見られるが未貫通、110は表面のみ窪みが見られる未貫通孔と思われる。

＜その他＞土製品ではないが、115の粘土塊1点がS I 33から出土している。用途は不明だが、土器材の可能性が考えられる。

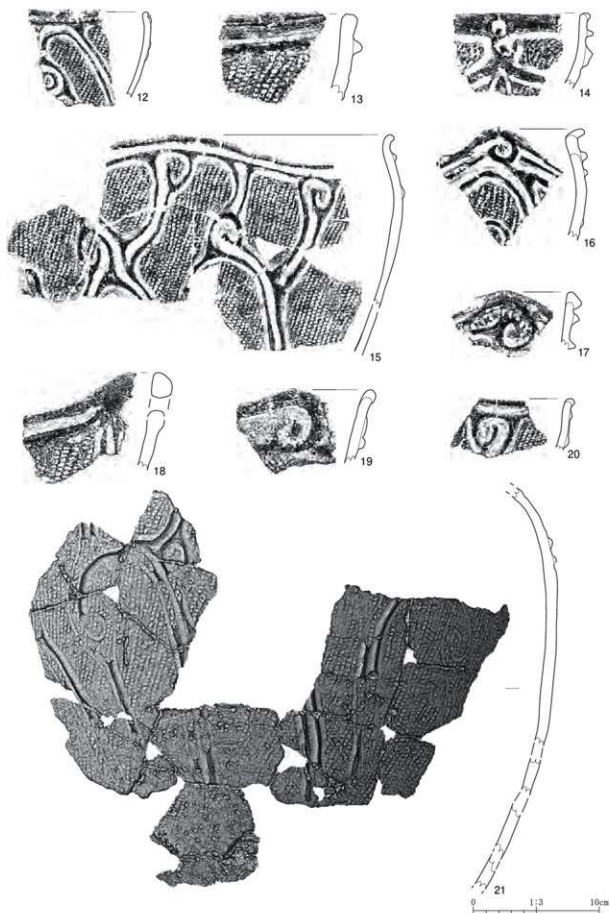


第53図 S101(1)出土土器

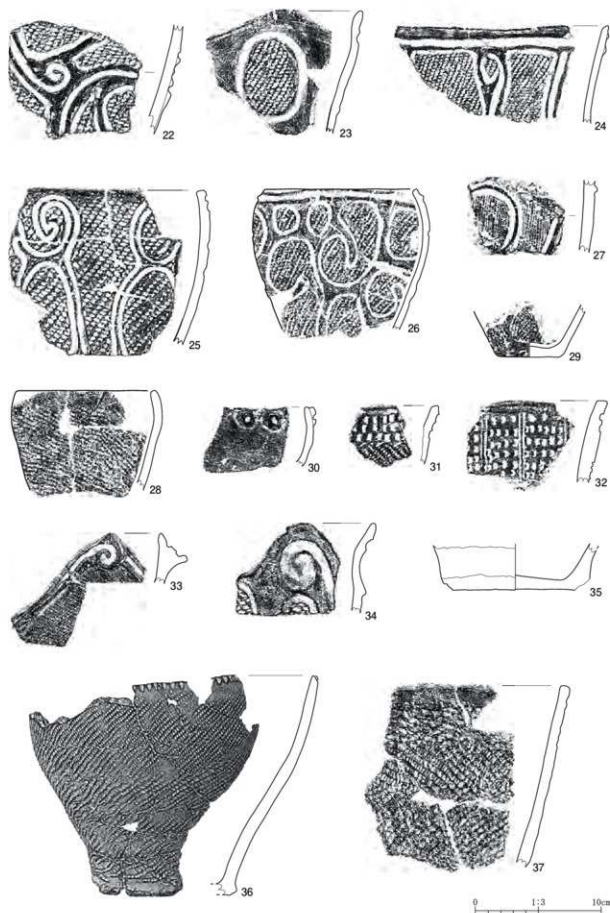




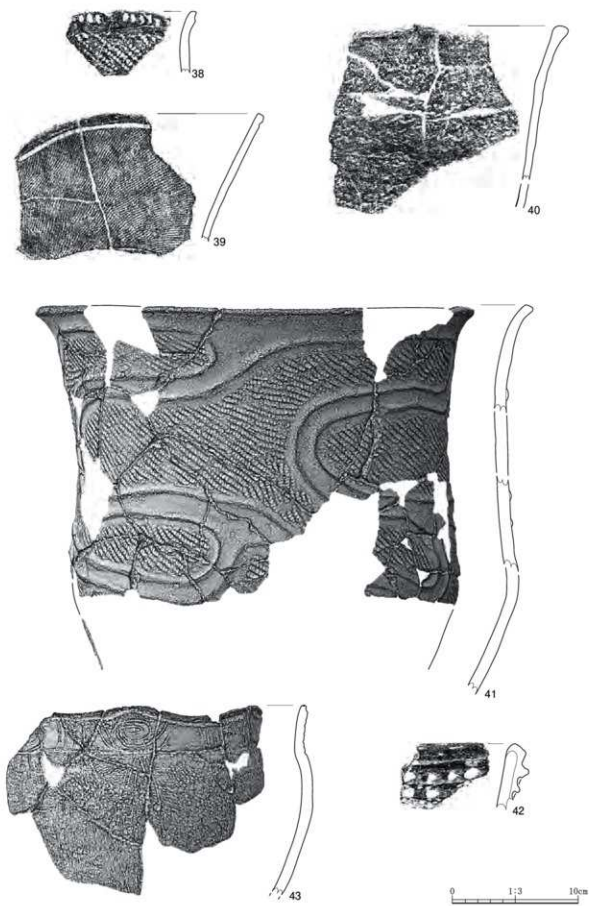
第54图 S101(2)出土土器



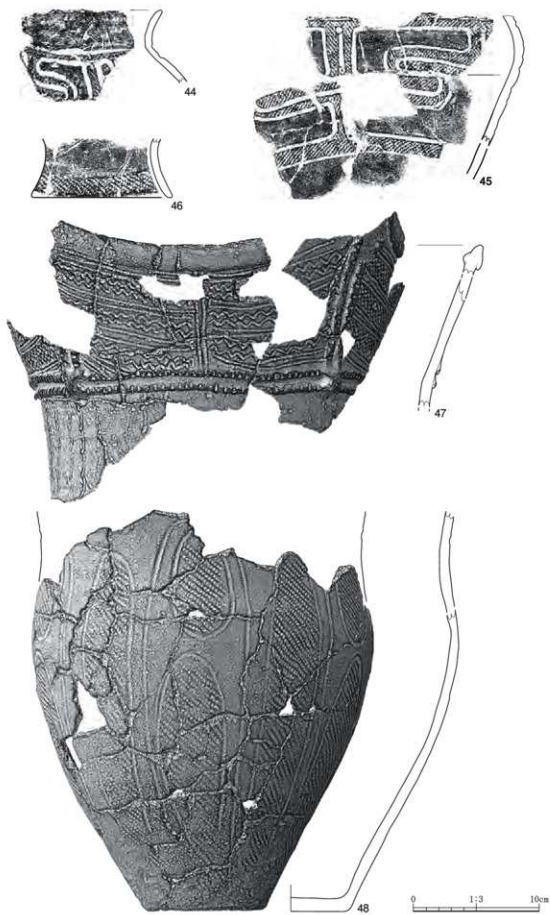
第55图 S103、S105·07(1)出土土器



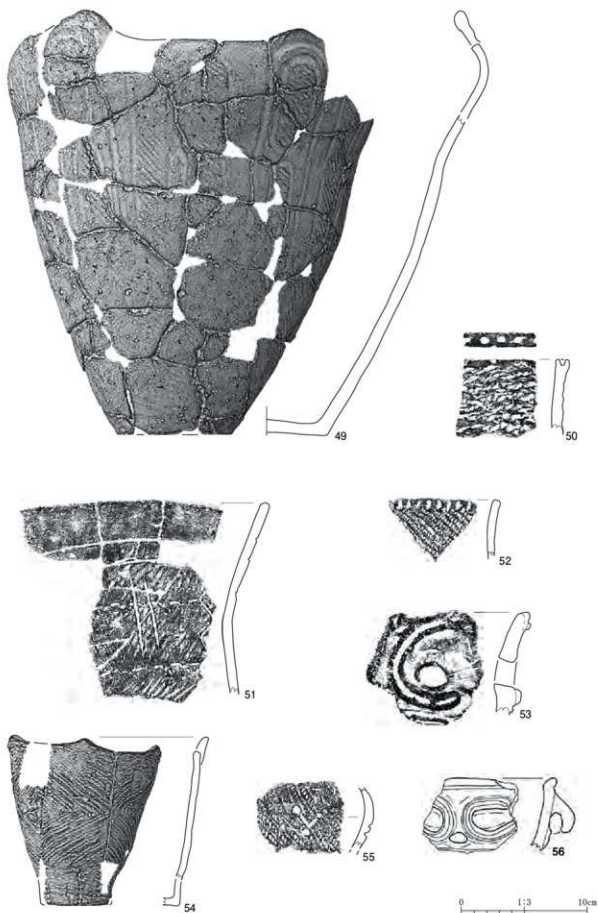
第56图 S 105·07(2)、S 106A·B、S 108(1)出土土器



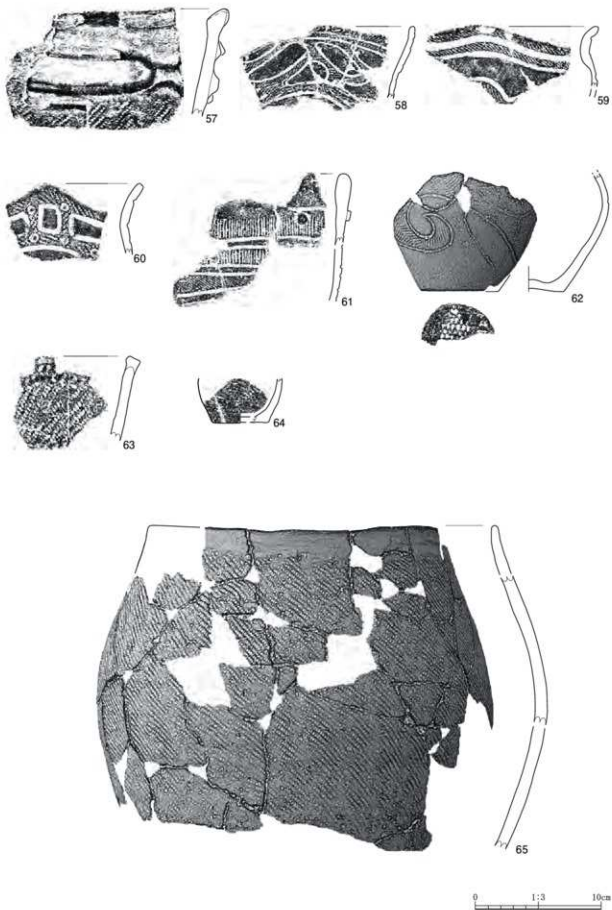
第57圖 S108(2)、S109、S112、S114出土土器



第58図 S I 15、S I 16・18・S F 01~03(1)出土土器

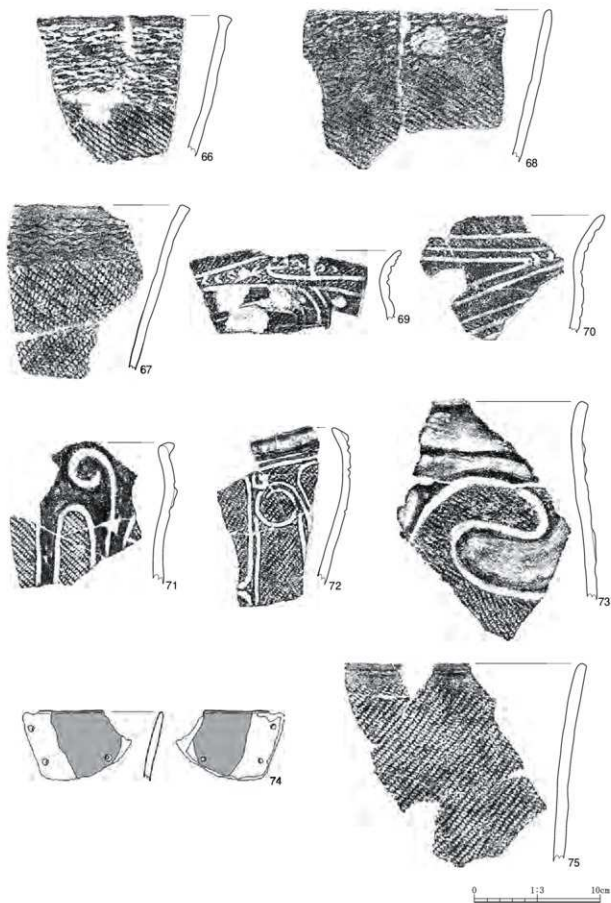


第59図 S I 16・18・SF01~03(2)、S I 19、S I 20(1)出土土器



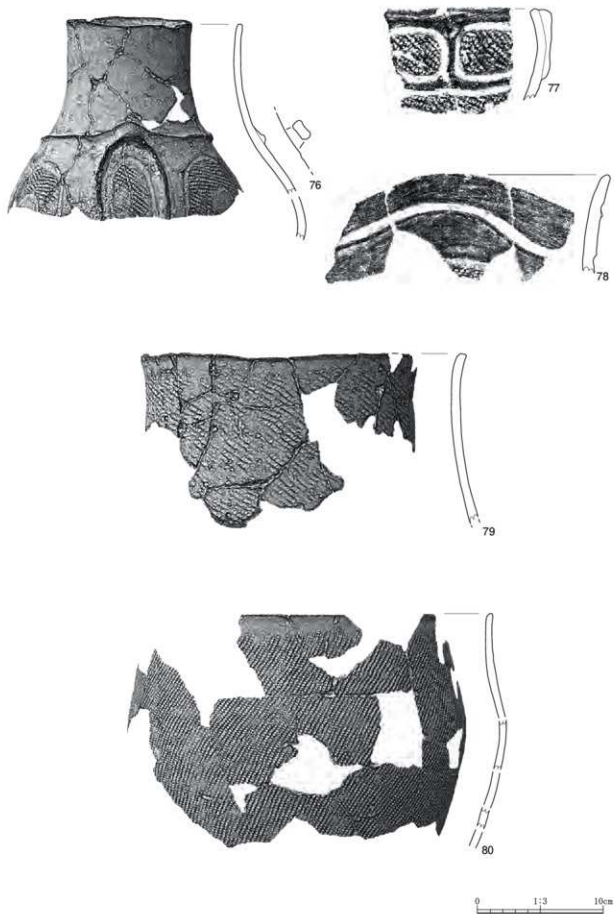
第60圖 S120(2)、S122・23、S127(1)出土土器



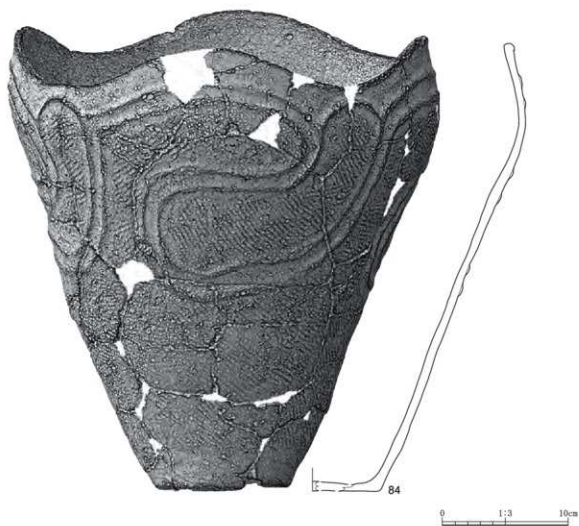
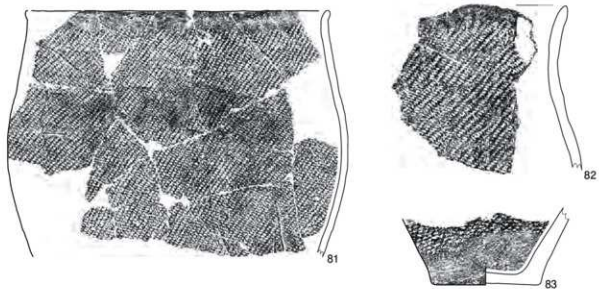


第61図 S I 27(2)、S I 28、S I 31A出土土器

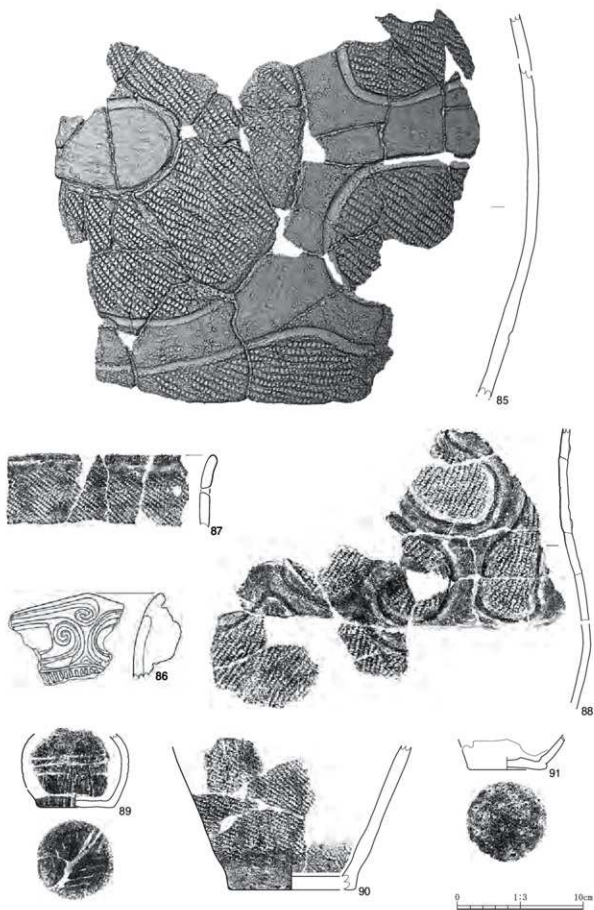




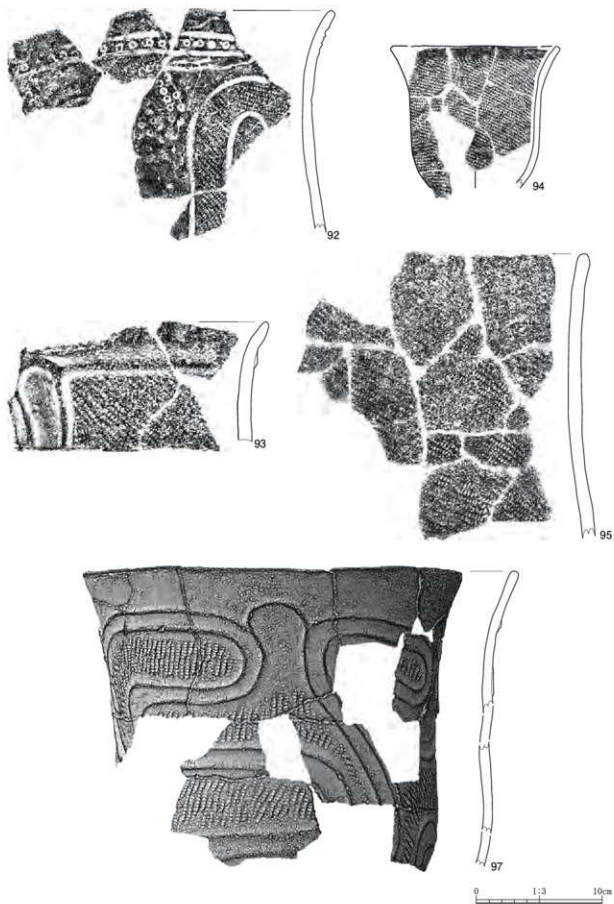
第62圖 S131B・C(1)出土土器



第63図 S131B・C(2)、S133(1)出土土器



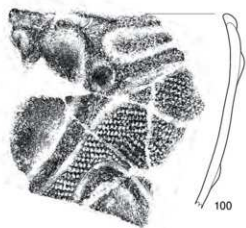
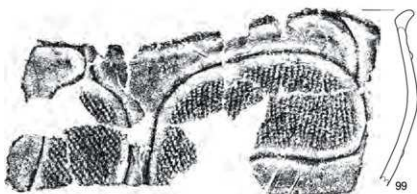
第64図 S133(2)出土土器



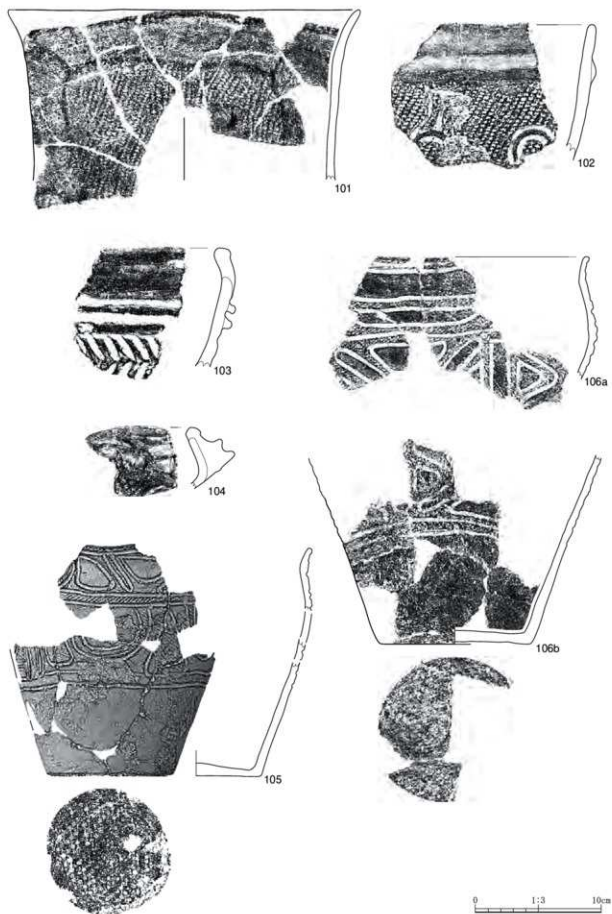
第65図 S 134、S 135(1)出土土器



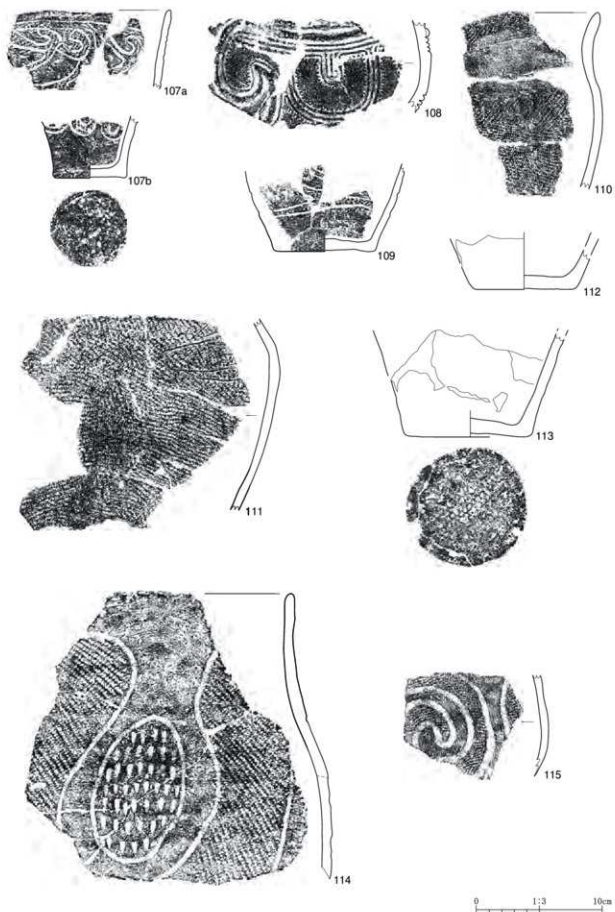
第66図 S I 35(2)出土土器



第67図 S I 35(3)出土土器

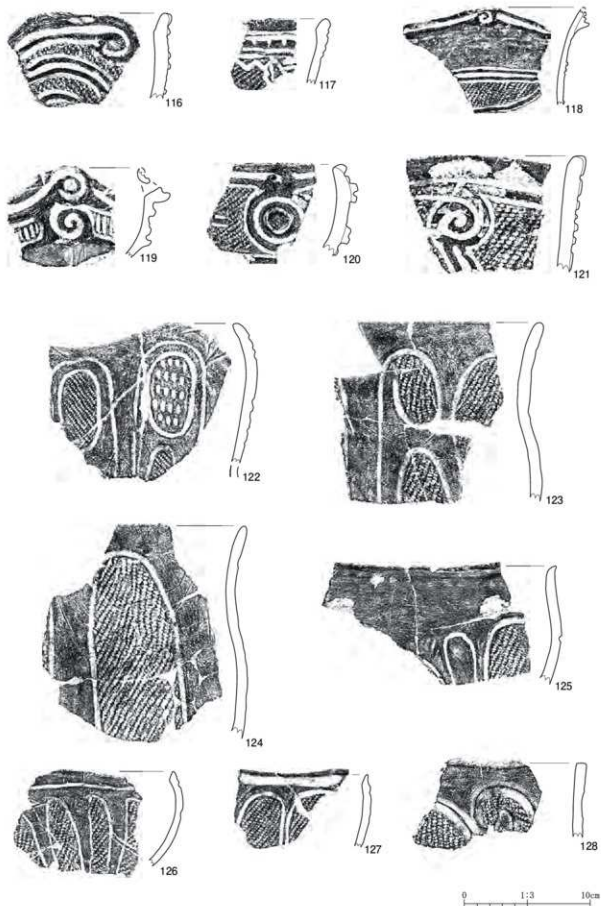


第68図 S I 35(4)出土土器

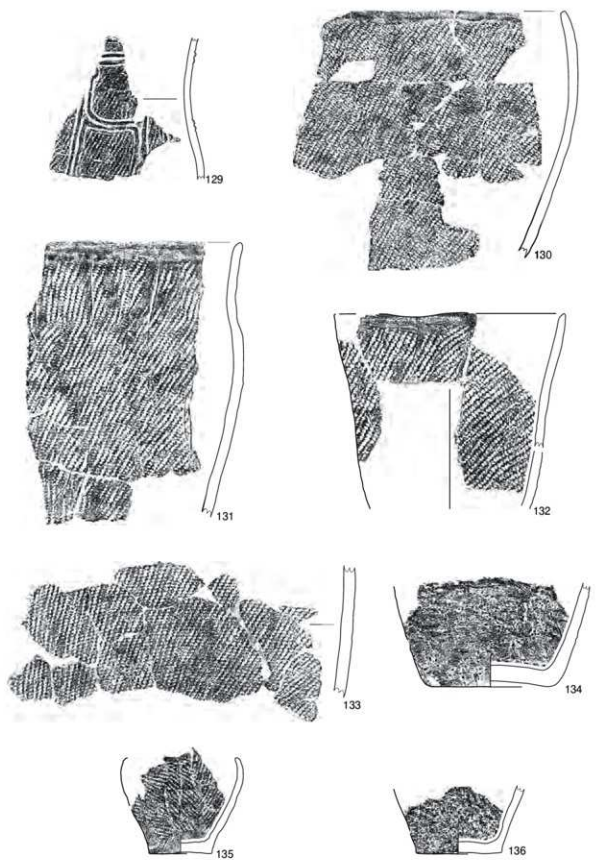


第69圖 S I 35(5)、S I 36出土土器

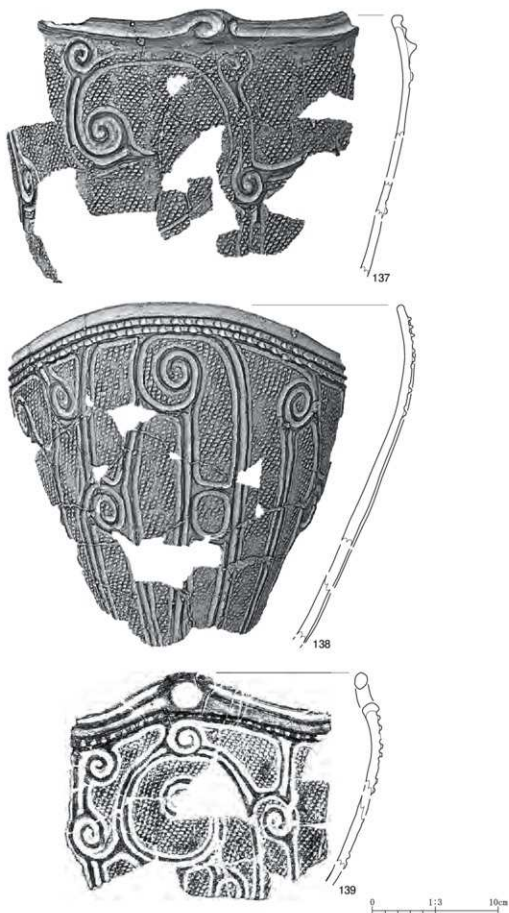




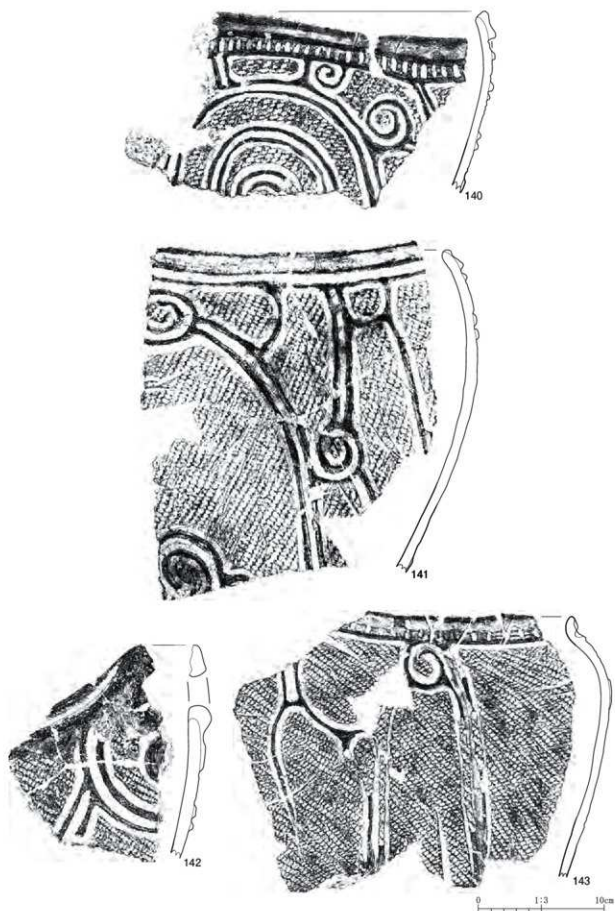
第70圖 S 138、S 140(1)出土土器



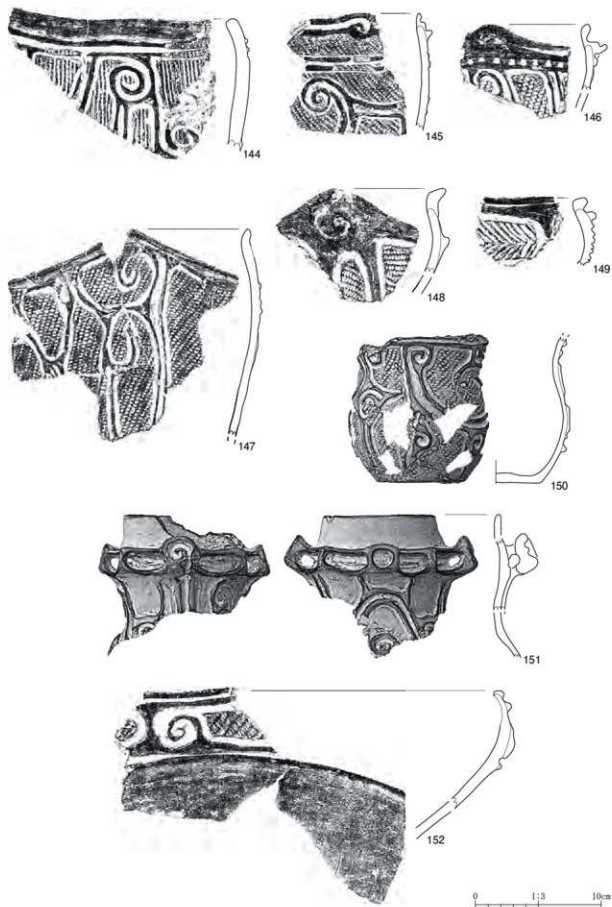
第71図 S140(2)出土土器



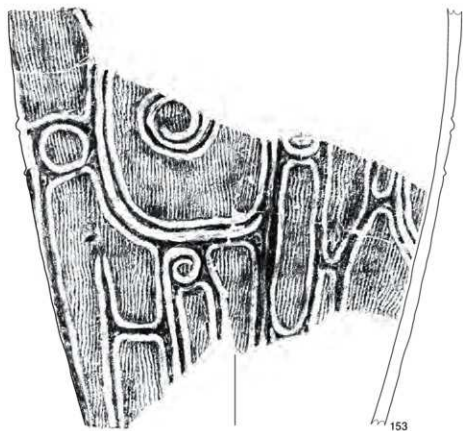
第72図 S144(1)出土土器



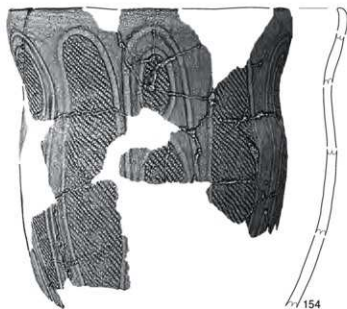
第73図 S144(2)出土土器



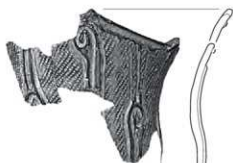
第74図 S I 44(3)出土土器



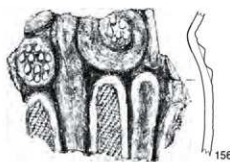
153



154



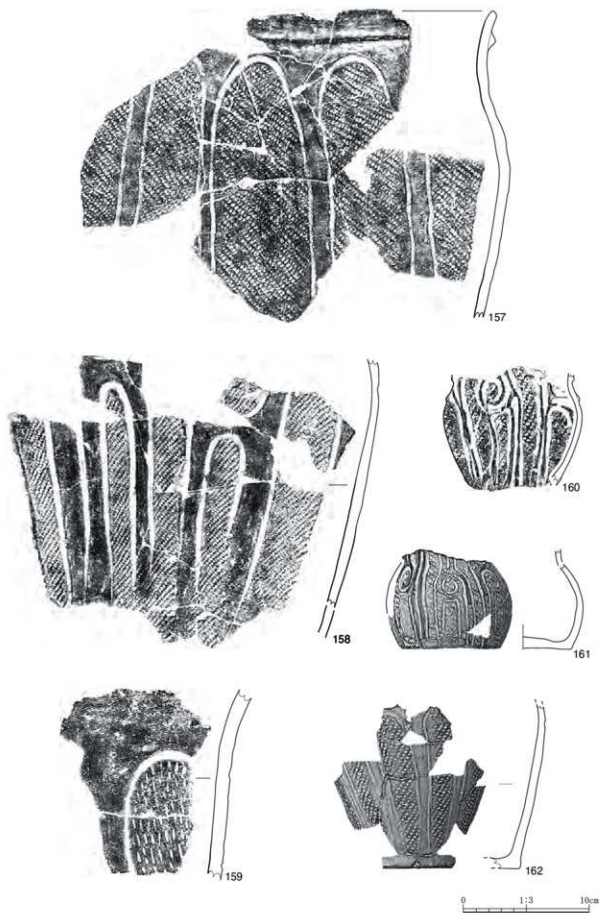
155



156

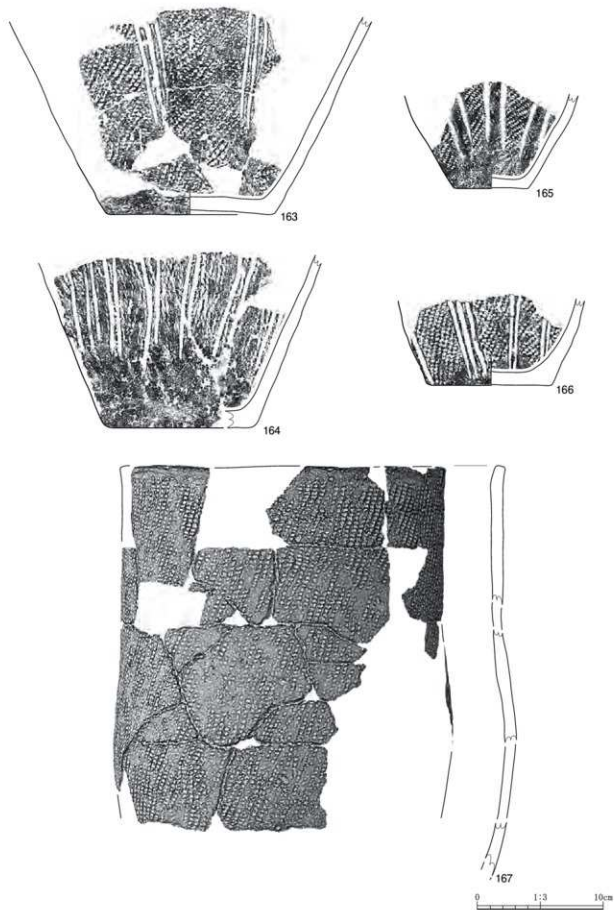
0 1:3 10cm

第75圖 S 144(4)出土土器



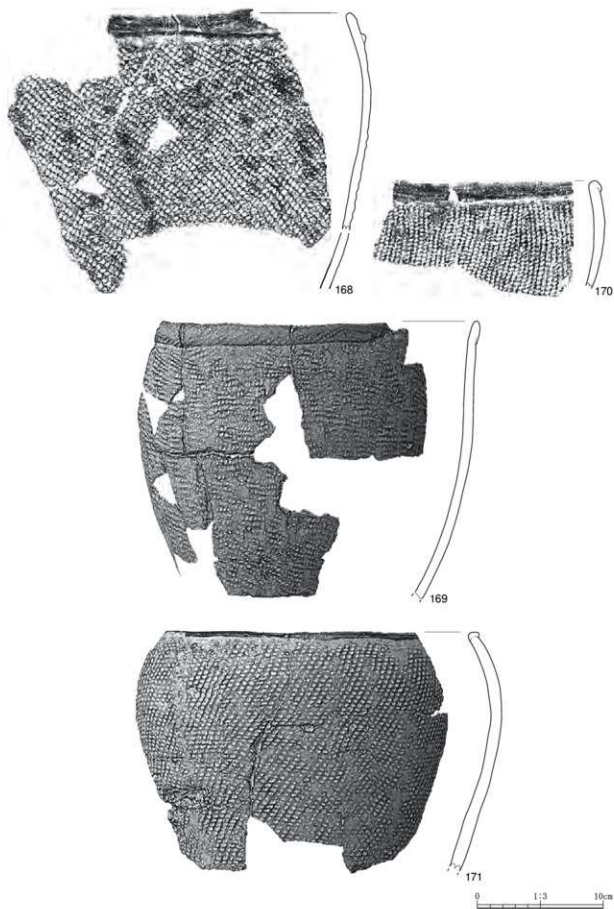
第76図 S 144(5)出土土器



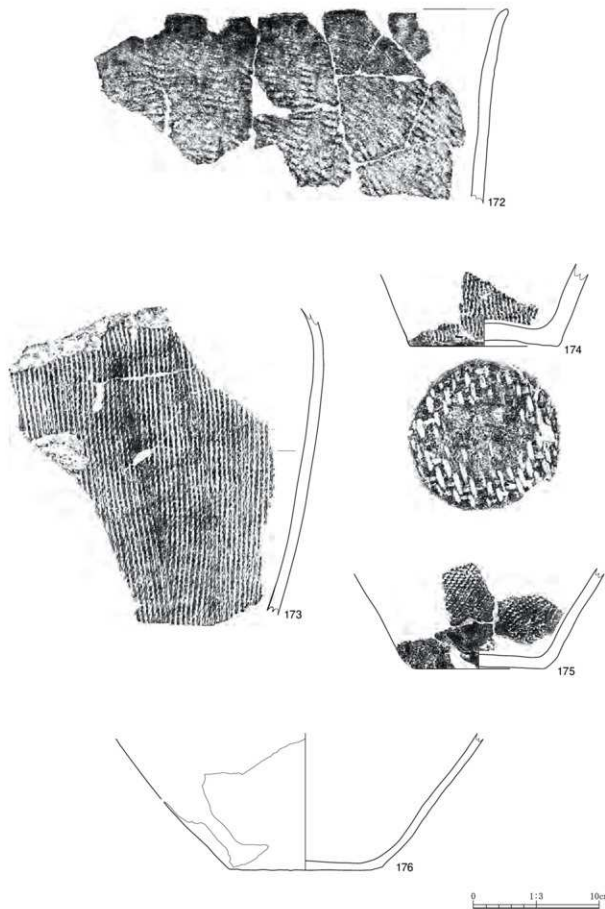


第77図 S144(6)出土土器





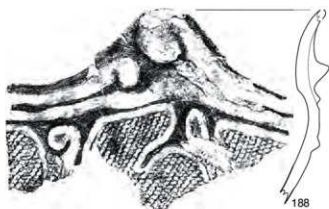
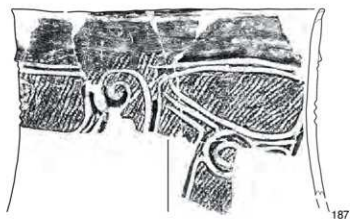
第78図 S I 44 (7) 出土土器



第79図 S144(8)出土土器

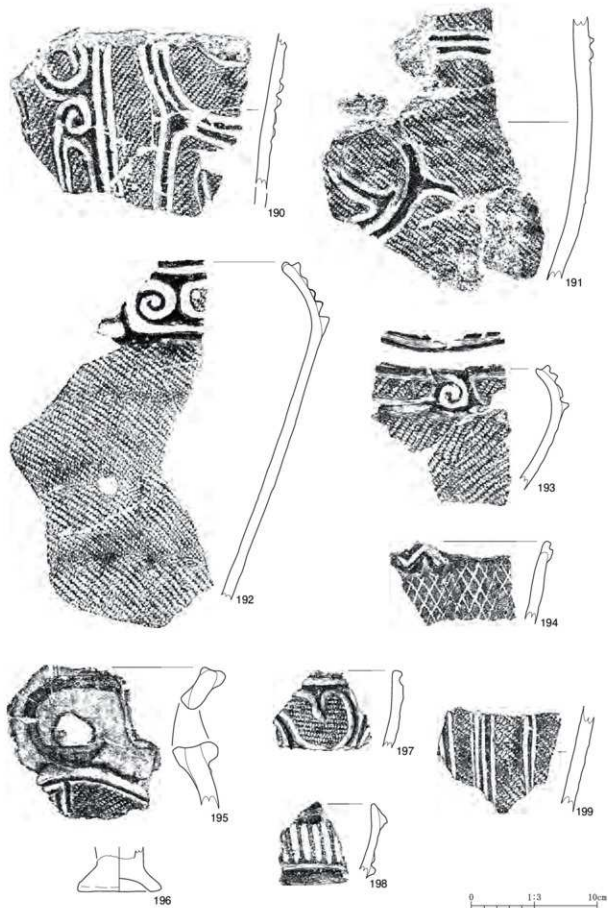


第80图 S145、S148出土土器

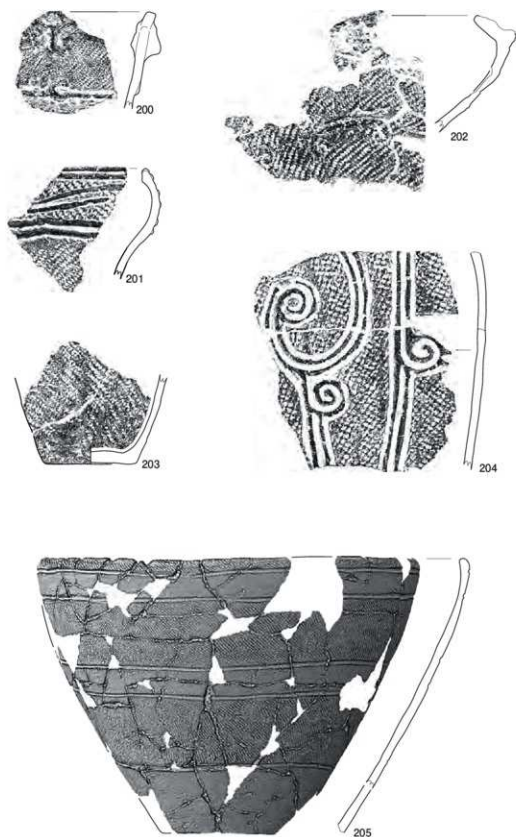


0 1:3 10cm

第81圖 S I 51(1)出土土器

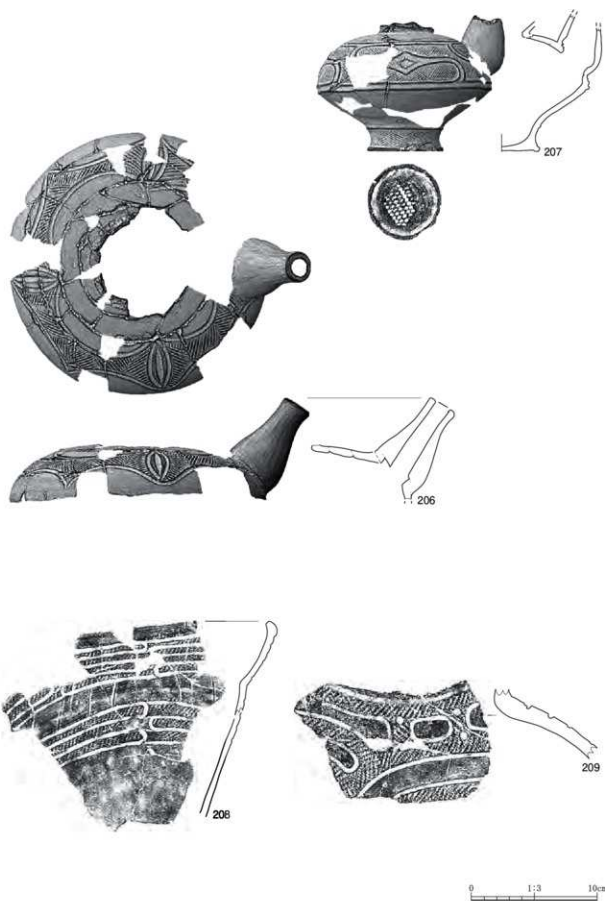


第82図 S I 51(2)、S K 02・15・17・22出土土器



0 1:3 10cm

第83図 S K 25・27、2号配石(1)出土土器

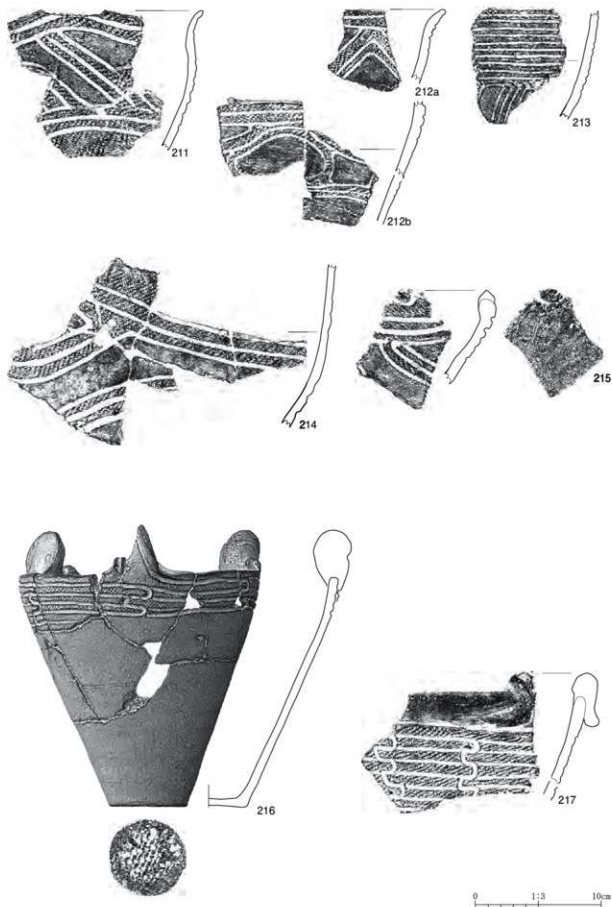


第84图 2号配石(2)、3号配石、6号配石出土土器

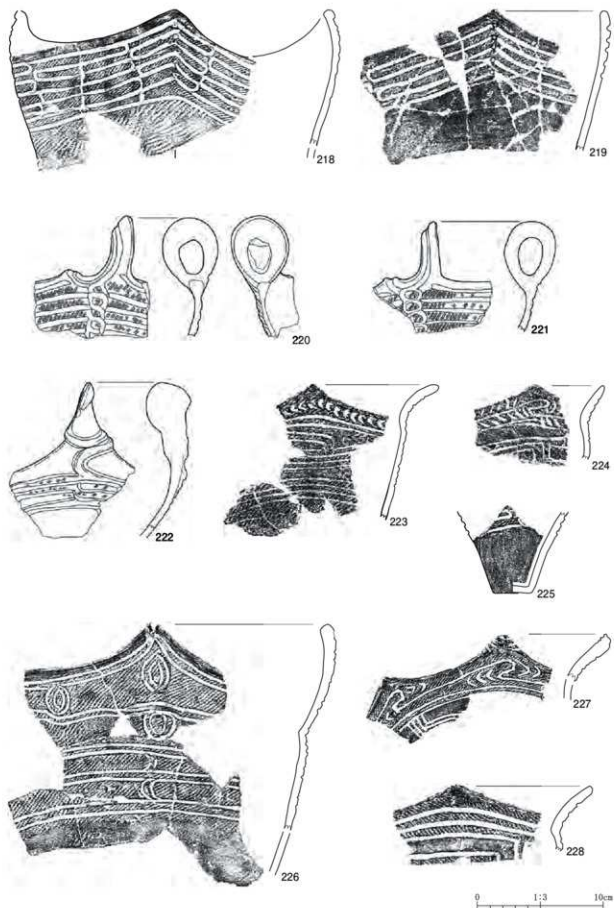


第85図 後期包含層(1)出土土器

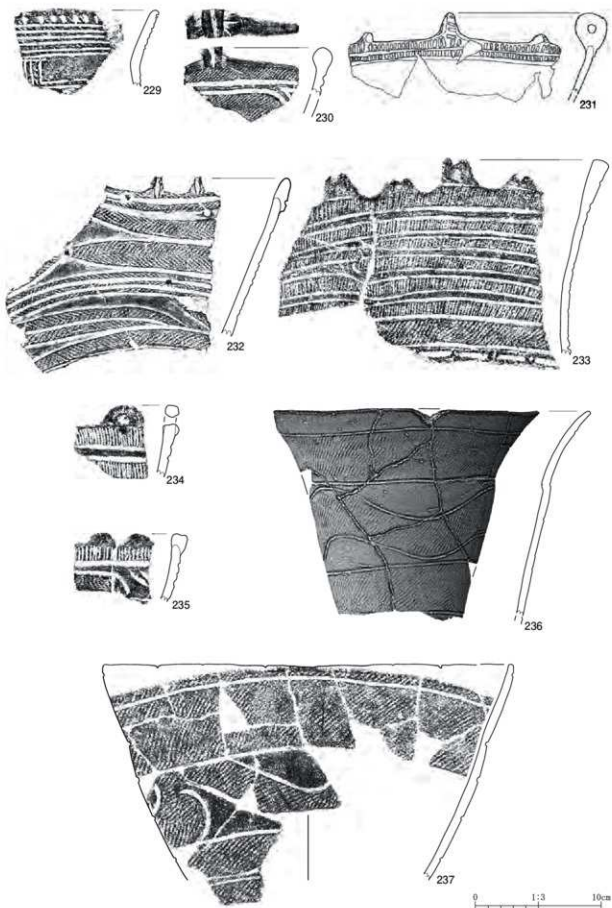




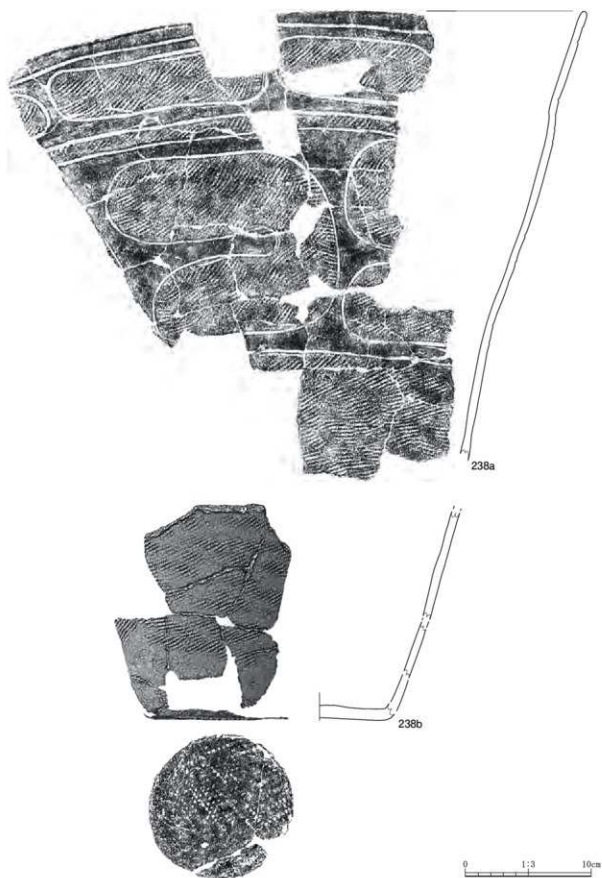
第86図 後期包含層(2)出土土器



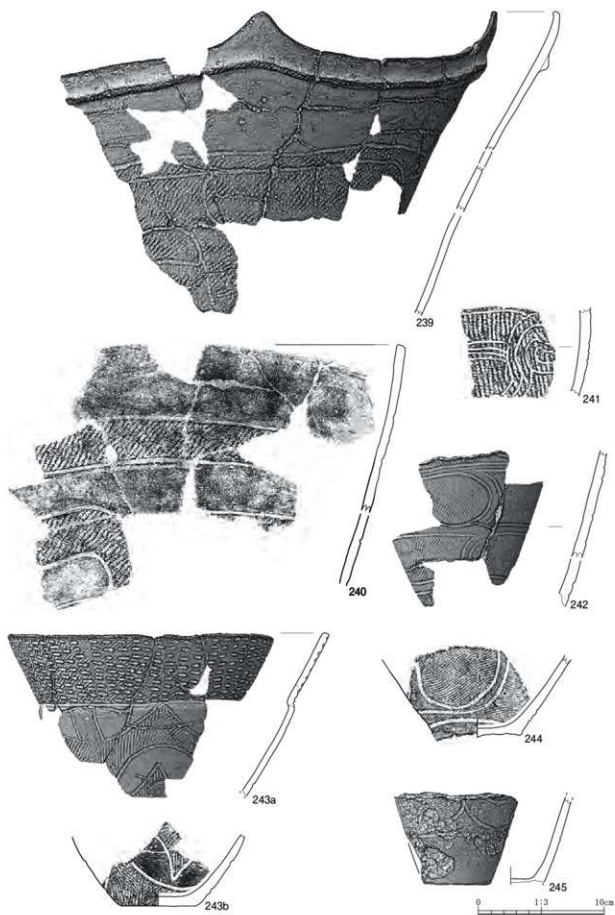
第87図 後期包含層(3)出土土器



第88図 後期包含層(4)出土土器



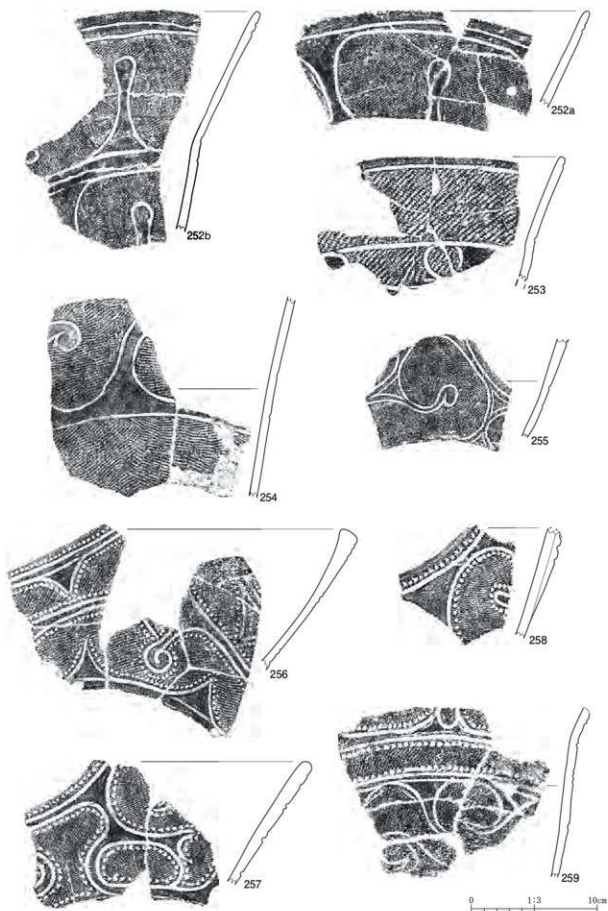
第89図 後期包含層(5)出土土器



第90図 後期包含層(6)出土土器

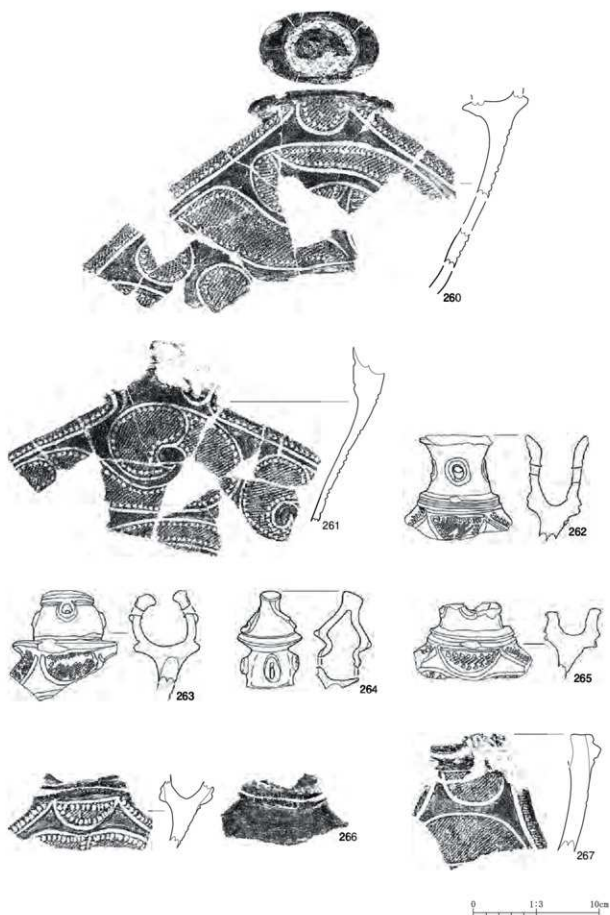


第91図 後期包含層(7)出土土器



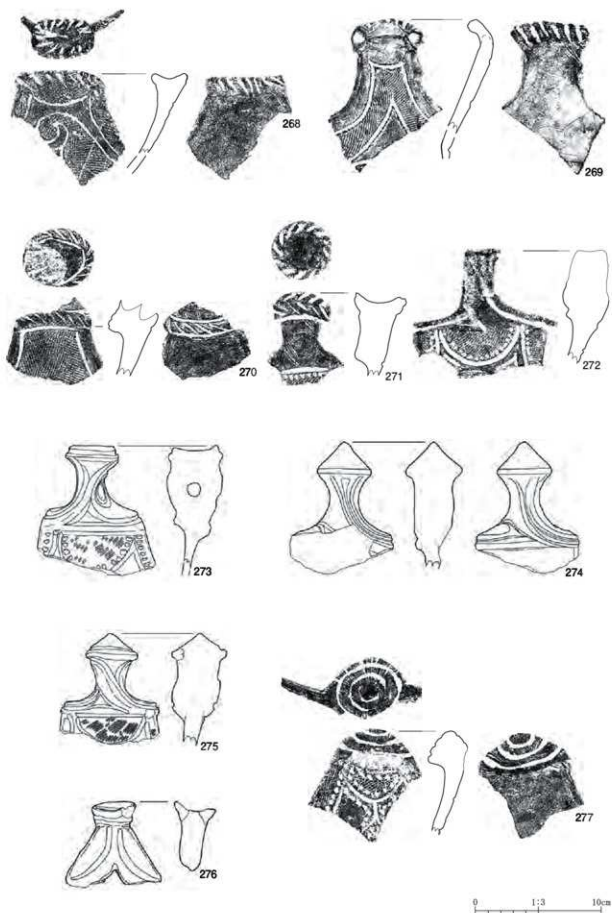
第92図 後期包含層(8)出土土器



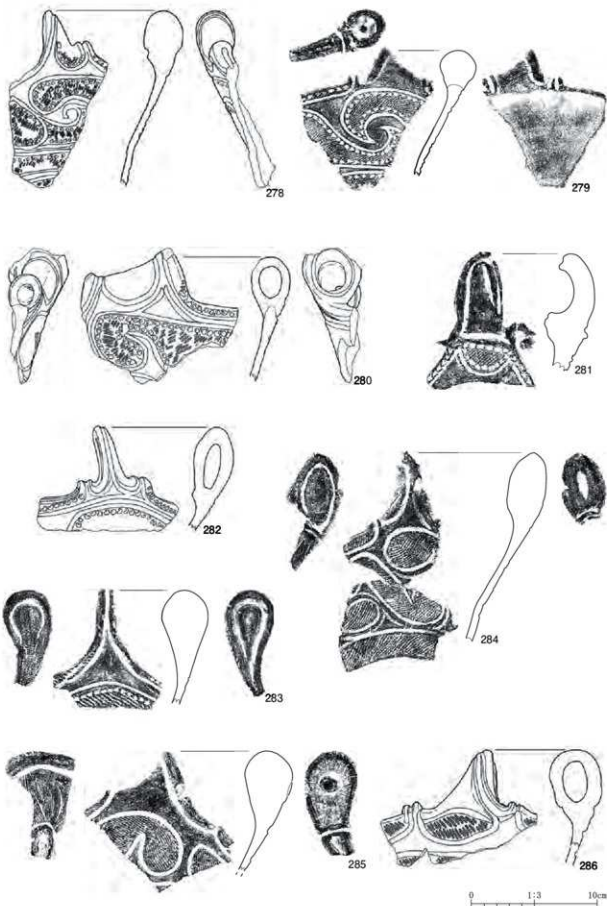


第93図 後期包含層(9)出土土器

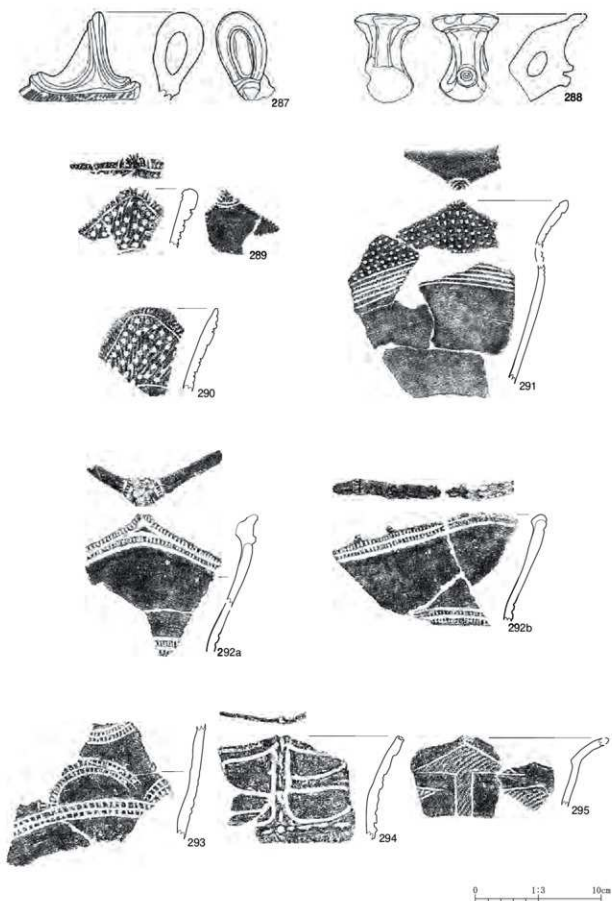




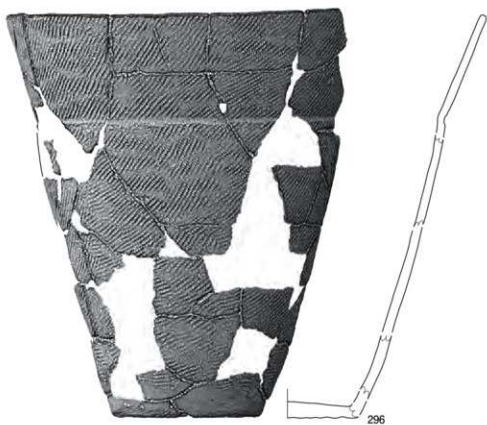
第94図 後期包含層(10)出土土器



第95図 後期包舍層(11)出土土器

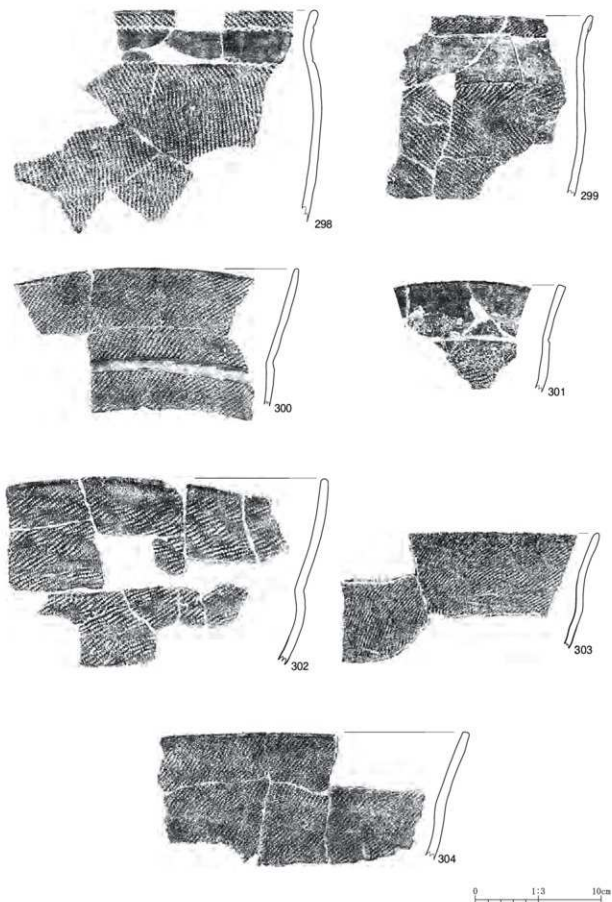


第96図 後期包含層(12)出土土器

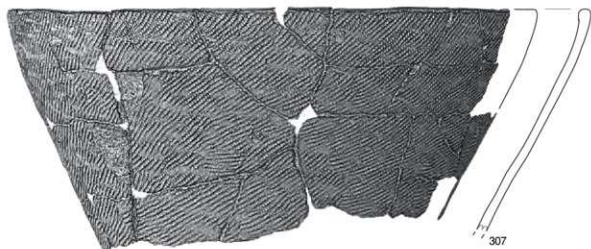
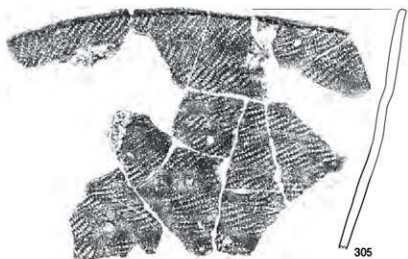


0 1:3 10cm

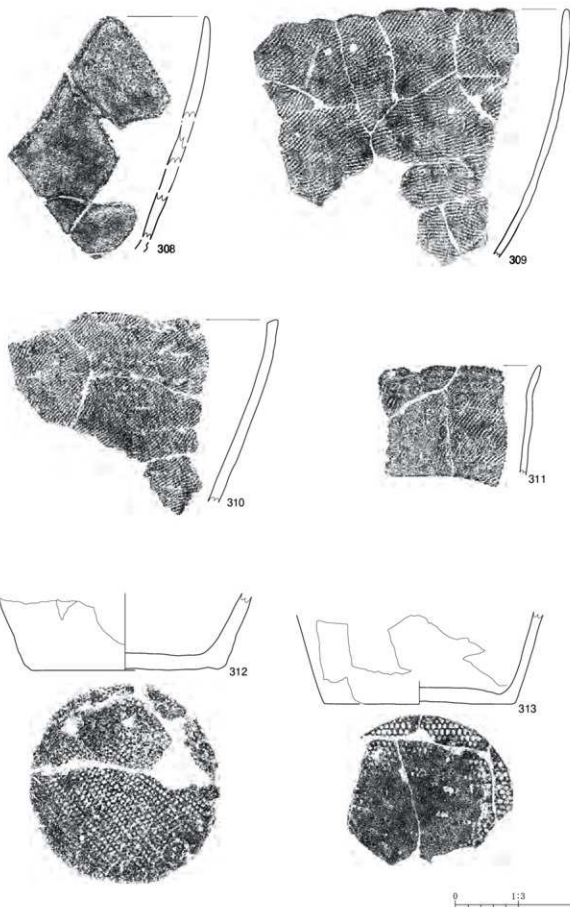
第97図 後期包含層(13)出土土器



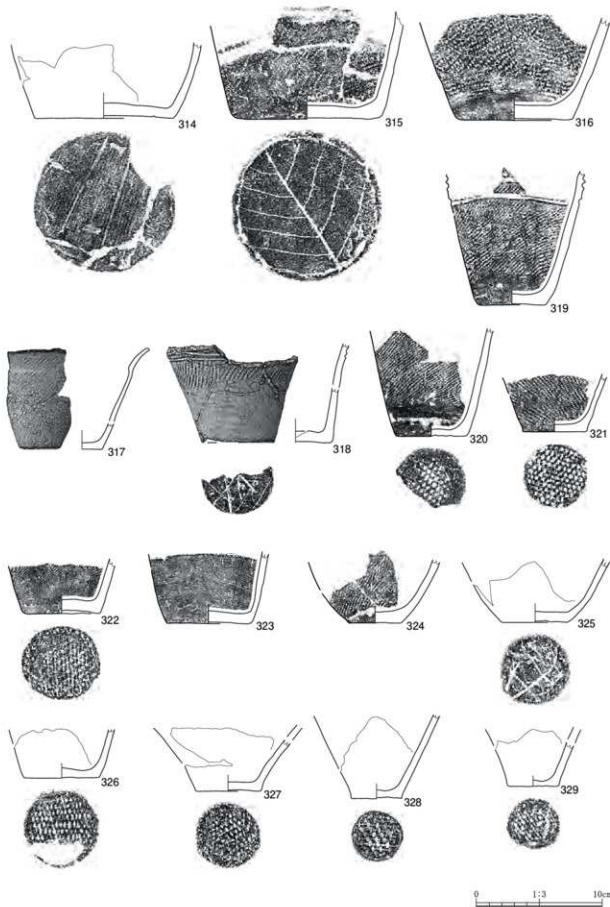
第98図 後期包含層(14)出土土器



第99図 後期包含層(15)出土土器

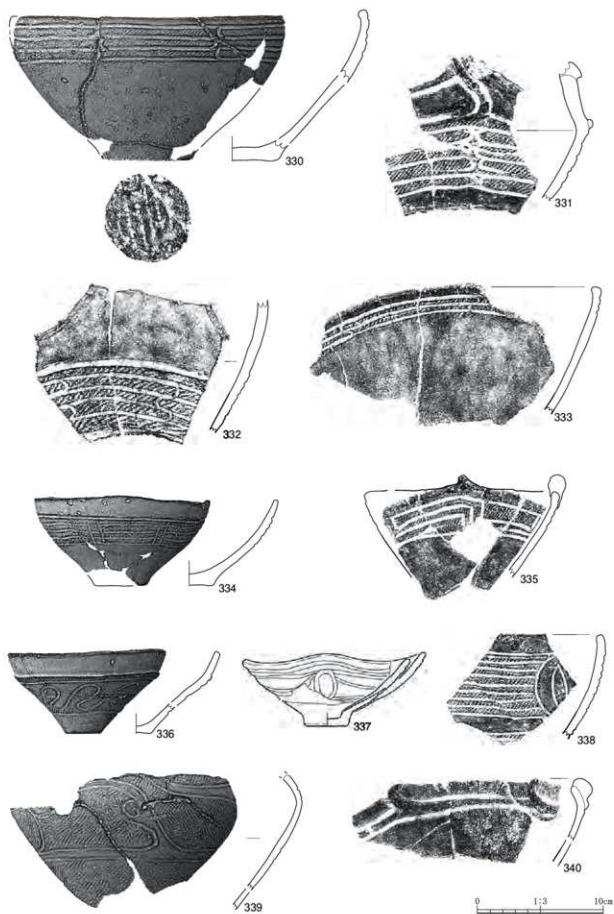


第100図 後期包含層(16)出土土器

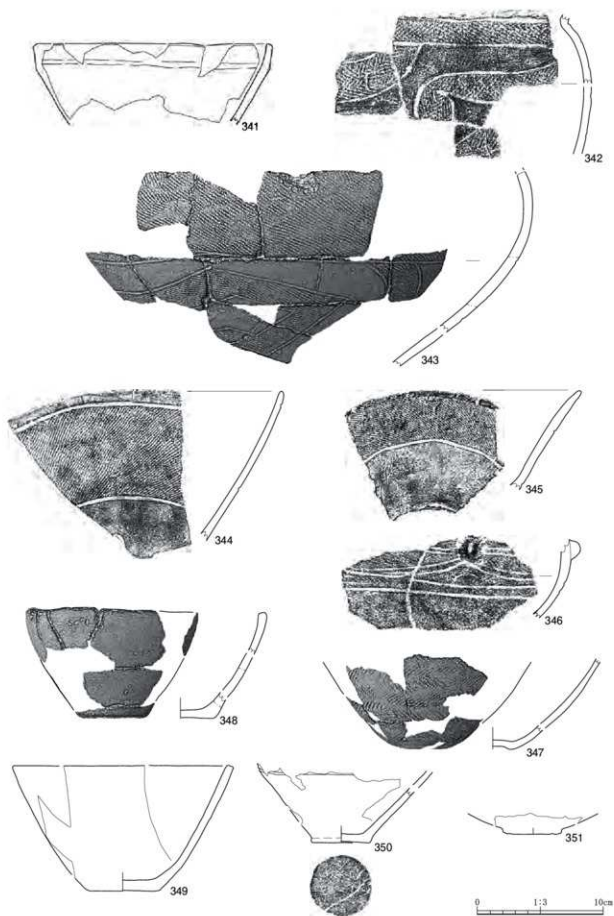


第101図 後期包含層(17)出土土器

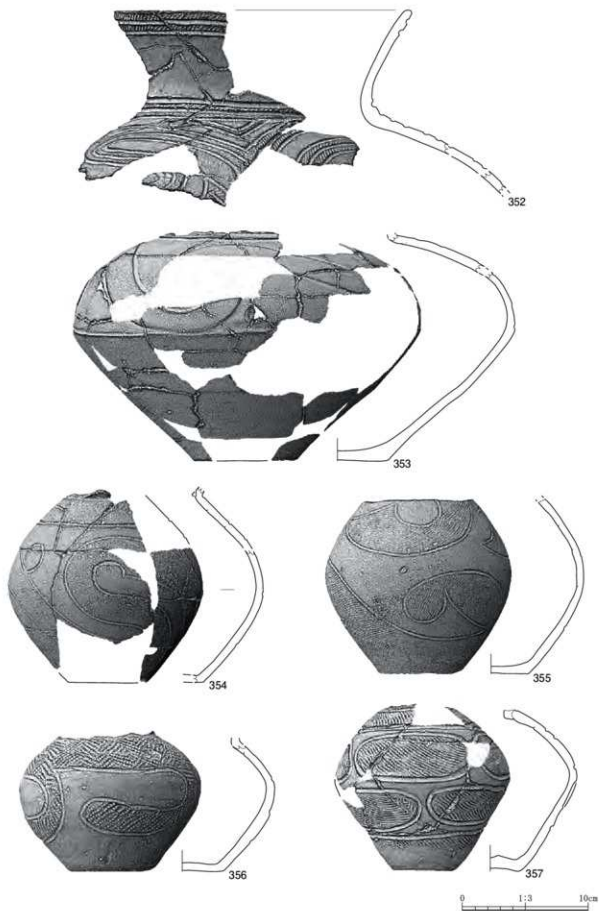




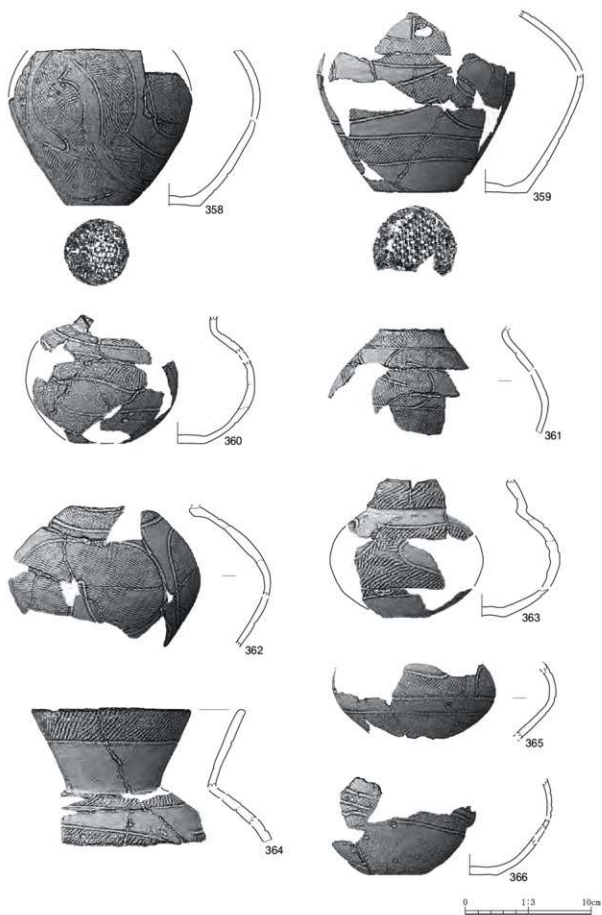
第102図 後期包含層(18)出土土器



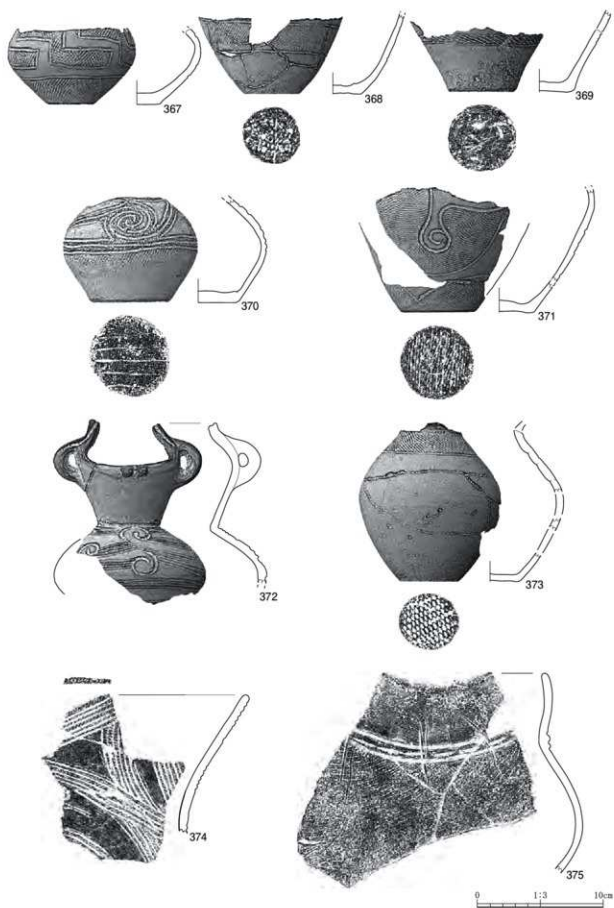
第103図 後期包含層(19)出土土器



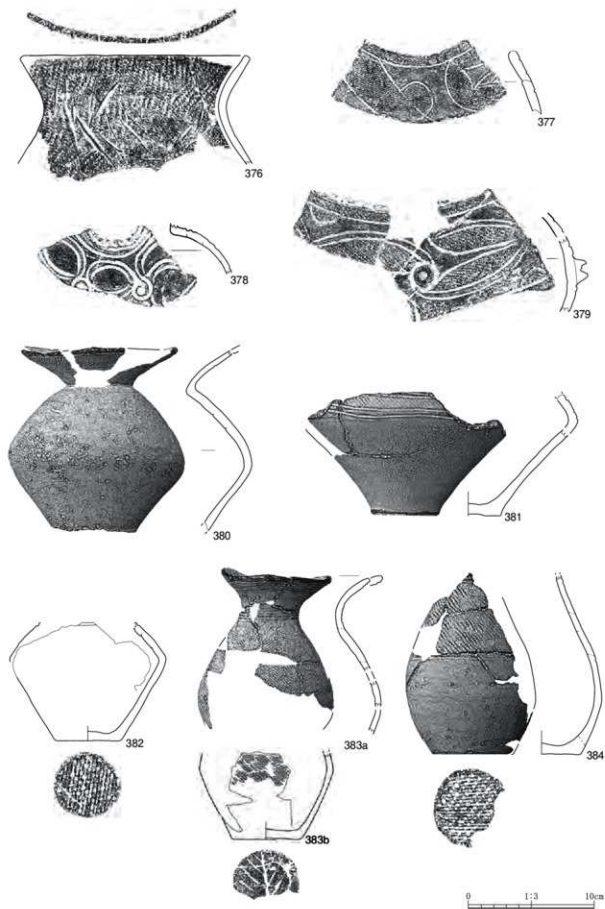
第104図 後期包含層(20)出土土器



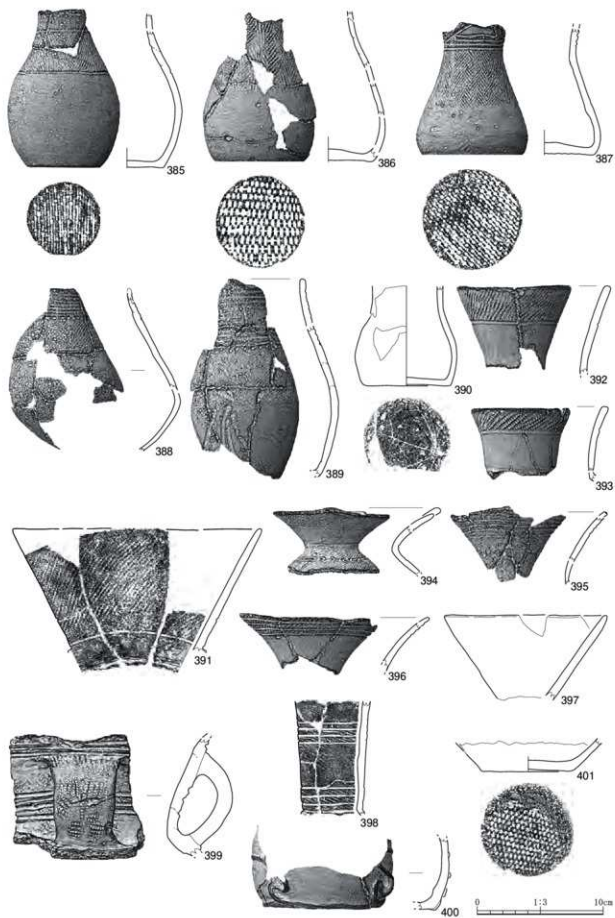
第105図 後期包含層(21)出土土器



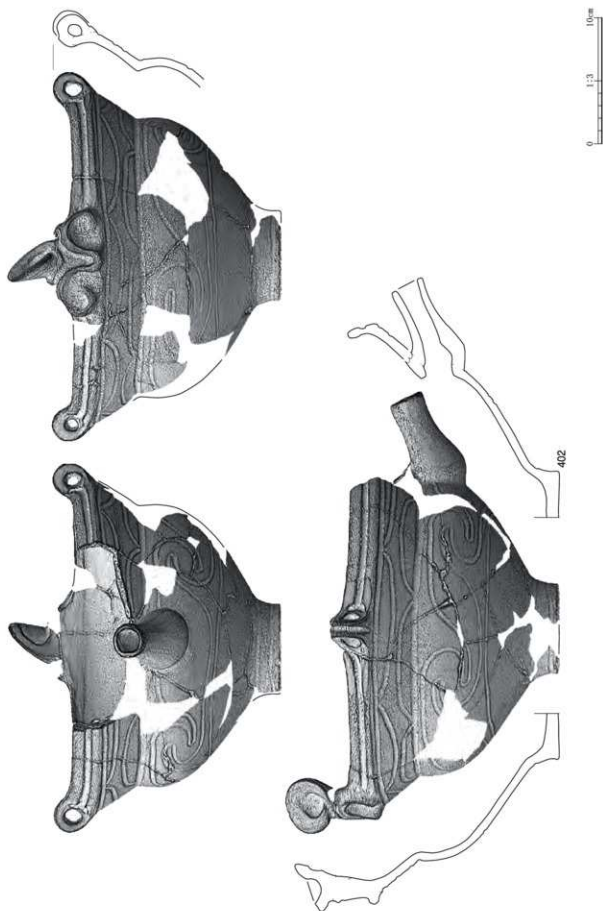
第106図 後期包含層(22)出土土器



第107図 後期包含層(23)出土土器

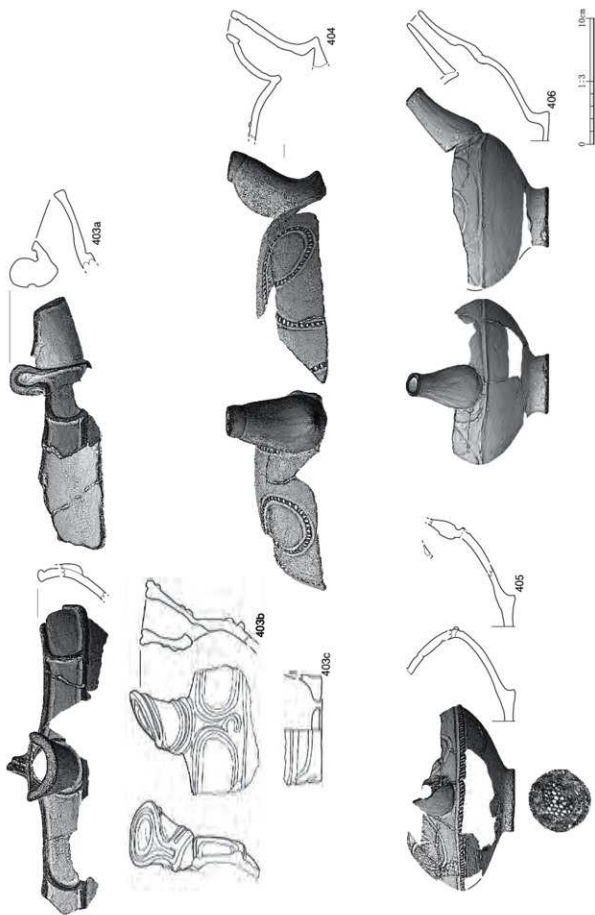


第108図 後期包含層(24)出土土器

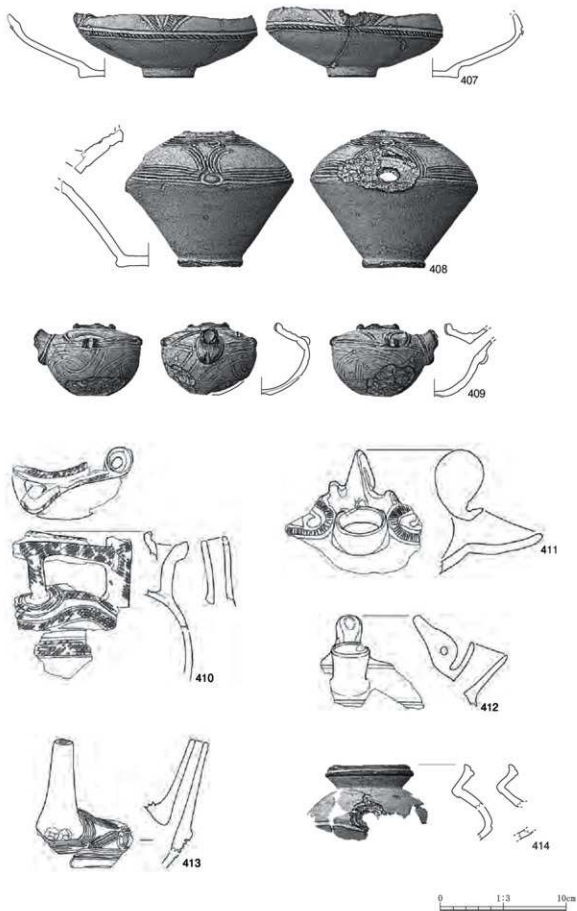


第109図 後期包含層(25)出土土器





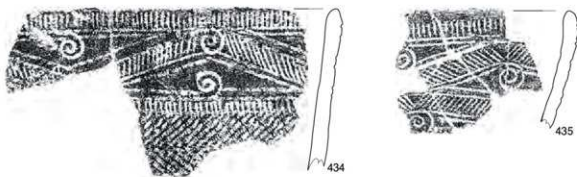
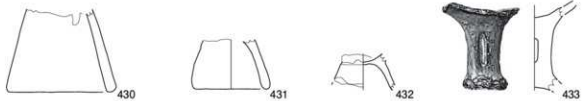
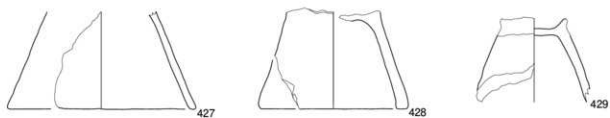
第110図 後期包含層(26)出土土器



第111圖 後期包含層(27)出土土器

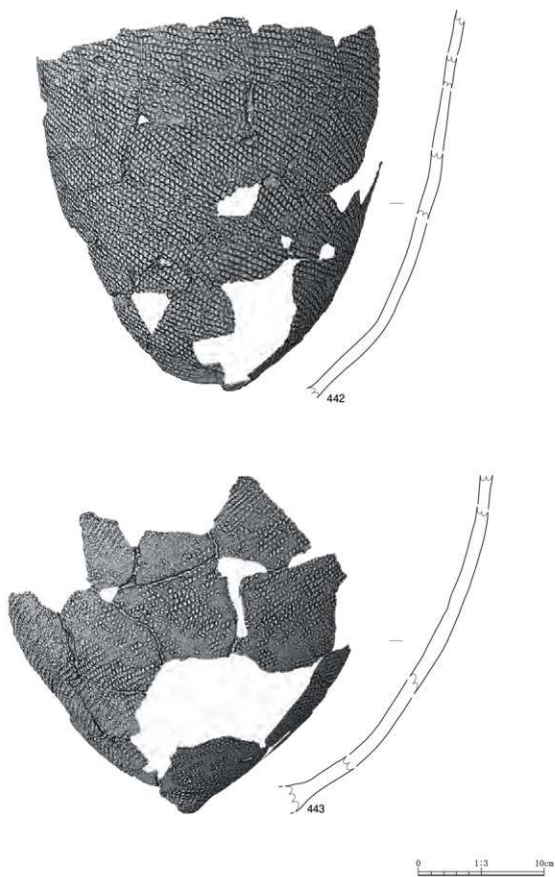


第112図 後期包含層(28)出土土器

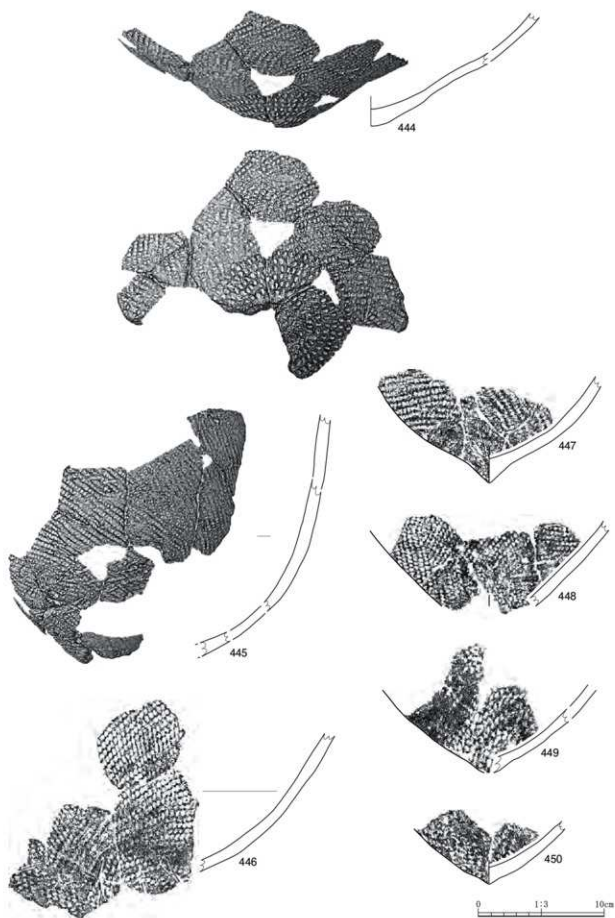


0 1:3 10cm

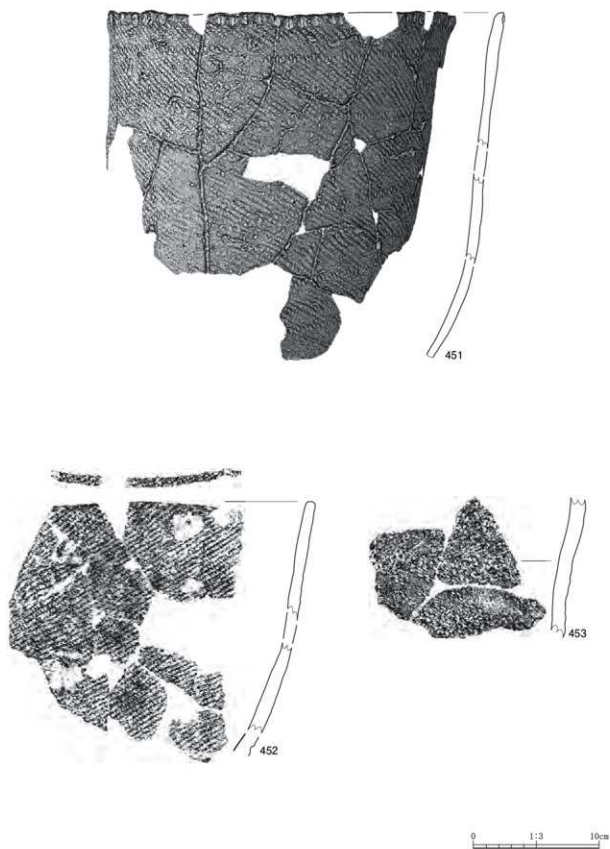
第113図 後期包含層(29)・前期包含層(1)出土土器



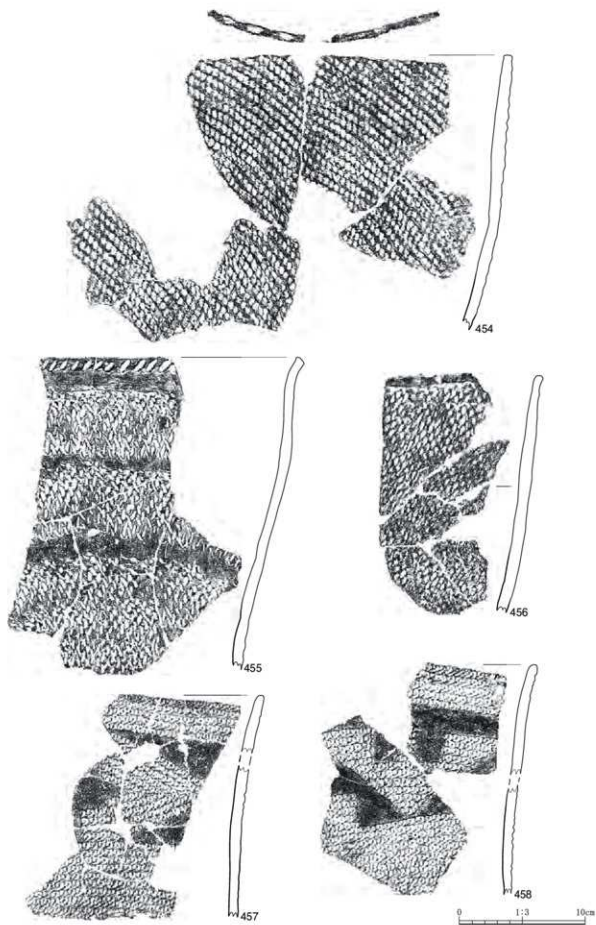
第114図 前期包含層(2)出土土器



第115図 前期包含層(3)出土土器

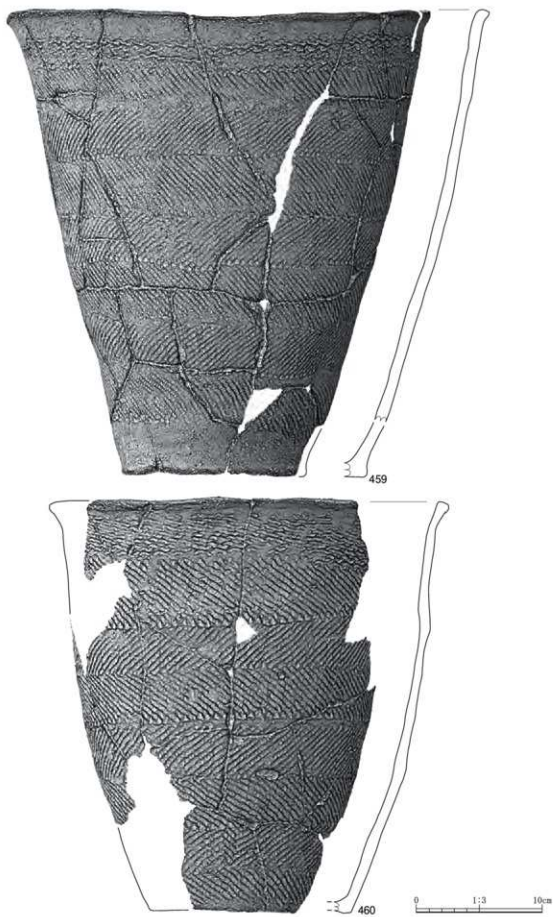


第116図 前期包含層(4)出土土器



第117圖 前期包含層(5)出土土器

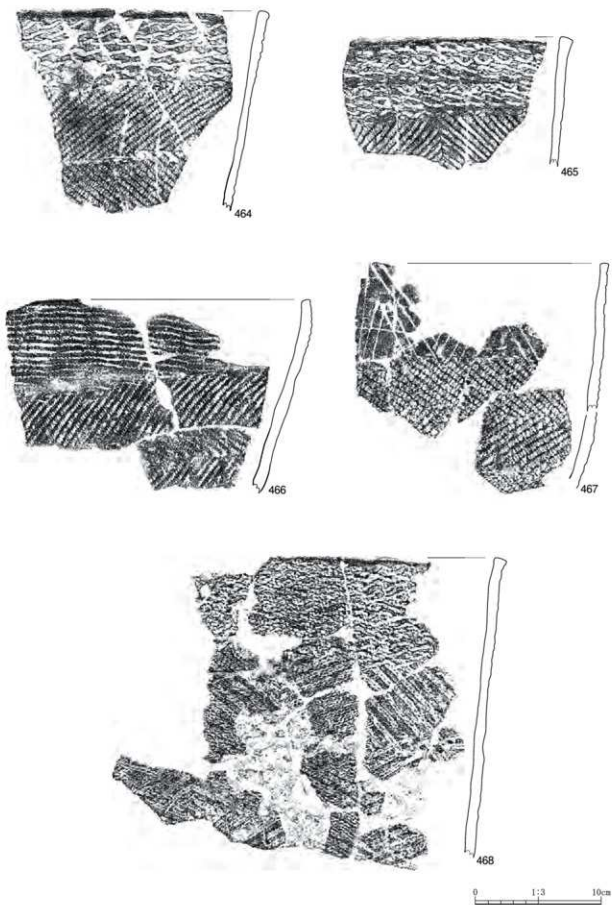




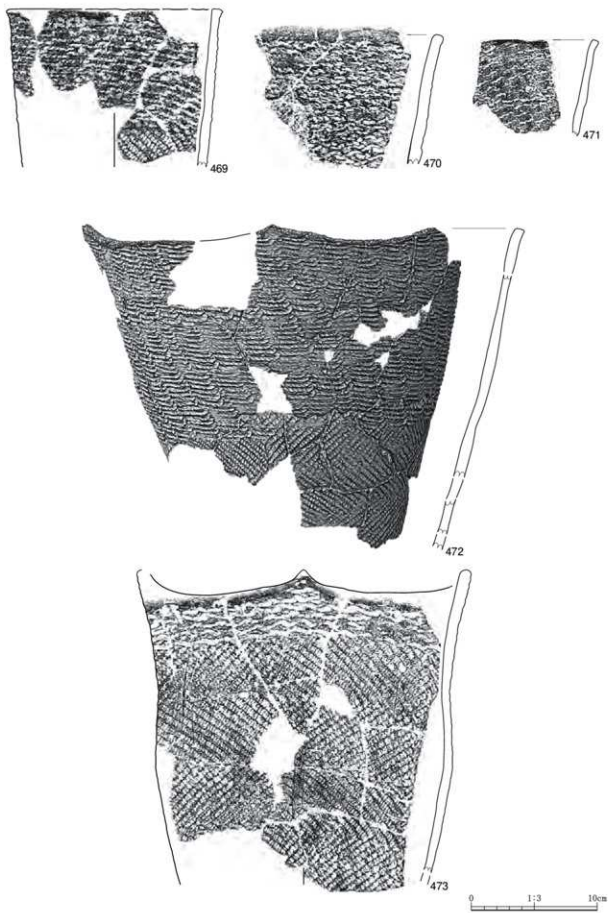
第118図 前期包含層(6)出土土器



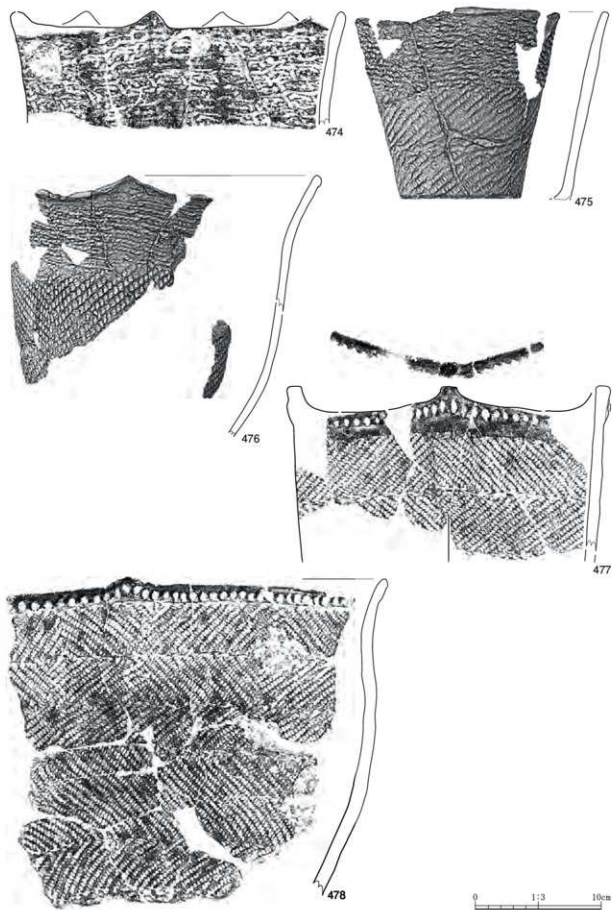
第119圖 前期包含層(7)出土土器



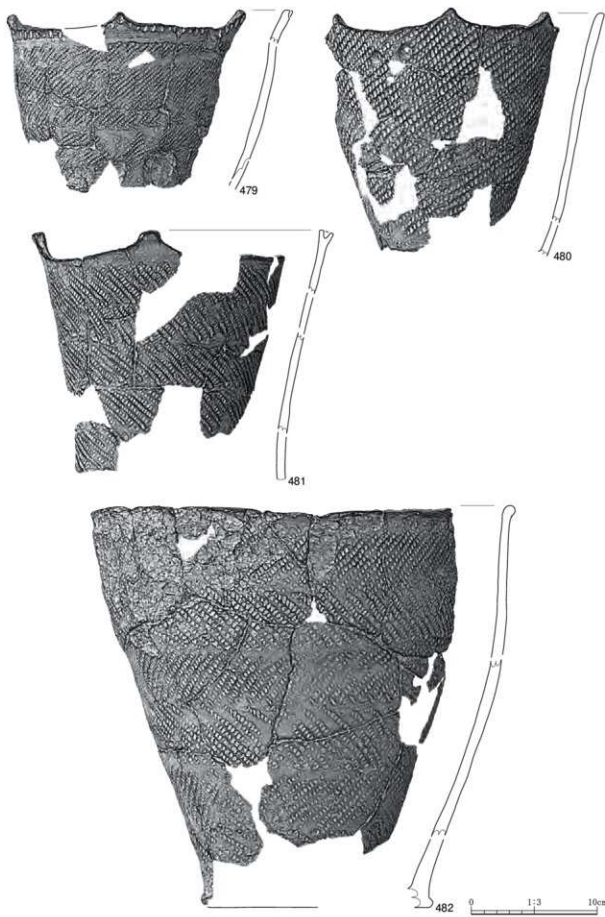
第120図 前期包含層(8)出土土器



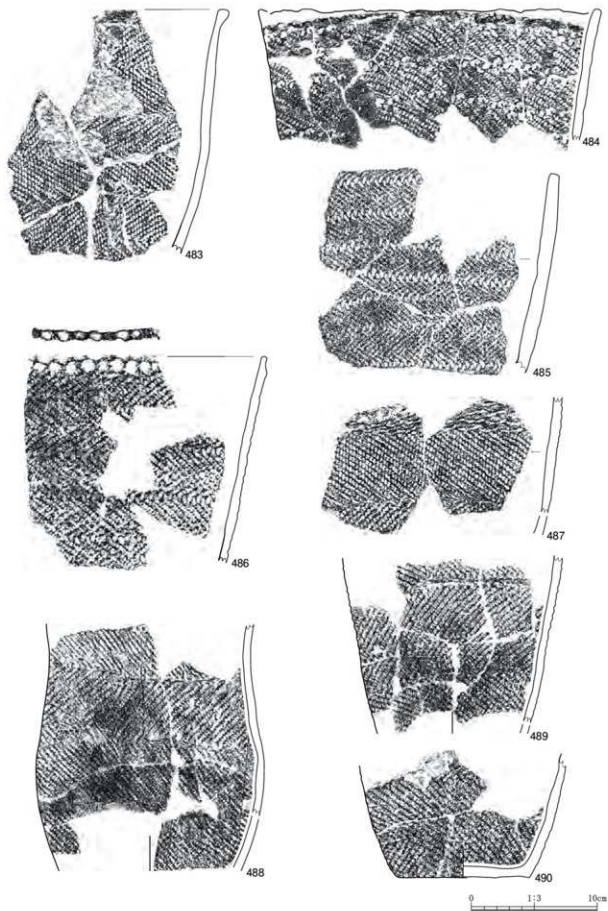
第121図 前期包含層(9)出土土器



第122図 前期包含層(10)出土土器

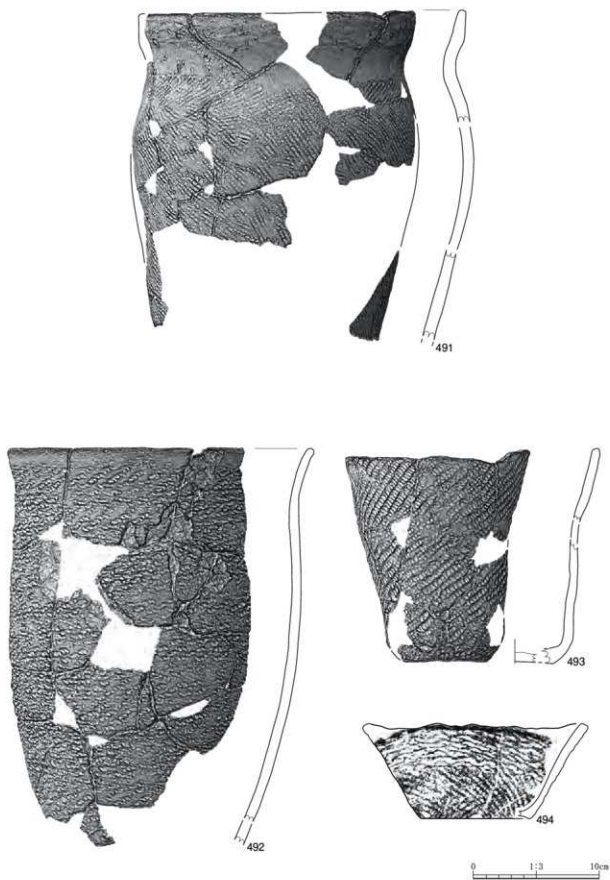


第123図 前期包含層(11)出土土器



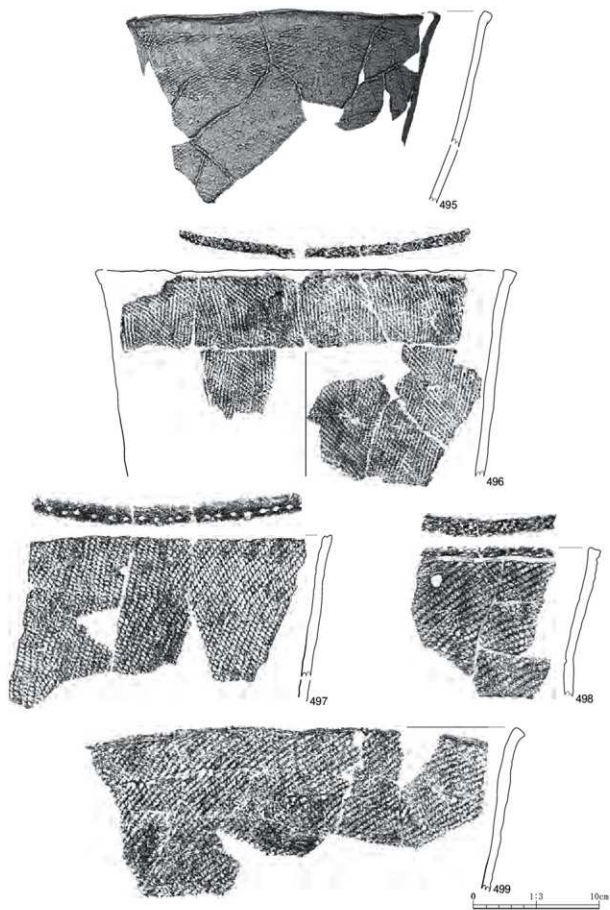
第124図 前期包含層(12)出土土器



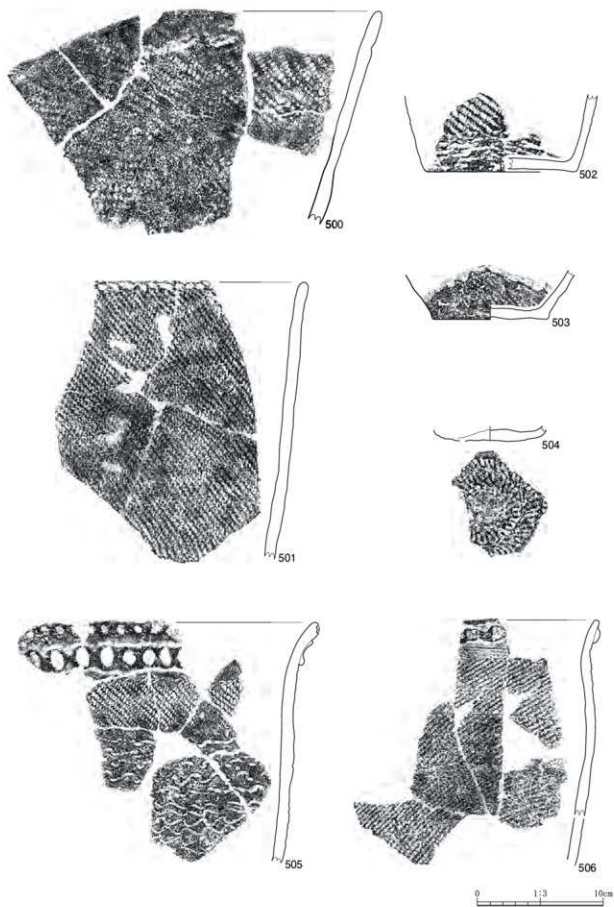


第125図 前期包含層(13)出土土器

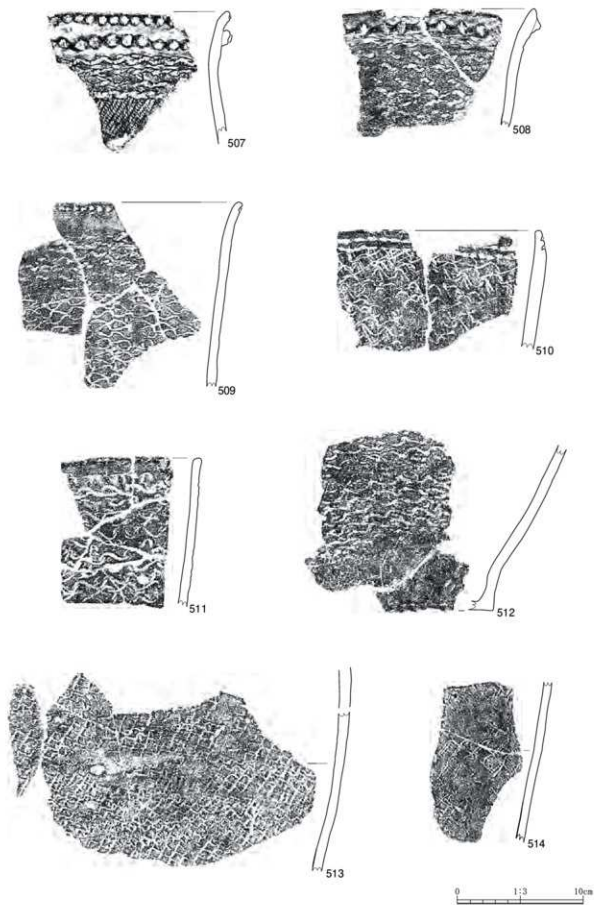




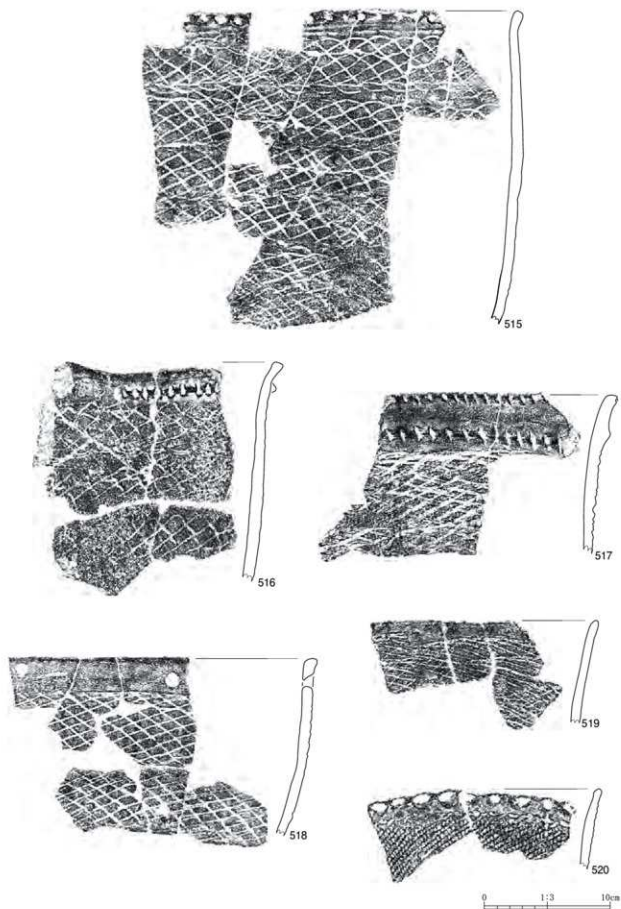
第126図 前期包含層(14)出土土器



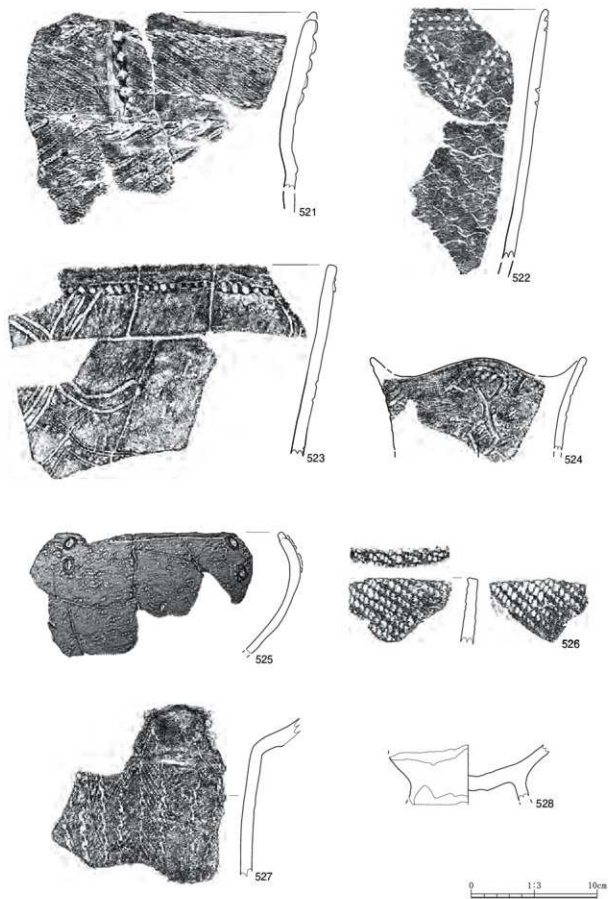
第127図 前期包含層(15)出土土器



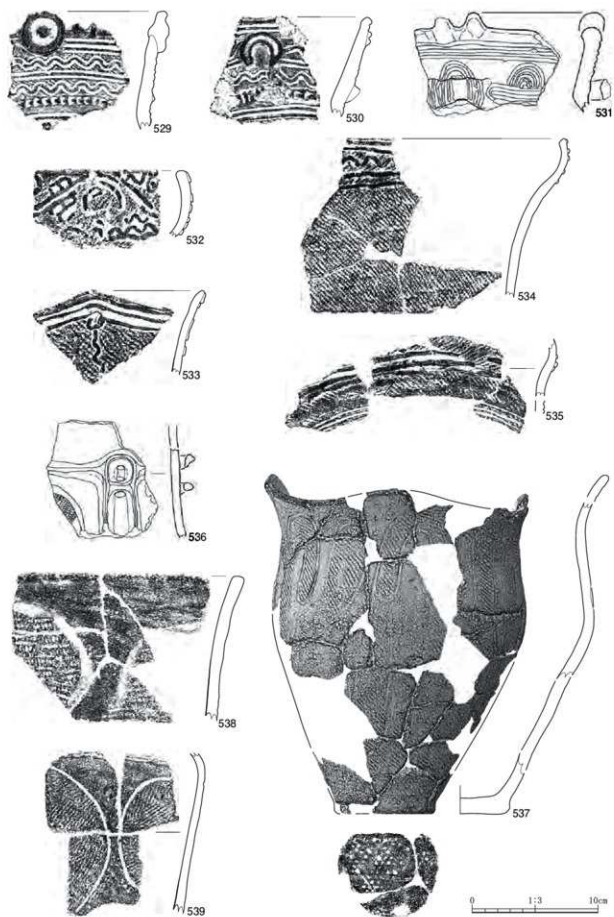
第128図 前期包含層(16)出土土器



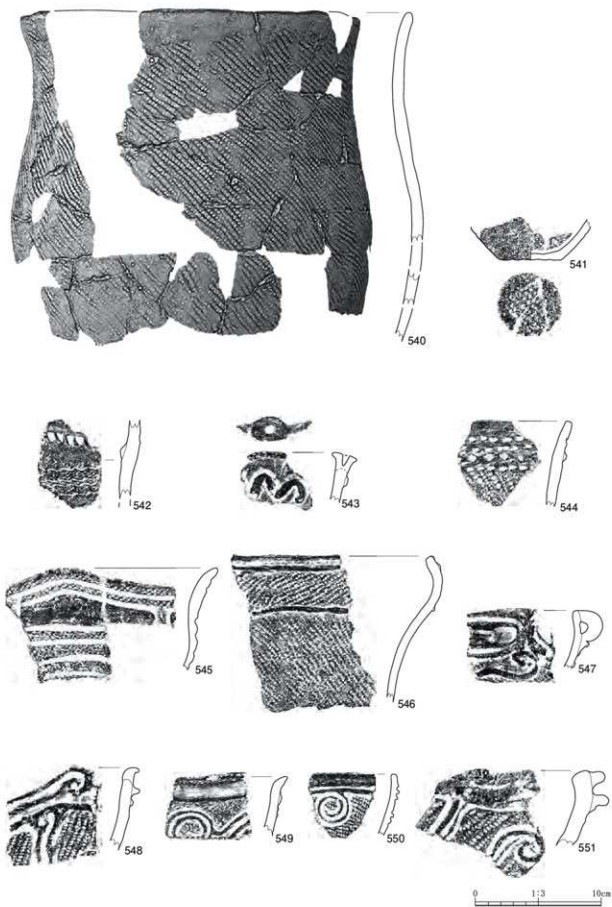
第129図 前期包含層(17)出土土器



第130图 前期包含层(18)、A区遺構外(1)出土土器

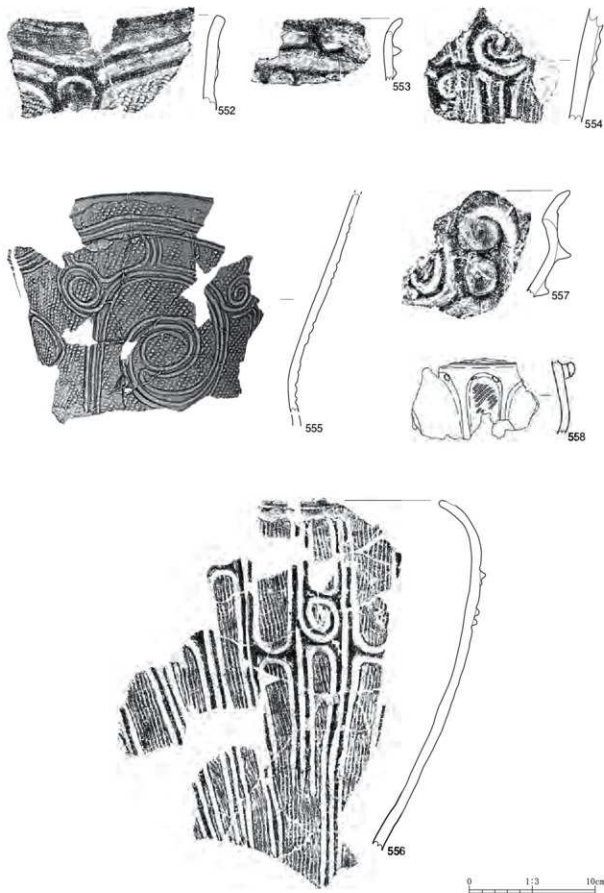


第131图 A区遺構外(2)出土土器



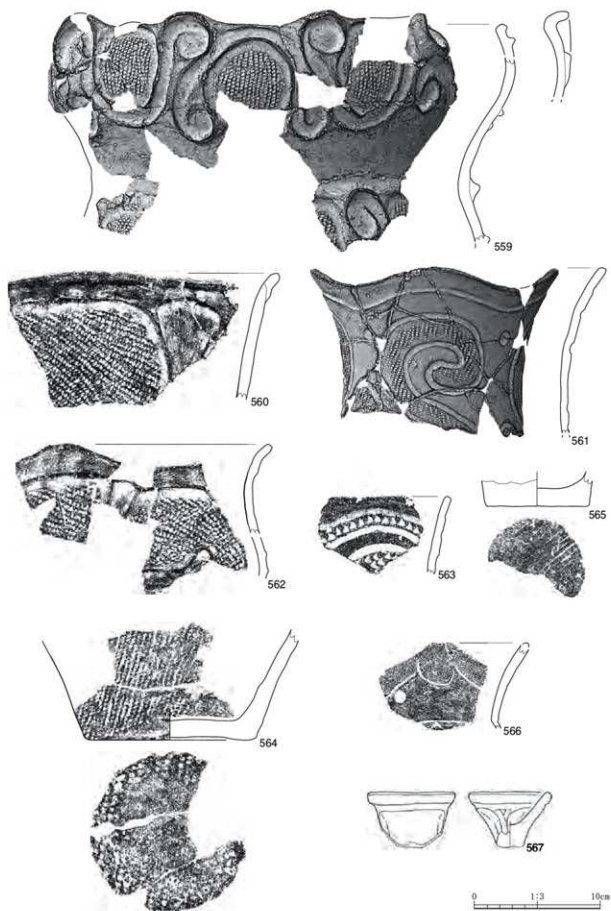
第132图 A区道槽外(3)、B区道槽外(1)出土土器



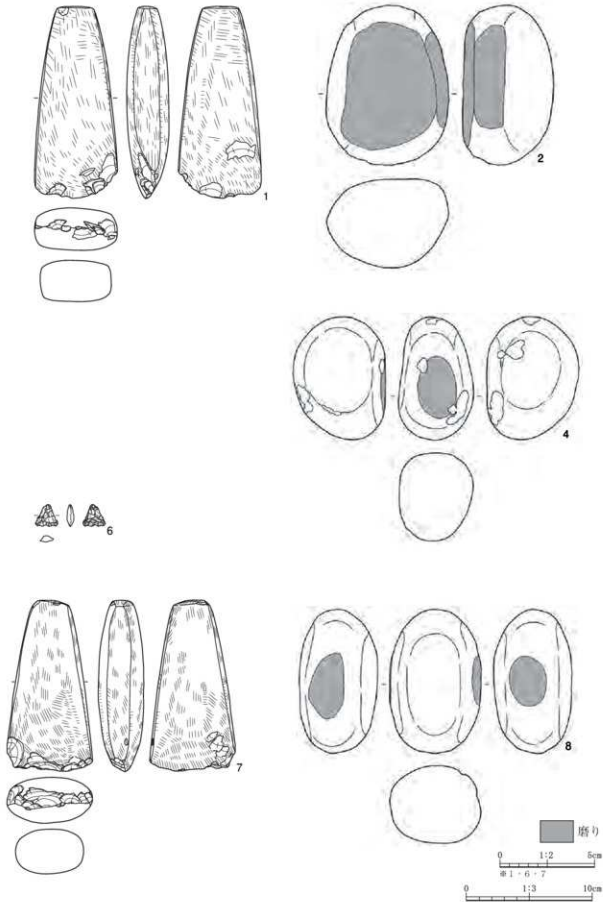


第133图 B区遺構外(2)出土土器

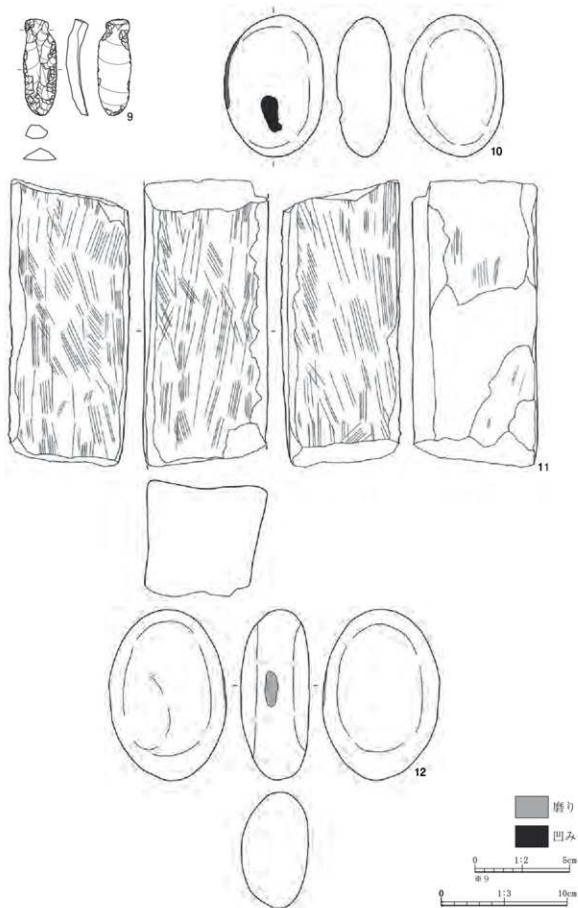




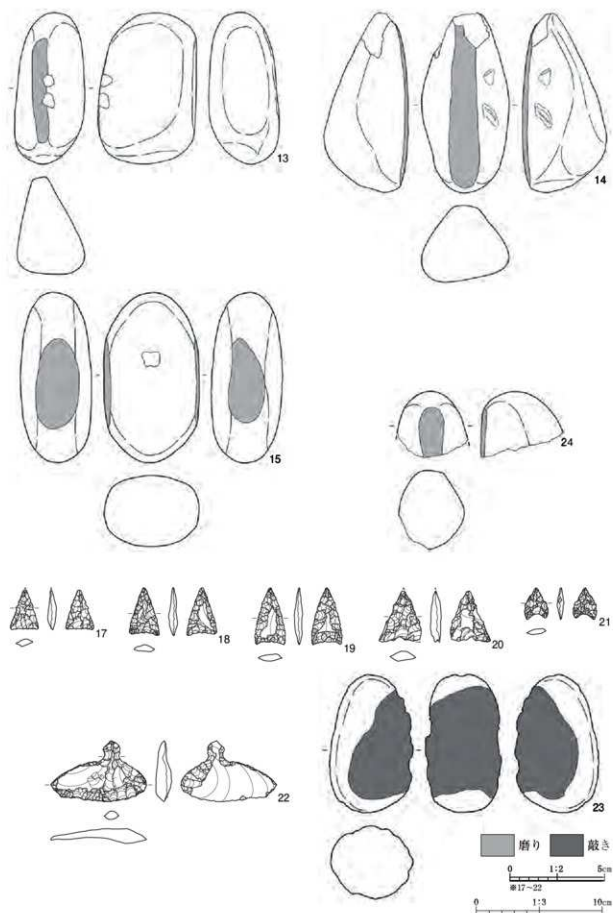
第134图 B区遗構外(3)出土土器



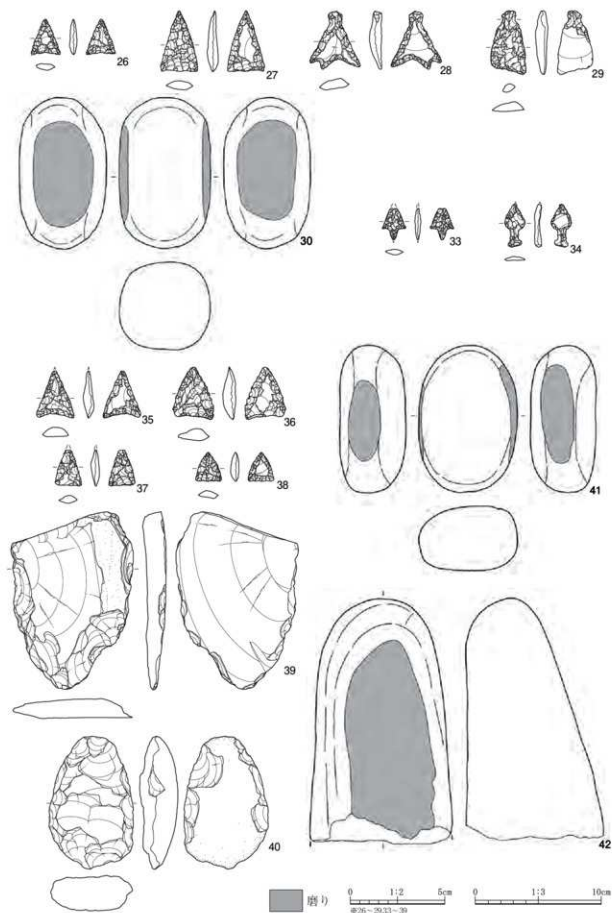
第135図 S I 01~03出土石器・石製品



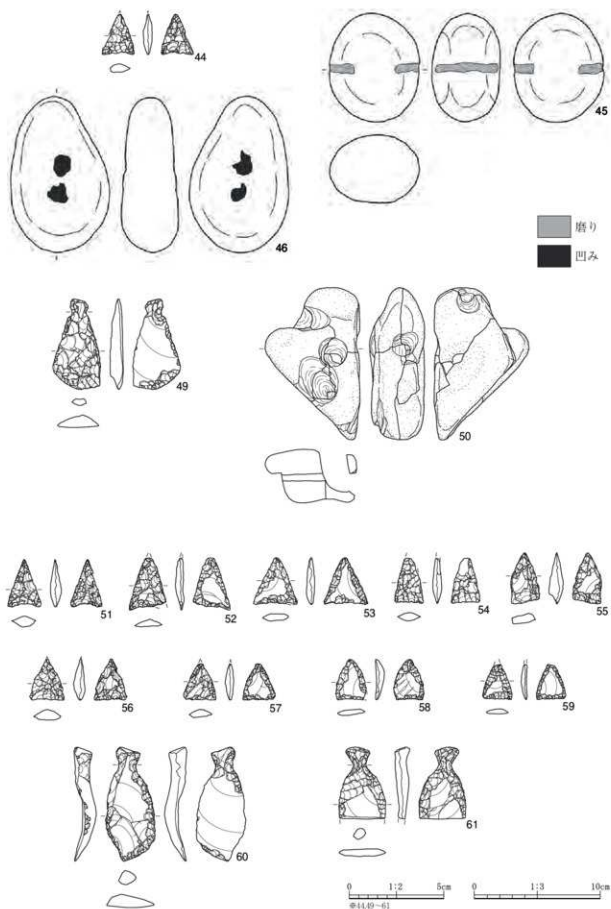
第136図 S106、S105・07(1)出土石器・石製品



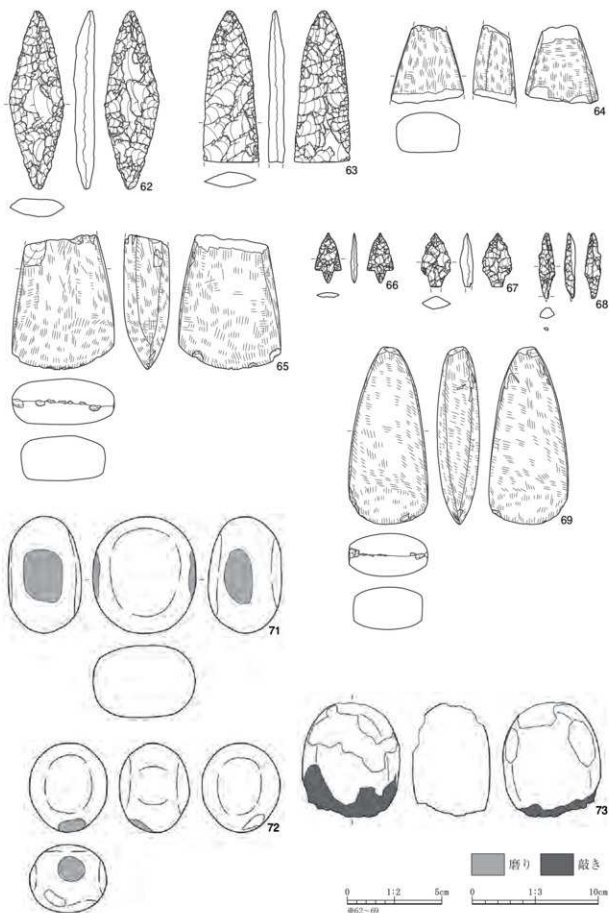
第137図 S105・07(2)、S108出土石器・石製品



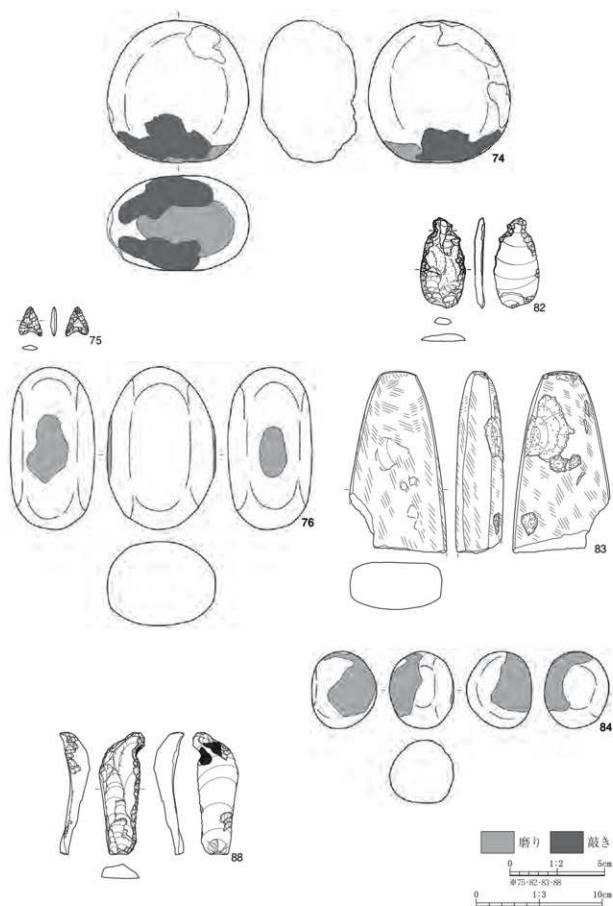
第138図 S I 09、S I 12、S I 15、S I 16・18出土石器・石製品



第139図 S I 20、S I 22・23、S I 27(1)出土石器・石製品

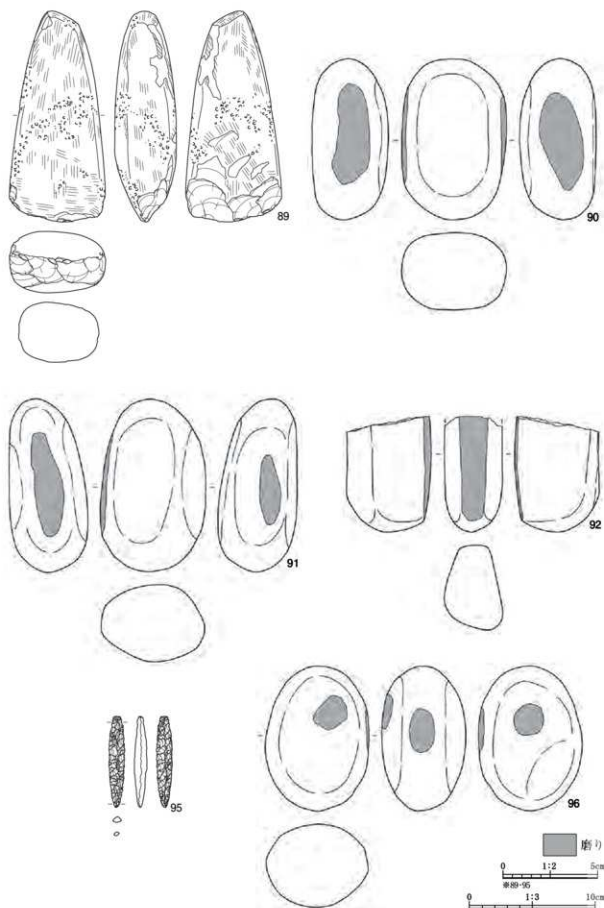


第140図 S I 27(2)、S I 28、S I 31A(1)出土石器・石製品

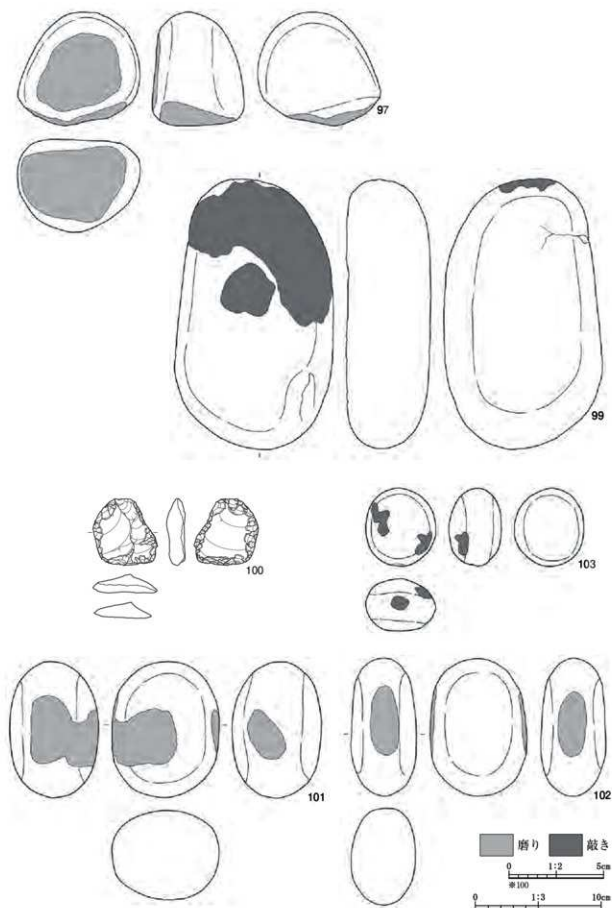


第141図 S131A(2)、S131B・C、S133、S135(1)出土石器・石製品

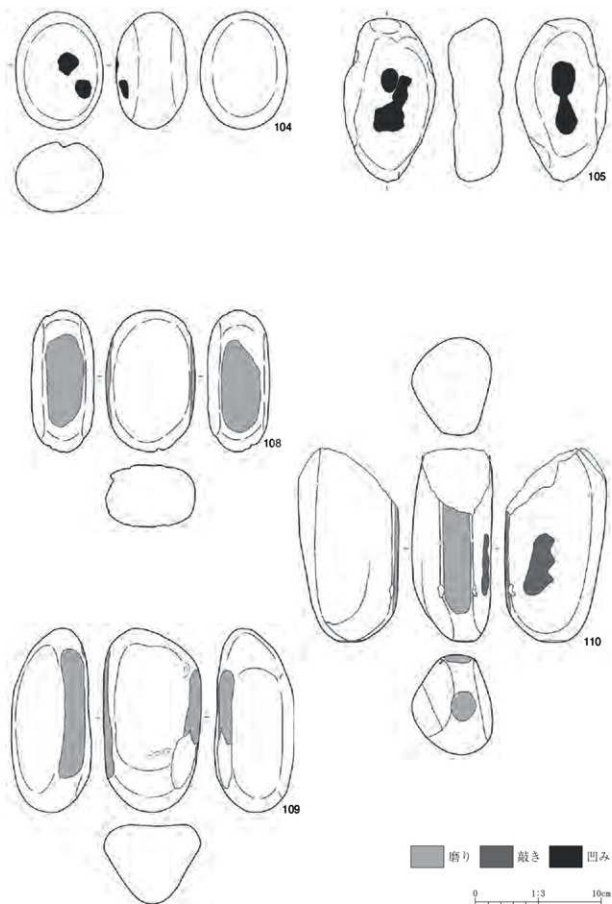




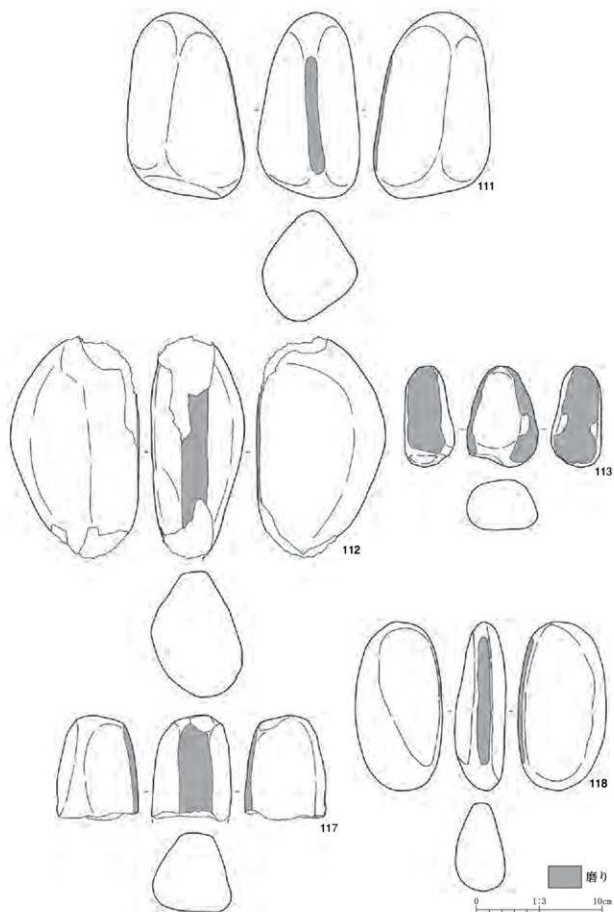
第142図 S I 35(2)、S I 36(1)出土石器・石製品



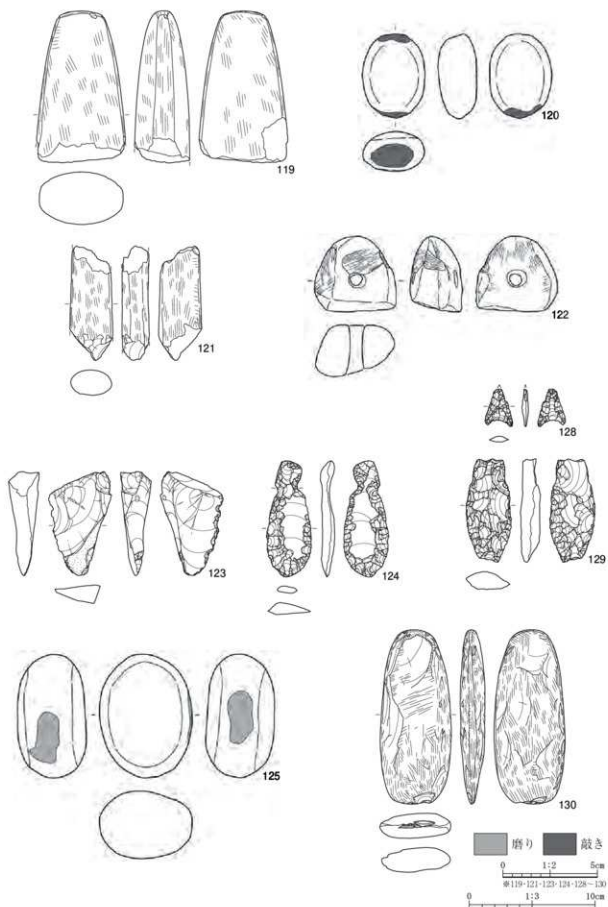
第143図 S136(2)、S138、S140(1)出土石器・石製品



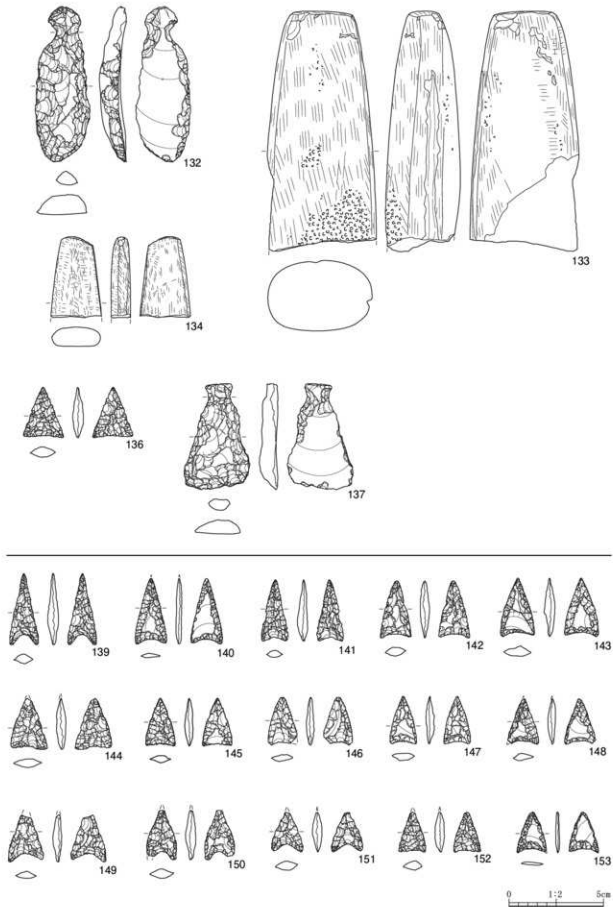
第144図 S140(2)、S144(1)出土石器・石製品



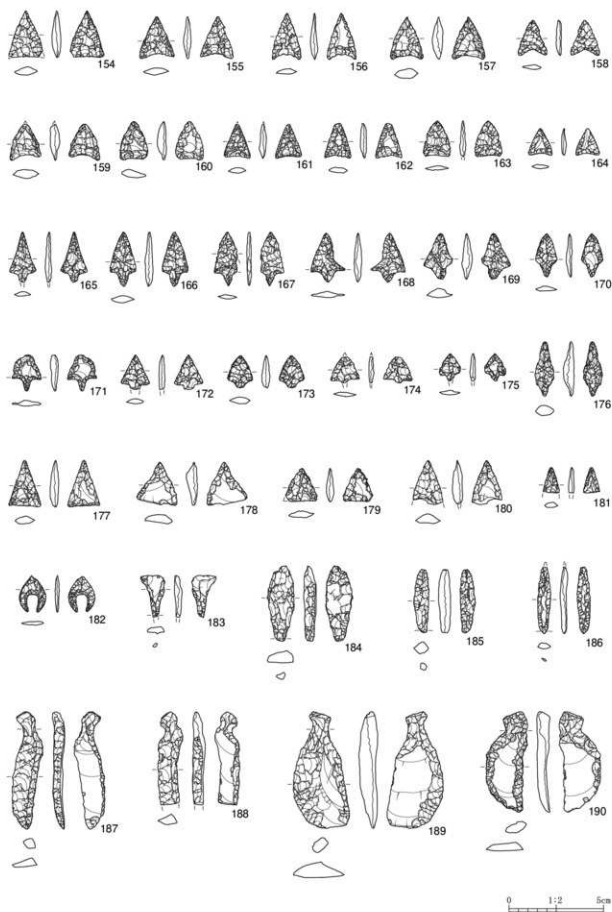
第145図 S144(2)、S145出土石器・石製品



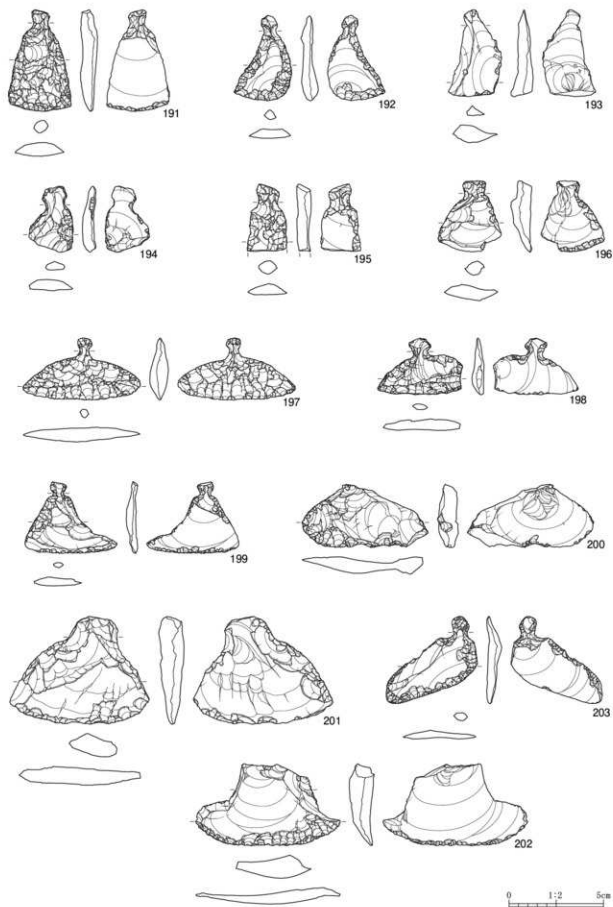
第146図 S I 48、S I 51、S K 15・25出土石器・石製品



第147図 2~4号配石、後期包含層(1)出土石器・石製品

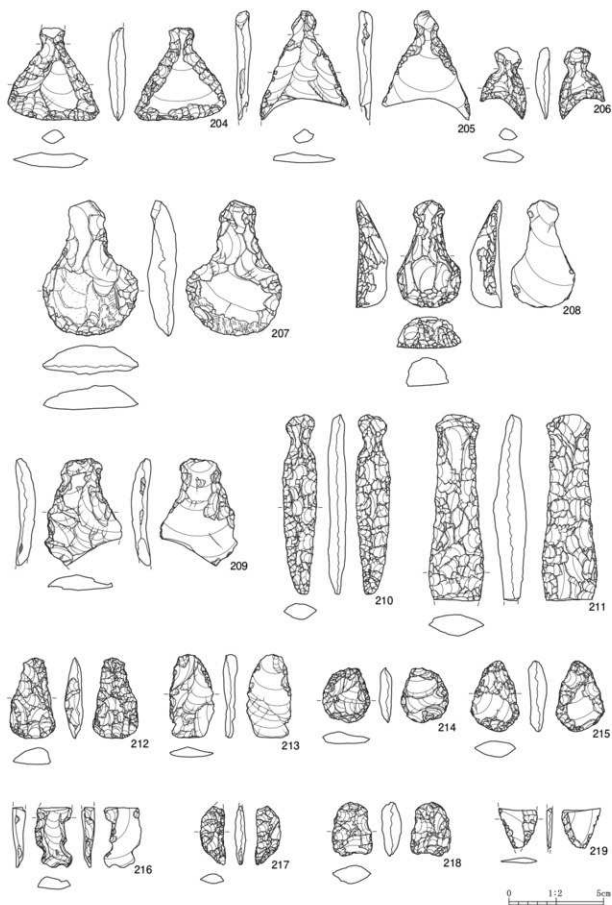


第148図 後期包含層(2)出土石器・石製品

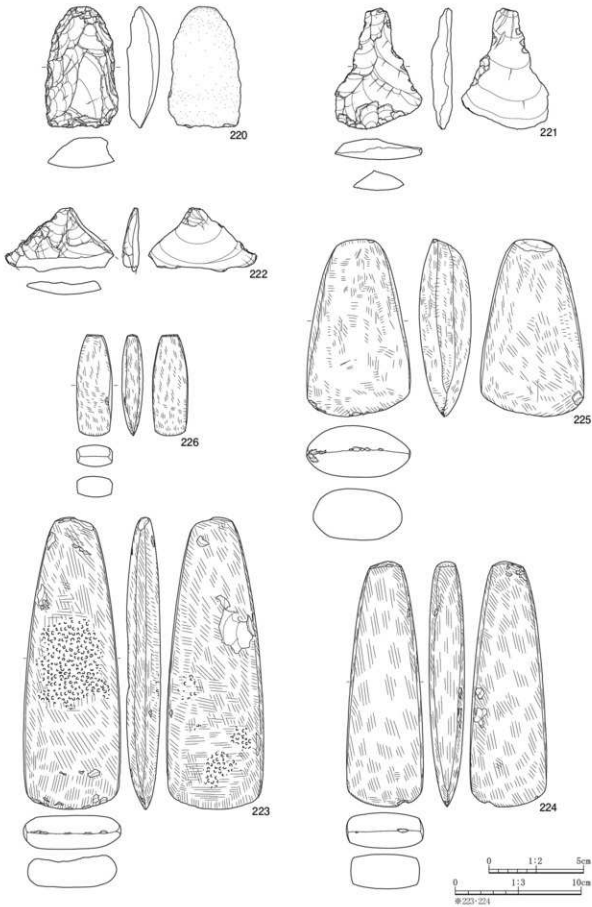


第149図 後期包含層(3)出土石器・石製品

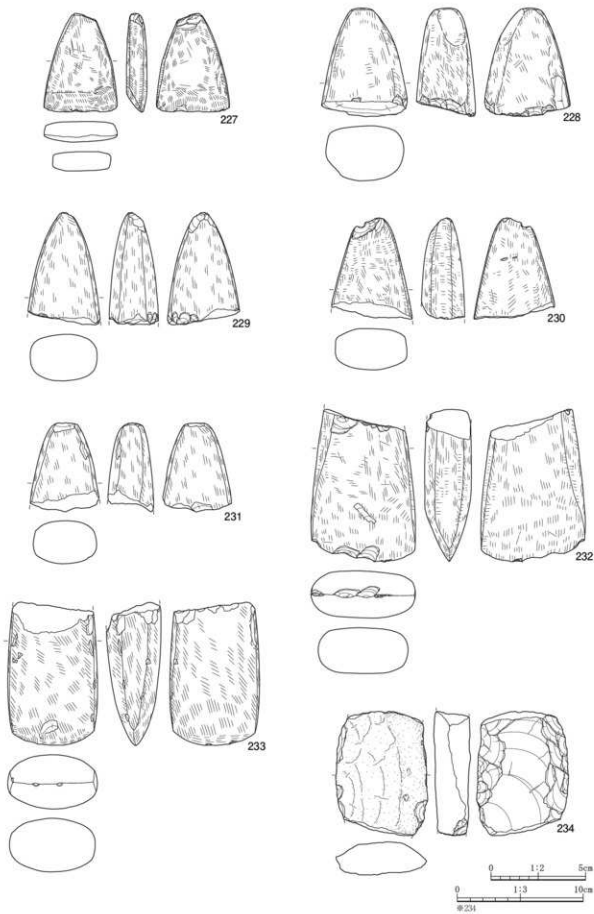




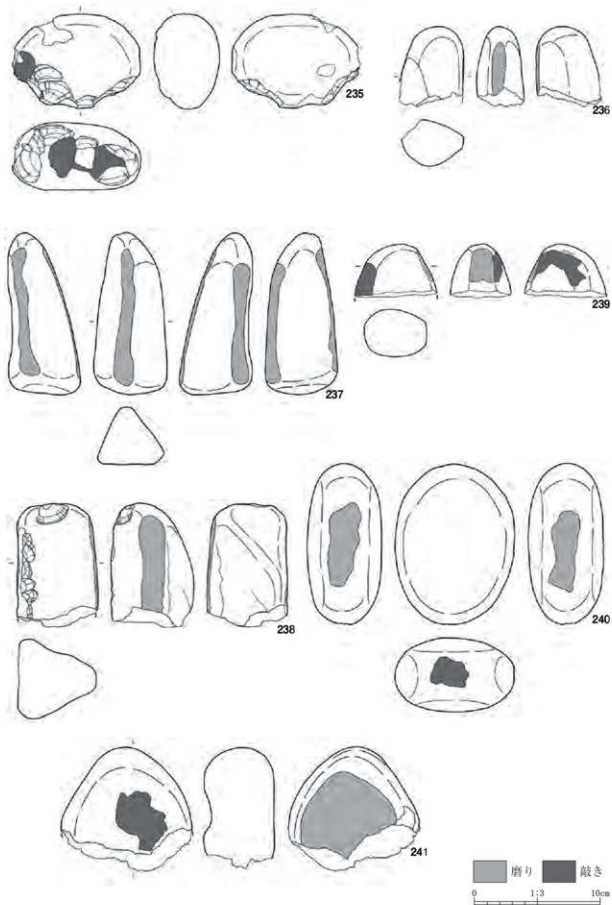
第150図 後期包含層(4)出土石器・石製品



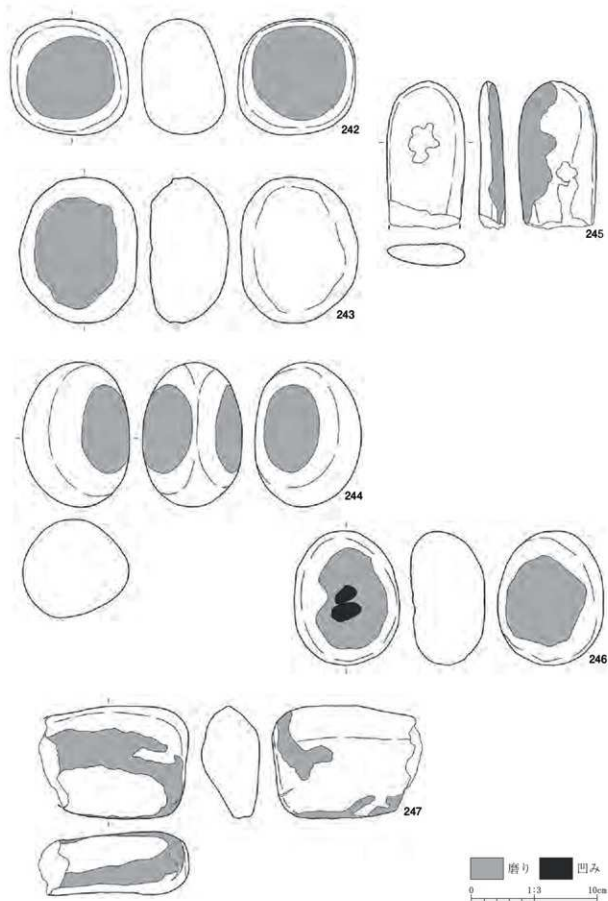
第151図 後期包含層(5)出土石器・石製品



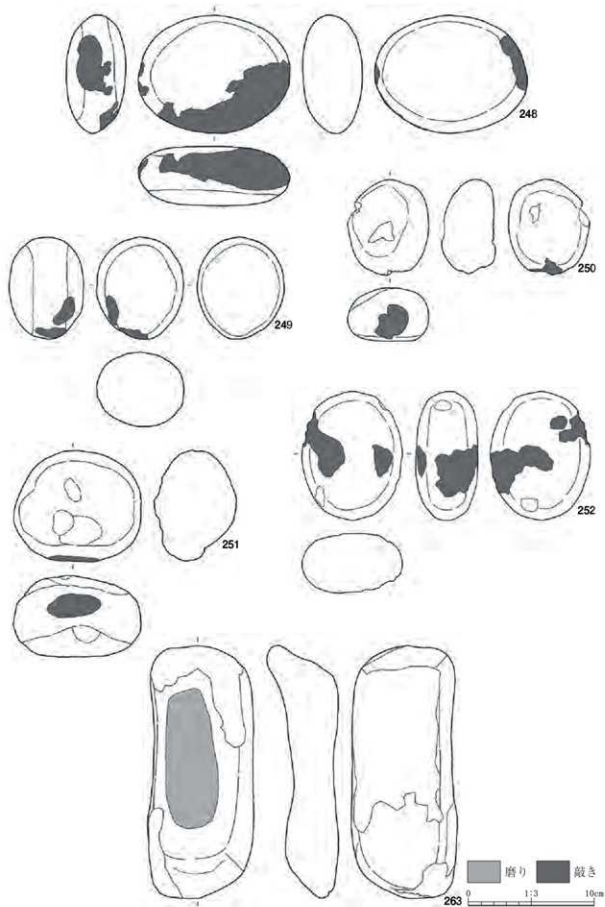
第152図 後期包含層(6)出土石器・石製品



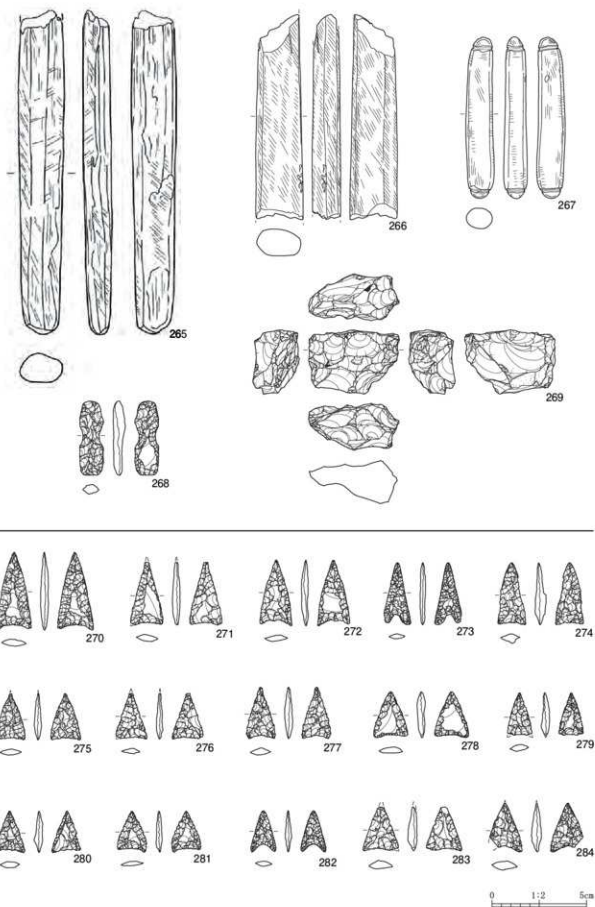
第153図 後期包含層(7)出土石器・石製品



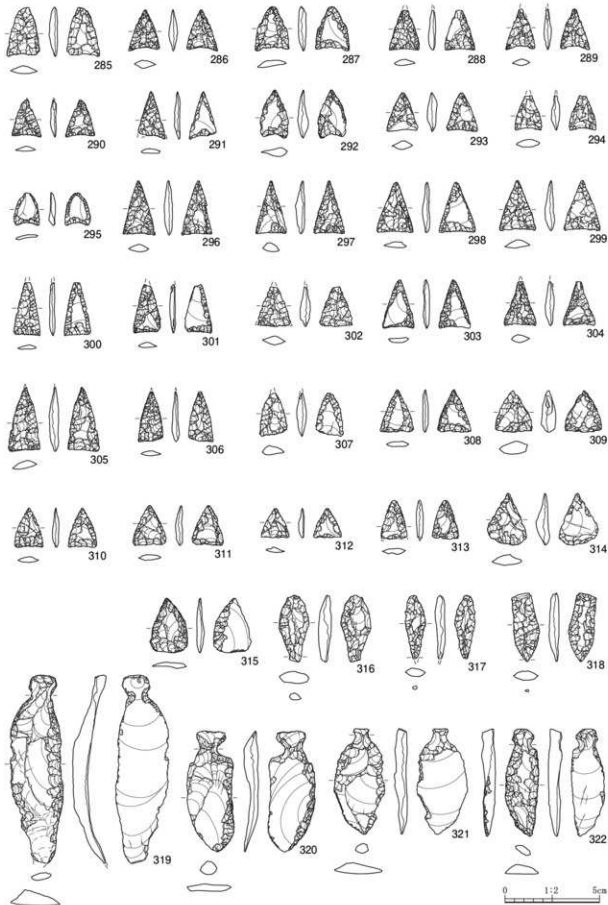
第154図 後期包含層(8)出土石器・石製品



第155図 後期包含層(9)出土石器・石製品

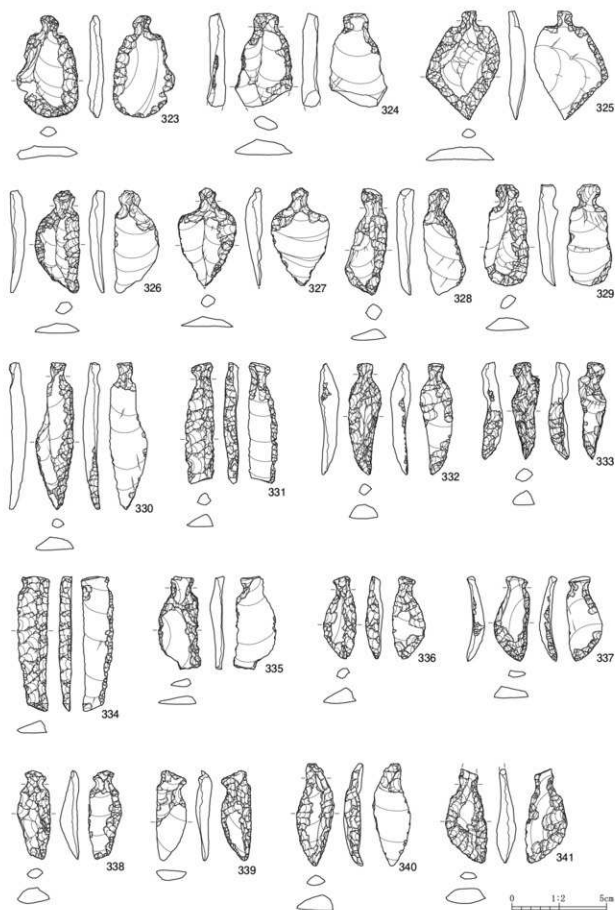


第156図 後期包含層(10)、前期包含層(1)出土石器・石製品

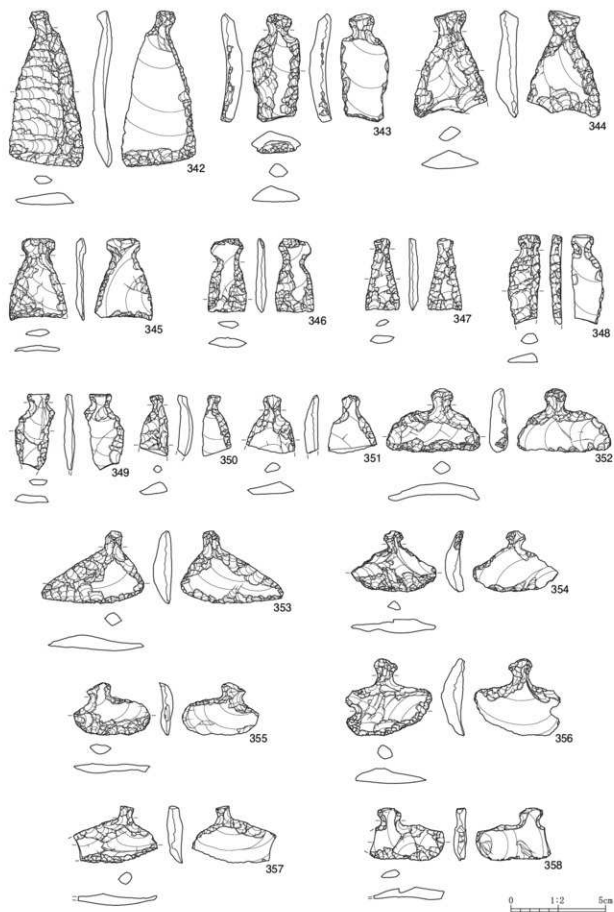


第157図 前期包含層(2)出土石器・石製品

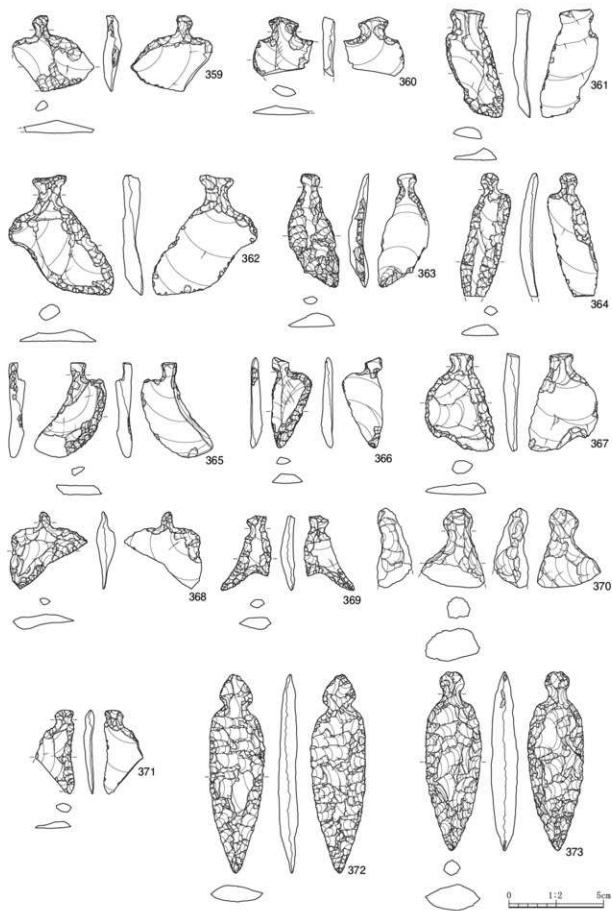




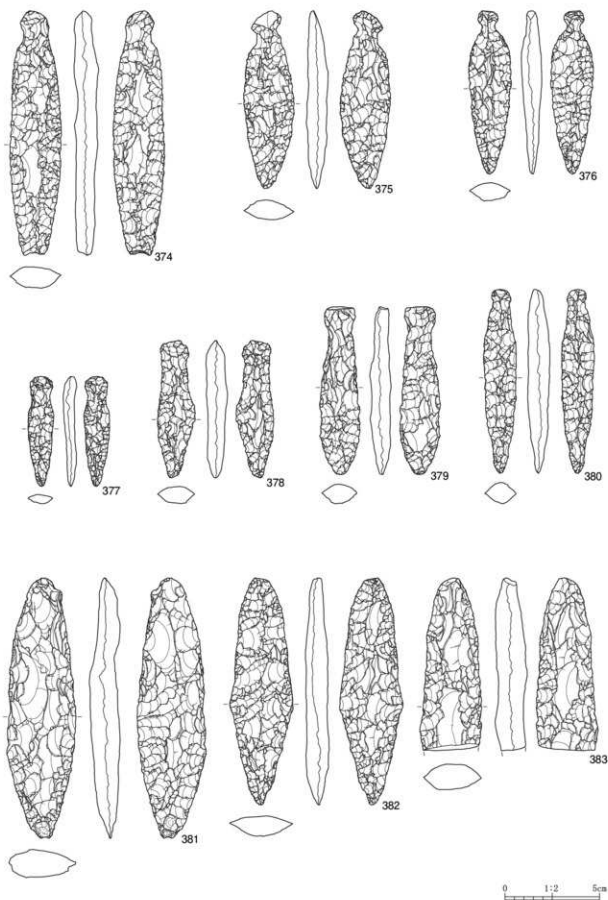
第158図 前期包含層(3)出土石器・石製品



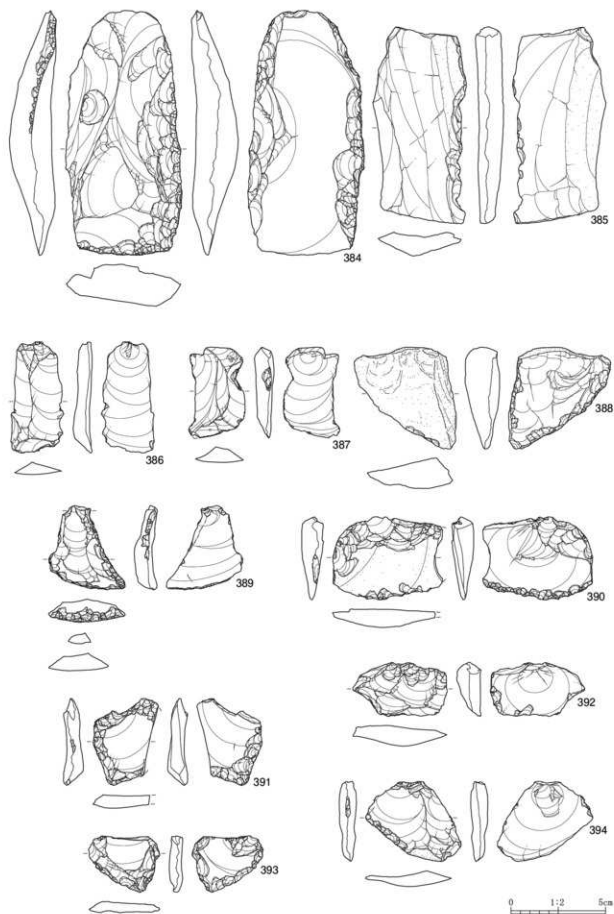
第159図 前期包含層(4)出土石器・石製品



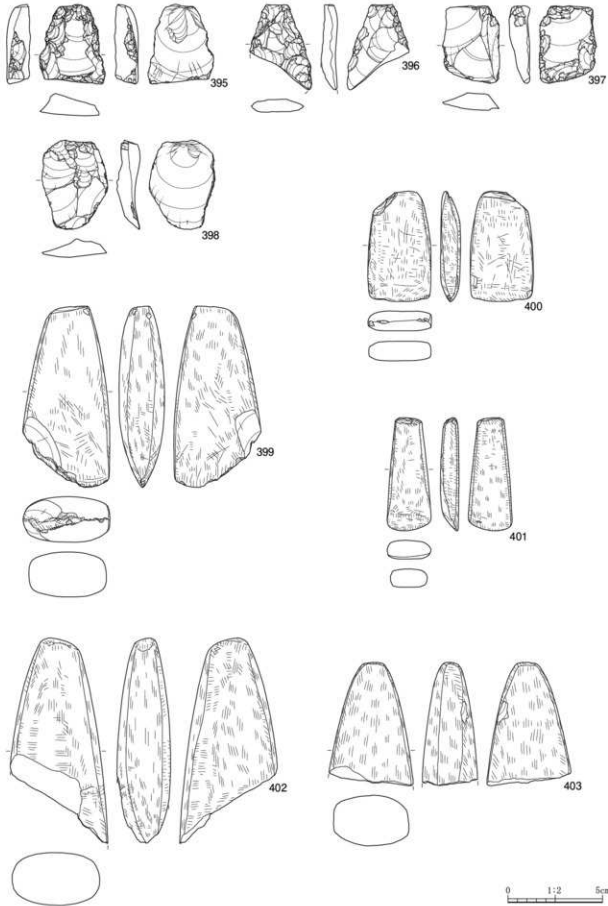
第160図 前期包含層(5)出土石器・石製品



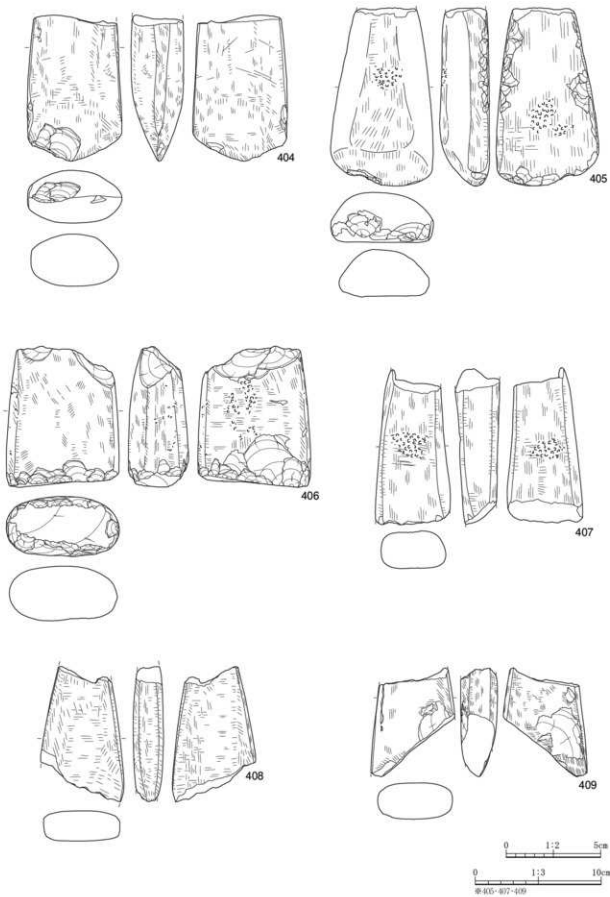
第161図 前期包含層(6)出土石器・石製品



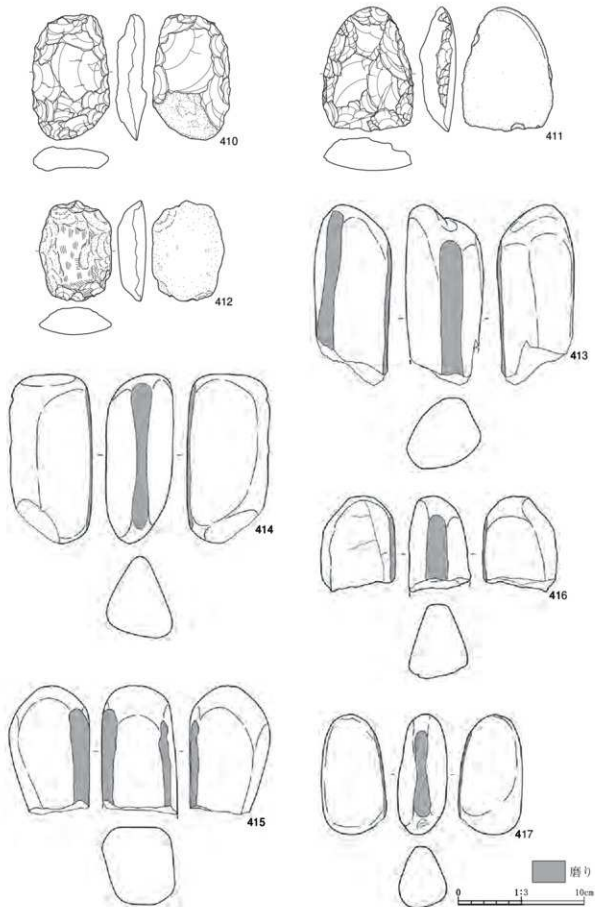
第162図 前期包含層(7)出土石器・石製品



第163図 前期包含層(8)出土石器・石製品

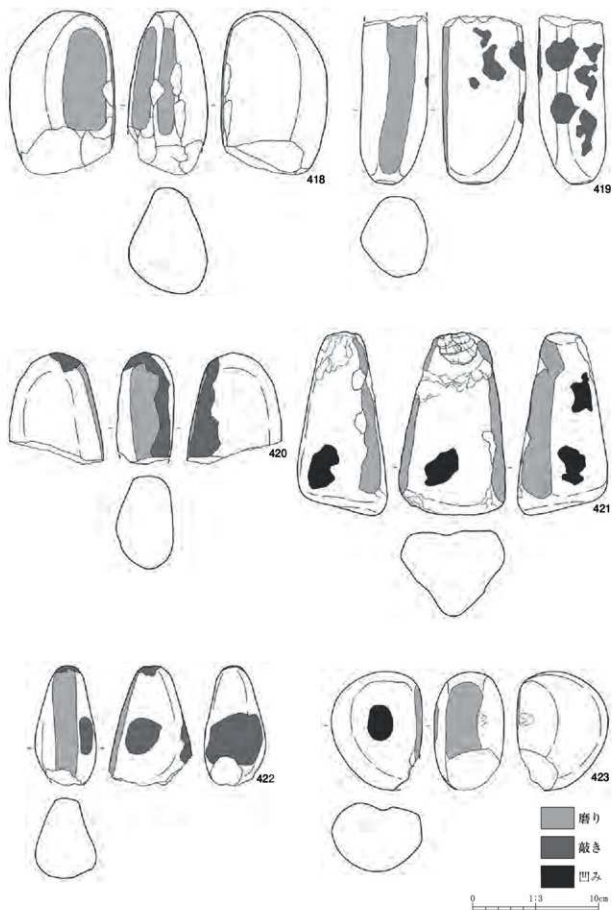


第164図 前期包含層(9)出土石器・石製品

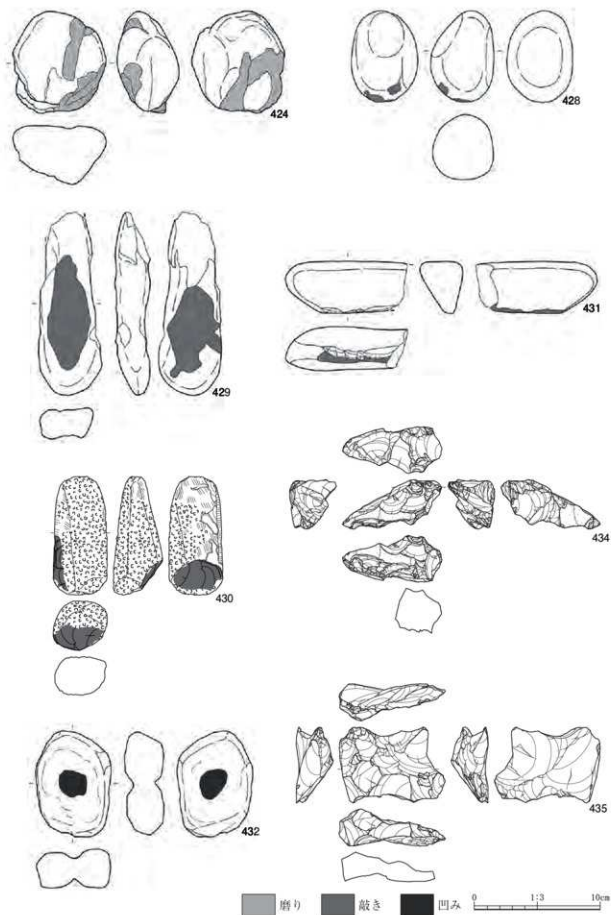


第165図 前期包含層(10)出土石器・石製品

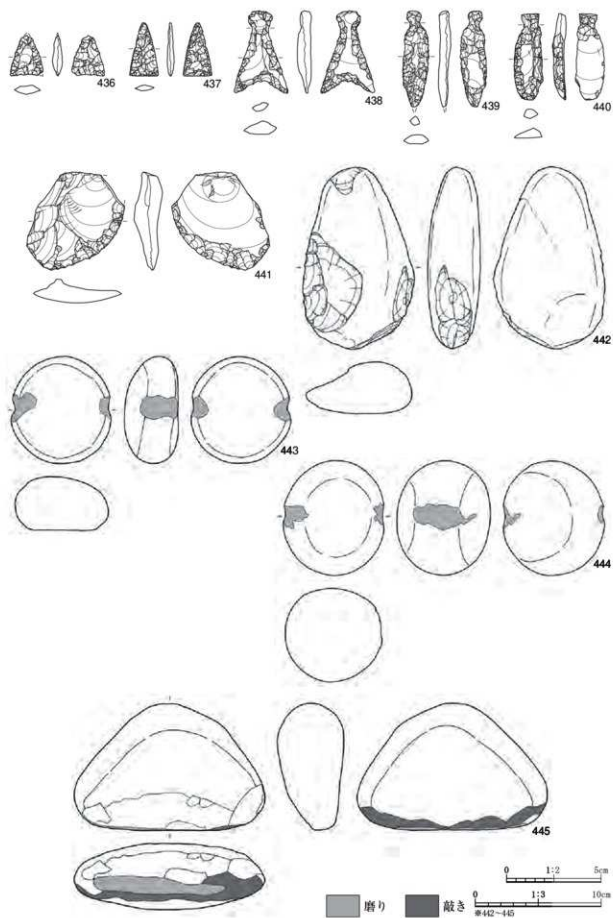




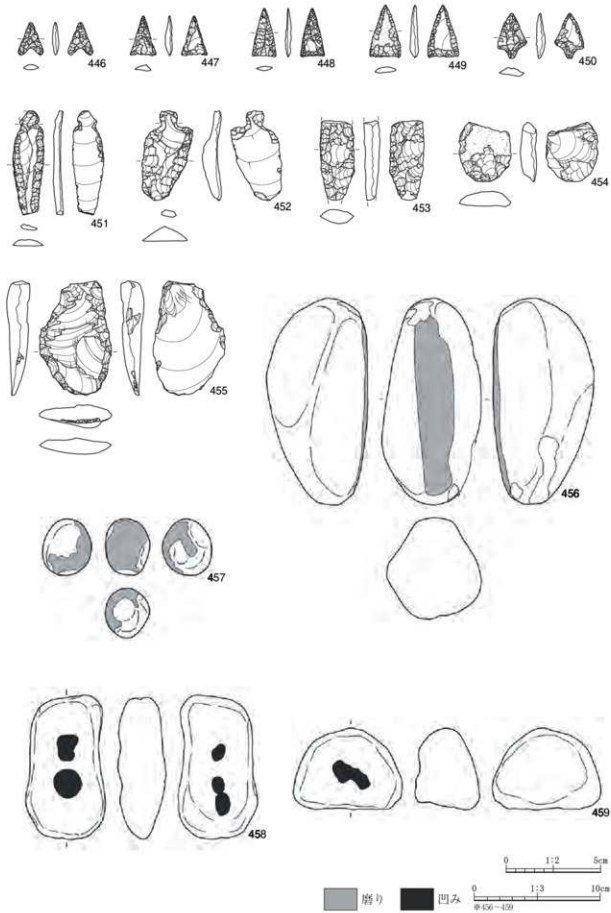
第166図 前期包含層(11)出土石器・石製品



第167図 前期包含層(12)出土石器・石製品



第168図 A区遺構外出土石器・石製品

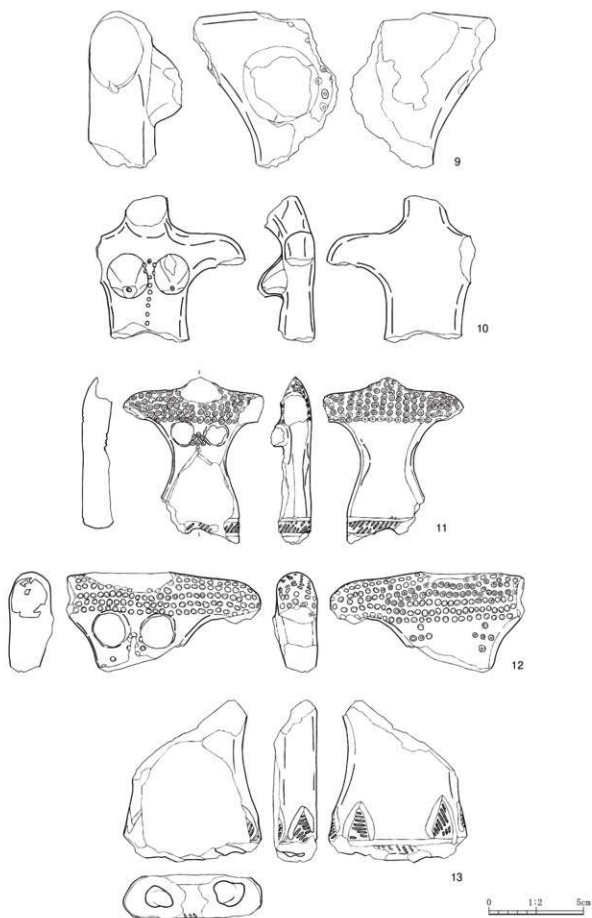


第169図 B区遺構外出土石器・石製品

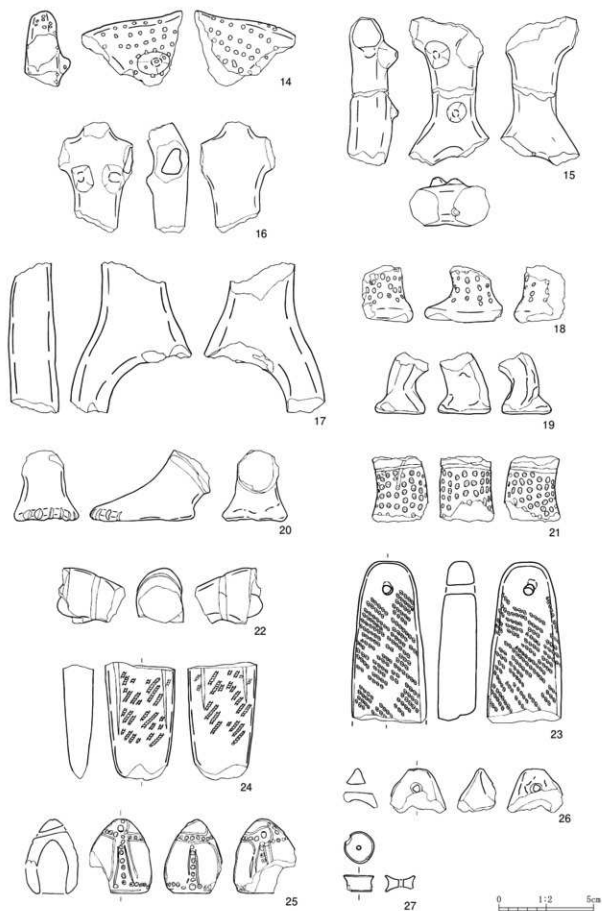


0 1:2 5cm

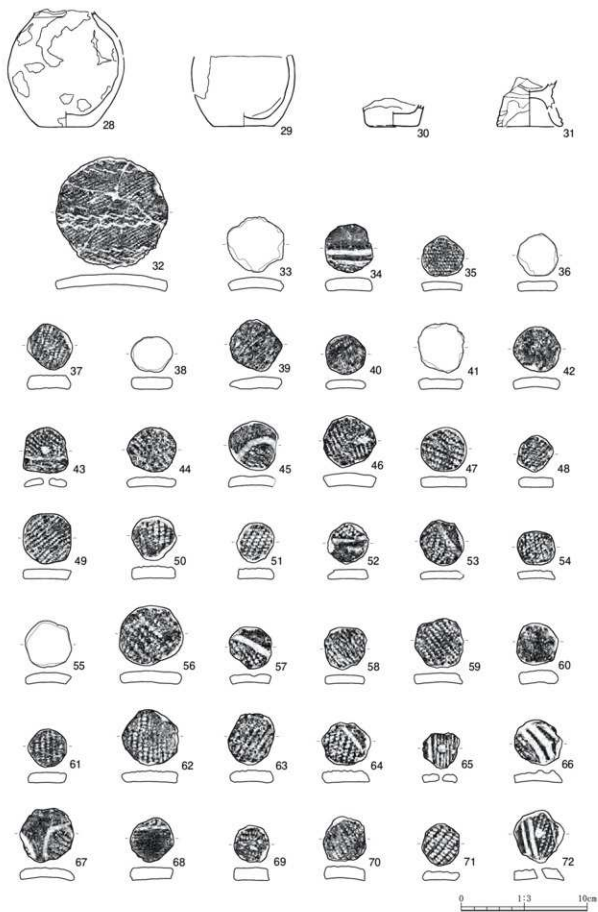
第170図 土製品(1)



第171図 土製品(2)

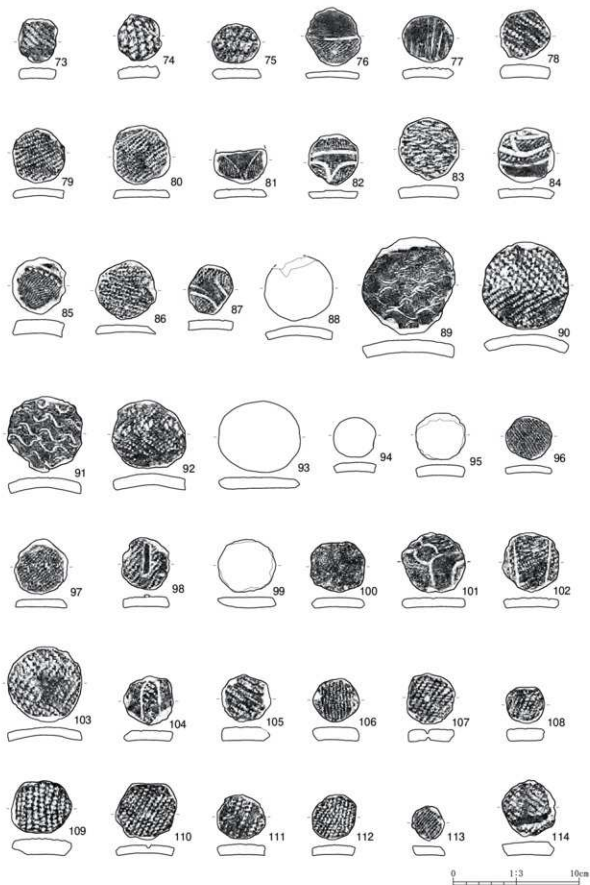


第172図 土製品(3)



第173図 土製品(4)





第174図 土製品(5)

第3表 土器観察表

No.	区域	出土地点・遺構名・層位	器形	部位	特徴・文様	備考	時期	重量 (g)	口径 (cm)	高さ (cm)
1	A	S03埋土10s, 10-11s	溝口	口縁-胴部	口縁は灰青緑・外面淡黄緑・内面白文。編み文(赤・白)。胴部は白(淡黄緑・赤)白筋。淡黄緑(ミガキ)・無文/ノナテ		後期中葉	2034.9	53	59
2	A	S03埋土中一括	溝口	半定形	C字内文(淡黄緑・赤筋?)。横筋(淡黄緑・赤筋)淡黄緑。区内斜行横筋による帯状模造。区内外ミガキ/口縁ミガキ。胴-ノナテ		後期中-後葉	2461	54	60
3	A	S03埋土, 10s(黒色土-砂層上段, 高野込53層)	深鉢	口縁-胴部	黄灰(口縁)赤(胴部)。口縁部は淡黄緑。半黄竹管状突起。黄灰(内面)(沈殿)。区内内L形突起(ミガキ)ノナテ		後期中葉	171.5	54	60
4	A	S03埋土	深鉢	口縁部	口縁は灰青緑。曲線文(淡黄緑・区内内L形突起)。区内外ミガキ/ミガキ		後期中葉	77.7	54	60
5	A	S03埋土	深鉢	口縁部	黄灰(口縁)。クランク文(口縁)彩色沈殿-区内内L形突起(赤筋)ノナテ		後期中葉	41.2	54	60
6	A	S03埋土, 11s(黒褐色-砂層)	深鉢	口縁部	黄灰(口縁)。直線部に黒。口縁同彩沈殿。口文+2重沈殿。L形横ノナテ		後期前-中葉	144.7	54	60
7	A	S03埋土, 10s(黒色土-砂層上段)	浅鉢	口縁-底部	L形横, 沈殿, ミガキ(無文文)/ミガキ		後期中葉	256.8	54	60
8	A	S03埋土	深鉢	口縁部	棒子状文(灰土横)。L形横ノナテ		大木4-5	33.5	54	60
9	A	S03埋土	浅鉢	胴-底部	直線反転L形横?ノミガキ		後期	99.8	54	60
10	A	S03埋土	不明	底部	沈殿, ナテノナテ	底部木管状	後期?	171.4	54	60
11	A	S03埋土	深鉢	底部	ナテ横ノナテ	底部銅代片	不明	183.2	54	60
12	B	S03埋土	鉢	口縁部	斜交。黄赤文(淡黄緑)。L形横ノナテ		大木8	28.8	55	60
13	B	S03埋土	深鉢	口縁部	口縁ナテ横。陰線。L形横ノナテ		中期中葉	95.3	55	60
14	B	S05-07北ベルト埋土	深鉢	口縁部	口縁ナテ+内文。C字状+横内文(淡黄緑)。黄赤(多量)区ノナテ		大木8s-8h?	62.1	55	60
15	B	S05-07埋土	深鉢	口縁-胴部	黄灰(口縁)。口縁部沈殿+ナテ。黄赤文(淡黄緑)。L形横ノナテ。黄付		大木8	37.4	55	61
16	B	S05-07埋土	深鉢	口縁部	黄灰(口縁)。直線部に黄赤文(淡黄緑)。曲線文(黄赤)+淡黄緑。L形横ノナテ		大木8s	59.0	55	61
17	B	S05-07北ベルト埋土	深鉢	口縁部	黄灰(口縁)。直線部に黄赤文(淡黄緑)+斜交ノナテ		大木8s	35.6	55	61
18	B	S07埋土	深鉢	口縁部	黄灰(口縁)。口縁突起部+編み(貫通孔)。陰沈殿。L形横ノナテ		大木8	82.8	55	61
19	B	S05-07	深鉢	口縁部	黄灰(口縁)。直線部に黄赤文(淡黄緑)。帯状著しい		大木8s	32.5	55	61
20	B	S07埋土	深鉢	口縁部	黄灰(口縁)。口縁ナテ+陰沈殿。黄赤文(淡黄緑)。L形横ノナテ		大木8s	24.1	55	61
21	B	S05-07埋土	深鉢	胴部	黄赤文(淡黄緑)。L形横ノナテ		大木8	90.7	55	61
22	B	S07埋土	深鉢	胴部	黄赤文(淡黄緑)。L形横ノナテ		大木8s	10.7	55	61
23	B	S05-07北西床面付況	深鉢	口縁部	黄灰(口縁)。横内文(沈殿)。区内内L形。区内外ミガキ		大木8	69.7	56	61
24	B	S05-07埋土	深鉢	口縁部	口縁ナテ。陰沈殿。帯状文(淡黄緑)。L形横ノナテ		大木9	77.9	56	61
25	B	S07埋土	深鉢	口縁-胴部	黄赤+横内文(沈殿)。L形横ノナテ		大木9	170.2	56	61
26	B	S05-65ト	深鉢	口縁-胴部	口縁ナテ。内文(沈殿)区内内L形(黄赤)沈殿。区内外ナテノナテ		大木10	126.8	56	62
27	B	S05-07	深鉢	胴部	曲線文(淡黄緑)。車輪跡(赤)L形		大木9	53.3	56	62
28	B	S07埋土	小型鉢	口縁-胴部	口縁ナテ横。L形		中期後葉	120.5	56	62
29	B	S07埋土	鉢	底部	L形横。帯状ノナテ		50.2	56	62	
30	A	S06南東埋土	浅鉢?	口縁部	ギン状(中心に斜交)斜交。無文(ナテ横)/ナテ横		大木4-5	23.7	56	62
31	A	S06北西埋土	深鉢	口縁部	斜交。L形横ノナテ		中期前葉?	15.0	56	62
32	A	S06北東埋土	深鉢	口縁部	沈殿(赤)。斜交(半黄竹管)		中期前葉?	13.0	56	62
33	A	S06埋土(ベルト)	深鉢	口縁部	黄灰(口縁)。直線部から白筋に黄赤文(淡黄緑)。L形横ノナテ		大木8	33.0	56	62
34	A	S06北東埋土	深鉢	口縁部	黄灰(口縁)。直線部から黄赤文(赤+沈殿)。区内内L形横ノナテ		大木9	54.5	56	62
35	A	S06北東埋土	深鉢	底部	ナテノナテ	底部ミガキ	中期?	112.3	56	62
36	A	S06南直上	深鉢	口縁-底部	口縁部黒。L形横(胴体2重)	縁線多く含む	前期前葉	44.2	56	62
37	A	S06西サツレ	深鉢	口縁-胴部	S字状(口縁)。赤筋(赤)斜交(赤)斜交。L形横ノナテ。黄付	縁線少量含む	前期前葉	188.3	56	62
38	A	S06西埋土中	深鉢	口縁部	口縁L形。赤。L形		大木7s-7h?	29.9	57	62
39	A	S08北東埋土	宍?	口縁部	沈殿。L形横ノナテ		後期	140.5	57	62
40	A	S06南東埋土(ベルト埋土)	深鉢	口縁-胴部	黄灰(口縁)。S字状(口縁)L形横。帯状著しい	縁線多く含む	前期前葉	177.1	57	62
41	B	SI12E面 IP1	深鉢	口縁-胴部	S字状(淡黄緑・縦筋ミガキ)。L形横ノナテ		大木10	57.2	57	63
42	B	SI12埋土	深鉢	口縁部	口縁ナテ。陰沈殿+斜交		大木8	62.6	57	63
43	B	SI14埋土, B区北側Ⅱ層	深鉢	口縁-胴部	黄灰(口縁)。口縁同彩沈殿。S字状文(沈殿)+縦線沈殿。赤付(赤)斜交(赤)斜交。L形横ノナテ		後期前葉	37.2	58	63
44	B	SI15赤塗	宍	口縁部	口縁ミガキ横(無文文)。クランク文(口縁)・縁線L形横+ミガキノナテ		後期前葉	47.3	58	63
45	A	SI15, 11K(黒褐色-砂層, 13m基準)	深鉢	胴部	斜交。L形横。区内内L形突起。区内外ミガキ。クランク文(口縁)・縁線L形横ノナテ		後期前葉	212.9	58	63

No.	区域	所在地・遺構名・形状	発掘	部位	特徴・文様	備考	時期	遺構 (年)	面積 (㎡)	写真 掲載
46	A	SI15	不明	底部	瓦葺。ミガキノミガキ積		後期中葉	609	58	63
47	A	SI15埋土上-13m・13N基	深鉢	口縁-側部	流紋口縁(山型)。口縁部有内面に縦溝-口縁同様に。表面から横ノミ積+積み。口縁部有内面平行-縦溝状(縦溝各2本)交互。流紋口縁突起。S字状筋部ノミガキ積		大47a	9496	58	64
48	A	SI16-18(SF01)	深鉢	胴-底部	口縁ノミガキ。流紋口縁。区画内L形積。区画外ナテナテ	底部副代直	大49	23144	58	64
49	A	SI16-18(SF02)	深鉢	口縁-底部	横溝深い。流紋口縁。流紋部から横沟文流溝。区画内L形積。流紋部有内面文流溝。区画内L形積。区画外ナテナテ。ハシテ	流紋部積重合凸	前期中葉	510	59	65
50	A	SI16-18南側	深鉢	口縁部	口縁部突。S字状筋部L形積ノミガキ積	流紋部積重合凸	前期中葉	264	59	65
51	A	SI19北側埋土中	深鉢	口縁-側部	口縁ノミガキ。S字状筋部L形積ノミガキ積	流紋部積重合凸	大43P	264	59	65
52	A	SI19南側埋土中	深鉢	口縁部	口縁部突。瓦葺ノミガキ積	流紋部積重合凸	前期前葉	184	59	65
53	A	SI19南側埋土中	深鉢	口縁部突起	流紋部にC字文流紋流。中心貫通孔		大48b	1172	59	65
54	A	SI20東区西側埋土上12階色土層-名称一致	小型鉢	口縁-底部	流紋口縁(山型突起)小突起。裏形横溝(車輪跡)各1人頭ノミガキ。上部筋部ノミガキ	流紋部多く含む	大41	197	59	65
55	A	SI20東区区内中央部埋土	鉢	側部	V字(横溝)・横溝。瓦葺(段が太)組ノミガキ積		大44	421	59	65
56	A	SI20南側	深鉢	口縁部	横溝突起筋部付。下部にのみ穿孔		大48b	820	59	65
57	A	SI20P77埋土	深鉢	口縁部	ナテ積。横溝状筋部。口縁ノミガキ。ナテ積	中期中葉	220	60	66	
58	A	SI20南側	壺ノ小型鉢下	口縁部	三角形横溝文流溝。区画内ミガキ。縦溝L形積突起ノミガキ積		流紋部前葉	426	60	66
59	A	SI20ノルト東側埋土中	深鉢	口縁部	流紋口縁。口縁同形状流溝+瓦葺。ミガキノミガキ積		流紋部前葉	425	60	66
60	A	SI20南側	深鉢	口縁部	流紋口縁。口縁L形積。西側部区画内流溝。横溝L形積突起+筋部。区画内ミガキノミガキ積	中期前葉	328	60	66	
61	A	SI20南側	深鉢	口縁部	流紋口縁。口縁山型突起。横溝+ボタテ筋部付。流溝(平行)横溝文流溝。縦溝+縦溝+横溝ノミガキ積	流紋部前葉	603	60	66	
62	A	SI20東区西側埋土	壺?	胴-底部	口文流溝。区画内L形積+斜柱積。区画外ミガキノミガキ積(土具積)	底部副代直	流紋中葉	1431	60	66
63	A	SI22-23埋土中	深鉢?	口縁部	口縁部有筋突起。口縁上端に横溝(手取竹管)。L形積ノミガキ積	流紋部積重合凸	前期前葉	454	60	66
64	A	SI22-23埋土	小型鉢	底部	ナテ積		不明	303	60	66
65	A	SI27埋土上-空陶器	深鉢	口縁-側部	ナテ。L形積ノミガキ		中期後葉		60	66
66	A	SI27埋土	深鉢	口縁-側部	S字状筋部L形積。前々段多量瓦葺ノミガキ積	流紋部多く含む	前期前葉	1543	61	66
67	A	SI27埋土	深鉢	口縁-側部	S字状筋部L形積。前々段多量瓦葺ノミガキ積。筋部付。ナテ積	流紋部少量含む	前期前葉	1288	61	66
68	A	SI27埋土	深鉢	口縁-側部	S字状筋部L形積。前々段多量瓦葺ノミガキ積	流紋部多く含む	前期前葉	1560	61	66
69	A	SI28埋土	深鉢	口縁部	流紋口縁。口文(流溝)。横溝(手取竹管)。L形積		後期前葉	609	61	66
70	A	SI28埋土	深鉢	口縁部	斜柱(流溝)。横溝。縦溝。横溝。横溝深いノミガキ積	横溝孔	流紋部前葉	794	61	66
71	B	SD1A埋土一括	深鉢	口縁部	流紋口縁。流紋部に高色文(垂下)流溝。口文文流溝。区画内L形積。区画外ナテ(普通)ノミガキ積		大49	1083	61	66
72	B	SD1A埋土一括。B区南西隅埋土上	深鉢	口縁部	口縁筋部ミガキ+筋流溝。流紋文(流溝)。瓦葺ノミガキ積		大49	569	61	66
73	B	SD1A埋土一括	深鉢	口縁部	口縁ナテ+筋部。アルファベット文(筋流溝)。縦溝筋部斜柱+筋突起。区画外ナテ		大43D	2138	61	66
74	B	SD1A埋土一括	壺	口縁部	ミガキノミガキ	流紋部	中期中	352	61	66
75	B	SD1A埋土一括	深鉢	口縁部	口縁ナテ。L形積ノミガキ積		中期中-後葉	2139	61	67
76	B	SD1B埋土	壺	口縁-側部	ミガキ(横文部)。筋部+筋部突起+口文文一部筋突起。区画内L形積。S字状。横溝ノミガキ積。区画内L形積。筋突起。区画外ナテノミガキ積		大49	7073	62	67
77	B	SD1C埋土一括	深鉢	口縁部	筋流溝。L形積ノミガキ積		大48a~8b	1028	62	67
78	B	SD1B埋土一括	深鉢	口縁部	流紋口縁。(横溝)流溝+ナテ・ミガキ。L形積ノミガキ積		大40P?	1589	62	67
79	B	SD1B埋土一括。SD1Aノルト	深鉢	口縁-側部	L形積ノミガキ積		中期中-後葉	560	62	67
80	B	SD1B・C埋土一括。SI44埋土上段	深鉢	口縁-側部	L形積ノミガキ積		中期中-後葉	3012	62	67
81	B	SD1B・C埋土一括。SI44埋土上段	深鉢	口縁-側部	口縁ナテ。L形積ノミガキ。筋部付		中期後葉	4109	63	68
82	B	SD1B埋土一括	深鉢	口縁部	流紋口縁。口縁ナテ。瓦葺		中期後葉	1360	63	68
83	B	SD1B埋土一括	深鉢	底部	瓦葺筋部。ナテ		中期	2876	63	68
84	B	SD1B埋土一部DP1	深鉢	口縁部	口縁部は2層横溝。筋部高き。流紋口縁(横溝)。流紋大頭文(4層分)。筋部+筋部ナテ(区画内L形積)。筋部突起+筋突起。筋突起+ボタテ。筋部付。流紋文(流溝)。横溝ナテ(区画内L形積。斜柱積)ノミガキ積		大43D	34139	63	68
85	B	SI23	深鉢	側部	筋部		大43D		64	69
86	B	SI23埋土一括	深鉢	口縁部	流紋口縁。流紋部に横溝筋部付。高色文(筋部+筋流溝)。筋L形流溝		大48b	1167	64	69
87	B	SI23埋土上~中位	深鉢	口縁部	口縁ナテ。L形積	横溝孔	中期中-後葉	839	64	69
88	B	SI23埋土一括	深鉢	側部	アルファベット文(筋部+筋部ナテ)。L形積(流溝)ノミガキ積		大43D	3273	64	69
89	B	SI23埋土一括	壺	胴-側部	流溝。ナテノミガキ積		中期	686	64	69
90	B	SI23埋土一括	深鉢	底部	L形積。ナテ積。筋部付ノミガキ積		中期	1854	64	69

No.	区域	出土地点・遺構名・層位	形状	部位	特徴・文様	備考	時期	重量 (g)	寸法	写真 掲載
91	B	S13P土一括	鉢	底部		底面木葉直?	中期	744	64 60	
92	B	S13P土	深鉢	口縁・側部	口縁ナテ、乳濁・竹筴刺突、口字文(沈濁・区画内L1・ナテ)、前文文(区画内ナテ・竹筴刺突・ナテ)		大古	289.2	65 70	
93	B	S13P土	深鉢	口縁部	乳濁、口縁ナテ、隆縁、アルファベット文(隆縁・器内ナテ)、L1縦(ナテ)		大古	228.2	65 70	
94	B	S13P土	小型鉢	口縁・側部	口縁ナテ、L1縦(ナテ)・ミダナ横		中期中～後葉	110.1	65 70	
95	B	S13P土上笠	深鉢	口縁・側部	深褐色直、L1縦		中期後葉	426.1	65 70	
96	B	S13S東、S13H、S14東	深鉢	口縁	溝縁ナテ(横文S字)・伏文(沈濁・区画内L1縦・区画内ナテ)・前文文(区画内ナテ・竹筴刺突・ナテ)		大古	573.3	66 71	
97	B	S13P土上、S13P土上、埋土下位、S14埋土一括	深鉢	口縁・側部	ナテ、S字伏文(隆縁・器内ナテ)・区画内(隆縁・ナテ)・L1縦(ナテ)・S字伏文(隆縁・器内ナテ)・同L1縦(ナテ)		大古	1736.8	65 70	
98	B	S13P土一括、S13P土一括、遺物倉中区	深鉢	口縁・側部	溝状口縁、口縁同形(溝状沈濁、流濁文(L1縦・区画内L1縦)・区画内ナテ・ナテ)		大古	773.2	67 72	
99	B	S13P土一括	深鉢	口縁・側部	溝状口縁、アルファベット文(隆縁・区画内L1縦・口縁部)・区画内ナテ・ナテ		大古	365.3	67 72	
100	B	S13P土一括	深鉢	口縁・側部	溝状口縁、アルファベット文(隆縁・器内L1縦・区画内ナテ)・区画内L1縦(ナテ)・L1縦(沈濁)		大古	296.2	67 72	
101	B	S13S	深鉢	口縁・側部	溝縁直上、アルファベット文(器内区画・隆縁・区画内ナテ)・区画内L1縦(隆縁)		大古	357.1	68 72	
102	B	S13P土一括	深鉢	口縁部	口縁ナテ横、隆縁、溝文(隆縁)・L1縦		大古	163.7	68 72	
103	B	S13S	深鉢	口縁部	口縁ナテ、隆縁、前伏文(沈濁)・ナテ		中期中～後葉	109.3	68 72	
104	B	S13P土一括	浅鉢(深鉢ナテ)	口縁部	溝文突起、L1縦(隆縁溝縁)・ナテ		大古	62.1	68 72	
105	B	S13P土上、S13S砂層上	鉢	口縁・底部	溝状口縁、溝状伏文(沈濁・ナテ)・L1縦(沈濁)・沈濁(水平)・前文文(横文)・前伏文(沈濁・L1・ナテ)・L1縦(水平)・区画)・ナテ(横文等)・ナテ	底面網代文	前期前葉	539.2	68 72	
106	B	S13P土一括、S14	深鉢	口縁・底部	口縁・L1縦(水平)・ナテ(横文等)・L1縦・溝縁・器内L1縦(隆縁)・器内ナテ・前文文(隆縁・L1・ナテ)・L1縦(水平)・溝状口縁(沈濁・L1縦・ミダナ)・ナテ		前期前葉	117.6	68 72	
107	B	S13P土一括	小型鉢	口縁・底部	口縁部付合		前期前葉	99.5	69 73	
108	B	S13S、SK13P土下笠	深鉢?	口縁部付合	溝状口縁、溝状文(前伏文・前文)・ナテ・ミダナ・ナテ横		前期前～中葉	141.8	69 73	
109	B	S13P土一括	鉢	底部	人籠文(沈濁・L1R多方向沈濁・ナテ)		前期前葉	90.1	69 73	
110	B	S13P土一括	鉢	口縁・側部	口縁L1縦、ナテ横、L1縦・L1斜		中期?	118.8	69 73	
111	B	S13S	深鉢	側部	L1縦・斜・ナテ		中期?	228.3	69 73	
112	B	S13S	深鉢	底部	ナテ横		中期?	208.7	69 73	
113	B	S13S	深鉢	底部			中期?	279.0	69 73	
114	B	S13P前面直上	深鉢	口縁・側部	深褐色直、前文文(沈濁・区画内L1縦)・同文(沈濁・区画内刺突)・区画内ナテ		大古	491.5	69 73	
115	B	S13P土	鉢?笠?	側部	溝文(沈濁・L1縦光澤)・ナテ)・ナテ		前期前葉	62.6	69 73	
116	B	S13S	深鉢	口縁部	溝状口縁、溝文(隆縁)・L1縦(ナテ横)		大古	102.8	70 74	
117	B	S13S	鉢	口縁部	沈濁、刺突、隆縁、細溝状沈濁、L1縦(口縁)・L1縦(ナテ横)	沈濁に赤彩色残存	大古?	28.3	70 74	
118	B	S13P土一括	深鉢	口縁部	溝状口縁、器内直上(溝文)・前文、隆縁、ナテ横、前文、L1縦(ナテ)		大古	49.9	70 74	
119	B	S13P土	鉢	口縁部	溝状口縁、器内直上(溝文)・中心貫通孔、溝文(隆縁・器内)・ミダナ・ミダナ		大古	61.0	70 74	
120	B	S13P土一括	深鉢	口縁部	溝文(隆縁)・L1縦		大古	96.6	70 74	
121	B	S13P土	深鉢	口縁部	一部隆縁溝縁、溝文(隆縁)・L1縦		大古	154.0	70 74	
122	B	S13P土	深鉢	口縁・側部	溝状口縁、二重沈濁(大)・口字文系、内部(横)・同文(区画内刺突・L1縦)・区画内ナテ、隆縁・ナテ横		大古	156.6	70 74	
123	B	S13P土・床面	深鉢	口縁・側部	口縁ナテ横、前伏文(口字文)・沈濁・区画内L1縦、前文文(区画内ナテ)		大古	220.6	70 74	
124	B	S13P土・床面	深鉢	口縁・側部	口字文(沈濁・区画内L1縦)・区画内ナテ横		大古	250.0	70 74	
125	B	S13P土一括	深鉢	口縁部	口縁ミダナ、口字文(沈濁・区画内L1縦・区画内ナテ)・ナテ横		大古	162.8	70 74	
126	B	S13P土	小型鉢	口縁部	前文直口縁、口縁ナテ・沈濁、口字文(沈濁・区画内L1縦)・区画内ナテ		大古	62.8	70 74	
127	B	S13P土一括	鉢	口縁部	口縁ミダナ横、前文文(沈濁・区画内L1縦)・区画内ナテ・ナテ		大古	28.6	70 74	
128	B	S13P土	深鉢	口縁部	前文文(隆縁・区画内L1縦・前文)・区画内ナテ・ナテ		大古	39.8	70 74	
129	B	S13P土一括	鉢・笠	側部	隆縁(方形器内等)・L1縦		大古	52.4	71 74	
130	B	S13P土一括	深鉢	口縁・側部	口縁ナテ、L1縦(ナテ横)		中期後葉	331.6	71 74	
131	B	S13P土	深鉢	口縁・側部	口縁ナテ、L1縦(ナテ横)		中期中～後葉	375.3	71 74	
132	B	S13P土	深鉢	口縁・側部	前文直口縁、L1縦(ナテ横)		中期	279.9	71 74	
133	B	S13P土	深鉢	側部	L1縦(ナテ)		中期中～後葉	322.5	71 75	
134	B	S13P土一括ベルト	小型鉢?ミダナ?	底部	溝文、ナテ横(ナテ横)		中期	428.4	71 75	
135	B	S13P土	小型鉢?	口縁・底部	溝状口縁、L1縦・L1縦(ナテ横)		中期	95.3	71 75	

No.	区域	出土地点・遺構名・層位	形制	部位	特徴・文様	備考	時期	重量 (g)	径 (cm)	写真 掲載
136	B	S46棟土	小型鉢	底部	摩滅著しい。施文判読不可		中期	107.0	71.75	
137	B	S44棟上、S53西側	深鉢	口縁・胴部	流状口縁。背面に濁色文(横線展開)。濁色文(縦線+点)。区画内L線。ナテ		大木8b	544.2	72.75	
138	B	S44棟土	深鉢	口縁・胴部	流状口縁。口縁周辺に隆線(3条)+縦線斜交。濁色横文(流状)。区画内L線。ナテ		大木8b	841.8	72.75	
139	B	S44棟土	深鉢	口縁・胴部	流状口縁。背面に濁色文(縦線+横線)。口縁流線。口縁L字ナテ。流状・斜交。濁色文(流状)展開。区画内L線。ナテ		大木8b	331.8	72.75	
140	B	S44棟上一括、SK24	深鉢	口縁部	流状口縁。口縁L字ナテ。隆線+斜交(扇状)。大小濁色文(流状)。区画内L線。ナテ		大木8b	376.4	73.76	
141	B	S44棟上、S53西側	深鉢	口縁・胴部	口縁L字ナテ+流状(水平)。濁色文(流状)。区画内L線。ナテ		大木8b	281.8	73.76	
142	B	S44棟土	深鉢	口縁部	流状口縁。口縁流線。流面の手状突起(貝涌孔)。濁色文(流状)。区画内L線。ナテ		大木8b	250.4	73.76	
143	B	S44棟上、S46棟土	深鉢	口縁・胴部	口縁L字ナテ+斜交。濁色文(流状)。区画内L字ナテ		大木8b	546.9	73.76	
144	B	S44棟上一括	深鉢	口縁部	口縁L字ナテ。流線(水平)。濁色文(流状)。単純縁条体(扇状)。区画内L線。ナテ		大木8b	365.4	74.76	
145	B	S44棟上一括	深鉢	口縁部	流状口縁。流面に濁色文(横点+縦線)。流線(水平)。濁色文(流状)。区画内L線。ナテ		大木8b	81.8	74.76	
146	B	S44棟土	深鉢	口縁部	流状口縁。口縁L字ナテ。隆線+斜交(扇状)。濁色文(流状)。区画内L線。ナテ		大木8b	301.4	74.76	
147	B	S44棟上一括	深鉢	口縁・胴部	流状口縁。口縁L字ナテ。濁色文(流状)。区画内L線。ナテ		大木8b	217.4	74.76	
148	B	S44棟上一括	深鉢	口縁部	流状口縁。流面に濁色文(隆線+ナテ)。曲線(口字L字流線)。区画内L線。ナテ		大木8b-9	75.3	74.76	
149	B	S44棟土	深鉢	口縁部	流線流線。扇状流線(羽状)/ナテ		大木8c	48.4	74.76	
150	B	S44棟土	小型鉢	口縁・底部	濁色文(流線流線)。大小。区画内L線。ナテ		大木8b	190.3	74.76	
151	B	S44棟土上層・棟土	口縁・胴部	三ツギナテ(無文帯)。濁色文(貝涌孔あり)。横状突起。濁色文(流線流線)。区画内L線。ナテ		大木8b	317.4	74.76		
152	B	S44棟上一括	浅鉢	口縁・胴部	流状口縁。濁色文(隆線)。流線流線。区画内L線。ナテ		大木8b	288.8	74.77	
153	B	S44棟上・棟土一括、S46棟土	深鉢	胴部	大、小濁色文(流線流線)。単純縁条体(扇状)/ナテ		大木8b	992.0	75.77	
154	B	S44棟上・棟土一括	口縁・胴部	大口(扇状)+小(口字L字)ナテ(区画内L線)。区画内L線。ナテ。口字文(区画内L線)。区画内ナテ/ナテ		大木9	307.4	75.77		
155	B	S44棟土	小型鉢	胴部	流状口縁。口縁同形状隆線。濁色文(縦線。流線流線)。区画内L線。ナテ		大木9	152.2	75.77	
156	B	S44棟土	深鉢	胴・胴部	口字(流線流線)。隆線+斜交。口字(流線流線)+区画内L線。区画内ナテ/ナテ		大木9	174.2	75.77	
157	B	S44棟土	深鉢	口縁・胴部	口縁L字ナテ+隆線。口字文(流線)+区画内L線。区画内ナテ/ナテ		大木9	616.9	76.77	
158	B	S44棟土	深鉢	胴部	口字・横文(流線)+区画内L線。区画内ナテ/胴付着		大木9	489.5	76.78	
159	B	S44棟上一括	深鉢	胴部	摩滅著しい。横文(流線)+斜交。区画内ナテ		大木9	222.6	76.78	
160	B	S44棟上一括	鉢	胴・胴部	濁色文(縦線+流線流線)。区画内L線。ナテ		大木9	891.7	76.78	
161	B	S44棟土	小型鉢	胴・胴部	濁色文(縦線+流線流線)+区画内L線。ナテ	底面ヒガキ	大木9	157.7	76.78	
162	B	S44棟土	小型鉢	胴・底部	口字文(流線+区画内L線)。区画内ナテ/ナテ		大木9	263.4	76.78	
163	B	S44棟上、S53西側	深鉢	底部	口字文(流線+隆線)。区画内L線。ナテ		大木9	630.9	77.78	
164	B	S44棟上一括	深鉢	底部	流線(垂下)+口字文等の未施。単純縁条体(扇状)ナテ		大木9	334.0	77.78	
165	B	S44棟上一括	鉢	底部	口字文(流線(流線)。区画内L線)+磨消ナテ		大木9	135.1	77.78	
166	B	S44棟上、SK27棟上一括	深鉢	底部	流線(垂下)。区画内L線。ナテ		大木8b-9	353.2	77.78	
167	B	S44棟上、S53棟土	深鉢	口縁・胴部	区画内L線。ナテ+ハシケ		大木9-10	2208.7	77.79	
168	B	S44棟土	深鉢	口縁・胴部	口縁L字ナテ。隆線(水平)。区画内L線。ナテ		中期～中後	408.6	78.79	
169	B	S44棟土	深鉢	口縁・胴部	折込口縁+L線。区画内L線/ナテ(縦線)区画内L線(工具痕)	縦線?少量含む	中期～中後	639.1	78.79	
170	B	S44棟土	深鉢	口縁部	折込口縁+ナテ。区画内L線/ナテ		中期～後葉	142.3	78.79	
171	B	S44棟上一括	深鉢	口縁・胴部	折込口縁。区画内L線/ナテ		中期	775.5	78.80	
172	B	S44棟上、S53西側	深鉢	口縁・胴部	流状口縁。摩滅著しい。区画内L線?		中期?	462.4	79.80	
173	B	S44棟上、S53西側	深鉢	胴部	単純縁条体(扇状)区画内L線/ナテ		中期後葉	450.0	79.80	
174	B	S44棟上、S53西側	深鉢	底部	単純縁条体(扇状)区画内L線/ナテ	底面削代	中期～後葉	408.9	79.80	
175	B	S44棟土	深鉢	底部	区画内L線。ナテ		中期	236.2	79.80	
176	B	S44棟上、S53棟土一括	深鉢?	底部	疑々ナテ/ナテ	縦線ヒガキ	中期?	255.9	79.80	
177	B	S46棟土・棟出部	深鉢	口縁部	流状口縁。流面に濁色文系(隆線)。口縁L字ナテ。濁色文(流線流線)。区画内L線。ナテ		大木8b	91.9	80.80	
178	B	S46棟土・棟出部	深鉢	口縁部	口縁L字ナテ。濁色文系(流線流線)。区画内L線。摩滅著しい(口字ナテ)		大木8b	419	80.80	
179	B	S46棟土・棟出部	深鉢	口縁・胴部	口縁L字ナテ。区画内L線。ナテ		中期～後葉	222.8	80.80	
180	B	S46棟土一括	深鉢	口縁・胴部	口縁L字ナテ。隆線+縦線斜交。濁色文(流線流線)。区画内L線。ナテ		大木8b	330.6	80.80	
181	B	S46棟土一括	深鉢	口縁部	流線流線+斜交。濁色文(流線。縦線+ナテ)。区画内L線。ナテ	口字文ナテ+文帯(口字L字)	大木8b	104.4	80.81	



No.	区域	埋土地点、遺構名、層位	資料	部位	特徴・文様	備考	時期	遺長 (m)	幅 (m)	写真 掲載
225	A	11m埋土包含層(黒褐色・砂層上段)	小型鉢	底部	人組文(沈線・L状横)、ナデ/ナデ横		後期中葉	61.8	87	86
226	A	11m埋土包含層(黒褐色・砂層上段)	深鉢	口縁-胴部	波状口縁、波部部に横入、口縁同形状沈線、口文+2並沈線、L状横/ナデ横		後期中葉	209.9	87	86
227	A	8m埋土包含層(砂層一括)	深鉢	口縁部	波状口縁、下部に波状部、波状人組文(沈線+L状横)、クラクン文(波部/ミギギギ)		後期中葉	69.4	87	86
228	A	10m埋土包含層(黒褐色・砂層上段)	深鉢	口縁部	波状口縁、口縁同形状沈線(沈線2並)、M字多方向突起、クラクン文(波部/ナデ)、横刺/ナデ横		後期中葉	54.1	87	86
229	A	8m埋土包含層(黒褐色上段)	深鉢	口縁部	竹管刺突、多並沈線(平行)、クラクン文(沈線)		後期中葉	48.4	88	86
230	A	2m埋土包含層(砂層一括)	深鉢	口縁部	口唇半円状突起、沈線、縦刺ミギギ、L状横/ミギギ		後期中葉	41.8	88	86
231	A	8m埋土包含層(砂層一括)	深鉢	口縁部	口縁高半円状突起、内縁に横入、半円状(内縁に横入)突起、黒色横入/平行沈線、ミギギ/ナデ字横		後期中-後葉	84.3	88	86
232	A	南朝前期包含層	深鉢	口縁-胴部	波状口縁、小突起(外縁に横入)、口縁同形状沈線+L状横、L状横+ボツツ(横)突起、ミギギ(沈線+ミギギ)、(内側)半円状突起+L状横+波状口縁/ナデ横		後期後葉?	227.6	88	86
233	A	3m埋土包含層(砂層)	深鉢	口縁-胴部	口縁高半円状突起、クラクン文+多並沈線、波状口縁(横入)、ナデ、L状横、沈線+横刺/ナデ字横(波部)		後期後葉	318.4	88	86
234	A	後期包含層	深鉢	口縁部	口唇半円状突起(貫通孔)、ボタン状突起、黒色横入(横入)、沈線		後期後葉	33.8	88	86
235	A	後期包含層	深鉢?	口縁部	口縁突起、横入、区画文(L状横)		後期後葉	36.3	88	86
236	A	南朝黑色土	深鉢?	口縁部	口縁突起、横入、区画文(L状横、波状口縁、波状口縁、区画内L状横)、区画外ミギギ、沈線+L状横、L状横、横刺突起		後期中葉	389.1	88	86
237	A	8m埋土包含層(黒色土・砂層上段、黒褐色・砂層)	深鉢	口縁-胴部	口縁高半円状突起、L状横+人組文(区画内L状横突起、区画外ミギギ)/ナデ+波状口縁		後期中葉	349.0	88	86
238a	A	9・9m埋土包含層(黒色土・砂層上段、黒褐色・砂層)	深鉢	口縁-胴部	L状横+ミギギ、L状横+人組文(区画内L状横突起、区画外ミギギ)/ナデ+波状口縁、区画内L状横突起、区画外ミギギ/ナデ+波状口縁、区画内L状横突起、区画外ミギギ、L状横+ナデ字横		後期中葉	1053.3	89	87
238b	A	10m埋土包含層(黒褐色・砂層上段、黒色土・砂層上段)	深鉢	胴-底部	L状横/ナデ字横	底部副代瓦	後期中葉	300.6	89	87
239	A	9m埋土包含層(黒褐色上段、黒褐色上段)	深鉢	口縁-胴部	波状口縁(山形突起)、L状横、口縁同形状沈線+ミギギ(無突起)、L文(沈線・L状横)/ナデ字横		後期中葉	90.7	89	88
240	A	8m埋土包含層(黒色土・砂層上段)	深鉢	口縁-胴部	ミギギ横、L状横、平行沈線、縦刺突起、曲線文(沈線+縦刺突起、区画外ミギギ横)/ナデ字横		後期中葉	397.2	89	88
241	A	12m埋土上段	深鉢	胴部	曲線文(沈線)、L状横/ナデ字横		後期中葉	69.2	89	88
242	A	5m埋土包含層(砂層一括、6m)	深鉢	胴-底部	横入、L(文)(沈線・L状横、縦刺ミギギ)/ナデ		後期中葉	182.7	89	88
243	A	3m埋土包含層	深鉢	口縁-胴部	斜突+L状横、波状(水平・区画)、横刺字(沈線、区画内L状横+横突起、ミギギ)/ミギギ横+一部波状		後期中葉	254.9	89	88
243b	A	3m埋土包含層	深鉢	底部	横刺字(沈線、区画内ミギギ)、区画外L状横多方向突起(波部)		後期中葉	125.2	89	88
244	A	南朝前期包含層	深鉢	底部	曲線文(沈線、区画内L状横突起)、縦刺ミギギ/ミギギ横		後期中葉	197.9	89	88
245	A	9m埋土包含層	鉢?	胴-底部	横刺突起、曲線文(沈線)、L状横/ミギギ横		後期中葉	172.3	89	88
246	A	12m・13m埋土包含層(黒褐色・砂層)	深鉢	口縁-胴部	沈線、クラクン文(沈線、区画内ナデ)、区画内L状横/ミギギ、ナデ字横		後期中葉	388.9	91	89
247	A	8m埋土包含層(黒褐色上段)	小型鉢	口縁-底部	波状口縁、口縁ツツ状突起(3並突起)、L状横、波状口縁(横入)、縦刺L状横突起(ミギギ)、ナデ(無突起)		後期中葉	147.3	91	89
248	A	5m埋土包含層(砂層)	深鉢	半定形	波状口縁+横刺突起、三角+横入文(波状区画+L状横)+区画内突起(ミギギ)、波状(平行沈線文(波部)、L状横+横刺)ミギギ横/ミギギ横	底部副代瓦	後期中葉	497.0	91	89
249	A	南朝前期包含層	小型鉢	口縁-底部	波状口縁(山形突起)、平行、内縁に横入、口縁同形状沈線(区画内L状横、時集文、土布無突起の交互)、土布に穿孔→穿孔上段、ミギギ	底部副代瓦	後期中葉	135.6	91	89
250	A	12m埋土包含層(黒褐色、南朝黑色土(貫通孔))	単孔	底部	平行沈線+縦刺L状横、ミギギ、貫通孔/横入り、ナデ		後期中葉	205.6	91	89
251	A	9m埋土包含層(黒褐色上段)	深鉢	口縁-胴部	口縁高半円状突起(横入)、縦刺突起、貫通孔、波状口縁、L状横+波状口縁、縦刺ミギギ、竹管刺突、L状横-波状/ミギギ		後期中葉	1533.3	91	89
252a	A	8m埋土包含層(黒褐色上段)	深鉢	口縁部	ミギギ横、L状横(水平)、斜角横曲線文(沈線、区画内L状横突起、区画外ミギギ)/ナデ字横	横刺孔	後期中葉	163.2	92	90
252b	A	8m埋土包含層(黒褐色上段)	深鉢	口縁-胴部	ミギギ横、L状横(水平)、斜角横曲線文(沈線、区画内L状横突起、区画外ミギギ)/ナデ字横		後期中葉	180.5	92	90
253	A	14m埋土包含層(黒色土・砂層上段)	深鉢	口縁部	口唇ミギギ、沈線、L状横、口文(沈線)/ナデ		後期中葉	132.2	92	90
254	A	後期包含層	深鉢	胴部	L状横+人組文(沈線+縦刺ミギギ、区画内L状横多方向突起)		後期中葉	174.7	92	90
255	A	8m埋土包含層(黒色土・砂層上段)	深鉢	口縁部	波状口縁、口縁同形状沈線+L状横、凹文(沈線+区画内L状横、斜突起、ミギギ)/ミギギ		後期中葉	86.4	92	90
256	A	10・9m埋土包含層	深鉢	口縁部	波状口縁、口縁同形状沈線+L状横、波状口縁、三角文(沈線、区画内突起+L状横突起、ミギギ)/ミギギ		後期中葉	254.9	92	90
257	A	8m埋土包含層(砂層一括)	深鉢	口縁部	波状口縁、口縁同形状沈線+L状横、曲線文(沈線+区画内突起+L状横突起、区画外ミギギ)/ミギギ横		後期中葉	191.1	92	90
258	A	8m埋土包含層(黒褐色上段)	深鉢	口縁部	波状口縁、口縁同形状沈線+L状横、曲線文(沈線+区画内突起+L状横突起、区画外ミギギ)/ミギギ横	横刺多含む	後期中葉	92.5	92	90
259	A	7m埋土包含層(砂層)	深鉢	胴-胴部	曲線文+人組文突起、沈線、竹管刺突+L状横突起、平行沈線突起、縦刺突起(横入)、横刺人組文(沈線、区画内L状横突起、区画外ナデ)		後期中葉	178.5	92	90
260	A	11m埋土包含層(黒褐色・砂層上段)	深鉢	口縁-胴部	波状口縁、口縁突起(中央)、口縁同形状沈線(平行突起)、波状口縁、区画内L状横突起、区画外内縁突起+L状横突起、区画外ミギギ、波状(波部)ミギギ		後期中葉	442.7	93	90
261	A	8m埋土包含層(黒褐色・砂層上段)	深鉢	口縁部	横刺突起、凹文(沈線)、区画内竹管刺突+L状横突起、区画外ミギギ、突起(波部)有突起、ミギギ		後期中葉	252.9	93	90
262	A	3m埋土包含層(砂層一括)	深鉢	口縁部突起	口縁突起+大突起(横入)貫通孔有、ミギギ、波状沈線、L状横+横刺+竹管刺突+L状横/ミギギ		後期中葉	170.7	93	90
263	A	8m埋土包含層(黒色土・砂層上段)	深鉢	口縁部突起	口唇中央突起+貫通孔、L状横突起、横刺(竹管刺突)+L状横突起、ミギギ		後期中葉	158.3	93	90



No.	区域	出土地点・遺物名・層位	形状	部位	特徴・文様	備考	時期	重量 (g)	寸法	写真 掲載
304	A	5a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部突起	口縁部于状突起。縦線状隆起。耳直孔有。中空		後期中葉	67.4	93	90
305	A	9a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部突起	口縁部中空突起。耳直孔。縦線状隆起+横線突起+刺突(竹管)突起		後期中葉	136.7	93	90
306	A	8a後期包含層(黒褐色-砂層)	深鉢	口縁部	口縁突起(欠部)。平肉土沈着。区内内刺突+L状突起。区内外ナテ。髪付着/ナテ		後期中葉	130.4	93	90
307	A	8a後期包含層(黒褐色-砂層)	深鉢	口縁部	口縁于状突起。平肉土沈着(区内内L状突起)。区内外ミギキ/ナテ		後期中葉	169.7	93	90
308	A	7a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部	口縁部于状突起(口内口縁高)。口縁部同状突起。区内内L状多方向突起。区内外ミギキ/突起未施に有段。ミギキ		後期中葉	84.4	94	91
309	A	9a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部	口縁部于状突起(内縁口縁高)。口縁部同状突起。区内内L状多方向突起。区内外ミギキ/突起未施に有段。ミギキ		後期中葉	102.0	94	91
310	A	7a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部	口縁部同状突起。区内内L状多方向突起。突起未施に有段。ミギキ半横		後期中葉	102.3	94	91
311	A	7a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢?	口縁部突起	口縁部L状突起(内縁)。口縁部同状突起。区内内L状多方向突起。突起未施に有段。ミギキ		後期中葉	82.4	94	91
312	A	南朝前期包含層	深鉢	口縁部	口縁部同状突起。縦線状隆起。竹管刺突。区内内L状多方向突起/突起未施に有段。ナテ		後期中葉	194.3	94	91
313	A	3a後期包含層(砂層一括)	深鉢	口縁部突起	口縁部于状突起(耳直孔有)。沈着+L状突起+刺突(竹管)		後期中葉	187.5	94	91
314	A	6a後期包含層(黒色土層-褐色土層)	深鉢	口縁部突起	口縁部三角状突起+于状突起		後期中葉	166.5	94	91
315	A	6a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部突起	口縁部三角状突起+人組状沈着。沈着+L状突起。ミギキ		後期中葉	144.9	94	91
316	A	3a後期包含層(砂層一括)	深鉢	口縁部突起	口縁部L状突起+沈着		後期中葉	82.4	94	91
317	A	7a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部	口縁部L状突起。平肉土沈着。竹管刺突+L状突起。区内外ナテ。突起未施に有段。ミギキ		後期中葉	95.1	94	91
318	A	5a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部	口縁部L状突起+于状突起。刺突(竹管半横)。人組状突起+L状突起。区内外ナテ/ナテ		後期中葉	102.9	95	91
319	A	5a後期包含層(砂層一括)	深鉢	口縁部	口縁部同状突起(内縁口縁高)。口縁部同状突起+L状突起+刺突(竹管)。区内内刺突+L状突起。区内外ナテ/ナテ		後期中葉	90.0	95	91
320	A	8a後期包含層(砂層一括)	深鉢	口縁部	口縁部L状突起(内縁口縁高)。口縁部同状突起。区内内L状多方向突起。区内外ナテ/ナテ		後期中葉	161.0	95	91
321	A	南朝前期包含層	深鉢	口縁部突起	口縁部L状突起(内縁口縁高)。口縁部同状突起。区内内L状多方向突起。区内外ナテ/ナテ		後期中葉	128.5	95	91
322	A	6a後期包含層(砂層)	深鉢	口縁部突起	口縁部L状突起+三叉状突起。刺突(竹管)/ミギキ		後期中葉	97.8	95	91
323	A	9a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部突起	口縁部L状突起。一部L状+刺突(竹管半横)。口縁部同状突起。区内内L状多方向突起。区内外ナテ/ナテ		後期中葉	104.0	95	91
324	A	8a後期包含層(黒褐色-砂層)	深鉢	口縁部	口縁部L状突起。人組状突起+L状突起/ミギキ半横		後期中葉	117.4	95	91
325	A	7a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部	口縁部L状突起(内縁口縁高)。口縁部同状突起。区内内L状多方向突起。区内外ナテ/ナテ		後期中葉	151.8	95	91
326	A	3a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部突起	口縁部L状突起。沈着。L状突起。ナテ/ナテ		後期中葉	126.6	95	91
327	A	6a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部突起	口縁部L状突起+三叉状突起。L状突起+刺突		後期中葉	86.3	96	91
328	A	11a後期包含層(褐色土層)	浅口?	口縁部突起	肥手状突起		後期中葉	93.7	96	91
329	A	6a後期包含層(黒色土層-褐色土層)	深鉢?	口縁部	口縁部L状突起。口縁部同状突起。L状突起+竹管刺突/ナテ		後期中-中葉	200	96	92
330	A	6a後期包含層(黒色土層-褐色土層)	深鉢?	口縁部	筒状口窄多。口縁部同状突起。L状突起+竹管刺突。ミギキ/ミギキ半横		後期中-中葉	341	96	92
331	A	6a後期包含層(砂層)	深鉢	口縁-側面	筒状口窄多。口縁部同状突起。竹管刺突。垂直帯付沈着。筒状口狭多突起。L状突起(無文)/ナテ。ミギキ半横		後期中-中葉	116.6	96	92
332	A	9a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部	筒状口窄多。口縁部同状突起。L状突起。区内外(無文)ナテ		後期中-後葉	86.0	96	92
333	A	6a-8a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部	筒状口窄多。アイキ状突起(平肉土高)。口縁部同状突起。区内外L状突起。区内外ミギキ/突起未施。ミギキ半横		後期中-中葉	106.9	96	92
334	A	7a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢?	底部	垂直帯付沈着。隆起(断面)。ミギキ/ナテ		後期中葉	95.3	96	92
335	A	13a後期包含層(褐色土)	深鉢	口縁部	液状沈着。縦線突起。沈着区内+ミギキ/ナテ		後期前葉	208.3	96	92
336	A	12a後期包含層	深鉢	口縁部	筒状口窄多。口縁部同状突起。L状突起。区内内L状突起。区内外ミギキ/突起未施。ミギキ半横		後期前葉	48.6	96	92
337	A	8a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁-底部	筒状口窄多。口縁部同状突起。L状突起。区内内L状突起。区内外ミギキ/突起未施。ミギキ半横		後期中-前葉	173.0	97	92
338	A	9a-7a後期包含層(砂層)	深鉢	口縁-側面	L状突起。L状突起(無文)。垂直帯。刺突(竹管)ナテ		後期中葉	385.3	97	92
339	A	11a後期包含層(褐色土層-砂層上段)	深鉢	口縁-側面	筒状口窄多。口縁部同状突起。竹管刺突。垂直帯。刺突(竹管)ナテ		後期中葉	229.0	98	93
340	A	11a後期包含層	深鉢	口縁-側面	筒状口窄多。口縁部同状突起。竹管刺突。垂直帯。刺突(竹管)ナテ		後期中葉	147.2	98	93
341	A	7a-7a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部	L状突起。L状突起(無文)。垂直帯。刺突(竹管)ナテ		後期中葉	174.4	98	93
342	A	後期包含層	深鉢	口縁-側面	口縁部L状突起(無文)。L状突起。L状突起/ミギキ半横		後期中葉	78.6	98	93
343	A	3a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁-側面	L状突起/ミギキ半横		後期	253.3	98	93
344	A	4a-5a後期包含層(砂層)	深鉢	口縁部	L状突起		後期	112.6	98	93
345	A	7a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁部	L状突起/ミギキ半横		後期	207.2	98	93
346	A	9a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	口縁-側面	L状突起。刺突(竹管)ナテ		後期?	386.5	99	93
347	A	6a後期包含層(黒色土-砂層上段)	深鉢	側面	L状突起/調落着しい		後期	456.1	99	93



No.	区域	出土地点・遺構名・層位	形状	部位	特徴・文様	備考	時期	遺集 (頁)	図号 /系統
307	A	5a後期包含層(砂層)	深鉢	口縁・胴部	L絞/ナテ横		後期	99	94
308	A	5a後期包含層(砂層)・5a後期包含層(黒色土・砂層上段)	深鉢	口縁部	波状口縁(山形に突出)。ミガキ、沈線/ナテ		後期	186	100
309	A	13a後期包含層(黒褐色土)	深鉢	口縁・胴部	波状口縁、L絞・斜/ナテ横(工具痕)	縁付孔	後期	274	100
310	A	4a後期包含層(砂層、表段)	深鉢	口縁・胴部	L絞横/ナテ横		後期	295	100
311	A	4a後期包含層(砂層一括)	深鉢	口縁部	L絞横、縁付着/ナテ横		後期	685	100
312	A	8a黒色土・砂層上段	深鉢	底部	ナテ		底部時代代		100
313	A	7a後期包含層(黒色土・砂層)・5a後期包含層(砂層)	深鉢	底部	ナテ横/ナテ		底部時代代		100
314	A	6a後期包含層(黒色土・砂層)	深鉢	底部	ナテ横、赤染/ナテ横		底部本敷取(調査済?)		100
315	A	5a後期包含層(黒色土・砂層上段)	深鉢	底部	L絞横/ナテ		底部本敷取		95
316	A	11a後期包含層(黒褐色土)	深鉢	底部	L絞横/ナテ		後期	419	101
317	A	8a後期包含層(黒褐色土)	小型鉢	口縁・底部	L絞横/ナテ		後期	45	101
318	A	8a後期包含層(砂層一括)	小型鉢	胴・底部	沈線、L絞横→下部ミガキ横(無文・磨消)		底部本敷取		95
319	A	8a後期包含層(黒色土・砂層上段)	小型鉢	胴・底部	沈線、L絞横/ナテ、縁付着		後期中敷		95
320	A	7a後期包含層(砂層一括)	小型鉢	底部	L絞横、ナテ横/ミガキ		底部時代代		100
321	A	南朝成層包含層	小型鉢	胴・底部	L絞横/ナテ		底部時代代		95
322	A	5a後期包含層	小型鉢	底部	L絞横、ナテ横/ナテ		後期	131	101
323	A	南朝成層包含層	小型鉢	底部	L絞横、ナテ/ナテ		後期	188	101
324	A	4a後期包含層(砂層)	小型鉢	底部	L絞横		後期	68	101
325	A	9a後期包含層(黒色土・砂層上段)	小型鉢	底部	ナテ横		底部本敷取		95
326	A	4a後期包含層(砂層)	小型鉢	底部	ナテ		底部時代代		95
327	A	4a後期包含層(黒色土・砂層上段)	小型鉢	底部	ミガキ/ナテ		底部時代代		95
328	A	11a後期包含層(黒褐色土)	小型鉢	底部	ミガキ		底部時代代		95
329	A	11a後期包含層(黒色土・砂層上段)	小型鉢	底部	ナテ		底部時代代		96
330	A	11a後期包含層	浅鉢	口縁・底部	平行沈線(4条)・(1)文・縦筋L絞横、ミガキ・ナテ(無文)・ミガキ横		底部時代代		102
331	A	11a後期包含層(黒褐色土・砂層)	浅鉢?	口縁部	波状口縁、口縁部(縁部)が小さく沈線・ミガキ、平行沈線(4)・(1)切り・L絞横/ナテ		後期中敷		96
332	A	5a後期包含層(砂層)	浅鉢?	口縁部	波状口縁、ミガキ(無文型)、クランク文(多重沈線・磨消した区別)、磨消した区別・L絞横/ナテ		後期中敷		96
333	A	8a後期包含層(砂層一括)	浅鉢?	口縁・胴部	クランク文(沈線・縦筋L絞横無文)、無文(ミガキ/ナテ横)		後期中敷		96
334	A	11a後期包含層(西c-s)	浅鉢	口縁部	ミガキ(無文型)、平行沈線文(4条、上の1条のみ赤・沈線)・L絞横(赤下沈線(2条、7単位)、ミガキ(無文型)・ミガキ横)	底部調整痕	後期中敷		96
335	A	7a後期包含層(砂層)	浅鉢?	口縁・胴部	口縁耳状突起(小)、口縁平坦・ミガキ、クランク文(沈線・区内L絞横)、無文(ミガキ/ナテ横)		後期中敷		96
336	A	1a後期包含層(黒色土・砂層)・南朝成層包含層	浅鉢	口縁部	ナテ横(無文型)、波状口縁(浮線状)・L絞横、波状口縁文(沈線、区内L絞横・斜充積・ナテ)、ミガキ(無文型)・ミガキ		後期中敷		96
337	A	9a後期包含層(黒色土・砂層上段)	浅鉢	口縁部	波状口縁、口縁耳状突起、(1)文(沈線)、ナテ/ナテ	付付痕	後期中敷		96
338	A	11a後期包含層(黒色土・砂層上段)	浅鉢?	口縁部	多重沈線・L絞横・(1)文(沈線・区内前面部ミガキ/ナテ横(工具痕))		後期中敷		96
339	A	9a後期包含層(黒色土・砂層上段)	浅鉢	胴部	赤色付帯(法人組文(沈線・区内非結果岩状L絞横・L絞横、磨消ミガキ))、L絞横・ナテ横		後期中敷		96
340	A	8a後期包含層(砂層一括)・8a後期包含層(黒褐色土・砂層)	浅鉢	口縁部	口縁耳状突起、沈線、ミガキ(無文)・ミガキ		後期中敷		96
341	A	11a・12a後期包含層、南朝成層包含層	浅鉢	口縁部	隆線、全体ミガキ・ミガキ横		後期中敷		96
342	A	8a後期包含層(黒色土・砂層上段)	浅鉢?	胴部	大組文(沈線・区内前面部、L絞横非結果岩状・区内ミガキ/ナテ横)・赤付帯		後期中敷		96
343	A	7a後期包含層(砂層一括)	浅鉢	胴部	彫形足帯(文(沈線・区内L絞横・斜充積・区内外ミガキ/ナテ横(工具痕))		後期中敷		96
344	A	11a後期包含層(黒褐色土)	浅鉢	口縁・胴部	口縁ナテ横、沈線、L絞横、ミガキ・ミガキ		後期中敷		96
345	A	11a後期包含層(黒色土・砂層上段)	浅鉢	口縁部	L絞横、沈線、ミガキ(無文型)/ナテ横・縦		後期中敷		97
346	A	13a後期包含層(褐色土)・南朝成層包含層	浅鉢	胴部	ゴタン状突起(細小)、弧状文(沈線・区内L絞横)		後期中敷?		97
347	A	12a後期包含層(黒色土・砂層上段)	浅鉢?	胴・底部	赤結果岩状(L絞横・L絞横)/ナテ横	底部付帯(内)	後期中敷		97
348	A	12a後期包含層(砂層)(配石埋没)	浅鉢	口縁・底部	全体ミガキ横(無文)/ナテ横	底部付帯(内)	後期中敷		97
349	A	5a後期包含層(黒色土・砂層上段)	浅鉢	口縁・底部	磨文、ナテ横/ナテ横		後期		97
350	A	9a後期包含層(黒色土・砂層上段)	浅鉢	胴・底部	沈線、ナテ/ナテ		底部本敷取		97
351	A	8a後期包含層(黒色土・砂層上段)	浅鉢	底部	ミガキ		後期		97
352	A	8a後期包含層(黒色土・砂層上段)	盃	口縁・胴部	L絞横・沈線、ミガキ横(無文型)、L絞横・沈線、二重・(1)文・縦筋(L絞横・L絞横・L絞横・ミガキ)、L絞横・ナテ		後期前敷		97

No.	区域	出土地点、遺物名、層位	形状	部位	特徴・文様	備考	時期	重量(g)	寸法(mm)	写真掲載
333	A	青銅器包含層(黒色土・12m後期包含層)・黒色土・砂層上段・12m後期包含層(黒色土・砂層)	壺	胴-底部	入組文(浮線状沈線、縦間ミギキ)、沈線(水平・区画)、ミギキ(無文帯)/ナデ		後期中葉	1049.2	104	97
334	A	11m後期包含層(黒色土・砂層上段)・12m後期包含層(黒色土・砂層)	壺	胴-底部	沈線・縦間ミギキ、大文字状文・凹文沈線・区画内浮線状沈線(区画外ミギキ・ナデ)	底部副代儀	後期中葉	426.1	104	97
335	A	10m後期包含層(黒色土)	壺	胴-底部	環状入組文(沈線、浮線)、上部5下部まで斜帯ミギキ・浮線状区画沈線・ミギキ/ナデ		後期中葉	630.0	104	98
336	A	9m後期包含層	壺	胴-底部	凹文環状(区画)・横間ミギキ・ナデ状文(沈線、L状線・ミギキ(浮線)/ミギキ横線)		後期中葉	625.4	104	98
337	A	12m後期包含層(黒色土層)	壺	胴-底部	沈線・縦間ミギキ、横間ミギキ、L状線(区画)・区画内浮線ミギキ横線(無文帯)/ナデ		後期中葉	404.8	104	98
338	A	11m後期包含層(黒色土)	壺	胴-底部	入組文系(沈線、縦間ミギキ)、L状多方向沈線/ナデ	底部副代儀	後期中葉	355.9	105	98
339	A	11m後期包含層(砂層一括)	壺	胴-底部	凹文入組文(沈線、区画内環状沈線・横、ミギキ)/ナデ	底部副代儀	後期中葉	367.6	105	98
340	A	9m後期包含層(黒色土・砂層上段)	壺	胴-底部	環状入組文(沈線、L状線-斜光焼・ナデ)/ナデ		後期中葉	178.6	105	98
341	A	5m後期包含層(黒色土・砂層上段)・6m後期包含層(黒色土・砂層)	壺	胴-底部	5字状入組文(沈線・区画内L状-斜光焼・区画外ミギキ)/ナデ		後期中葉	162.5	105	98
342	A	3m後期包含層(黒色土・砂層上段)	壺?	胴部	横間文(沈線・区画内L状線-斜光焼・区画外ミギキ)		後期中葉	366.1	103	98
343	A	4m・4m後期包含層(黒色土・砂層上段)・4m後期包含層(砂層)	壺	胴-底部	L状線、入組文7字(沈線、区画内ミギキ・L状線-斜光焼)、ミギキ(無文帯)	底部内	後期中葉	180.4	103	98
344	A	5m後期包含層(砂層一括)	壺	口縁部	L状線、沈線、ミギキ(無文帯)、沈線、L状線、沈線、5字横(不明)、沈線、区画内L状線・区画外ミギキ/ナデ		後期中葉	336.4	105	98
345	A	青銅器包含層	壺?浅鉢?	胴部	横線文(沈線・区画内L状線・ミギキ)、沈線・ミギキ・沈線(無文帯区画)、L状線-斜光焼/ナデ横		後期中葉	124.3	105	99
346	A	4m後期包含層(黒色土・砂層)	壺	胴-底部	沈線(文様不明)、L状線、ナデ/ナデ		後期中葉	111.0	105	99
347	A	10m後期包含層(黒色土・砂層)	壺	口縁部	クランク文(沈線、区画内引線状L状線・L状線・ミギキ)、L状線/ナデ		後期中葉	170.9	106	99
348	A	16m後期包含層(黒色土)	壺?	底部	クランク文一部、沈線、L状線沈線、ナデ/ナデ	底部本葉前	後期中葉	143.7	106	99
349	A	7m後期包含層(砂層)	壺?	胴-底部	浮線・縦間引線、下部ミギキ横(無文)/ナデ横(具真)	底部本葉前(陶砂器?)	後期中葉	147.5	106	99
350	A	9m後期包含層	壺	胴-底部	凹文環状文(沈線、縦間L状沈線、沈線(水平・区画)、L状線、ナデ横文)/ナデ	底部工具用?	後期中葉	254.3	106	99
351	A	7m・8m後期包含層(砂層一括)	壺	胴-底部	帯巻材入組文(沈線、区画内ミギキ、L状線-斜光焼)、下部引線・ミギキ横、ハナデ	底部副代儀	後期中葉	167.5	106	99
352	A	8m後期包含層(黒色土・砂層上段)	壺?口縁?	口縁-胴部	11字状線(横間引線)・環状浮線(浮線付(断面良好))・ミギキ(無文)、凹文状(大小小3層厚付)・横間多層沈線(5-6段)・上部ミギキ		後期中葉	467.9	106	99
353	A	8m後期包含層	壺	胴-底部	沈線・縦間ミギキ、ミギキ(無文)/ナデ	底部副代儀	後期中葉	315.9	106	99
354	A	8m後期包含層(黒色土・砂層)	壺	口縁-底部	横間字文(多層帯引沈線、縦間L状線・ミギキ/ミギキ横)		後期中葉	108.4	106	99
355	A	10m後期包含層(砂層一括)	壺	胴-胴部	沈線、L状線、沈線(水平)・或沈線、L状線/ナデ、ハナデ		後期中葉	299.0	106	99
356	A	4m・4m後期包含層(黒色土・砂層上段)	壺	口縁部	L状線、斜		後期中葉	193.5	107	99
357	A	4m後期包含層(黒色土・砂層上段)	壺	口縁-底部	横間字文(沈線、区画内L状多方向沈線、区画外ミギキ)/ナデ	輪郭本葉前	後期中葉	70.1	107	100
358	A	7m後期包含層(黒色土・砂層上段)	壺	胴部	帯巻・薄底文系(沈線)、ミギキ		後期中葉?	42.5	107	100
359	A	13m後期包含層(茶褐色一括)	壺	胴部	環状入組文(沈線、区画内L状焼地焼・区画外ミギキ)、ボナン状(環状・中心環状(扇付)/ナデ横)	後期後葉?	1296.7	107	100	
360	A	3m・3m後期包含層(砂層)	壺	口縁-胴部	横間L状線(実用3層厚)、沈線・縦間L状線、横間引線・ミギキ(無文帯)/ナデ		後期中葉	444.7	107	100
361	A	13m後期包含層	壺	胴-底部	沈線・縦間引線、ミギキ/ナデ		後期中葉	303.3	107	100
362	A	3m後期包含層	壺	胴-底部	沈線、ミギキ/ナデ	底部副代儀	後期中葉	135.2	107	100
363	A	6m後期包含層(黒色土・砂層上段)・7m後期包含層(砂層)	壺	口縁-底部	環状L状線(実用3層厚)、口縁部引線(多層帯引沈線(5-6段)、ナデ横文)、横間引線(5-6段)、引線横間引線(縦・横)→下部ナデ(無文、扇付)/引線ミギキ	底部本葉前	後期前葉	307.9	107	100
364	A	5m後期包含層(黒色土・砂層上段)	壺	胴-底部	沈線、L状線、沈線(区画)、下部ミギキ横(無文)/ナデ	底部副代儀	後期前葉	261.5	107	100
385	A	8m後期包含層(黒色土・砂層上段)・8m後期包含層(黒色土・砂層上段)・沈線・横間ミギキ	壺	底部-底部	沈線(水平)・引線状沈線(縦・横)、沈線(水平・区画)、下部ミギキ横(無文)	底部副代儀	後期前葉	241.0	108	100
386	A	12m後期包含層(砂層一括)配石(横間)	壺	底部-底部	引線状線(縦線・横)、下部ナデ(無文)/ナデ	底部副代儀	後期前葉	215.8	108	100
387	A	11m後期包含層	壺	胴-底部	横間字文系(沈線、区画内ミギキ、縦間L状線)、引線L状線・L状線、ミギキ横(無文帯)/ミギキ	底部副代儀	後期前葉	250.9	108	101
388	A	4m後期包含層(黒色土・砂層上段)	壺	胴-底部	多層沈線、斜交・L状線、沈線、ナデ(無文帯)/ナデ		後期前葉	98.0	108	101
389	A	4m後期包含層(砂層一括)	壺	胴-胴部	多層沈線、斜交・L状線、ミギキ(無文帯)/ナデ		後期前葉	142.4	108	101
390	A	8m後期包含層(黒色土・砂層上段)・10m後期包含層(黒色土・砂層上段)・6m・6m後期包含層(黒色土層一括)・黒色土層・6m後期包含層(砂層)	壺	胴-底部	無文、ナデ・ミギキ/ナデ	底部本葉前	後期	132.4	108	101
391	A	6m・6m後期包含層(黒色土層一括)・黒色土層・6m後期包含層(砂層)	壺	口縁部	L状線、沈線・縦間ミギキ横/ミギキ		後期	216.4	108	101
392	A	4m後期包含層(黒色土・砂層)	壺	口縁部	L状線、沈線(水平)、ミギキ(無文)/ミギキ横	台付底部の可能性あり	後期中葉	121.0	108	101
393	A	10m後期包含層(黒色土・砂層上段)	壺	口縁部	L状線、沈線・ミギキ横(無文帯)・沈線・ミギキ横		後期前葉	87.7	108	101
394	A	7m後期包含層(砂層)	壺	口縁部	環状L状線(実用3層厚)、L状線横線、沈線・ミギキ・沈線(無文帯区画)、L状焼地焼・手裏引斜交・入組文系(沈線、区画内ミギキ/ミギキ横)		後期前葉	96.6	108	101
395	A	5m後期包含層(砂層一括)・5m後期包含層(黒色土・砂層上段)	壺	口縁部	環状L状線、口縁部外、平行沈線・縦間L状線		後期前葉	63.5	108	101

No.	区域	出土地点、遺構名、層位	発掘	部位	特徴・文様	備考	時期	遺構番号	写真掲載
396	A	8a後期包含層(黒色土-砂層上段)	竪	口縁部	多重沈線(4条)、縦筋1本横、ミガキ/ナデ		後期中葉	798	108/101
397	A	6a前期包含層(砂層・砂層)	竪	口縁部	ミガキ横/ナデ横		後期	1567	108/101
398	A	8a前期包含層(砂層一括)	竪	肩部	多重沈線(4本平行)、縦筋1本横7本、ミガキ		後期中葉	607	108/101
399	A	4a後期包含層(黒色土-砂層上段)	竪?	肩部	横状把手/L状多方向、多重沈線(一L縦)/ミガキ横		後期中葉?	382	108/101
400	A	9a前期包含層(黒色土-砂層上段)	竪?	底部	外縁段縁(三角状に突出部あり)、横状入組文(横上・横下、横段) / ミガキ/ナデ		後期中葉?	1864	108/101
401	A	南朝前期包含層	竪?	底部	ミガキ横、黒色土/ナデ		後期	1089	108/101
402	A	11a前期包含層	洋口	宇交形	口縁段状突起、横状突起、溝底文(沈線、上下反転直筋)、直状入組文(沈線・ミガキ)、下部ミガキ/ナデ		後期中葉	1258	89/102
403a	A	11a後期包含層	洋口	口縁部	口縁段状突起、横状突起、入組文(一部沈線、浮彫状)、ミガキ/ナデ		後期中葉	7011	110/102
403b	A	12a前期包含層(黒褐色)	洋口	口縁部突起	口縁段状突起(貫通)、入組文(一部沈線、浮彫状)、ミガキ/ナデ		後期中葉	110	102
404	A	11a前期包含層	洋口	底部	入組文(沈線/ミガキ、一部溝底)		後期中葉	110	102
404	A	6a後期包含層(黒色土-砂層上段)、8a前期包含層(黒色土-砂層上段)	洋口	胴部	曲線文(沈線+縦筋浮彫状+刻み)、ミガキ/ナデ		後期中葉	3047	110/102
405	A	9a前期包含層	洋口	胴-底部	入組文(沈線・区内上縁横直線、区内斜ミガキ/ナデ沈線・浮彫状突起+刻み+沈線(区画)、ミガキ横/横文帯)/ナデ横	底部側代取+磨削ナデ	後期中葉	2731	110/102
406	A	12a前期包含層(砂層)	洋口	胴-底部	曲線文(一部のみの、沈線)、ミガキ/ナデ	底部ミガキ	後期中葉	2400	110/102
407	A	9a後期包含層(黒色土-砂層上段)、9a前期包含層(黒色土-砂層・黒褐色)	洋口	胴-底部	V字状(沈線、縦筋斜形刻み)、ミガキ/ナデ	台付底部	後期中葉	2102	111/103
408	A	8a前期包含層	洋口	胴-底部	円文(円文に近い)/多重沈線(4-5条、平行)/円文+竹管斜交/ミガキ、下部多重沈線(横文)		後期中葉	4846	111/103
409	A	南朝前期包含層(緑色土)	洋口	口縁突起	横状入組文(沈線)、片側ミガキ/刻み入組付、ナデ/台付内部に刻み、文様基面は4角状		後期中葉	986	111/103
410	A	13a・4a前期包含層(黒色土-砂層上段)、12a前期包含層(黒褐色)、4a後期包含層(緑褐色)	洋口	口縁・胴部	横状L状把手突起、円形・溝状沈線、L状線全体に貫通		後期中葉	111	103
411	A	6a後期包含層(黒色土-砂層上段)	洋口	口縁部	口縁溝状突起、割文(斜形刻)、入組文(浮彫状突起+刻み)		後期中葉	1571	111/103
412	A	9a前期包含層(黒色土-砂層上段)	洋口	口縁部	口縁把手状突起+貫通孔、沈線、ナデ横		後期中葉	759	111/103
413	A	8a後期包含層(砂層)	洋口	底部	環口部ミガキ、縦文(玉状結付2部)、多重沈線(4条、口・溝底)		後期中葉	829	111/103
414	A	11a後期包含層(黒褐色-砂層)	洋口	口縁・胴部	ミガキ(横)、沈線		後期中葉	946	111/103
415	A	9a後期包含層	洋口?	口縁部	口縁把手状突起(貫通孔、口縁凹形部に貼付+沈線)、ミガキ(横文帯)/ナデ横		後期中葉	2069	112/103
416	A	南朝前期包含層	洋口?	口縁部	横状文(沈線、浮彫状)、ミガキ横(横文帯)/ミガキ横		後期中葉	1562	112/103
417	A	7a後期包含層(砂層一括)	洋口?	口縁部	C字状(沈線)、ミガキ/ミガキ		後期中葉	854	112/103
418	A	11a前期包含層	洋口?	口縁部	口縁段状突起、入組文系(浮彫状沈線)、全体ミガキ/ナデ横		後期中葉	1178	112/103
419	A	10a後期包含層(黒褐色土)	洋口?	胴-底部	沈線+曲線、並行/ミガキ、ミガキ横(横文帯)/ナデ	全体に赤色顔料塗布	後期中葉	1734	112/103
420	A	11a前期包含層	不明	台付底部	横状入組文(沈線、ミガキ)、縦筋(水平・区画ミガキ横)		後期中葉	2367	112/103
421	A	7a後期包含層(砂層)	台付縁?	台付底部	横状入組文(沈線、区内上縁横直線・ミガキ)、沈線+平直竹管斜交+L状横+沈線、ミガキ(横文帯)/ナデ		後期中葉	2251	112/103
422	A	12a後期包含層(黒色土-砂層上段)	台付縁	胴-台付底部	横状曲線文(沈線、区内内L状多方向突起、縦筋ナデ)		後期中葉	1499	112/103
423	A	9a後期包含層(黒褐色土)	台付縁部	台付底部	曲線文(沈線、区内内上縁横直線・区内斜ミガキ)、沈線+平直竹管斜交+L状横/ナデ横		後期中葉	1359	112/104
424	A	8a後期包含層(黒褐色-砂層)	台付縁	台付底部	縦筋直上、平直文(沈線、区内内L状横直線・区内斜ミガキ)、沈線+L状横/ナデ		後期中葉	1237	112/104
425	A	11a前期包含層(黒褐色-砂層)	不明	台付底部	平行沈線、縦筋直上縁横直線・L状横、縦筋(ミガキ/平直文帯)/底部竹管斜交(一部多方向、ミガキ)		後期中葉	1403	112/104
426	A	5a後期包含層(砂層)	不明	台付底部	ミガキ横(横文)		後期中葉	6717	112/104
427	A	6a後期包含層(黒色土-砂層上段)	不明	台付底部	ミガキ		後期	1687	113/104
428	A	10a後期包含層(黒色土-砂層上段)	不明	台付底部	ミガキ		後期	1512	113/104
429	A	5a後期包含層(砂層)	不明	台付底部	横文(ミガキ)/ミガキ		後期	956	113/104
430	A	3a後期包含層(砂層一括・砂層)	不明	台付底部	ミガキ		後期	1479	113/104
431	A	6a後期包含層(黒色土-砂層)	不明	台付底部	ミガキ横		後期?	600	113/104
432	A	8a後期包含層(黒色土-砂層上段)	不明	台付底部	沈線、ミガキ		後期	254	113/104
433	A	4a後期包含層(黒色土-砂層上段)	不明	器台部	透かし		後期	840	113/104
434	A	13a前期包含層(3層)	深鉢	口縁部	刻み(横)、溝底+三英文(直線+刻み、ナデ)、縁起線(横)の段差条+L状横・面+段差(縦)ナデ、刻みハシナ	縁起線少量含む	上川名目	4004	113/104
435	A	12a・12a前期包含層(3層)	深鉢	口縁部	刻み(縦交)、溝底+斜行文(直線+刻み)斜行/ナデ	縁起線少量含む	上川名目	1210	113/104
436	A	北朝前期包含層(緑色土)	深鉢	口縁部	口縁斜交(竹管・刻み状)、溝底+三英文(直線)、竹管斜交(水平)、L状横/ナデ	縁起線、縁起線少量含む	上川名目	1209	113/104
437	A	12a前期包含層(黒褐色)	深鉢	口縁部	刻み、縦交・斜行文(直線)、刻み(斜行・斜交状)ナデ横	縁起線少量含む	上川名目	949	113/104
438	A	11a前期包含層	深鉢	口縁部	刻み、溝底+三角形文(直線)/ナデ横		上川名目	816	113/104

No.	区域	所在地・遺構名・層位	形状	部位	特徴・文様	備考	時期	重量 (g)	径 (mm)	写真 掲載
439	A	15・12前期包含層	深鉢	口縁部	口縁部、底状×三角文(L/E底・縁部斜み状刺突ノ字模)		上川名Ⅱ	1755	113	104
440	A	13前期包含層(3層)	深鉢	口縁部	斜み/面、溝巻×三角文(L/E底・底・底×斜行刺突・底状×上川名Ⅱ底面貫通ノ字模)	焼付孔、織葎多量含む	上川名Ⅱ	968	113	104
441	A	13前期包含層	深鉢	胴部	底状×三角文(L/E底・縁部斜み状刺突)・L/E模ノ字模		上川名Ⅱ	1142	113	104
442	A	11・12前期包含層(2-3層)	深鉢	口縁・底底	底底、L/E模	織葎多く含む	前期前期	15496	114	105
443	A	11前期包含層(2層)	深鉢	胴・底底	底底、L/E模(原底模、下部は組織の可能性あり)	織葎多量含む	前期前期	10419	114	105
444	A	11・12前期包含層	深鉢	底底	底底、L/E模、底面刺模物?	織葎多量含む	前期前期	3332	115	106
445	A	11前期包含層(2層)	深鉢	胴・底底	底底、L/E模	織葎多量含む	前期前期	3619	115	106
446	A	12前期包含層(2層)	深鉢	底底	底底、L/E模(組織?)	織葎多量含む	前期前期	1816	115	106
447	A	12前期包含層(1層・2層)	深鉢	底底	底底、乳房状、L/E模	織葎多量含む	前期前期	1057	115	106
448	A	12前期包含層(2層)	深鉢	底底	底底、L/E多方向	織葎多量含む	前期前期	2963	115	106
449	A	12前期包含層(2層)	深鉢	底底	底底、L/E組織	織葎多量含む	前期前期	1031	115	106
450	A	12前期包含層(2-3層)	深鉢	底底	底底、丸組織?	織葎少量含む	前期前期	966	115	106
451	A	11前期包含層(2-3層)	深鉢	口縁・胴部	底状刺突、前×段多量L/E模	織葎多量含む	前期前期	9282	116	106
452	A	11前期包含層(2層)	深鉢	口縁・胴部	L/E模	刀痕の可能性あり、織葎多量含む	前期前期	3578	116	107
453	A	13前期包含層(2層)	深鉢	胴部	早期刺模体1層L/E+L/E模	織葎少量含む	前期前期	1823	116	107
454	A	11・12前期包含層	深鉢	胴部	組織?底状ノ字模	織葎多量含む	前期前期	5148	117	107
455	A	13前期包含層(2層)	深鉢	口縁・胴部	口縁斜み(斜行)、丸組織模、ノ字		前期前期	3825	117	107
456	A	11前期包含層(2層)	深鉢	口縁・胴部	口縁上部に刺突、組織	織葎多く含む	前期前期	1844	117	107
457	A	11前期包含層(2層)、11前期包含層(3層)	深鉢	口縁・胴部	多層ノ字L/E模、前面幾何学文(楕圓ノ字ガク)ノ字模、組織	前期前期・前期	2553	117	107	
458	A	11前期包含層(2層)	深鉢	口縁・胴部	多層ノ字L/E模、前面幾何学文(楕圓ノ字ガク)ノ字模、組織	前期前期・前期	2396	117	107	
459	A	13前期包含層(2層)	深鉢	平底	S字状結部L/E模、赤結葉引状(前×段多量L/E模・前×段多量L/E模)×S字ノ字模(前×段多量L/E模)	焼付孔(L/E模)、織葎多量含む	前期前期	21630	118	108
460	A	13前期包含層(2層)	深鉢	平底	S字状結部L/E模、赤結葉引状(前×段多量L/E模・前×段多量L/E模)×S字ノ字模	織葎多く含む	前期前期	1241	118	109
461	A	12前期包含層(2層)	深鉢	口縁・胴部	S字状結部L/E模、赤結葉引状(前×段多量L/E模・前×段多量L/E模)ノ字模	焼付孔、織葎少量含む	前期前期	4698	119	109
462	A	11・12前期包含層(2層)	深鉢	口縁・胴部	S字状結部L/E模、赤結葉引状(前×段多量L/E模・前×段多量L/E模)ノ字模	織葎多量含む	前期前期	4465	119	109
463	A	13前期包含層(2層)、14前期包含層	深鉢	口縁・胴部	S字状結部L/E模、赤結葉引状L/E模・L/E模	織葎多量含む	前期前期	5280	119	110
464	A	12前期包含層(2層)	深鉢	口縁・胴部	S字状結部L/E模、赤結葉引状(前×段多量L/E模・前×段多量L/E模)	織葎多量含む	前期前期	2198	120	110
465	A	13前期包含層	深鉢	口縁部	S字状結部L/E模、赤結葉引状(前×段多量L/E模・前×段多量L/E模)	織葎多量含む、底面刺模物	前期前期	1582	120	110
466	A	9前期包含層	深鉢	口縁部	早期刺模体1層L/E模、赤結葉引状(前×段多量L/E模・前×段多量L/E模)	織葎少量含む	前期前期	3487	120	110
467	A	13前期包含層	深鉢	胴部	刺模(L/E模)、赤結葉引状(前×段多量L/E模・前×段多量L/E模)	織葎多量含む	前期前期	2266	120	110
468	A	12・15前期包含層	深鉢	口縁・胴部	S字状結部L/E模、菱刺模(早期刺模体1層L/E模)ノ字模	焼付孔、織葎少量含む	前期前期	3028	120	110
469	A	14・15前期包含層	深鉢	口縁部	S字状結部L/E模、L/E模ノ字模	織葎多く含む	前期前期	2139	121	110
470	A	13前期包含層	深鉢	口縁部	結部L/E模		前期前期	1300	121	110
471	A	9前期包含層	小型鉢	口縁部	S字状結部L/E模	織葎少量含む	前期前期	363	121	110
472	A	11・12・12前期包含層	深鉢	口縁・胴部	底状L/E模(山型突起、3層空方)、早期刺模体6層L/E模、赤結葉引状、赤結葉引状(前×段多量L/E模・前×段多量L/E模)	織葎多く含む	前期前期	12580	121	111
473	A	12前期包含層(2層)	深鉢	口縁・胴部	底状L/E模、L/E模(山型突起、3層空方)、早期刺模体6層L/E模、赤結葉引状、赤結葉引状(前×段多量L/E模・前×段多量L/E模)ノ字模	織葎多く含む	前期前期	5476	121	111
474	A	12前期包含層(2層)	深鉢	口縁部	口縁小山状突起、結部L/E模ノ字模	織葎少量含む	前期前期	3163	122	111
475	A	11前期包含層	小型鉢	口縁・底底	底状L/E模、結部L/E模、前×段多量L/E模	織葎少量含む	前期前期	5543	122	111
476	A	11・12前期包含層	深鉢	口縁・胴部	底状L/E模(山型突起)、結部L/E模、赤結葉引状(前×段多量L/E模・前×段多量L/E模)ノ字模	織葎少量含む	前期前期	5142	122	111
477	A	12前期包含層	深鉢	口縁・胴部	底状L/E模、口縁山型突起、縁部刺模付・前×段(L/E模)ノ字模、赤結葉引状、赤結葉引状(前×段多量L/E模・前×段多量L/E模)	織葎少量含む	前期前期	3222	122	112
478	A	13前期包含層(2層)	深鉢	口縁・胴部	底状L/E模、刺突、菱形模成(赤結葉引状L/E模・L/E模)	織葎多く含む	前期前期	8024	122	112
479	A	13前期包含層(2層)	深鉢	口縁・胴部	底状L/E模(山型突起、4層空方)、口縁山型突起刺突ノ字模・赤結葉引状、赤結葉引状(前×段多量L/E模・前×段多量L/E模)ノ字模	織葎少量含む	前期前期	4810	123	112
480	A	11前期包含層(2層)、12前期包含層	深鉢	口縁・底底	底状L/E模(山型突起、底空6層位)、L/E模ノ字模	焼付孔、織葎多量含む	前期前期	4794	123	112
481	A	12・13前期包含層(2層)	深鉢	口縁・胴部	底状L/E模(山型突起、底空6層位)、L/E模ノ字模	織葎多量含む	前期前期	4265	123	112
482	A	13・13a・13前期包含層(2層)	深鉢	口縁・底底	刺模(山型突起、赤結葉引状(L/E模・L/E模)×3層ノ字模	織葎多く含む	前期前期	2000	123	113
483	A	前期包含層(1層)	深鉢	口縁・胴部	赤結葉引状(L/E模・L/E模)、溝巻ノ字模	織葎多く含む	前期前期	2305	124	113
484	A	12前期包含層(2層)	深鉢	口縁・胴部	口縁上部にL/E刺突ノ字模、胴付縁部結部L/E模ノ字模	織葎多く含む	前期前期	2847	124	113

No.	区域	所在地、道標化、標記	線形	部局	特徴・文様	備考	時期	測量 (年)	国 別	写真 掲載
485	A	12前期包含等	深緑	側部	結束羽状(前)→段多条 L/R横/ノナテ	織線多く含む	前期前葉	316.8	124	113
486	A	11前期包含等	深緑	口縁・側部	口縁線縁(口唇側入)、L/R平行下、結束羽状 口縁・側部	織線多く含む	前期前葉	300.3	124	113
487	A	13前期包含等(2等)	深緑	側部	S字状結筋 L/R横→赤結束羽状(ZLR・LR横)	織線隙間含む	前期前葉	142.1	124	113
488	A	13前期包含等(2等)	深緑	側部	結束羽状(L/R・R横)/ノナテ横・縦	織線隙間含む	前期前葉	384.7	124	114
489	A	12前期包含等(2等)	深緑	側部	赤結束羽状(前)→段多条 L/R横、前→段多条 L/R横/ノナテ	織線多く含む	前期前葉	221.3	124	114
490	A	15前期包含等	含む	側部	赤結束羽状(前)→段多条 L/R横、前→段多条 L/R横/ノナテ	織線少量含む	前期前葉	288.7	124	114
491	A	12前期包含等(1等)・前期包含等、13前期包含等(2等)	深緑	口縁・側部	口縁→細十字横(無文様)、前→段多条 L/R横、前→段多条 L/R横/ノナテ	織線少量含む	前期前葉	1429.7	125	114
492	A	前期包含等	深緑	口縁・側部	縦線横付ノリ横/ノナテ	織線少量含む	前期前葉	796.2	125	115
493	A	12前期包含等(2等)	小笠原	半定形	流状口縁下、前→段多条 L/R横	織線多く含む	前期前葉	484.2	125	115
494	A	南朝前期包含等	深緑	口縁・底部	S字状結筋 L/R横、赤結束羽状(前)→段多条 L/R横、前→段多条 L/R横/ノナテ、横付等	織線多く含む	前期前葉	166.5	125	115
495	A	13、13前期包含等(2等)	深緑	口縁・側部	単純結条体5期型	織線隙間含む	前期前葉	363.0	126	115
496	A	12前期包含等	深緑	口縁・側部	口唇 L/R横、R横(同一垂直保形転方向異)/ノナテ	織線多量含む	前期前葉	367.4	126	115
497	A	12前期包含等(2・3等)	深緑	口縁部	口唇上部斜突、前→段多条 L/R横	織線多く含む	前期前葉	297.8	126	115
498	A	13前期包含等(2等)	深緑	口縁・側部	口唇 L/R横、沈線、L/R横	織線多量含む	前期前葉	120.2	126	115
499	A	11前期包含等	深緑	口縁部	L/R横/ノナテ	織線多く含む	前期前葉	322.9	126	116
500	A	13前期包含等(2等)	深緑	口縁・側部	摩滅著しい、R/L横/ノナテ	織線隙間含む	前期前葉	422.3	127	116
501	A	11前期包含等	深緑	口縁・側部	口縁線縁状(口唇 L/R横)、R/L横	織線少量含む	前期前葉	300.2	127	116
502	A	12前期包含等(2等)	深緑	底部	前→段多条 L/R横、一部結筋 L/R横?	織線隙間含む	前期前葉	108.7	127	116
503	A	12前期包含等	深緑	底部		織線隙間含む	前期前葉	161.7	127	116
504	A	15前期包含等	深緑	底部		底面 R/L横、織線多量含む	前期前葉	48.7	127	116
505	A	14前期包含等(2等)	深緑	口縁・側部	口唇斜突(竹管)、隆帯横付+羽入(前部)、L/R横、斜突、S字状流筋沈文様/ノナテ横	前期前葉	262.9	127	116	
506	A	12前期包含等(1・2等)	深緑	口縁・側部	厚十字横+流状口縁→ノナテ横、前→段多条 L/R横	織線隙間含む	前期前葉	180.2	127	116
507	A	8前期包含等	深緑	口縁部	口縁部高(凹部?)、段帯横付+羽入(側)、S字状結筋 L/R横、前→段多条 L/R横/ノナテ横	織線多く含む	前期前葉	112.3	128	116
508	A	13前期包含等	深緑	口縁部	隆帯横付+斜突(爪)、S字状結筋 L/R横/ノナテ	前期前葉	112.2	128	117	
509	A	11k・11前期包含等	深緑	口縁部	L/R横上部斜突、ノナテ横、S字状流筋→ノナテ、S字状流筋沈文様	織線隙間含む	前期前葉	147.2	128	117
510	A	11前期包含等	深緑	口縁部	押引斜突、S字状流筋沈文様/ノナテ横	前期前葉	175.1	128	117	
511	A	12前期包含等(2等)	深緑	口縁部	S字状流筋沈文様/ノナテ	織線隙間含む	前期前葉	92.5	128	117
512	A	13前期包含等	深緑	底部	S字状流筋沈文様/ノナテ	前期前葉	189.6	128	117	
513	A	12g・13前期包含等	深緑	側部	S字状流筋沈文様/ノナテ横	前期前葉	422.3	128	117	
514	A	13前期包含等(2等)	深緑	側部	単純結条体5期横(横ではない?)/ノナテ縦	前期前葉	70.0	128	117	
515	A	13前期包含等(2等)	深緑	口縁・側部	口唇斜突、単純結条体5期横/ノナテ	織線多く含む	前期前葉	533.6	129	117
516	A	14前期包含等(2等)	深緑	口縁・側部	流状口縁、隆帯横付+羽入、単純結条体5期横/ノナテ	織線隙間含む	前期前葉	319.3	129	117
517	A	12前期包含等(1等)・北朝院(在位期)	深緑	口縁部	流状口縁、隆帯横付+羽入+ノナテ、単純結条体5期横/ノナテ横(工具?)	織線少量含む	前期前葉	243.8	129	117
518	A	12前期包含等(2等)	深緑	口縁部	ノナテ横(無文様)、単純結条体5期横/ノナテ	維持残、織線隙間含む	前期前葉	231.0	129	118
519	A	11前期包含等	深緑	口縁部	単純結条体5期型	織線隙間含む	前期前葉	79.5	129	118
520	A	12前期包含等	深緑	口縁部	口唇側入(前部?)→流面→流状横、L/R横、上部 L/R横縁部表面/ノナテ	織線少量含む	前期前葉	77.9	129	118
521	A	14前期包含等	深緑	口縁・側部	口唇線縁(山形折目)、単純結条体5期横(流面付 L/R横 L/R横+隆帯+横付+底)+羽入+ノナテ、単純結条体5期横(本層付 L/R横 L/R横)ノナテ	織線隙間含む	前期前葉	300.7	130	118
522	A	11前期包含等	深緑	口縁・側部	隆帯+羽入(竹管、斜突状)、S字状流筋(大・細)、口縁・L/R横(口縁は流筋ではない?)/ノナテ横	織線隙間含む	前期前葉	194.0	130	118
523	A	13前期包含等(2等)	深緑	口縁・側部	隆帯+羽入(竹管、斜突状)、S字状流筋(大・細)、口縁・L/R横(口縁は流筋ではない?)/ノナテ横	織線隙間含む	前期前葉	358.3	130	118
524	A	15、13前期包含等(2等)	深緑	口縁部	流状口縁、隆帯横付、S字状結筋 L/R横、L/R横/ノナテ横	前期前葉	大63	119	130	118
525	A	12前期包含等(2等)・13前期包含等	浅緑	口縁・側部	赤流 L/R横+沈線、折ケン状横付、結筋 L/R横/ノナテ横	織線少量含む	大木2-2	180.4	130	118
526	A	12前期包含等(2等)	深緑	口縁部	R/L横、口唇上部にL/R横文/L/R横	赤流織文	前期前葉	38.2	130	118
527	A	6前期包含等(砂層)	黄?	口縁部	S字状結筋 L/R横/ノナテ横	前期(後)～中期前葉?	218.9	130	118	
528	A	6前期包含等(砂層)	浅緑?	台付底部	ノナテ横	織線含む	前期	318.7	130	118
529	A	13前期包含等(茶葉)	緑	口縁部	口唇斜突、多量沈線(3条+平行)、流状沈線、隆帯+斜突+羽入+ノナテ横	大66	109.8	131	119	
530	A	13前期包含等(茶葉)	深緑	口縁部	口唇斜突、隆帯+斜突/ノナテ	大66	94.3	131	119	

No.	区域	出土地点、遺物名、層位	形状	部位	特徴・文様	備考	時期	重量 (g)	寸法 (mm)	写真 掲載
531	A	6a前期包含層(黒褐色・砂層)	深鉢	口縁部	口縁2段の胎付突起。沈線(水平・半月状)。横状突起胎付ノテ文様		大木6	130.6	131 119	
532	A	出土地点不明	浅鉢	口縁部	棒子状・縦溝状・円形縁上縁胎付ノテ文様		大木6	74.0	131 119	
533	A	2a前期包含層(砂層上段)	小型鉢	口縁部	浅状口縁。隆線(口縁同形状・溝巻・蛇行垂下)。L沈線/ミヤナギ		大木8a	42.3	131 119	
534	A	2a前期包含層(砂層層一括)	深鉢	口縁・胴部	隆線(粘土線状。水平・浅状+L沈線。L沈線/ノテ)		大木8a	133.1	131 119	
535	A	6a前期包含層(硬層)	深鉢	胴部	渦巻文(沈線・区画内L形突起)。L沈線(区画・垂行)。L沈線/垂行突起		大木8a	76.0	131 119	
536	A	跡土	鉢	口縁部	口縁ミヤナギ。円文・円字文(隆線基曲+貫通孔)。曲線文(沈線・区画内L形突起)。区画外ミヤナギノテ文様	空紀的	大木9	97.9	131 119	
537	A	12a前期包含層(褐色土層)-12a前期包含層	深鉢	口縁突起部	浅状口縁(3単位)。ヌテナギ状。隅円文(沈線・区画内L形突起)。区画外ノテ文様。環状溝/ノテ文様		大木30(古)	136.2	131 119	
538	A	6a前期包含層(砂層・硬層)	深鉢	口縁部	曲線文(沈線・区画内L形突起)。区画外ノテ/ノテ文様(環状)		大木10	30.7	131 119	
539	A	6a前期包含層(黒色土・砂層)	深鉢	口縁・胴部	曲線文(沈線・区画内L形突起)。区画外ノテ/ノテ文様。環状溝		大木10	105.6	131 119	
540	A	12a前期包含層(黒褐色・砂層)	深鉢	口縁・胴部	口縁上部ノテ。L沈線/ノテ		中期中～後葉	2270.4	132 120	
541	A	13a前期包含層(黒色土・砂層上段)	小型鉢	底部	沈線。L沈線/ノテ	底部銅代貨	中期後葉?	61.3	132 120	
542	B	南東塚出層	深鉢	胴部	斜交。L沈線→S字状結節L線→ノテ/隆線。ノテ文様		前期前葉?	52.5	132 120	
543	B	北照焼出層	深鉢	口縁部	浅状口縁。口縁端羽状突起。中央に穿孔(垂直溝)。縦状突起(縦・横)粘土線。沈線は浅く垂直的		大木5?	27.7	132 120	
544	B	南照	深鉢	口縁部	斜交。隆線+曲線L形。L沈線		大木7?	46.3	132 120	
545	B	北照焼出層	深鉢	口縁部	浅状口縁。環状溝。L形粘土線。L形粘土線/ノテ。溝巻。L形		大木8a?	82.4	132 120	
546	B	中央塚出層	深鉢	口縁部	隆線。L形(前部上)。L形(前部下)/ノテ文様		大木8a	124.8	132 120	
547	B	中央塚出層	深鉢	口縁部	把手状突起。渦巻文(横位・隆線)/ノテ文様		大木8a～8b	47.6	132 120	
548	B	北照焼出層	深鉢	口縁部	浅状口縁。円形L沈線。浅部部から渦巻文(環状線)突起。曲線文(環状線)。L沈線/ノテ		大木8b	61.7	132 120	
549	B	北照焼出層	深鉢	口縁部	口縁ノテ。渦巻文(環状線)。地文不明/ノテ文様		大木8b	38.2	132 120	
550	B	北照焼出層	鉢	口縁部	口縁ノテ+環状線。渦巻文(環状線)。L形L形/ミヤナギ		大木8b	19.0	132 120	
551	B	中央塚出層	深鉢	口縁部	渦巻文(環状線)。L形/ノテ文様		大木8b	124.2	132 120	
552	B	南照	深鉢	口縁部	口縁ノテ。曲線文(環状線)。L形。L形/ノテ。環状線		大木8b	154.8	133 121	
553	B	中央塚出層	深鉢	口縁部	浅状口縁。浅部渦巻文(横位)		大木8b	42.9	133 121	
554	B	中央塚出層	深鉢	胴部	渦巻文(環状線)。単純条体1層?環状?		大木8b	119.7	133 121	
555	B	南照焼出層	深鉢	口縁・胴部	浅状口縁。口縁羽状突起(3単位)。渦巻文(大・小・L形・横状ノテ)環状。L形L形/ノテ		大木8b	783.3	133 121	
556	B	南照焼出層	深鉢	口縁・胴部	渦巻文・隅円文(環状線)。単純条体1層 R		大木9	479.0	133 121	
557	B	南照焼出層	深鉢	口縁部	浅状口縁。環状渦巻文(環状線)/ノテ文様		大木9	89.3	133 121	
558	B	中央塚出層	深鉢	口縁部存在	斜付突起。貫通孔(垂直方向)/円字文(隆線・区画内L形突起)。区画外ノテ		大木9	69.8	133 121	
559	B	北照焼出層	深鉢	口縁・胴部	浅状口縁。浅部部から渦巻文(環状線)+L形L形/ノテ		大木9	854.4	134 121	
560	B	中央塚出層	深鉢	口縁部	口縁ノテ。曲線区画+ノテ。L形L形/ノテ文様		大木9～10	217.4	134 122	
561	B	北照焼出層	深鉢	口縁・胴部	浅状口縁(4単位)。口縁羽状突起。円字文(環状線+大・4単位)。S字状文(斜交。L形・区画内L形突起)。区画外ミヤナギノテ		大木10	500.1	134 122	
562	B	中央塚出層	深鉢	口縁部	口縁部		大木10	131.5	134 122	
563	B	南照焼出層	深鉢	口縁部	曲線文(沈線・斜交)。L形L形/ノテ		大木10?	30.6	134 122	
564	B	北照焼出層	深鉢	底部	環状。L形		中期	523.1	134 122	
565	B	北照焼出層	深鉢	底部	ノテ		底部木葉板	中葉	112.6	134 122
566	B	南照焼出層	深鉢	口縁部	円形口縁突起。L形。L形(4単位)。ノテ文様	補修孔	後期?	45.1	134 122	
567	B	南東塚出層	深鉢?	口縁部突起?	斜交・環状線(横位は三叉状ノテ)。ノテ/ノテ		後期?	100.4	134 122	

第4表 石器・石製品観察表

No.	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	備考	重量 (g)	石質/時代/産地	写真 の欠	採取 回数	写真 図録
1	A	SI01埋土中一括	磨製石斧		157.9	細粒花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			135 123
2	A	SI01	特殊磨石	表面にも磨り痕	1243.7	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地			135 123
3	A	SI01	特殊磨石		852.5	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●		123
4	B	SI02埋土	特殊磨石		610.9	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地			135 123
5	B	SI02埋土	敲磨器		643.0	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●		123
6	B	SI03床面	石鏡		0.4	頁岩/中生代/北上山地			135 123
7	B	SI03床面	磨製石斧		510.4	ヒン岩/中生代白亜紀/北上山地			135 123
8	B	SI03埋土	特殊磨石		767.8	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地			135 123
9	A	SI06埋土(ベルト)	石匙		7.2	頁岩/中生代/北上山地			136 123
10	A	SI06	凹石	側面に敲打痕あり	568.3	細粒花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			136 123
11	A	SI06石調子石	砥石	卵石転用	3455.2	流紋岩/新生代古第三紀/砂土ヶ浜・松山・立丸跡			136 123
12	A	SI07床直付直	特殊磨石		645.6	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地			136 124
13	B	SI05・07埋土	特殊磨石		783.6	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			137 124
14	B	SI05・07埋土	特殊磨石		822.6	は入れい岩/中生代白亜紀/北上山地			137 124
15	B	SI05・07埋土	特殊磨石		961.6	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			137 124
16	B	SI05・07埋土	軽石		142.9	安山岩/新生代第四紀/岩手山	●		124
17	A	SI08北東埋土上位	石鏡		0.8	頁岩/中生代/北上山地			137 124
18	A	SI08北東埋土上位	石鏡		1.2	頁岩/中生代/北上山地			137 124
19	A	SI08埋土	石鏡		1.6	頁岩/中生代/北上山地			137 124
20	A	SI08ベルト埋土一括	石鏡		2.2	頁岩/中生代/北上山地			137 124
21	A	SI08東側壁面	石鏡		0.5	黒曜石/不明/不明			137 124
22	A	SI08ベルト埋土一括	石匙		7.8	頁岩/中生代/北上山地			137 124
23	A	SI08北西側	敲磨器		198.9	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地			137 124
24	A	SI08西側	敲磨器		551.0	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			137 124
25	A	SI08ベルト	敲磨器	焼熟?	314.8	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●		124
26	A	SI09北西側埋土中	石鏡		0.8	頁岩/中生代/北上山地			138 124
27	A	SI09西側検出面	石鏡		2.6	頁岩/中生代/北上山地			138 124
28	A	SI09北西側埋土中	石匙	下層之箇所挿入	2.8	頁岩/中生代/北上山地			138 124
29	A	SI09北西側埋土中	石鏡		3.3	頁岩/中生代/北上山地			138 124
30	B	SI12	特殊磨石		1000.2	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			138 124
31	B	SI12	敲磨器		583.4	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●		124
32	B	SI12 P1	敲磨器		725.8	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●		124
33	A	SI15埋土	石鏡		0.2	頁岩/中生代/北上山地			138 124
34	A	SI15ベルト一括	石鏡		0.6	赤色頁岩/中生代/北上山地			138 124
35	A	SI16・18 SP02埋土	石鏡		1.9	頁岩/中生代/北上山地			138 124
36	A	SI16・18埋土一括	石鏡		3.1	頁岩/中生代/北上山地			138 124
37	A	SI16・18床面	石鏡		1.0	頁岩/中生代/北上山地			138 124
38	A	SI16・18埋土一括	石鏡		0.8	頁岩/中生代/北上山地			138 124



№	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	備考	数量 (数)	石質・時代/産地	写真 の取 り	写真 掲載
39	A	SI16・18	削棒・スクレ		77.8	頁岩/中生代/北上山地		138 125
40	A	SI16・18 SF01断ち割り	石器		287.1	はなれい岩/中生代白亜紀/北上山地		138 125
41	A	SI16・18	特殊磨石		759.3	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		138 125
42	A	SI16石圍炉	台石	炉石転用	3712.6	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		138 125
43	A	SI19ペルト	煎磨器		196.8	ホルンフェルス/中生代(変成)中生代白亜紀/北上山地	●	125
44	A	SI20検出面一括	石鏝		1.1	頁岩/中生代/北上山地		139 125
45	A	SI20	石鏝		488.6	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		139 125
46	A	SI20ペルト西側	凹石		627.3	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		139 125
47	A	SI20	煎磨器		530.2	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	125
48	A	SI20西側	煎磨器		5970.3	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	125
49	A	SI22・23柱穴埋土中	石匙		7.6	頁岩/中生代/北上山地		139 125
50	A	SI22・23埋土中	砥石	接合資料	13.5	ホルンフェルス/中生代(変成)中生代白亜紀/北上山地		139 125
51	A	SI27埋土	石鏝		1.3	頁岩/中生代/北上山地		139 125
52	A	SI27	石鏝		1.5	頁岩/中生代/北上山地		139 125
53	A	SI27 P1	石鏝		3.0	頁岩/中生代/北上山地		139 125
54	A	SI27埋土一括	石鏝		1.3	頁岩/中生代/北上山地		139 125
55	A	SI27床面	石鏝		2.3	頁岩/中生代/北上山地		139 125
56	A	SI27	石鏝		1.4	頁岩/中生代/北上山地		139 125
57	A	SI27床面	石鏝		7.0	頁岩/中生代/北上山地		139 125
58	A	SI27	石鏝		8.0	頁岩/中生代/北上山地		139 125
59	A	SI27埋土一括	石鏝		0.7	頁岩/中生代/北上山地		139 125
60	A	SI27埋土	石匙		8.0	頁岩/中生代/北上山地		139 125
61	A	SI27床面	石匙	下層部欠損	5.0	頁岩/中生代/北上山地		139 125
62	A	SI27	石槍		27.5	頁岩/中生代/北上山地		140 125
63	A	SI27床面西側	石槍		20.9	頁岩/中生代/北上山地		140 125
64	A	SI27床面	磨製石斧	両端部欠損	52.8	総絞岩/古生代オールドビス開/早鹿峠山頂辺		140 126
65	A	SI27埋土一括	磨製石斧	上端欠損	163.8	総絞岩/古生代オールドビス開/早鹿峠山頂辺		140 126
66	A	SI28埋土	石鏝		0.7	頁岩/中生代/北上山地		140 126
67	A	SI28埋土	石鏝		2.3	頁岩/中生代/北上山地		140 126
68	A	SI28埋土中	石鏝		1.3	頁岩/中生代/北上山地		140 126
69	A	SI28埋土中	磨製石斧	刃部欠損	136.4	ヒン岩/中生代白亜紀/北上山地		140 126
70	A	SI28	煎磨器		414.8	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地	●	126
71	B	SI31A埋土一括	特殊磨石		649.7	アブライト/中生代白亜紀/北上山地		140 126
72	B	SI31A埋土一括	煎磨器		314.5	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		140 126
73	B	SI31Aペルト埋土一括	煎磨器		595.0	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		140 126
74	B	SI31A埋土一括	煎磨器		1418.6	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		141 126
75	B	SI31B・C南西側	石鏝		0.4	頁岩/中生代/北上山地		141 126
76	B	SI31B埋土一括	特殊磨石		1103.5	アブライト/中生代白亜紀/北上山地		141 126
77	B	SI31B・C	煎磨器		862.0	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	126



No.	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	備考	重量 (g)	石質/時代/産地	写真 の欠 損版	写真 掲載
78	B	SI31B・C埋土一括	煎磨器		592.6	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	126
79	B	SI31B・C埋土一括	煎磨器		475.1	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	126
80	B	SI31C埋土一括	煎磨器		1009.1	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	126
81	B	SI31B・C埋土一括	煎磨器		783.9	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地	●	126
82	B	SI33埋土	石靴		5.5	頁岩/中生代/北上山地		141 126
83	B	SI33埋土一括	磨製石斧		209.6	ホルンフェルス/中生代(変成)中生代白亜紀/北上山地		141 126
84	B	SI33埋土一括	煎磨器		213.7	アブライト/中生代白亜紀/北上山地		141 127
85	B	SI33埋土一括	煎磨器		1477.9	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	127
86	B	SI33埋土一括	煎磨器		1123.6	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地	●	127
87	B	SI33埋土	軽石		111.1	安山岩/新生代第四紀/岩手山	●	127
88	B	SI35埋土	石靴		13.5	頁岩/中生代/北上山地		141 127
89	B	SI35	磨製石斧		279.2	細粒花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		142 127
90	B	SI35埋土一括	特殊磨石		1029.8	アブライト/中生代白亜紀/北上山地		142 127
91	B	SI35	特殊磨石		1015.1	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		142 127
92	B	SI35埋土一括	特殊磨石		438.9	アブライト/中生代白亜紀/北上山地		142 127
93	B	SI35埋土一括	凹石?		147.7	軽石/新生代第四紀/十和田火山	●	127
94	B	SI35	煎磨器		700.5	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	127
95	B	SI36	石鏟		2.1	頁岩/中生代/北上山地		142 127
96	B	SI36	特殊磨石		854.0	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		142 127
97	B	SI36	煎磨器		899.3	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		143 127
98	B	SI36床面	煎磨器		1208.4	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	127
99	B	SI38凹石	台石		2895.5	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		143 128
100	B	SI40埋土	削様・スクレ		10.1	頁岩/中生代/北上山地		143 128
101	B	SI40埋土一括	特殊磨石	表面にも磨り痕	956.1	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		143 128
102	B	SI40埋土一括	特殊磨石		642.0	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		143 128
103	B	SI40ベルト埋土一括	煎磨器		191.1	アブライト/中生代白亜紀/北上山地		143 128
104	B	SI40埋土一括	凹石		509.6	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		144 128
105	B	SI40埋土一括	凹石		587.5	細粒花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		144 128
106	B	SI40埋土一括	煎磨器		1165.7	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	128
107	B	SI40埋土一括	台石?		5598.3	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	128
108	B	SI44埋土一括	特殊磨石		610.5	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		144 128
109	B	SI44埋土一括	特殊磨石		970.6	砂岩/中生代/北上山地		144 128
110	B	SI44埋土	特殊磨石	側面に痕打痕あり	1186.3	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		144 128
111	B	SI44埋土一括	特殊磨石		1350.4	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		145 128
112	B	SI44埋土一括	特殊磨石		1627.0	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		145 129
113	B	SI44埋土一括	煎磨器			閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		145 129
114	B	SI44埋土一括	煎磨器		1100.5	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	129
115	B	SI44埋土一括	煎磨器		651.2	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	129
116	B	SI44埋土一括	煎磨器		798.4	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	129

№	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	備考	数量 (数)	石質/時代/産地	写真 のふ	写真 図版
117	B	SI45埋土	特殊磨石		469.5	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		145 129
118	B	SI45埋土	特殊磨石		579.5	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		145 129
119	B	SI48埋土	磨製石斧	刃部欠損	176.3	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		146 129
120	B	SI48埋土	磨石器		149.8	細粒花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		146 129
121	B	SI48埋土一括	石製品	石棒の一部か	26.7	砂岩/中生代白亜紀/草加山層		146 129
122	B	SI48埋土一括	石製品	中央に穿孔	15.8	軽石/中生代新第四紀/十和田火山		146 129
123	B	SI51西側	附掻・スクレ		18.0	頁岩/中生代/北上山地		146 129
124	B	SI51西側	石匙		8.8	頁岩/中生代/北上山地		146 129
125	B	SI51西側	特殊磨石		557.1	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		146 129
126	B	SI51	磨石器		1219.2	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地	●	129
127	A	SK11	磨石器		547.8	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	129
128	B	SK15砂層	石鏃		0.6	頁岩/中生代/北上山地		146 129
129	B	SK15砂層	石匙	刃部欠損	14.1	頁岩/中生代/北上山地		146 129
130	B	SK25埋土下位	磨製石斧?		66.8	頁岩/中生代/北上山地		146 129
131	B	SK27埋土一括	軽石		17.0	軽石/中生代新第四紀/十和田火山	●	130
132	A	2号配石埋土	石匙		29.6	頁岩/中生代/北上山地		147 130
133	A	2号配石	磨製石斧	刃部欠損	434.4	カルンフェルス/中生代(要成は中生代白亜紀)/北上山地		147 130
134	A	2号配石設置土	磨製石斧	刃部欠損	21.9	蛇紋岩/中生代ナンドス層/早池峰山頂部		147 130
135	A	2号配石トレンチ一括	磨石器		105.1	砂岩/中生代/北上山地	●	130
136	A	3号配石下部	石鏃		2.0	頁岩/中生代/北上山地		147 130
137	A	4号配石検出面一括	石匙		17.8	頁岩/中生代/北上山地		147 130
138	A	6号配石	磨石器		351.0	細粒花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	130
139	A	12m後期包含層(黒褐色土)	石鏃		1.5	頁岩/中生代/北上山地		147 130
140	A	2m後期包含層(砂層)	石鏃		1.4	頁岩/中生代/北上山地		147 130
141	A	12m後期包含層(茶褐色一括)	石鏃		1.5	頁岩/中生代/北上山地		147 130
142	A	1号配石直下トレンチ一括	石鏃		1.7	頁岩/中生代/北上山地		147 130
143	A	12m後期包含層(黒色土～砂層上位)	石鏃		2.0	頁岩/中生代/北上山地		147 130
144	A	12m後期包含層(茶褐色土一括)	石鏃		1.9	頁岩/中生代/北上山地		147 130
145	A	12m後期包含層(黒褐色土)	石鏃		1.2	頁岩/中生代/北上山地		147 130
146	A	12m後期包含層(黒褐色土)	石鏃		1.0	頁岩/中生代/北上山地		147 130
147	A	11k後期包含層	石鏃		1.0	頁岩/中生代/北上山地		147 130
148	A	3o後期包含層(砂層)	石鏃		1.1	頁岩/中生代/北上山地		147 130
149	A	10k後期包含層(黒色土～砂層上位)	石鏃		1.1	頁岩/中生代/北上山地		147 130
150	A	12後期包含層(黒褐色～砂層)	石鏃		1.6	頁岩/中生代/北上山地		147 130
151	A	7m後期包含層(砂層)	石鏃		1.1	頁岩/中生代/北上山地		147 130
152	A	13o後期包含層(茶褐色土)	石鏃		1.0	頁岩/中生代/北上山地		147 130
153	A	10k後期包含層(黒色土～砂層上位)	石鏃		0.4	頁岩/中生代/北上山地		147 130
154	A	12後期包含層	石鏃		1.0	頁岩/中生代/北上山地		148 130
155	A	12m後期包含層(黒褐色～砂層)	石鏃		0.8	頁岩/中生代/北上山地		148 130

No.	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	備考	数量 (数)	石質・時代/産地	写真 の欠 け	写真 掲載 位置
156	A	9a後期包含層(埋土中)	石鏃		0.9	頁岩/中年代/北上山地		148 130
157	A	10a後期包含層(黒褐色～砂層)	石鏃		1.5	頁岩/中年代/北上山地		148 130
158	A	4m後期包含層(砂層)	石鏃		0.5	頁岩/中年代/北上山地		148 130
159	A	9a後期包含層(茶褐一括)	石鏃		1.2	頁岩/中年代/北上山地		148 130
160	A	5a後期包含層(礫層)	石鏃		0.8	頁岩/中年代/北上山地		148 130
161	A	8m後期包含層(黒褐色～砂層)	石鏃		0.6	頁岩/中年代/北上山地		148 130
162	A	12a後期包含層(黒色土～砂層 上位)	石鏃		0.8	頁岩/中年代/北上山地		148 130
163	A	5a後期包含層(砂層)	石鏃		0.7	頁岩/中年代/北上山地		148 130
164	A	家舗中央	石鏃		0.4	頁岩/中年代/北上山地		148 130
165	A	集石周辺黒褐色	石鏃		0.7	頁岩/中年代/北上山地		148 130
166	A	12a後期包含層(茶褐一括)	石鏃		1.1	頁岩/中年代/北上山地		148 130
167	A	9a後期包含層(黒色土～砂層上 位)	石鏃		0.7	頁岩/中年代/北上山地		148 130
168	A	8m後期包含層(黒褐色～砂層)	石鏃		1.0	頁岩/中年代/北上山地		148 130
169	A	3m後期包含層(黒色土～砂層 上位)	石鏃		0.9	頁岩/中年代/北上山地		148 130
170	A	12a後期包含層(砂礫層)	石鏃		0.5	頁岩/中年代/北上山地		148 130
171	A	12a後期包含層(黒褐色～砂層)	石鏃		0.9	頁岩/中年代/北上山地		148 130
172	A	6a後期包含層(砂層)	石鏃		0.5	頁岩/中年代/北上山地		148 130
173	A	3m後期包含層(黒色土～砂層 上位)	石鏃		0.7	頁岩/中年代/北上山地		148 130
174	A	4m後期包含層(砂層)	石鏃		0.3	頁岩/中年代/北上山地		148 130
175	A	11a後期包含層(黒色土～砂層 上位)	石鏃		0.2	頁岩/中年代/北上山地		148 131
176	A	8m後期包含層(黒褐色～砂層)	石鏃		1.2	頁岩/中年代/北上山地		148 131
177	A	3a後期包含層(砂層)	石鏃		1.3	頁岩/中年代/北上山地		148 131
178	A	11k後期包含層(黒褐色～砂層)	石鏃		1.6	頁岩/中年代/北上山地		148 131
179	A	12a後期包含層(褐色)	石鏃		0.8	頁岩/中年代/北上山地		148 131
180	A	12a後期包含層(黒褐色土)	石鏃		1.3	頁岩/中年代/北上山地		148 131
181	A	9a後期包含層(茶褐一括)	石鏃		0.2	頁岩/中年代/北上山地		148 131
182	A	4m後期包含層(黒色土～砂層 上位)	石鏃		0.2	頁岩/中年代/北上山地		148 131
183	A	13a後期包含層(黒褐色土)	石鏃		0.7	頁岩/中年代/北上山地		148 131
184	A	12a後期包含層(褐色土一括)	石鏃		3.9	頁岩/中年代/北上山地		148 131
185	A	配石周辺南側瓦包含層	石鏃		1.8	頁岩/中年代/北上山地		148 131
186	A	6a後期包含層(砂層～礫層一 括)	石鏃		0.9	頁岩/中年代/北上山地		148 131
187	A	12a後期包含層(黒褐色土)	石鏃		4.7	頁岩/中年代/北上山地		148 131
188	A	12a後期包含層(茶褐一括)	石鏃		3.8	頁岩/中年代/北上山地		148 131
189	A	11k後期包含層(黒褐色土)	石鏃		13.5	頁岩/中年代/北上山地		148 131
190	A	10a後期包含層(褐色砂礫層)	石鏃		6.9	頁岩/中年代/北上山地		148 131
191	A	13a後期包含層(茶褐)	石鏃		13.6	頁岩/中年代/北上山地		149 131
192	A	12a後期包含層	石鏃		7.6	頁岩/中年代/北上山地		149 131
193	A	12a後期包含層(黒褐色(明))	石鏃		7.9	頁岩/中年代/北上山地		149 131
194	A	8m後期包含層(黒褐色～砂層)	石鏃		4.5	頁岩/中年代/北上山地		149 131

No.	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	備考	重量 (g)	石質・陶代/産地	発見 の深 み	写真 掲載
195	A	12m後期包含層(黒褐色土)	石匙		5.7	頁岩/中年代/北上山地	149	131
196	A	5m後期包含層(黒色土～砂層上位)	石匙		7.3	頁岩/中年代/北上山地	149	131
197	A	配石周辺立石付近南側K区包含層	石匙		11.5	頁岩/中年代/北上山地	149	131
198	A	11m後期包含層(黒褐色土層)	石匙		7.1	頁岩/中年代/北上山地	149	131
199	A	12m後期包含層(黒褐色)	石匙		5.3	頁岩/中年代/北上山地	149	131
200	A	12m後期包含層(黒褐色)	石匙		17.3	頁岩/中年代/北上山地	149	131
201	A	後期包含層検出面	石匙		42.1	頁岩/中年代/北上山地	149	131
202	A	9m後期包含層(黒褐色土)	石匙		25.3	頁岩/中年代/北上山地	149	131
203	A	9m後期包含層(黒褐色(下層))	石匙		7.5	頁岩/中年代/北上山地	149	132
204	A	8m後期包含層(黒褐色～砂層)	石匙		15.4	頁岩/中年代/北上山地	150	132
205	A	14m後期包含層(黒色土～砂層上位)	石匙	下端部破損	11.5	頁岩/中年代/北上山地	150	132
206	A	11m後期包含層(茶褐色一括)	石匙	下端欠損	4.2	頁岩/中年代/北上山地	150	132
207	A	9m後期包含層(黒褐色土)	石匙		42.5	頁岩/中年代/北上山地	150	132
208	A	12m後期包含層(褐層)	石匙		27.6	頁岩/中年代/北上山地	150	132
209	A	14m後期包含層(茶褐色一括)	石匙	未成品か?	16.4	頁岩/中年代/北上山地	150	132
210	A	青銅後期包含層(黒色土層(褐層との混じり))	石楯		16.3	頁岩/中年代/北上山地	150	132
211	A	12m後期包含層(茶褐色土一括)	石楯		42.2	頁岩/中年代/北上山地	150	132
212	A	3m後期包含層(黒色土～砂層上位)	削種・スケレ		8.9	頁岩/中年代/北上山地	150	132
213	A	12m後期包含層(黒褐色)	削種・スケレ		5.5	頁岩/中年代/北上山地	150	132
214	A	12m後期包含層(褐)	削種・スケレ		4.4	赤色頁岩/中年代/北上山地	150	132
215	A	集石周辺黒褐色	削種・スケレ		7.7	頁岩/中年代/北上山地	150	132
216	A	12m後期包含層(茶褐色一括)	削種・スケレ		3.9	頁岩/中年代/北上山地	150	132
217	A	8m後期包含層(黒褐色)	削種・スケレ		2.3	頁岩/中年代/北上山地	150	132
218	A	3m後期包含層(砂層)	削種・スケレ		5.9	頁岩/中年代/北上山地	150	132
219	A	11k後期包含層(黒色土～砂層上位)	削種・スケレ		1.0	頁岩/中年代/北上山地	150	132
220	A	12m後期包含層(茶褐色一括)	削種・スケレ		50.2	細粒花崗閃緑岩/中年代(白亜紀)/北上山地	151	132
221	A	11k後期包含層(黒褐色土)	削種・スケレ		21.5	粗頁頁岩/中年代/北上山地	151	132
222	A	6m後期包含層(砂層)	削種・スケレ		10.8	頁岩/中年代/北上山地	151	132
223	A	3m後期包含層	磨製石斧		842.1	蛇紋岩/古生代オールドビス開/早池峰山周辺	151	132
224	A	3m後期包含層	磨製石斧		579.3	蛇紋岩/古生代オールドビス開/早池峰山周辺	151	133
225	A	14m後期包含層(茶褐色一括)	磨製石斧		209.9	蛇紋岩/古生代オールドビス開/早池峰山周辺	151	133
226	A	3m後期包含層(砂層一括)	磨製石斧		20.0	細粒閃緑岩/中年代(白亜紀)/北上山地	151	133
227	A	A区	磨製石斧	破損後再加工か	36.0	蛇紋岩/古生代オールドビス開/早池峰山周辺	152	133
228	A	2m後期包含層(砂層)	磨製石斧		111.0	蛇紋岩/古生代オールドビス開/早池峰山周辺	152	133
229	A	8m後期包含層(黒褐色～砂層)	磨製石斧		76.5	細粒閃緑岩/中年代(白亜紀)/北上山地	152	133
230	A	11m後期包含層	磨製石斧	刃部欠損	69.7	蛇紋岩/古生代オールドビス開/早池峰山周辺	152	133
231	A	12m後期包含層	磨製石斧	刃部欠損	53.3	細粒花崗閃緑岩/中年代(白亜紀)/北上山地	152	133
232	A	12m後期包含層	磨製石斧	上部欠損	189.7	蛇紋岩/古生代オールドビス開/早池峰山周辺	152	133
233	A	11m後期包含層(黒褐色～砂層)	磨製石斧	上部欠損	162.0	細粒花崗閃緑岩/中年代(白亜紀)/北上山地	152	133

No.	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	備考	数量 (個)	石質・時代/産地	写真 の取 り	写真 掲載
234	A	5a後期包含層(砂層)	磨器		345.9	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		152 133
235	A	8n後期包含層	磨器	敲打痕あり	545.4	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		153 133
236	A	13a後期包含層	特殊磨石		153.2	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		153 133
237	A	11a後期包含層	特殊磨石		509.3	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		133 133
238	A	14a後期包含層	特殊磨石	一部敲打使用小	528.0	砂岩/中生代/北上山地		153 133
239	A	6a後期包含層	特殊磨石	一部敲打使用	174.2	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		153 133
240	A	5a後期包含層	特殊磨石		1150.7	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		153 133
241	A	6a後期包含層	鉋磨器		698.6	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		153 134
242	A	10a後期包含層	鉋磨器		866.8	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		154 134
243	A	4m後期包含層	鉋磨器		1010.2	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		154 134
244	A	南側後期 K	鉋磨器		1036.7	アゾライト/中生代白亜紀/北上山地		154 134
245	A	南側 K 包含層配石周道(立石の西側)	鉋磨器		208.5	砂岩/中生代白亜紀/草地山層		154 134
246	A	6m後期包含層	凹石	凹み+磨り	774.7	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		154 134
247	A	9a後期包含層	鉋磨器		833.6	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		154 134
248	A	5a後期包含層	鉋磨器		805.4	細粒花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		155 134
249	A	12a後期包含層	鉋磨器		457.7	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		155 134
250	A	5a後期包含層	鉋磨器		288.6	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		155 134
251	A	4a後期包含層	鉋磨器		771.7	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		155 134
252	A	11a後期包含層	鉋磨器	石鏝の可能性もある	577.7	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		155 134
253	A	5a後期包含層	鉋磨器		533.6	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地	●	134
254	A	3k後期包含層	鉋磨器		3164.7	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	134
255	A	3a後期包含層	鉋磨器		952.8	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	134
256	A	3m後期包含層	鉋磨器		614.4	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	134
257	A	3a後期包含層	鉋磨器		379.8	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地	●	134
258	A	4a後期包含層	鉋磨器		1435.2	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	134
259	A	6m後期包含層	鉋磨器		689.1	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	134
300	A	8a後期包含層	鉋磨器		1032.9	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	134
361	A	13a後期包含層	鉋磨器		530.3	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地	●	135
362	A	14a後期包含層	鉋磨器		600.6	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地	●	135
363	A	7a後期包含層	台石?		1188.6	細粒花崗閃緑岩/中生代白亜紀/草地山層		155 135
364	A	11a後期包含層	台石?		322.9	デイサイト/中生代白亜紀/草地山層	●	135
365	A	6m後期包含層	石製品	棒状石製品	102.3	粘板岩/中生代/北上山地		156 135
366	A	13a後期包含層(茶碗土)	石製品	石棒	69.8	粘板岩/中生代/北上山地		156 135
367	A	中央部 後期包含層	石製品	石棒、両端に線刻	22.7	砂岩/中生代白亜紀/草地山層		156 135
368	A	後期包含層	石製品?	棒状	3.1	頁岩/中生代/北上山地		156 135
389	A	11m後期包含層(埋土)	石杖		34.6	頁岩/中生代/北上山地		156 135
370	A	12a前期包含層	石鏝		2.3	頁岩/中生代/北上山地		156 136
371	A	12a前期包含層(2層)	石鏝		1.4	頁岩/中生代/北上山地		156 136
372	A	13a前期包含層(2層)	石鏝		1.3	頁岩/中生代/北上山地		156 136

№	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	備考	数量 (数)	石質・時代/産地	写真 の欠	写真 図版
273	A	11前期包含層(陶)	石鏡		0.8	頁岩/中生代/北上山地		156 136
274	A	11前期包含層(陶)	石鏡		1.8	頁岩/中生代/北上山地		156 136
275	A	11b前期包含層(褐色土層(2層目))	石鏡		6.0	頁岩/中生代/北上山地		156 136
276	A	15前期包含層(黒陶)	石鏡		0.9	頁岩/中生代/北上山地		156 136
277	A	13a前期包含層(1層)	石鏡		0.9	頁岩/中生代/北上山地		156 136
278	A	12c前期包含層(褐色土層)	石鏡		4.0	頁岩/中生代/北上山地		156 136
279	A	13a前期包含層(1層)	石鏡		0.9	頁岩/中生代/北上山地		156 136
280	A	12c前期包含層(2層一括)	石鏡		0.8	頁岩/中生代/北上山地		156 136
281	A	12b(S1D~4L下)前期包含層(黄褐色土層)	石鏡		0.8	頁岩/中生代/北上山地		156 136
282	A	14前期包含層	石鏡		0.5	頁岩/中生代/北上山地		156 136
283	A	13c前期包含層	石鏡		1.5	頁岩/中生代/北上山地		156 136
284	A	14前期包含層	石鏡		1.7	赤色頁岩/中生代/北上山地		156 136
285	A	12c前期包含層(2層一括)	石鏡		1.6	頁岩/中生代/北上山地		157 136
286	A	11前期包含層(陶)	石鏡		1.0	頁岩/中生代/北上山地		157 136
287	A	13a前期包含層(1層)	石鏡		1.5	頁岩/中生代/北上山地		157 136
288	A	11前期包含層(黒陶)	石鏡		0.9	頁岩/中生代/北上山地		157 136
289	A	12b前期包含層(陶)(黒陶)一括	石鏡		0.8	頁岩/中生代/北上山地		157 136
290	A	12b前期包含層	石鏡		0.5	頁岩/中生代/北上山地		157 136
291	A	11前期包含層(黒陶)	石鏡		0.7	頁岩/中生代/北上山地		157 136
292	A	11前期包含層(褐色土層)	石鏡		5.0	頁岩/中生代/北上山地		157 136
293	A	11前期包含層(茶褐色一括)	石鏡		1.0	頁岩/中生代/北上山地		157 136
294	A	11前期包含層(陶)	石鏡		0.9	頁岩/中生代/北上山地		157 136
295	A	11前期包含層(黒陶)	石鏡		0.4	頁岩/中生代/北上山地		157 136
296	A	12前期包含層(茶褐色一括)	石鏡		1.3	頁岩/中生代/北上山地		157 136
297	A	13b前期包含層	石鏡		1.3	頁岩/中生代/北上山地		157 136
298	A	12前期包含層(3層)	石鏡		1.2	頁岩/中生代/北上山地		157 136
299	A	15前期包含層	石鏡		1.7	頁岩/中生代/北上山地		157 136
300	A	12b前期包含層	石鏡		1.0	頁岩/中生代/北上山地		157 136
301	A	13b前期包含層	石鏡		0.9	頁岩/中生代/北上山地		157 136
302	A	12前期包含層(褐色土層)	石鏡		2.0	頁岩/中生代/北上山地		157 136
303	A	13a前期包含層(1層)	石鏡		0.8	頁岩/中生代/北上山地		157 136
304	A	13c前期包含層(1層)	石鏡		1.1	頁岩/中生代/北上山地		157 136
305	A	11前期包含層(黒陶)	石鏡		2.0	頁岩/中生代/北上山地		157 136
306	A	15b前期包含層	石鏡		0.9	頁岩/中生代/北上山地		157 136
307	A	11前期包含層(茶褐色一括)	石鏡		1.3	頁岩/中生代/北上山地		157 136
308	A	14前期包含層	石鏡		1.1	頁岩/中生代/北上山地		157 136
309	A	13b前期包含層	石鏡		2.7	頁岩/中生代/北上山地		157 136
310	A	11前期包含層(陶)	石鏡		0.8	頁岩/中生代/北上山地		157 136
311	A	13a前期包含層(茶褐色一括)	石鏡		1.2	頁岩/中生代/北上山地		157 136

No.	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	備考	数量 (数)	石質・時代/産地	写真 の取 組	写真 図版
312	A	11前期包含層(褐)	石鏃		0.5	頁岩/中年代/北上山地		157 136
313	A	15b前期包含層	石鏃		0.9	頁岩/中年代/北上山地		157 136
314	A	12a前期包含層(2層一括)	石鏃		2.7	頁岩/中年代/北上山地		157 136
315	A	11a前期包含層(黒褐)	石鏃		1.7	頁岩/中年代/北上山地		157 136
316	A	12b前期包含層(褐色土層)	石鏃		3.6	頁岩/中年代/北上山地		157 136
317	A	11a前期包含層(褐)	石鏃		1.4	頁岩/中年代/北上山地		157 136
318	A	15b前期包含層	石鏃		3.0	頁岩/中年代/北上山地		157 136
319	A	11b前期包含層(褐)	石鏃		20.8	頁岩/中年代/北上山地		157 136
320	A	15a前期包含層	石鏃		9.4	頁岩/中年代/北上山地		157 136
321	A	12a前期包含層	石鏃		8.4	頁岩/中年代/北上山地		157 136
322	A	12a前期包含層(褐)	石鏃		6.3	頁岩/中年代/北上山地		157 136
323	A	12a前期包含層(褐・黒褐一括)	石鏃		11.0	頁岩/中年代/北上山地		158 137
324	A	11前期包含層(黒褐)	石鏃		11.8	赤色頁岩/中年代/北上山地		158 137
325	A	15a前期包含層	石鏃		15.6	炭成岩/中年代白雲紀/北上山地		158 137
326	A	13a前期包含層(2層一括)	石鏃		7.9	頁岩/中年代/北上山地		158 137
327	A	12a前期包含層(褐)	石鏃		8.9	頁岩/中年代/北上山地		158 137
328	A	14a前期包含層(2層)	石鏃		7.6	頁岩/中年代/北上山地		158 137
329	A	13a前期包含層(茶褐色土一括)	石鏃		9.2	頁岩/中年代/北上山地		158 137
330	A	12b前期包含層(茶褐一括)	石鏃		9.7	赤色頁岩/中年代/北上山地		158 137
331	A	10a前期包含層(3層一括)	石鏃		7.2	頁岩/中年代/北上山地		158 137
332	A	11a前期包含層(褐)	石鏃		7.8	頁岩/中年代/北上山地		158 137
333	A	13a前期包含層(2層)	石鏃		5.8	頁岩/中年代/北上山地		158 137
334	A	15a前期包含層	石鏃		8.2	頁岩/中年代/北上山地		158 137
335	A	15a前期包含層(黒褐)	石鏃		5.7	頁岩/中年代/北上山地		158 137
336	A	14a前期包含層(1層)	石鏃		5.5	頁岩/中年代/北上山地		158 137
337	A	12a前期包含層(1~2層埋土一括)	石鏃		5.4	頁岩/中年代/北上山地		158 137
338	A	13a前期包含層	石鏃		6.5	頁岩/中年代/北上山地		158 137
339	A	11b前期包含層(褐色土層(2層目))	石鏃		3.0	頁岩/中年代/北上山地		158 137
340	A	12a前期包含層(2層一括)	石鏃		8.3	頁岩/中年代/北上山地		158 137
341	A	12a前期包含層(褐)	石鏃		8.5	頁岩/中年代/北上山地		158 137
342	A	12a前期包含層(茶褐一括)	石鏃	下層の直線上の刃部	21.9	頁岩/中年代/北上山地		159 137
343	A	12a前期包含層(褐)	石鏃	下層の直線上の刃部	14.4	頁岩/中年代/北上山地		159 137
344	A	15a前期包含層(茶褐色土一括)	石鏃	下層挿入	15.8	頁岩/中年代/北上山地		159 137
345	A	13a前期包含層(1層)	石鏃	下層挿入	4.7	頁岩/中年代/北上山地		159 137
346	A	12a前期包含層(褐色土層)	石鏃	下層の直線上の刃部、折れたものを再加工か	6.0	頁岩/中年代/北上山地		159 137
347	A	12a前期包含層(2層一括)	石鏃	下層の直線上の刃部	3.1	頁岩/中年代/北上山地		159 137
348	A	11a前期包含層	石鏃	先端部欠損	4.0	頁岩/中年代/北上山地		159 137
349	A	11a前期包含層(褐)	石鏃	先端部欠損	4.1	頁岩/中年代/北上山地		159 137
350	A	14a前期包含層	石鏃	先端部欠損	2.8	頁岩/中年代/北上山地		159 137

No.	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	備考	数量 (量)	石質・時代/産地	写真 の取 組	写真 掲載 頁
351	A	11b前期包含層(暗褐色土(最下層))	石匙	先端部欠損	4.2	頁岩/中年代/北上山地		159 137
352	A	11b前期包含層(褐色土層)	石匙		10.7	頁岩/中年代/北上山地		159 138
353	A	13c前期包含層(2層)	石匙		11.4	頁岩/中年代/北上山地		159 138
354	A	12a前期包含層(1~2層埋土一括)	石匙		7.6	頁岩/中年代/北上山地		159 138
355	A	12b前期包含層	石匙		5.3	頁岩/中年代/北上山地		159 138
356	A	12c前期包含層(褐・黒褐一括)	石匙		12.5	頁岩/中年代/北上山地		159 138
357	A	14b前期包含層	石匙		7.3	頁岩/中年代/北上山地		159 138
358	A	12a前期包含層(褐)	石匙		5.9	頁岩/中年代/北上山地		159 138
359	A	12b前期包含層	石匙		9.4	頁岩/中年代/北上山地		160 138
360	A	12c前期包含層(褐)	石匙		4.1	頁岩/中年代/北上山地		160 138
361	A	11j前期包含層(褐)	石匙		10.9	頁岩/中年代/北上山地		160 138
362	A	13a前期包含層(2層)	石匙		18.5	頁岩/中年代/北上山地		160 138
363	A	10a前期包含層(3層一括)	石匙		10.9	頁岩/中年代/北上山地		160 138
364	A	11i前期包含層(褐)	石匙		9.7	頁岩/中年代/北上山地		160 138
365	A	15a前期包含層	石匙		10.1	凝灰岩/新年代古銅二期/伊土・函・松山・立丸群		160 138
366	A	13b前期包含層(褐色土層)	石匙		2.0	頁岩/中年代/北上山地		160 138
367	A	11a前期包含層(黒褐)	石匙		13.2	頁岩/中年代/北上山地		160 138
368	A	12a前期包含層(3層)	石匙		7.2	頁岩/中年代/北上山地		160 138
369	A	12b前期包含層	石匙	ブツ状	3.9	頁岩/中年代/北上山地		160 138
370	A	12c前期包含層	石匙		17.8	閃緑岩/中年代白華紀/北上山地		160 138
371	A	11h前期包含層	石匙		7.0	頁岩/中年代/北上山地		160 138
372	A	12a前期包含層(暗褐色土3層)	石槍		28.5	頁岩/中年代/北上山地		160 138
373	A	12b前期包含層	石槍		36.7	頁岩/中年代/北上山地		160 139
374	A	13a前期包含層(2層)	石槍		47.1	頁岩/中年代/北上山地		161 139
375	A	12a前期包含層(3層)	石槍		25.8	頁岩/中年代/北上山地		161 139
376	A	13a前期包含層(1層一括)	石槍		18.1	頁岩/中年代/北上山地		161 139
377	A	13a前期包含層(1層)	石槍		5.1	頁岩/中年代/北上山地		161 139
378	A	12a前期包含層(褐)	石槍		15.1	頁岩/中年代/北上山地		161 139
379	A	14a前期包含層(1層)	石槍		19.6	頁岩/中年代/北上山地		161 139
380	A	13a前期包含層(1層)	石槍		19.4	頁岩/中年代/北上山地		161 139
381	A	10a前期包含層(3層一括)	石槍		66.3	頁岩/中年代/北上山地		161 139
382	A	13a前期包含層(2層)	石槍		46.2	頁岩/中年代/北上山地		161 139
383	A	13a前期包含層(2層)	石槍	先端破損	53.6	頁岩/中年代/北上山地		161 139
384	A	13a前期包含層(3層(黒褐))	箭鏃・スケレ		177.1	頁岩/中年代/北上山地		162 139
385	A	11a前期包含層(褐)	箭鏃・スケレ		71.0	頁岩/中年代/北上山地		162 140
386	A	12a前期包含層(褐)	箭鏃・スケレ		12.1	頁岩/中年代/北上山地		162 140
387	A	12b前期包含層	箭鏃・スケレ		12.3	頁岩/中年代/北上山地		162 140
388	A	11a前期包含層(褐)	箭鏃・スケレ		44.9	頁岩/中年代/北上山地		162 140
389	A	12a前期包含層(茶褐色土一括)	箭鏃・スケレ		13.3	頁岩/中年代/北上山地		162 140



No.	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	備考	数量 (数)	石質/時代/産地	写真 のふ	図版	写真 図版
390	A	11前期包含層(茶褐色一括)	煎鉢・スケレ		27	頁岩/中年代/北上山地			162 140
391	A	12褐色土-前期包含層	煎鉢・スケレ		13	頁岩/中年代/北上山地			162 140
392	A	13前期包含層(茶褐色土一括)	煎鉢・スケレ		15	頁岩/中年代/北上山地			162 140
393	A	13前期包含層(1~2層埋土一括)	煎鉢・スケレ		7	頁岩/中年代/北上山地			162 140
394	A	15前期包含層	煎鉢・スケレ		14	頁岩/中年代/北上山地			162 140
395	A	11前期包含層(黒褐)	煎鉢・スケレ		19	頁岩/中年代/北上山地			163 140
396	A	15前期包含層	煎鉢・スケレ		8	頁岩/中年代/北上山地			163 140
397	A	13前期包含層(2層)	煎鉢・スケレ		13	頁岩/中年代/北上山地			163 140
398	A	13前期包含層(茶褐色一括)	煎鉢・スケレ		15	頁岩/中年代/北上山地			163 140
399	A	16前期包含層(褐)	磨製石斧		139	蛇紋岩/古生代オールドビス開/早雄峰山周辺			163 140
400	A	12前期包含層(1層)	磨製石斧		38	蛇紋岩/古生代オールドビス開/早雄峰山周辺			163 140
401	A	12前期包含層(1層)	磨製石斧		24	蛇紋岩/古生代オールドビス開/早雄峰山周辺			163 140
402	A	12前期包含層(2層)	磨製石斧	刃部欠損	189	蛇紋岩/古生代オールドビス開/早雄峰山周辺			163 140
403	A	11前期包含層(黒褐)	磨製石斧	刃部欠損	109	細粒閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			163 141
404	A	14前期包含層(2層)	磨製石斧	上部欠損	175	蛇紋岩/古生代オールドビス開/早雄峰山周辺			164 141
405	A	12前期包含層(褐色土層)	磨製石斧	上部欠損	70	ヒン岩/中生代白亜紀/北上山地			164 141
406	A	11前期包含層(黒褐)	磨製石斧	再加工か	25	細粒花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			164 141
407	A	12前期包含層(褐)	磨製石斧	両端部欠損	40	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			164 141
408	A	12前期包含層(2層)	磨製石斧	両端部欠損	80	蛇紋岩/古生代オールドビス開/早雄峰山周辺			164 141
409	A	16前期包含層(3層)	磨製石斧	両端部欠損	236	頁岩/中年代/北上山地			164 141
410	A	14前期包含層	礫器		18	はらい岩/中生代白亜紀/北上山地			165 141
411	A	13前期包含層(III層(黒褐))	礫器	A123	23	砂岩/中年代/北上山地			165 141
412	A	12前期包含層(褐)	礫器		14	ヒン岩/中生代白亜紀/北上山地			165 141
413	A	12前期包含層	特殊磨石		72	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			165 141
414	A	13前期包含層	特殊磨石		68	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			165 141
415	A	15前期包含層	特殊磨石		62	砂岩/中年代/北上山地			165 141
416	A	12前期包含層	特殊磨石		28	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			165 142
417	A	12前期包含層	特殊磨石		26	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地			165 142
418	A	13前期包含層	特殊磨石		87	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地			166 142
419	A	11前期包含層	特殊磨石	別面に敲打痕あり	79	ヒン岩/中生代白亜紀/北上山地			166 142
420	A	12前期包含層	特殊磨石	特磨→敲打	43	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			166 142
421	A	13前期包含層	特殊磨石	別面に凹みあり	96	細粒花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			166 142
422	A	12前期包含層	特殊磨石	特磨+敲打	32	砂岩/中年代/北上山地			166 142
423	A	15前期包含層	特殊磨石	別面に凹みあり	48	アモサイト/中生代白亜紀/原地山層			166 142
424	A	12前期包含層	煎磨器		21	砂岩/中年代/北上山地			167 142
425	A	13前期包含層	煎磨器		117	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地			142
426	A	15前期包含層	煎磨器		64	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地			142
427	A	15前期包含層	煎磨器		67	輝石・重石・代銅第四紀/十和田火山			142
428	A	13前期包含層	煎磨器		22	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地			167 142

No.	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	備考	数量 (数)	石質/時代/産地	写真 のふ	写真 図版
429	A	1b前期包含層	煎磨器		218.3	アイサイト/中生代白亜紀/原地山層		167 142
430	A	1d前期包含層(2層 茶褐一括)	煎磨器		208.8	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		167 142
431	A	12b(SID0<スルト)前期包含層	煎磨器		213.2	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		167 142
432	A	11b前期包含層	凹石		225.9	カルシウム系/中生代(要確認)中生代白亜紀/北上山地		167 142
433	A	12b前期包含層	台石?		536.1	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地	●	142
434	A	14c前期包含層(1層)	石核		73.3	頁岩/中生代/北上山地		167 142
435	A	1d前期包含層(2層 茶褐一括)	石核		100.9	頁岩/中生代/北上山地		167 142
436	A	表採	石鏝		1.6	頁岩/中生代/北上山地		168 143
437	A	表採	石鏝		1.0	頁岩/中生代/北上山地		168 143
438	A	表採	石匙	下層挟入	4.9	頁岩/中生代/北上山地		168 143
439	A	表採	石匙		4.0	頁岩/中生代/北上山地		168 143
440	A	不明	石匙		4.4	頁岩/中生代/北上山地		168 143
441	A	表採	煎鉢・スクレ		25.8	頁岩/中生代/北上山地		168 143
442	A	不明	礫器		676.8	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		168 143
443	A	表採	石鏝		464.1	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		168 143
444	A	表採	石鏝	未成品?	770.7	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		168 143
445	A	不明	煎磨器		1121.3	閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		168 143
446	B	北側褐色土層	石鏝		0.5	頁岩/中生代/北上山地		169 143
447	B	中央部検出面層	石鏝		0.6	頁岩/中生代/北上山地		169 143
448	B	中央部検出面層	石鏝		0.6	頁岩/中生代/北上山地		169 143
449	B	北側褐色土層	石鏝		1.7	頁岩/中生代/北上山地		169 143
450	B	中央部検出面層	石鏝		1.1	珪質頁岩/中生代/北上山地		169 143
451	B	表採	石匙		3.8	頁岩/中生代/北上山地		169 143
452	B	中央部検出面層	石匙	掘み部欠損	7.7	頁岩/中生代/北上山地		169 143
453	B	中央部検出面層	石匙	掘み部欠損	7.4	頁岩/中生代/北上山地		169 143
454	B	南側遺物集中区黒～褐色土層	煎鉢・スクレ	黒曜石	7.7	黒曜石/不明/不明		169 143
455	B	中央部検出面層	煎鉢・スクレ		24.1	頁岩/中生代/北上山地		169 143
456	B	南側	特殊磨石		1253.3	花崗閃緑岩/中生代白亜紀/北上山地		169 143
457	B	南側遺物集中区黒～褐色土層	煎磨器		80.2	アフライト/中生代白亜紀/北上山地		169 143
458	B	南側検出面層	凹石		399.8	カルシウム系/中生代(要確認)中生代白亜紀/北上山地		169 143
459	B	北側褐色土層	凹石		395.0	花崗岩/中生代白亜紀/北上山地		169 143

第5表 土製品観察表

No.	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	時期	特徴	重量(g)	図取	写真 図版
1	A	南側後期包含層	土偶(頭部)	後期	頭蓋は斜位に削み、眉・鼻はV字状に隆起、鼻孔は2か所狭いV字状の先端で刺突、目・口は竹管刺突、首は背面中央より柱状で突出	700	169	144
2	A	5n後期包含層 砂層一括	土偶(頭部)	後期	眉・鼻は曲線的なV字状に隆起、目・鼻孔は竹管刺突、下顎を欠損するが僅かに口の土縁部残る(竹管刺突)、首は背面中央より柱状に突出、顔・首を周回・十字にRL主張、頭蓋を表現か?	25.0	169	144
3	A	8n後期包含層 砂層一括	土偶(頭部)	後期	頭蓋は斜位に削み、目は貫通孔、鼻はV字状に隆起、鼻孔は小さい刺突、口は水平沈線とこの断面に刺突(竹管?)、首は背面中央より柱状で突出、全体に口回りと同様の刺突	57.0	169	144
4	A	6n後期包含層 黒色土→砂層上位	土偶(左胸部)	後期	手部分に楕円形の窪み	31.7	169	144
5	A	4n後期包含層 砂層	土偶(左胸部)	後期	手部分に円形の窪み	15.9	169	144
6	A	4n後期包含層 砂層	土偶(左胸部?)	後期		8.5	169	144
7	A	9n後期包含層 黒色土→砂層上位	土偶(左肩→左胸部)	後期	手部分に円形の窪み、肩背面は丁寧なナデ	415.7	169	144
8	A	4n後期包含層 黒色土→砂層上位	土偶(胸部)	後期	乳房、肩輪郭部表現、乳頭部刺突、乳房間～腹部全体にかけて刺突、背骨部部、腰部に刺突、胸部・脚部との接続部分はソケット状	137.8	169	144
9	A	8n後期包含層 砂層	土偶(右肩→右胸部)	後期	右乳房、乳房間に竹管刺突	207.0	170	145
10	A	3n後期包含層 黒色土→砂層上位	土偶(胸部)	後期	乳房表現、乳頭部・乳房間刺突(竹管)	100.2	170	145
11	A	10n後期包含層 砂層一括	土偶(胸～腰部)	後期	乳房表現(乳房欠損)、肩両面・乳房間刺突(竹管)、下腹部筋条、腰部筋条+沈線、右側欠損部アスファルト付着	70.4	170	145
12	A	8n後期包含層 黒色土→砂層上位	土偶(肩～胸部)	後期	乳房表現(乳房欠損)、肩両面・乳房間刺突(竹管)	106.9	170	145
13	A	8n後期包含層	土偶(胸～腰部)	後期	腹部正面筋条、腰部に沈線+RL文様、脚部との接続部分ソケット状	140.4	170	145
14	A	6n後期包含層 砂層→レナ層	土偶(右肩→右胸部)	後期	乳房表現、乳頭部・肩背面に刺突(竹管?)	29.8	171	146
15	A	14n後期包含層 茶褐色土一括、S115灰石下埋土	土偶(腹～腰部)	後期	乳房表現(乳房は欠損)、妊娠表現?、股関節に竹管刺突(女性器表現?)	31.8	171	146
16	A	不明	土偶(胸部)	後期	乳房表現、左胸縁接続部分ソケット状	40.7	171	146
17	A	10n後期包含層 黒色土→砂層	土偶(胸～右胸部)	後期	左胸部欠損部アスファルト付着	81.4	171	146
18	A	8n後期包含層 黒色土→砂層上位	土偶(左足先部)	後期	全体に刺突(竹管)	19.4	171	146
19	A	8n後期包含層 黒色土→砂層上位	土偶(右足先部)	後期		16.7	171	146
20	A	5n後期包含層 黒色土→砂層上位	土偶(左足先部)	後期	足先に削み(指表現)、欠損部アスファルト付着、外側外面にも指状にアスファルト付着	45.2	171	146
21	A	10n後期包含層 黒褐色土	土偶(左胸部)	後期	沈線、刺突(竹管)	31.9	171	146
22	A	9n後期包含層 黒色土→砂層上位	土偶(左胸部)	後期	沈線、胸部との接続部分ソケット状	20.9	171	146
23	B	S102 K1	赤状土製品	後期	RL縦、貫通孔、下部欠損	73.2	171	146
24	B	南側中央部 横出面層	赤状土製品	後期	RL縦、沈線、上部欠損	34.3	171	146
25	B	S120 P28埋土	磚形土製品	後期	沈線+刺突(竹管)、上部に貫通孔、一部欠損	17.8	171	146
26	B	S120 埋土中	磚形土製品	後期	貫通孔、下部欠損	6.9	171	146
27	B	S126 床直	耳飾り	後期	耳栓形、朱塗り	3.5	171	146
28	A	8m後期包含層 砂層一括	ミニチュア土器	後期	壺、全体に朱塗り	61.3	172	147
29	A	7n後期包含層 黒色土→砂層上位	ミニチュア土器	後期	壺	34.4	172	147
30	A	6n後期包含層 埋層	ミニチュア土器	後期		15.0	172	147
31	A	10m後期包含層 黒褐色土	ミニチュア土器	後期	器台部、沈線	11.8	172	147
32	A	S109	円盤状土製品	中期前葉	RL→S字状結節	72.5	172	147
33	B	S114	円盤状土製品			20.1	172	147
34	B	S116・18 断面ベルト内	円盤状土製品	中期中～後葉	隆沈線	13.2	172	147
35	B	S116・18 断面ベルト内	円盤状土製品		RL	7.1	172	147
36	B	S131B	円盤状土製品			8.6	172	147
37	B	S131B・C 埋土	円盤状土製品	LR		13.3	172	147
38	B	S133	円盤状土製品			9.7	172	147
39	B	S133	円盤状土製品			15.3	172	147
40	B	S133	円盤状土製品	LR		7.9	172	147

No.	区域	出土成立・遺構名・層位	種別	時期	特徴	重量 (g)	図版	写真 図版
41	B	SI33 床面	円盤状土製品		底部片	140	172	147
42	B	SI33 埋土一括	円盤状土製品		LR	128	172	147
43	B	SI33 埋土一括	円盤状土製品	中期	隆沈線、RLR、貫通孔	8.1	172	147
44	B	SI33 埋土上～中位	円盤状土製品		施文判別不可	11.4	172	147
45	B	SI35	円盤状土製品	中期	沈線、LR	14.7	172	147
46	B	SI35	円盤状土製品		LR	19.2	172	147
47	B	SI35	円盤状土製品		RL	12.2	172	147
48	B	SI35	円盤状土製品		RL	7.1	172	147
49	B	SI35	円盤状土製品		RL	14.7	172	147
50	B	SI35 複式伊前庭部	円盤状土製品		RL	13.3	172	147
51	B	SI35 埋土	円盤状土製品		RLR	8.1	172	147
52	B	SI35 埋土	円盤状土製品		沈線、RL	8.5	172	147
53	B	SI35 埋土	円盤状土製品		沈線、RL	9.0	172	147
54	B	SI35 埋土一括	円盤状土製品		RL	6.4	172	147
55	B	SI35 埋土一括	円盤状土製品			13.3	172	147
56	B	SI35 埋土一括	円盤状土製品		RL、縦線含む	26.1	172	147
57	B	SI35 埋土一括	円盤状土製品	中期	沈線、RLR	7.8	172	147
58	B	SI36	円盤状土製品		LR	8.4	172	147
59	B	SI36	円盤状土製品		LR	12.9	172	147
60	B	SI38	円盤状土製品		摩滅著しい、施文判別不可	11.6	172	147
61	B	SI40 埋土	円盤状土製品		LR	8.1	172	147
62	B	SI40 埋土	円盤状土製品		RL	18.7	172	147
63	B	SI40 埋土	円盤状土製品		RL	14.5	172	147
64	B	SI40 埋土上位	円盤状土製品		沈線、RLR	12.0	172	147
65	B	SI44 埋土	円盤状土製品		単軸給糸体1個 R、貫通孔	5.3	172	147
66	B	SI44 埋土一括	円盤状土製品	中期	隆沈線、LR	12.6	172	147
67	B	SI44 埋土一括	円盤状土製品	大木9	沈線、LR	17.4	172	147
68	B	SI44 埋土一括	円盤状土製品		沈線	12.5	172	147
69	B	SI48 埋土	円盤状土製品		RL	8.9	172	147
70	B	SI48 埋土	円盤状土製品		LR	13.6	172	147
71	B	SI48 埋土一括	円盤状土製品		RL	7.7	172	147
72	B	SI48 埋土一括	円盤状土製品	中期	沈線、RLR、貫通孔	12.3	172	147
73	B	SI48 埋土一括	円盤状土製品		RL	11.2	173	147
74	B	SI48 埋土一括	円盤状土製品		RLR	12.9	173	147
75	B	SI49 埋土一括	円盤状土製品		LR	9.3	173	147
76	A	南側 後期包含層	円盤状土製品	後期	沈線、RL、ナデ	12.1	173	147
77	A	南側 後期包含層	円盤状土製品		RZ痕	14.1	173	147
78	A	14f後期包含層 茶褐色土一括	円盤状土製品		LR	17.7	173	147
79	A	3a後期包含層 黒褐色～砂層中	円盤状土製品		LR	14.0	173	147
80	A	3a後期包含層砂層	円盤状土製品		沈線、LR	16.6	173	147
81	A	3a後期包含層 砂層	円盤状土製品	後期	沈線、RL、ナデ	8.8	173	147
82	A	8g後期包含層 黒色土～砂層上位	円盤状土製品	後期	沈線、RL	11.6	173	147
83	A	10c後期包含層 黒色土～砂層上位	円盤状土製品	前期前葉	S字状結節	22.5	173	147
84	A	10d後期包含層 黒色土～砂層上位	円盤状土製品	後期?	沈線、RL	20.8	173	147
85	A	10f後期包含層 黒褐色土	円盤状土製品	後期	沈線、刺突、LR羽状?	23.5	173	147
86	A	10i後期包含層 黒色土～砂層上位	円盤状土製品		LR	16.3	173	147

No.	区域	出土地点・遺構名・層位	種別	時期	特徴	重量 (g)	図版	写真 図版
87	A	11b後期包含層	円盤状土製品	大木10	沈線、LR	123	173	148
88	A	12a後期包含層 茶褐色土一括	円盤状土製品			183	173	148
89	A	12b後期包含層 茶褐色一括	円盤状土製品	大木2b	S字状連続沈文	706	173	148
90	A	12c前期包含層(2層)	円盤状土製品	前期前葉	LR+RL非結束羽状	47.1	173	148
91	A	12d前期包含層(2層)	円盤状土製品	大木2b	S字状連続沈文	37.9	173	148
92	A	13a前期包含層	円盤状土製品	前期前葉	結束?摩滅著しい、繊維含む	35.6	173	148
93	A	4m後期包含層 砂レキ層一括	円盤状土製品		底部片	37.6	173	148
94	A	4e後期包含層 黒色土一括 砂層上位	円盤状土製品			8.3	173	148
95	A	5m後期包含層 黒色土一括 砂層上位	円盤状土製品		ナデ	15.4	173	148
96	A	5e後期包含層 黒色土一括 砂層上位	円盤状土製品	後期	RL	8.4	173	148
97	A	6a後期包含層 黒色土層 一括土層	円盤状土製品		LR	14.5	173	148
98	A	6e後期包含層 砂層レキ層	円盤状土製品	前期	隆線、RL	15.7	173	148
99	A	北側 検出面	円盤状土製品		底部片転用	16.9	173	148
100	A	北側 検出面	円盤状土製品		摩滅著しい、施文判別不可	14.7	173	148
101	A	北側 検出面	円盤状土製品		沈線、LR	20.1	173	148
102	A	北側 検出面	円盤状土製品	中期	沈線、LR	18.9	173	148
103	A	北側 検出面	円盤状土製品		LRLR?、LR?	30.0	173	148
104	A	12c 前期包含層	円盤状土製品		沈線?、LR?	14.2	173	148
105	A	13c 前期包含層	円盤状土製品		RL	15.6	173	148
106	B	北側 検出面層	円盤状土製品		LR	15.7	173	148
107	B	南西部遺物集中 黒色土層 一括土層	円盤状土製品		RL、両面中央に孔(未貫通)	14.6	173	148
108	B	南西部遺物集中 黒色土層 一括土層	円盤状土製品		LR	10.3	173	148
109	B	南西部遺物集中 黒色土層 一括土層	円盤状土製品		RL	27.9	173	148
110	B	中央部	円盤状土製品		LRLR、表面中央に孔(未貫通)	17.7	173	148
111	B	北側	円盤状土製品		LRLR	13.9	173	148
112	B	北側	円盤状土製品		RL	9.8	173	148
113	B	南側	円盤状土製品		華輪筋条体1類L	5.2	173	148
114	B	不明	円盤状土製品	中期	隆線、RL	20.6	173	148
115	B	SI33 埋土上～中位	粘土塊		写真のみ	36.8	-	148

## VI 自然科学分析

### 1 放射性炭素年代(AMS測定)

(株)加速器分析研究所

#### 1. 測定対象試料

赤浜Ⅱ遺跡は、岩手県上閉伊郡大槌町赤浜1丁目207番地ほか(北緯39°21'17"、東経141°55'52")に所在する。測定対象試料は、竪穴住居跡と砂層から出土した炭化物6点である(表1)。

#### 2. 測定の意義

試料が出土した竪穴住居跡と砂層の年代を明らかにする。

#### 3. 化学処理工程

- (1)メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2)酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3)試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。
- (4)真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5)精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6)グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

#### 4. 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOX II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

#### 5. 算出方法

- (1)δ<sup>13</sup>Cは、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2)<sup>14</sup>C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代はδ<sup>13</sup>Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差(±1σ)は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入

## 1 放射性炭素年代 (AMS測定)

る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。pMCが小さい(<sup>14</sup>Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(<sup>14</sup>Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合 Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>13</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差( $1\sigma = 68.2\%$ )あるいは2標準偏差( $2\sigma = 95.4\%$ )で表示される。グラフの縦軸が<sup>14</sup>C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない<sup>14</sup>C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される。

## 6. 測定結果

測定結果を表1・2に示す。

試料6点の<sup>14</sup>C年代は、5210 $\pm$ 30yrBP(試料 No.2)から3420 $\pm$ 30yrBP(試料 No.6)の間にある。暦年較正年代( $1\sigma$ )は、最も古い No.2 が5989～5926cal BPの間に2つの範囲、最も新しい No.6 が3704～3635cal BPの範囲となっている。古い方から順に、No.2が縄文時代前期中葉頃、No.3が中期中葉から後葉頃、No.5が中期後葉から末葉頃、No.4が中期末葉頃、No.1が後期初葉から前葉頃、No.6が後期中葉頃に相当する(小林編2008)。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

### 文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of <sup>14</sup>C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

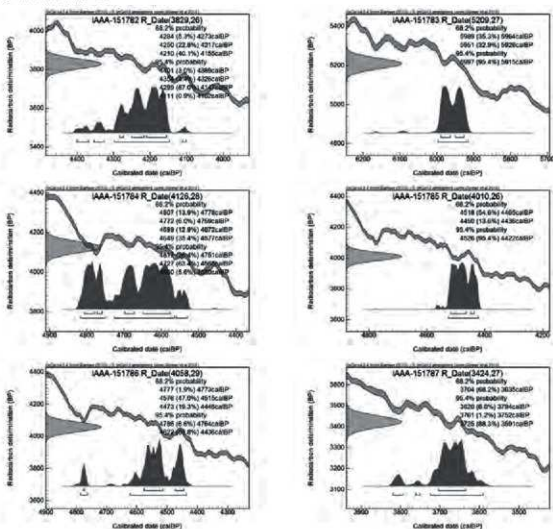
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age(yrBP)	pMC(%)
IAAA-151782	No.1	SI01 伊 埋土	炭化物	AAA	-25.67 $\pm$ 0.58	3,830 $\pm$ 30	62.08 $\pm$ 0.20
IAAA-151783	No.2	SI08 柱穴 埋土	炭化物	AAA	-26.55 $\pm$ 0.32	5,210 $\pm$ 30	52.28 $\pm$ 0.18
IAAA-151784	No.3	SI27 暗褐色土	炭化物	AAA	-26.72 $\pm$ 0.52	4,130 $\pm$ 30	59.83 $\pm$ 0.21
IAAA-151785	No.4	SI33 埋設土器内	炭化物	AaA	-27.25 $\pm$ 0.43	4,010 $\pm$ 30	60.70 $\pm$ 0.20
IAAA-151786	No.5	SI35 伊 7層	炭化物	AAA	-27.61 $\pm$ 0.56	4,060 $\pm$ 30	60.34 $\pm$ 0.22
IAAA-151787	No.6	8Lグリッド 砂層	炭化物	AAA	-25.69 $\pm$ 0.28	3,420 $\pm$ 30	65.29 $\pm$ 0.23

表2 放射性炭素年代測定結果(δ<sup>13</sup>C未補正值、暦年較正用<sup>14</sup>C年代、較正年代)

測定番号	δ <sup>13</sup> C補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-151782	3840 ± 20	6200 ± 0.19	3,829 ± 26	4284calBP - 4273calBP ( 5.3% ) 4250calBP - 4217calBP (22.8%) 4210calBP - 4155calBP (40.1%)	4401calBP - 4369calBP ( 3.0% ) 4354calBP - 4335calBP ( 4.4% ) 4299calBP - 4147calBP (87.0% ) 4111calBP - 4102calBP ( 0.9% )
IAAA-151783	5240 ± 30	5212 ± 0.18	5,209 ± 27	5989calBP - 5964calBP (35.3%) 5951calBP - 5926calBP (32.9%) 4807calBP - 4778calBP (13.9%) 4772calBP - 4759calBP ( 6.0% ) 4699calBP - 4672calBP (12.9%) 4649calBP - 4577calBP (35.4%)	5997calBP - 5915calBP (95.4%) 4817calBP - 4751calBP (26.4%) 4727calBP - 4565calBP (63.4%) 4560calBP - 4530calBP ( 5.6% )
IAAA-151784	4150 ± 30	5962 ± 0.20	4,126 ± 28	4518calBP - 4465calBP (54.6%) 4450calBP - 4436calBP (13.6%)	4526calBP - 4422calBP (95.4%)
IAAA-151785	4050 ± 30	6042 ± 0.19	4,010 ± 26	4777calBP - 4773calBP ( 1.9% ) 4576calBP - 4515calBP (47.0%) 4473calBP - 4446calBP (19.3%)	4786calBP - 4764calBP ( 6.6% ) 4622calBP - 4436calBP (88.8%)
IAAA-151787	3440 ± 30	6520 ± 0.22	3,424 ± 27	3704calBP - 3635calBP (68.2%)	3820calBP - 3794calBP ( 6.0% ) 3761calBP - 3752calBP ( 1.2% ) 3725calBP - 3591calBP (88.3%)

[参考値]

[図版] 暦年較正年代グラフ





## 2 火山灰同定

バリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

岩手県上閉伊郡大槌町に所在する赤浜Ⅱ遺跡は、大槌湾北岸を構成するリアスの山地縁辺部に形成された緩斜面の末端付近に位置する。発掘調査では縄文時代の遺構、遺物が検出されている。本分析調査では、縄文時代の竪穴住居跡覆土中に確認されたテフラ様堆積物について分析を行い、竪穴住居跡の年代に関する資料を得ることを目的とする。

### 1. 試料

試料は、縄文時代の竪穴住居跡とされる SIO8 の覆土に確認されたテフラ様堆積物 1 点(試料名: AKⅡ-150527 SIO8)である。試料は15cm程度ブロックで採取されている。本試料について、テフラの検出同定、火山ガラスの屈折率測定、重鉱物組成および火山ガラス比分析を実施する。

### 2. 分析方法

#### (1) テフラの検出同定

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

#### (2) 重鉱物・火山ガラス比分析、屈折率測定

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム(比重約2.96に調整)により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

火山ガラス比は、重液分離した軽鉱物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、上述の3タイプに分類した。なお、火山ガラス比における「その他」は、主に石英および長石などの鉱物粒と変質等で同定の不可能な粒子を含む。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

### 3. 結果

#### (1) テフラの検出同定

処理後の砂分中からは、中量の火山ガラスが検出された。火山ガラスは、径0.3mm程度、白色を呈

し、スポンジ状に細かく発泡している。

砂分の主体は、比較的新鮮な白色を呈する斜長石の鉱物片であり、これに黒色や緑色を呈する輝石類の鉱物片も比較的多く混在し、さらに暗灰色を呈する火山岩片も含まれる。

## (2) 重鉱物・火山ガラス比分析、屈折率測定

結果を表1・2、図1に示す。重鉱物組成は斜方輝石が最も多く、次いで単斜輝石、不透明鉱物の順に多く含まれる。さらに極めて微量の角閃石も認められた。火山ガラス比は少量の軽石型と微量の中間型とが検出され、バブル型は認められない。

火山ガラスの屈折率を図2に示す。レンジはn1.508-1.514であり、モードはn1.513である。

表1 テフラ分析結果

試料名	スコリア			火山ガラス			軽石		
	量	色調・発泡度	最大粒径	量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径	
AK II -150527 SI08	-			+++	cl-pm	-			

凡例 - : 含まれない, (+) : きわめて微量, + : 微量, ++ : 少量, +++ : 中量, ++++ : 多量  
 B : 黒色, Br : 褐色, GB : 灰褐色, G : 赤色  
 g : 良好, ag : やや良好, ab : やや不良, b : 不良 最大粒径は mm  
 cl : 黒色透明, br : 褐色, bw : バブル型, md : 中間型, pm : 軽石型

表2 重鉱物・火山ガラス比分析結果

試料名	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
AK II -150527 SI08	147	61	1	35	6	250	0	4	44	202	250

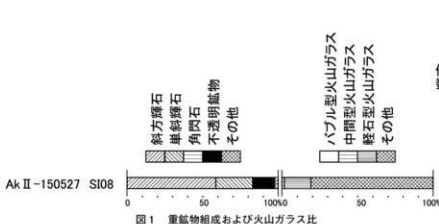


図1 重鉱物組成および火山ガラス比

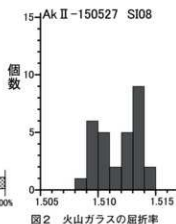


図2 火山ガラスの屈折率

## 4. 考察

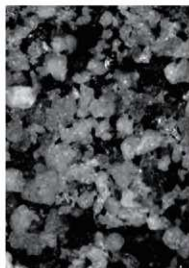
堅穴住居跡 SI08の覆土から採取されたテフラ様堆積物の砂分を構成する碎屑物は、火山ガラス、斜長石・輝石類の遊離結晶、火山岩片であり、これらはいずれもテフラの本質物質であると考えられる。したがって、採取された試料は、堅穴住居跡 SI08が埋没する過程で降下堆積したテフラであると考えられる。

上述した火山ガラスの形態と屈折率、両輝石を主体とする重鉱物組成、遺跡の地理的位置、これまでに研究された東北地方におけるテフラの産状(町田ほか(1984)、Arai et al.(1986)、町田・新井(2003)など)との比較から、試料は、十和田中環テフラ(To-Cu:早川,1983;Hayakawa,1985)の降下堆積物であると考えられる。To-Cuの噴出年代は、暦年で6,200年前とされている(工藤・佐々木,2007)ことから、壁穴住居跡 SI08の構築年代は6,200年前より古いと考えられる。

**引用文献**

Arai,F.・Machida,H.・Okumura,K.・Miyachi,T.・Soda,T.・Yamagata,K.1986.Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan II - Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido - .Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21.223-250.  
 古澤 明,1995.火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別.地質学雑誌,101.123-133.  
 早川由紀夫,1983.十和田火山中環テフラ層の分布、粒度組成、年代.火山第2集,28.263-273.  
 Hayakawa,Y.,1985.Pyroclastic Geology of Towada Volcano. Bulletin of The Earthquake Reserch Institute University of Tokyo.vol60.507-592.  
 工藤 崇・佐々木 寿,2007.十和田火山後カルデラ期噴出物の高精度噴火史編年.地学雑誌,116.653-663.  
 町田 洋・新井房夫,2003.新編 火山灰アトラス.東京大学出版会,336p.  
 町田 洋・新井房夫・杉原重夫・小田勝夫・遠藤邦彦,1984.テフラと日本考古学-考古学研究と関連するテフラのカタログ-.渡辺直経(編)古文化財に関する保存科学と人文・自然科学.同朋舎,865-928.

**図版 1 テフラ**



1. 砂分の状況



2. 重鉱物



3. 火山ガラス

**凡例** Opx:斜方輝石, Cpx:単斜輝石, Dpx:不透明鉱物, Vg:火山ガラス, Qtz:石英, Pl:斜長石  
 1は実体顕微鏡下、2・3は偏光顕微鏡下(下方ローラーのみ)



### 3 骨・貝類同定

バリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

赤浜Ⅱ遺跡は、大槌湾北岸を構成するリアスの山地縁辺部に形成された緩斜面の末端付近に位置する。これまでの発掘調査により、縄文時代の竪穴住居跡、縄文時代前期～後期の遺物包含層などが確認されている。今回の発掘調査では、縄文時代の遺構および遺物包含層から骨貝類が出土したため、その種類を明らかにし、縄文時代の食物利用について検討する。

#### 1. 試料

試料は、縄文時代中期後葉とされる竪穴住居跡 SI33の P1(No.1)、同じく中期後葉とされる竪穴住居跡 SI35(No.2)、縄文時代後期中葉とされる焼土遺構 SN04(No.3)、縄文時代中期中葉～後葉とされる竪穴住居跡 SI02の石囲炉2(No.4)から出土した骨試料および、40グリッドの縄文時代後期中葉遺物包含層から出土した骨試料(No.5)の、合計5試料である。No.1～4は白色を呈した小型な破片で、No.4を除き複数片の破片がみられる。No.5は暗褐色を呈する比較的大型の破片である。試料の詳細は結果とともに表示する。

#### 2. 分析方法

試料を肉眼および実体顕微鏡下で観察し、形態的特徴から種・部位を同定する。また、計測はデジタル・ノギスを使用する。

#### 3. 結果

結果を表1に示す。以下、試料ごとに結果を記す。

- ・No.1(SI33 P1埋土)  
哺乳綱の上腕骨遠位端の破片である。焼けている。
- ・No.2(SI35 焼土内)  
哺乳綱の部位不明破片である。焼けている。
- ・No.3(SN04 焼土)  
哺乳綱の部位不明破片である。焼けている。
- ・No.4(SI02 石囲炉2)  
硬骨魚綱の鰭棘である。破片であるが、現状で33.6mmを測る。焼けている。
- ・No.5(40グリッド 砂層)  
鳥綱の左上腕骨である。遠位端部が欠損し、近位端部も破損している。破片であるが、現状で50.83mmを測る。今回の分析試料の中では唯一焼けていない骨片である。

#### 4. 考察

縄文時代中期後葉とされる竪穴住居跡および、縄文時代後期中葉とされる焼土遺構から出土したNo.1～3は、種類不明であったが哺乳綱の骨であった。いずれも白色を呈し、表面に細かなひび割れが生じるなど、焼けた骨の特徴を示す。意図的に焼かれた後に破棄されたと考えられ、食料資源等

として利用されていた可能性がある。なお、SI33のP1埋土から出土したNo.1は、上腕骨遠位端部の破片であったが、その大きさからみて中型以上の獣類、ないしそれらの幼獣などと推定される。

縄文時代中期中葉～後葉とされる竪穴住居跡の石囲炉から出土したNo.4は、硬骨魚綱の鱗棘であり、焼けている。破損した状態で33.6mmを測り、頑丈であることから、被熱による変形・取捨等を考慮したとしても比較的大型の魚類であったと判断できる。海水魚、淡水魚の判断がつかないが、遺跡前面に広がる大槌湾あるいは付近を流れる河川などで漁獲されたと考えられる。

縄文時代後期中葉の遺物包含層から出土したNo.5は、鳥綱の左上腕骨であったが、種類は不明である。近位端部の破損は、やや直線的であり切断されたとみられるが、切断面が新鮮であることから後代の影響を受けているとみられる。骨体部に解体に伴う切痕などは確認されず、その詳細不明である。なお、残存する近位端部をみると未化石骨端が外れたようにも見え、若齢個体であった可能性もある。

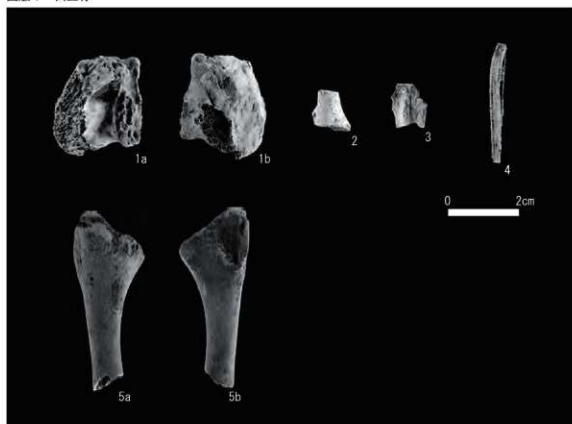
以上のような結果から、赤浜Ⅱ遺跡では、北側の山地および南側に広がる大槌湾から、動物質食料を得ていたものと考えられる。今後、本遺跡および周辺の遺跡でも同様の分析調査を実施し、本地域の縄文時代における食物利用について資料を蓄積し、検討することが望まれる。

表1 骨同定結果

No.	出土地点	層位	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
1	SI33 P1	埋土	哺乳綱	上腕骨		遠位端破片	1+	○	
2	SI35	焼土内	哺乳綱	不明		破片	6	○	
3	SN04	焼土	哺乳綱	不明		破片	6	○	
4	SI02 石囲炉2		硬骨魚綱	鱗棘		破片	1	○	
5	わぐリッド	砂層	鳥綱	上腕骨	左	遠位端欠	1		近位端破損

注)数量の+は、他に破片が含まれていることを示す。

図版1 出土骨



## Ⅶ 総 括

今回の調査で確認された遺構は、竪穴住居跡40棟、土坑15基、焼土遺構27基、配石遺構7箇所、遺物包含層2面である。出土遺物は、大コンテナ(42×32×40cm)換算で土器は111箱、石器・石製品類23箱、土製品124点である。ここでは総括として、遺構は竪穴住居跡と配石遺構について、遺物は土器について若干の考察を行いたい。

### 1 遺 構

#### (1) 竪穴住居跡

竪穴住居跡は総数40棟が確認されている。これらの時期ごとの内訳は、前期前葉6棟、中期中葉～後葉29棟(推定も含む)、後期前葉～中葉5棟である。区域ごとでは、A区15棟、B区25棟の内訳となる。A・B区間の距離は60mほどだが、区域ごとに時期の偏りが見られ、A区では前・中・後期の住居がそれぞれ検出されたが、B区では前期は確認されず、大半が中期中～後葉で、後期と推定されるものが1棟に限られる。以下、区域ごと、時代ごとに概観する。

前期前葉はS I 08・09・19・20・22・23が該当し、いずれもA区の標高4～7mに位置する。S I 09・19は小規模の住居で全容は不明だが、S I 08・20・22・23はロングハウスで、長軸は15m前後を測る。壁が残存するのはS I 08の山側のみで、ほかは壁溝のみが確認できる。全体の状況がわかるのはS I 08で、地床炉や柱穴が適所に配置されている。S I 20・22・23は重複しており、また柱穴が多数検出されることから様相は複雑である。確認された壁溝の形状から3棟を推定したが、ほかにも複数棟存在する可能性や同居内での建て替えが行われている可能性が考えられる。

A区内期中の住居は、S I 06A・B・16・18・27の5棟が確認されている。標高は2～5m台に位置するが、前期ほど明確な傾向は見られない。S I 06A・Bは2棟が重複するためS I 06Bについては不明だが、ほか4棟にはすべて石囲炉が確認された。S I 06A・18については複式炉である。S I 16・18・27は前期包含層上にあることからあまり明確ではないが、S I 06A・Bについては壁溝が巡る。出土遺物も別時期の遺物の混在が多いが、炉の形態から中期中葉～後葉のもの判断した。

A区内後期の住居は、S I 01・15・28・53の4棟が該当する。すべて標高1～2m台と低い地点に立地する。4棟の推定時期には幅があり、S I 53は中期中葉～後期前葉(中期の可能性もあるが、立地から後期の可能性が高く、これに含めた)、S I 15・28は後期前葉、S I 01は後期中葉である。残存状態が悪いことから、全容を把握できるものは少ないが、S I 01・15・53には石囲炉が付属する。立地から配石遺構との関連が想定され、S I 15は同時期、S I 01は新しい可能性が考えられる。

B区は大半が中期中葉～後葉に位置付けられ、S I 02・03・05・07・11・12・31A～C・33～36・38・40～42・44・45・47～49・51・52の24棟が該当する。このほか、S I 14のみが後期前葉に推定される。B区の標高は4～7m台だが、全域に広がっている。傾向としては、南側の標高4～5m台で最も多くの住居が確認されており、区域内西側では確認できない。3～4mの小型の隅丸方形を呈するもの、約7×5mの隅丸長方形を呈するものが多い。炉は石囲炉が多く、また複式炉となるものが多い。石囲の炉室2室+前庭部となるものが多く、S I 31B・38・42・45・47・52(推定)が該当する。炉室3室+前庭部となるものも確認でき、S I 33・35が該当する。複式炉は大半が南側に前庭部を持つ傾向にある。重複が著しい部分もあり、細かな変遷については把握できないが、S I 33・35は同形

状・同規模で隣接する。炉の形態も同じく、いずれも焼失住居と判断されるものであり、大木10式期に比定される同時期に存在していた可能性が高い。

## (2)配石遺構

### <2～6号配石について>

岩手県内の縄文時代後期遺跡において、2～6号配石のような組石(立石+置石)と列石を伴う列石群は、田野畑村館石野Ⅰ遺跡があり、組石下部に墓壇を伴う配石墓と、配石墓を連結する列石の存在が確認されている。この点では本遺跡の調査区内では同様の施設を把握できなかった。館石野Ⅰでは2個の立石間を石段で繋ぐ配石が確認されており、これを主立石と副立石と認識しているが、本遺跡ではそのような立石分布ではなく、立石を単体か列状配置の中で間隔を空けずに配置する。また、青森市小牧野遺跡など東北地方北端部の環状列石遺構で大規模な盛土造成や斜面地の切土造成の痕跡が確認されているが、館石野Ⅰでは斜面地先端部に僅かに盛土造成される程度で、本遺跡では盛土層の存在は把握できなかった。一方、本遺跡では6号配石設置に伴い斜面地造成作業は行っているため、小規模な切土造成が行われていたと評価できる。6号配石のような護岸状、あるいは石垣状の配石は、青森県小牧野遺跡や秋田県伊勢堂岱遺跡で確認された「小牧野式」列石の特徴である。具体的には人工的造成斜面に角礫を立て掛け、扁平亜円礫で2～6段の石積み形成するものを指す。小牧野遺跡の環状列石は内帯と外帯に分けられるが、規則性があり、斜面に立て掛けた礫と2～6段の石積が交互に配置されるため多数の棒状礫が使われているのに対し、本遺跡の6号配石には立掛けた角礫が1点しかない。

以上のことから、縄文時代後期初頭から東北地方北部～北海道南部地域にかけて拡がった列石文化の中に、本遺跡配石遺構を位置付けることができる。東北地方北端部の環状列石は、盛土整地や人工斜面造成を行い、環状列石外縁部に積小屋と想定されている掘立柱建物群が伴うなど、縄文人の精神社会を色濃く反映した遺構と見られている。一方、岩手県沿岸中部以南の田野畑村館石野Ⅰと本遺跡については、環状列石分布圏から遠距離にあり、列石文化の影響が部分的にみられる。整地作業にはそれほど拘らず、列石も環状配置ではなく列状で構成され、立石の配置にも東北地方北端部のような等質性を見いだせない。一方で、「小牧野式」列石など一部の列石文化の構成要素が確認できることから、今のところ本遺跡が東北地方北端地域の環状列石文化圏の外縁部に位置すると捉えられる。

### <配石の配置と広場の関係について>

7号配石については第4章の事実記載のとおりである。配石群間の関係について補足する。6号配石は斜面地造成後に設置された小牧野式列石と判断した。小牧野遺跡環状列石の切土斜面は、中央帯のある円の中心からみて外縁部にあたる西側内・外帯に存在している。同様の配置関係が成り立つならば、本遺跡7号配石は中央帯とも言える。しかし小牧野遺跡の外帯よりさらに外側に配置されている半円形、隅丸方形、長方形などの小牧野遺跡第1～5号配石は、本遺跡7号配石と平面形や構築方法が類似している。内帯に囲まれた範囲は、組石や墓壇と考えられる土坑はあるが環状列石と同時期の堅穴住居が見つかった事例はない。建物は内帯より外側に築かれるのが通例のようだ。こうした配置関係から、本遺跡は環状列石ではあるが、中央広場と認識可能なのは標高の低い範囲で、6mグリッドの巨礫散在地点が中央帯の可能性もある。7号配石よりも標高の高い範囲は斜面地が続き、丘陵部の岩盤が露出しており、人々が集って共同祭祀を行えるような地形ではない。この点も標高の低い海側の範囲が広場である可能性を示している。後期中葉になりS101が構築されていることから、かつて広場であった範囲も次第にその認識が無くなり、堅穴住居が構築されるようになるが、配石群はそれ

までは海岸や船上から見れば立石と背後の丘陵地が一体となった視覚的にも際立った施設であったと考えられる。一方で、配石群よりも高位のS115が視覚的に際立ってしまう点も不自然に見えるかもしれない。伊勢堂岱遺跡や小牧野遺跡の環状列石内帯の外側に構築される掘立柱建物群は竊小屋とされるが、同様の施設としてS115を位置付けることは可能であろうか。それとも通常の居宅と捉え、その居住者を配石や広場の管理者・呪術者と推定する方が妥当なものであろうか。今回の調査ではそこまで踏み込める成果を得られていない。

花巻市大迫町立石遺跡の後期中葉の配石遺構が密集する平成16年度調査区において、弧状敷石遺構とそれに隣接する建物(第1号住居跡・第1号掘立柱建物跡)という配置関係が確認されている。石積状配石が見られない点は本遺跡と異なるが、弧状敷石遺構の外側に掘立柱建物跡と住居跡が存在するなど各遺構の配置関係は類似する部分もある。こうした類例の蓄積が進むことを期待する。

#### <S115と7号配石 建物廃絶祭祀が疑われる遺構について>

S115と7号配石のように、県内において住居廃絶祭祀の可能性が疑われる建物については、盛岡市川目A遺跡RA019の柄鏡形住居(後期中葉)、花巻市大迫町稲荷神社遺跡1~10号住居跡(後期中葉)、二戸市馬立II遺跡CIIIj5配石遺構(後期初頭~前葉)、盛岡市蔭内遺跡UD-V住居跡(後期中葉)等がある。また、鶴住居川河口の釜石市片岸貝塚では縄文時代中期の可能性のある列状配石が確認されている。主に、県央~県南部の資料を取り上げる。

川目A遺跡RA019は住居張出部に敷石施設を伴う柄鏡形住居として報告され、この敷石の一部に扁平礫5個の石積と小口立ての石列が確認されている。石積みは住居床面近くから積まれたと報告されており、最下部の扁平礫の下にはピットをもつ。ピットを塞ぐような状態で扁平礫が積まれたと想定される配置であり、住居廃絶祭祀に伴う配石と考えられる。本遺跡S115と同じく建物壁際の埋設途上で石積を行っている。厳密には本遺跡例と同様、RA019の建物と張出部配石が同時期か判断し難い。

稲荷神社遺跡は後期中葉を主体とする集落遺跡で、第3・5・7・9号住居跡が張出部に敷石面を持つ。これらは住居床面の炉や柱穴を覆うように敷き詰められており、敷石面を積極的に居住面と見なし難い事例もある。ただし、炉の焼土が敷石と同レベルで検出されている住居もあり(7号住居跡等)、敷石面を居住面としていた可能性を排除できる状況ではない。なお、各住居張出部に敷石と小口立ての立石(報文では横立て石と呼称)を伴う点では川目A遺跡RA019と同様である。

片岸貝塚は縄文中期~後期の集落を伴う貝塚で、配石は大木6式期のロングハウスと重複し、これを切って構築されており、現地説明会時点では中期に位置付けられた。報告書の刊行が待たれるが、本遺跡のS115と7号配石の関係性と類似し、本遺跡と最も近距離の配石遺構なので興味深い。後期建物に伴う配石の可能性も排除できないし、中期の段階でこのような列石文化が存在したのであれば、太平洋岸での類例検出が待たれる。

現状では、S115と7号配石の関係と同一時期・同一内容の施設は確認されていないが、建物廃絶祭祀の疑われる施設が増加しており、いずれは関東・中部地方の柄鏡形住居論のように、配石行為と建物廃絶の関係を議論できるだけの資料が蓄積されるだろう。



## 2 土器

## (1) 縄文時代前期

前期包含層から出土した土器は、そのほとんどが初頭～前葉に位置付けられる。土器型式としては、上川名Ⅱ式～大木2式に含まれるものと考えられる。それぞれの特徴から5類に分類した。

**<前期1類>**縄文瓦葺による巖状渦巻文と三角形文で構成されるものである。土器型式上は上川名Ⅱ式に比定されるもので、前期初頭に位置付けられる。434～441が該当する。全体的に土器表面の色調は橙色を呈し、胎土には繊維を含む。出土数は少ないが、前期包含層の最下層からの出土が多い。

**<前期2類>**尖底土器である。442～456が含まれる。前期初頭の表筋式等が該当か。組紐・組縄による施文も多い。口縁部まで残存するものは少ないが、451のように刺突列が巡るものもある。胎土には繊維を含む。442・450・451は前期包含層下層より出土している。

**<前期3類>**重層ループ文+磨消幾何学文が施されるものである。457・458が該当する。県内での出土例は少ないが、福島県宮田貝塚出土の宮田第Ⅲ群に同様のものが見られる。前期初頭～前葉に位置付けられる。胎土に繊維は見られない。

**<前期4類>**大木1～2a式に比定されるものである。準拠する型式上の分類が曖昧なこともあり、幅を持たせた。胴部に菱形構成文様が施されるものや羽状縄文が施されるもの、口縁部文様帯に結節縄文横位回転施文が施されるものを指標とした。①口縁部文様帯に結節縄文+胴部文様帯に菱形構成の羽状縄文が施されるもの(462・465・472・473・476)、②口縁部同文様+胴部は羽状縄文が施されるもの(459～461・463・464・466)、③口縁部・胴部文様帯が残存し、上記のいずれかの文様が施されるもの(467・468・477・478・486など)と細分類した。①・②を基調として考え、③は施文文様は異なるが①・②と同一意匠と判断されるもので、467は口縁部文様帯に大きな鋸歯状に線刻+胴部非結束羽状縄文、468はS字状結節縄文+単軸絡条体1A類による菱形構成、477・478・486は刺突列+非結束羽状縄文による菱形構成となる。このほか、これらの文様が断片的に見られる破片は多数ある。

**<前期5類>**大木2b式に比定されるものである。S字状連鎖沈文が見られるものを指標としたが、口縁部に刺突列を伴うものが多い。また、同様に口縁部刺突列はあるが、胴部はS字状連鎖沈文ではなく、単軸絡条体5類に置き換わるものも見られる。以上から、①口縁部刺突列+胴部S字状連鎖沈文(505・507～510)、②口縁部刺突列+胴部単軸絡条体5類(515～517)に細分した。これら刺突列は隆線状に施文される場合が多い。なお、これらから外れるが、同構成を呈するものも見られ、518は口縁部無文+単軸絡条体5類、522は鋸歯状の刺突列+S字状連鎖沈文+ S字状連鎖沈文となることから、同時期のものと判断される。これらは前類同様、胎土に繊維の混入が認められる。

## (2) 縄文時代中期

最も多くの堅穴住居跡の主要時期となるため、遺構内からの出土が多い。特に中期中～後葉に集中しており、これらを4類に分類した。第V章でも時期ごとにまとめてあるので概略する。

**<中期1類>**大木8a式に比定されるもの。出土数は多くない。201・546はキャリバー形をする深鉢で、口縁部と頸部で文様帯が分かれる。201は口縁部文様帯に横位S字状の一部と見られる隆線縁が施文される。どちらも地文は口縁部は単節縄文の横回転施文、胴部は同一原体の縦回転施文となる。

**<中期2類>**大木8b式に比定されるもので、渦巻文を指標とした。全容が分かるものとしては、15・21・137～143・150・153・181・186・555など。隆線縁による渦巻文や巖状文が連結し、全体に

大きな渦巻状となって展開する。153・186は蕨状文の展開が垂下し、縦位区画が強調されつつある。次の大木9式に近い段階と思われる。181・555は文様意匠は同様だが、沈線のみで描かれる。また施文方法として、181は口縁部端の貼付が剥落した状態で見つかったているが、剥落部には施文回転方向が胴部とは異なる縄文が見られる。制作した当初の意匠を変更するため、粘土を貼付して再構築した土器の可能性が考えられる。

**<中期3類>**大木9式に比定されるもので、口字文や楕円文などを指標とした。48・49・76・154・166・182・186・556・559など。前段階より縦位区画の意識が強く、蕨状文・渦巻文が見られる場合もあるが、これから派生し、上記文様を構成する場合もある。隆沈線または沈線で施文される。

**<中期4類>**大木10式に比定されるもので、アルファベット文を指標とした。出土量は最も多い。内容がわかるものとしては、26・41・84・85・97・96・98・537など。41・84・97は薄い貼付による隆線で文様は構成され、隆線により区画された内部には縄文が充填される。85・96・537は沈線により文様が構成され、同様に区画内は充填縄文となる。

### (3) 縄文時代後期

後期包含層からの出土が最も多く、遺構からの出土もやや多い。後期前～中葉が主体となる。土器型式上は十腰内I式や新山権現社1～3式(金子)などと並行するものと思われる。主体となる後期前葉～中葉の土器について、時期別及び特徴となる文様から以下の1～4類に分類した。

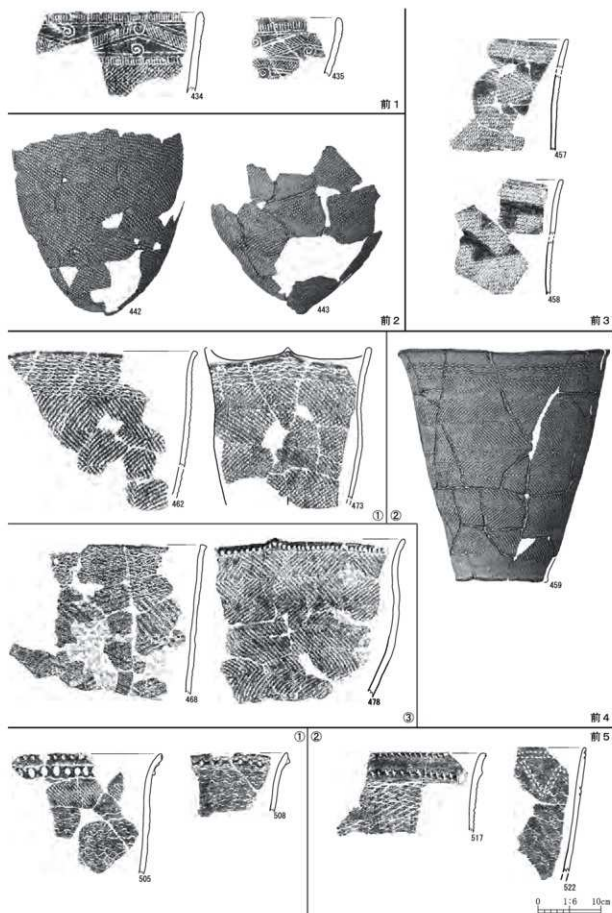
**<後期1類>**2～3条の平行沈線間に縄文を充填する手法で、入組文、幾何学的文様を描くものである。頸部が外反する深鉢、鉢(45・59・105・106・210・215・211・212・224・227ほか)、球胴形の壺(352・370)、長胴で徳利形を呈する壺(383～389)等の器種がある。後期前葉の後半で、十腰内I式後半段階、もしくは大湯式に相当すると考えられる。

**<後期2類>**単独の沈線で区画した磨消縄文手法による大柄な入組文、幾何学等を主文様とするものである。深鉢では胴部中位が屈曲し上半が大きく開く器形となるもの(3・236・238・243・251・252・256～261・279・284・285ほか)が顕著で、立体的な突起を伴うことが特徴である(262～288)。沈線に沿って刺突列が加えられるものが出現する(256・261・279ほか)。全体に外反気味に開く器形の深鉢(247)、単孔土器(249)も本類に含まれる。壺では胴部中位に最大径を持つ盤盃玉形で、全面に磨消縄文が展開するもの(62・354・355・358ほか)がある。後期1類に後続し、後期中葉の初段階、新山権現社1式に相当すると考えられる。

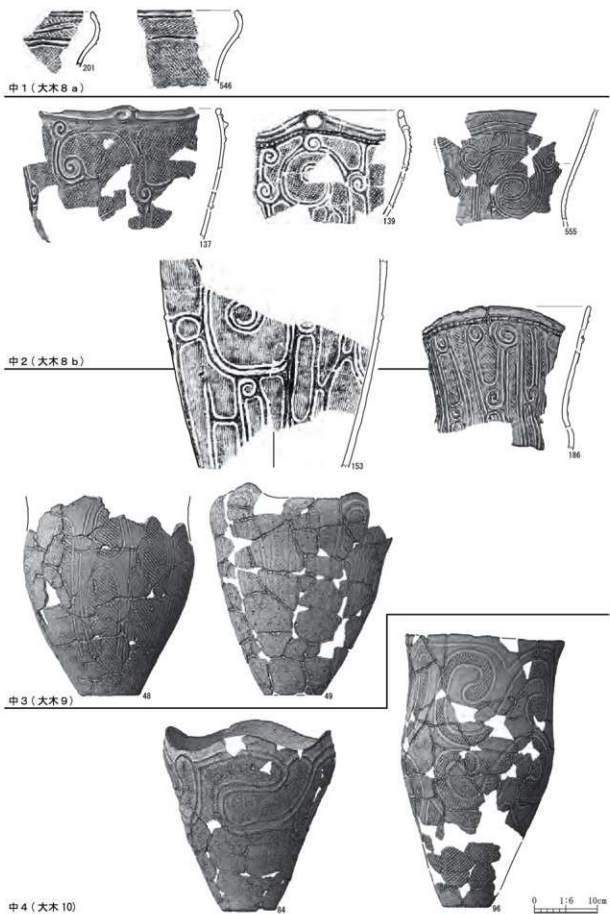
**<後期3類>**数条の平行沈線とこれを区切る蛇行沈線を組み合わせた文様、もしくはための沈線を用いた磨消縄文によって横位に展開する入組文を主文様とするものである。単純な器形で開く深鉢・鉢(205・216～222・237・240・330～334)、口縁部が内湾する器形となる深鉢(208・226・338)がある。後者では平行沈線を楕円形の文様で繋ぐ文様構成が見られる。注口土器では鉢形の器形で入組沈線文が展開するもの(402)、楕円形文様を繋ぐ区画内に斜行沈線を充填したもの(206・207)、隆起線による施文がなされるもの(2)、短沈線を加えた刻目帯が展開するもの(404)等のバリエーションがあり、器面の無文部が丁寧に磨かれる点が共通する。後期中葉前半に位置づけられ、十腰内Ⅱ～Ⅲ式、新山権現社2～3式に相当すると考えられる。

**<後期4類>**口縁部、頸部が刻目帯で区切られるものである。口縁部が広い無文帯となり、口唇部に瘤状の小突起を持つ深鉢がある(231・292)。後期中葉から後葉への過渡期にあたり、十腰内Ⅳ式、西ノ浜式に相当すると考えられる。

なお、本類に後続する瘤付土器の一群も出土しているが、量的には少ない(232～235ほか)。



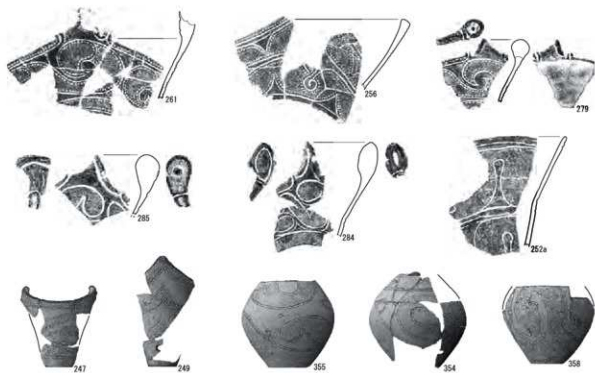
第175図 土器集成図(前期)



第176図 土器集成図(中期)

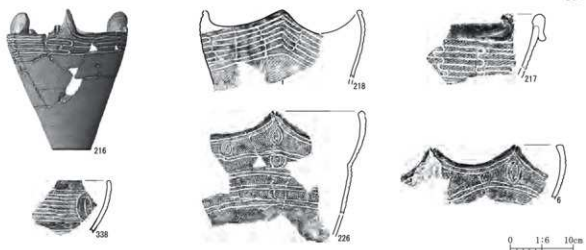


後 1

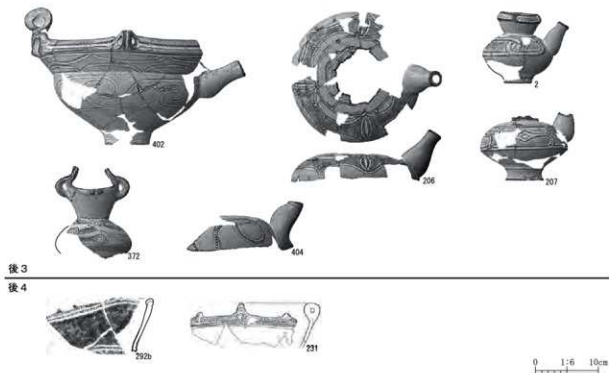


後 2

後 3



第177図 土器集成図(後期 1)



第178図 土器集成図(後期2)

以上のように、今回の調査で確認された土器は特定の3時期に集中する。また、遺構の分布状況にも偏りが見られた。なお、B区の北側(斜面上方に当たる)も大槌町教育委員会によって同時に調査が行われており、こちらは縄文中期前葉～中葉が主体となるようである。遺跡の範囲は周辺に大きく広がる可能性が推測される。

最後に、今回の調査に際し、震災という大きな苦難があったにもかかわらずご協力いただいた周辺住民の皆様へ感謝を申し上げる。

#### <引用・参考文献>

- 金子昭彦 1994「東北地方北半部における縄文時代後期中葉の土器」  
 『紀要 XIV』(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
 水戸部秀樹 2004「山形県の縄文時代後期前半の土器について」『紀要 2号』(財)山形県埋蔵文化財センター  
 青森市教育委員会 1996「小牧野遺跡」青森市埋蔵文化財調査報告書第30集  
 秋田県教育委員会 1999「伊勢堂岱遺跡」秋田県文化財調査報告書第293集  
 大槌町史編纂委員会 1966「大槌町史上巻」  
 大槌町史編纂委員会 1984「大槌町史下巻」  
 大槌町教育委員会 1988「夏本遺跡発掘調査報告書」大槌町教育委員会文化財調査報告書第2集  
 大槌町教育委員会 1988「赤沼経塚遺跡発掘調査報告書」大槌町教育委員会文化財調査報告書第3集  
 大槌町教育委員会 1989「大槌町内遺跡分布調査報告書Ⅰ」大槌町文化財調査報告書第4集  
 大槌町教育委員会 1990「大槌町内遺跡分布調査報告書Ⅱ」大槌町文化財調査報告書第5集  
 大槌町教育委員会 1995「沢山遺跡発掘調査報告書」大槌町文化財調査報告書第6集

- 大槌町教育委員会 1995 「大槌代官所跡発掘調査概報」大槌町文化財調査報告書第7集
- 大槌町教育委員会 1997 「大槌城跡 - 第6次・7次発掘調査報告書 -」大槌町文化財調査報告書第8集
- 大槌町教育委員会 1998 「槽沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書」大槌町文化財調査報告書第9集
- 大槌町教育委員会 2007 「大槌代官所跡発掘調査報告書」大槌町文化財調査報告書第10集
- 崎山弁天遺跡発掘調査団 2008 「崎山弁天遺跡」
- 釜石市教育委員会 2013 「釜石市片岸貝塚・川原遺跡・横瀬遺跡現地説明会資料」
- 花巻市教育委員会 2006 「立石遺跡 - 平成16年度調査 -」大迫町埋蔵文化財報告書第241集
- 花巻市教育委員会 2009 「稲荷神社遺跡」花巻市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集
- 早稲田大学文学部考古学研究室 1997 「館石野Ⅰ遺跡」早稲田大学文学部考古学研究室調査報告書
- 崎山弁天遺跡発掘調査団 2008 「崎山弁天遺跡」
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1989 「夏本遺跡発掘調査報告書」  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第134集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1993 「新山権現社遺跡発掘調査報告書」  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第188集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2009 「川目A遺跡第6次調査報告書」  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第525集
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2012 「川目A遺跡第5次調査報告書」  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第589集